

コミュニケーション心理学概論 I

斎藤和志 二宮 昭 吉崎一人

【授業の概要】

コミュニケーション行動、心理学に関わるいくつかの問題をオムニバス形式で概観する。コミュニケーション心理学概論Iでは、認知心理学、発達心理学、社会心理学などの領域について基礎的な内容を取り上げる。

【授業の目標】

各領域における基本的な用語や概念の学習と、それらと関連する具体的な心理学の研究方法について理解する。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. ヒトの情報処理を支える生理学的基礎
2. 知覚：視覚情報の処理を中心に
3. 記憶：2つの箱の謎
4. 注意と意識
5. 子どもとおとな：人が発達するとは
6. 世界を知る：「表象」の形成
7. コミュニケーションの拡がり：「ことば」の獲得
8. ことばで考える：「思考」の展開
9. 行動科学としての社会心理学
10. 社会的認知と対人認知
11. 集団の認知
12. 社会的態度

【評価方法】

各担当者が出した課題の評価に基づき総合的に評価する。具体的には各担当者の指示による。

【テキスト】

共通したテキストは使用しない。

【参考文献・資料】

各担当者の指示による。

英語論文講読入門 I

鈴木哲至

【授業の概要】

英語論文読解の基礎を養成する。コンピュータ活用、インターネット活用においても、また3年次以降の研究論文の講読においても、英語読解能力は不可欠である。この能力の個人差を無くすように、理解度をチェックしながら基礎トレーニングを行う。

【授業の目標】

心理学者や神経科医の論文を元にして書かれたやや平易な英文に触れながら、英語論文に対する基本的な取り組み方を身に付ける。

【授業計画】

- 1) Introduction
- 2) Do Good Luck Charms Really Work?
- 3) Are People Born Shy?
- 4) Does the Way You Sleep Show Your Personality?
- 5) Do Too Many Choices Make Us Unhappy?
- 6) Can Positive Thinking Lead to Longer, Happier Lives?
- 7) Why Are Music and Singing So Important to Us?
- 8) —Midterm Examination—
- 9) How much TV Is Too Much?
- 10) Is Love Really Such a Mystery?
- 11) Why Are People So Weird Online?
- 12) How Much Anger Is Too Much?
- 13) Can Loss of Memory Be Prevented?
- 14) Is the Pain of Hypochondriacs Real?
- 15) —Final Examination—

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

Everyday Psychology 『日常生活の人間生活』(Jim Knudsen 著 南雲堂)

コミュニケーション心理学概論 II

古井 景 米倉五郎 後藤秀爾

【授業の概要】

コミュニケーション心理学概論IIでは、心理学全般を基礎的領域に限定し、知覚・思考・人格・感情・発達・社会適応・評価などを中心にオムニバス形式で概説する。

【授業の目標】

心理学全般にわたっての基礎知識を習得し、専門各論に繋げていく。

【授業計画】

1. 脳のはたらき
2. 感情と身体の反応
3. 思考のまとまりと障害
4. ストレッサーとストレス
5. 人格と社会適応
6. 人格の形成
7. 乳幼児期の発達課題
8. 児童・思春期・青年期の発達課題
9. 成人期の発達課題
10. 壮年期・老年期の発達課題
11. 意識と無意識
12. 心理測定

【評価方法】

それぞれの担当者が講義を終えた段階でレポート課題を出し、それによって評価する。授業中の積極的質問等も成績に加味するので、主体的に授業に参加すること。

【テキスト】

その都度指示をする。

【参考文献・資料】

その都度提示する。

英語論文講読入門 II

鈴木哲至

【授業の概要】

英語論文講読入門Iに続いて、平易な英語科学論文の講読を通して、学生個々の英語読解能力の向上に努める。語彙の習得、重要な語句・文の構造に対する理解を深めながら授業を進める。

【授業の目標】

心理学関連の英語論文講読に必要な基本的な専門用語、意味を理解しながらの音読の仕方、要点の掴み方などの基礎を習得することを目標とする。

【授業計画】

- 1) Introduction
- 2) Apart from the Animals
- 3) The Trouble with Love
- 4) Some Thoughts about Thought
- 5) Personality's Part and Parcel
- 6) Mother's Day
- 7) I'm OK, You're a Bit Odd
- 8) —Midterm Examination—
- 9) Fast Track to Puberty
- 10) Knock Wood
- 11) Got a Minute
- 12) A Neat Gift Idea
- 13) Seeing is Believing
- 14) The Other 90%
- 15) —Final Examination—

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート課題30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

We're Only Human 『人間の心理と行動に関する12章』(Paul Chance著)

英語論文講読 I

小川一美 沖田庸嵩 河野文光 坂田陽子 新美明夫

【授業の概要】

英語で書かれた心理学論文などにおける固有の表現や学術用語に慣れるために、英文の心理学入門書を講読する。

【授業の目標】

3年生以降の心理学の専門教育を受けるのに必要な、英文読解力の基礎を養成することをめざす。

【授業計画】

予めプリントを配布し、毎回、定められた範囲の英文を講読する。

【評価方法】

読解力の平常点、出席状況、テストなどによる。

【テキスト】

プリント配布。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

英語論文講読 II

小川一美 沖田庸嵩 河野文光 坂田陽子 新美明夫

【授業の概要】

英語で書かれた心理学論文などにおける記述スタイルに慣れるとともに読解スピードをあげるため、比較的新しいトピックスをとりあげている英文の実験論文や調査論文を講読する。

【授業の目標】

英語論文講読 I に続いて、心理学を中心とする英語で書かれた研究論文を読みこなす力の養成をめざす。

【授業計画】

予めプリントを配布し、研究論文の内容を理解しながら講読する。

【評価方法】

読解力の平常点、出席状況、テストなどによる。

【テキスト】

プリント配布。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

心理統計基礎

斎藤和志

【授業の概要】

コミュニケーション行動、心理学に関する実証的研究を進めていく場合、さまざまな種類の資料・データをまとめて分析を進めていくことになる。多くの場合、得られた資料・データは数値として扱われる。この数値はどのような特徴をもち、そこからどのようなことが読みとれるのであろうか。こうした数値を扱う際に必要となる統計的な考え方、方法の基礎について講義する。

【授業の目標】

心理統計の用語と概念の学習、記述統計の基本的な計算方法の理解。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

講義を行うが、必要に応じて小テスト、レポートを課す場合がある。また、調査や実験の参加者としての体験も重視する。

1. 統計とは何か、そして、統計はなぜ必要か？
2. 変数とデータ
3. Σの記号の意味
4. 度数分布表とは
5. 量的変数における度数分布表の表わし方
6. 質的変数における度数分布の表わし方
7. 量的変数に関するデータの数値要約
8. 質的変数に関するデータの数値要約
9. 線形変換と非線形変換
10. 2つの変数の関係についての分析
11. 統計的検定の基礎と実際
12. 試験

【評価方法】

定期試験による。また、前述の小テスト、レポート、調査・実験の参加者体験を成績に加味する場合には事前に通告する。

【テキスト】

本当にわかりやすい すごく大切なことが書いてある ごく初歩の統計の本 (吉田寿夫著 北大路書房)

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

心理学基礎実習 I

新美明夫 二宮 昭 松尾貴司 植村勝彦

【授業の概要】

心理学における実証的研究に用いられる実験・観察・調査・面接の基礎的な技法や体系的知識を習得し、科学論文としてのレポートを作成する。各種の課題に取り組み、研究テーマの設定、資料の検索、実証データの収集・分析、論理の構成、文章表現、図表の作成などの要点を、講義とともに少人数でのグループワークを通して学習する。

【授業の目標】

心理学の領域で用いられる各種の研究法の特徴を理解し、研究テーマにふさわしい研究法の選択からデータの収集・分析、論文の作成に至るまでの、基礎的なスキルを身につける。

【授業計画】

- ◎オリエンテーション (第1回)
 - 本講義の概要説明と、グループ分け等の今後の準備作業を行う。
- ◎第1セッション (第2～5回)
 - ミューラー・リヤールの錯視実験を通して、互いに実験者・実験参加者となり、心理学実験の一連の流れを理解する。さらに得られたデータに対して適切な分析を行い、それに基づいてレポートを作成する。
- ◎第2セッション (第6～9回)
 - 信号無視行動というテーマを設定し、そうした行動が起こる原理についてあれこれ仮説を立ててみる。次にそれらの仮説を実証するための方法論を組み立て、実際に観察を実施して結果を考察するまでのレポート作成を行う。
- ◎第3セッション (第10～13回)
 - SD法によるイメージ測定尺度を作成し、質問紙調査によってデータを収集する。テーマは自由に設定し、対象のプロフィールを作成することによって考察し、レポートを作成する。
- ◎第4セッション (冬休み課題)
 - 冬休み期間中に「親世代と自分の子ども時代の体験の比較」をテーマとして、自分の親世代を対象としたインタビューを企画・実施、インタビュー・レポートの作成までを行う。

【評価方法】

評価は、実習への参加態度および提出されたレポートに基づいて行う。

【テキスト】

使用しない。必要な資料は随時配布する。

心理学基礎実習 II

坂田陽子 松尾貴司

【授業の概要】

心理学的研究をおこなう上で必要不可欠な技能の基礎を実習を通して習得する事を目的とする。

【授業の目標】

- 1) ワープロソフト (WORD) を使って指定された書式のレポートが作成できる。
- 2) 表計算ソフト (EXCEL) を使って心理学的データの整理をすることができる。
- 3) 統計解析ソフト (SPSS) を使って心理学的データの基礎的な分析ができる。

【授業計画】

第1回	イントロダクション, スケール付き質問紙の作成
第2回	表計算ソフトを使ったデータの整理, 集計 (統計関数)
第3回	表計算ソフトを使ったデータの整理, 集計 (ピボットテーブル)
第4回	科学レポートのための表, グラフの作成
第5回	図表入りレポート, 2段組レジュメ作成
第6回	中間テスト
第8回	クロス集計と回2乗検定
第9回	SPSSによるカイ2乗検定
第10回	t 検定
第11回	対応のある場合の t 検定
第12回	一元配置分散分析と相関
第13回	総復習, 練習問題
第14回	定期試験
第15回	補習

【評価方法】

出席、試験、課題の提出等で総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業中に必要な資料を配布する。

心理学研究法調査演習

新美明夫 植村勝彦 石田靖彦 大類純子

【授業の概要】

コミュニケーション行動などに関する心理学的な研究を実証的に進めていく際の研究方法の一つである、質問紙調査法の演習を行う。調査テーマの検討から始まり、質問紙の作成と印刷・調査の実施を行う。さらに得られた調査データを元に、データ入力・集計・分析・調査レポートの作成・プレゼンテーションまでの心理学的研究の一連のプロセスを、少人数のグループ単位で体験・学習する。

【授業の目標】

心理学研究法の一つである質問紙調査法の特徴を理解し、個別の研究テーマの設定からデータの収集・分析、論文の作成に至るプロセスに応用できる実践的スキルを身につける。

【授業計画】

1. 調査計画の立案
 - (a) 演習計画とグループ分け
 - (b) 調査テーマの決定・文献の収集
 - (c) 調査目的の明確化・研究仮説の設定
2. 質問紙の作成
 - (a) 調査項目・尺度の作成
 - (b) 質問紙の作成・印刷
 - (c) 調査の実施
3. データの整理と分析
 - (a) データのコーディングと入力
 - (b) データの集計と分析
 - (c) 分析結果の整理
4. 調査報告書の作成
 - (a) 研究のまとめ方
 - (b) 報告書の作成
 - (c) 研究成果のプレゼンテーション

【評価方法】

提出された報告書、および演習への参加態度を評価の対象とする。

【テキスト】

使用しない。必要な資料は随時配布する。

データ解析 I

小川一美 新美明夫

【授業の概要】

統計パッケージソフトを利用して、複雑で冗長なデータを適切に集約し、そこに含まれる情報について正しく解釈・推論する能力を身につける。具体的には、質的データと量的データのそれぞれについて、a) データの集約を適切に行い、b) 変数の連関を数量的に検討する。

【授業の目標】

データ解析の各種の基礎的技法を習得し、所与のデータについて、適切な解析方法を適用し、分析できるスキルを身につける。

【授業計画】

1. イントロダクション
2. 質的データの記述統計
3. 量的データの記述統計
4. 2つの変数の関係
 - (1) 質的変数と質的変数 (χ^2 検定)
 - (2) 質的変数と量的変数 (t検定、一元配置分散分析)
 - (3) 量的変数と量的変数 (相関係数)

【評価方法】

単位認定試験の成績で評価する。

【テキスト】

データ解析 I - 2008年度資料集 - (新美明夫・小川一美著 ダイテック)

心理学研究法観察演習

坂田陽子 松尾貴司 中藤 淳 栗野理恵子

【授業の概要】

コミュニケーション行動などに関する心理学的な研究を実証的に進めていくためには、さまざまな種類の資料・データの収集・分析が必要である。その研究方法の一つである観察法の基礎的技法を実際に体験しながら学ぶ。

【授業の目標】

問題の設定、観察法を用いたデータの収集、データの分析、報告書の作成およびプレゼンテーションといった、心理学的研究の一連のプロセスを体験を通して身につける。

【授業計画】

1. 授業全体のオリエンテーション、諸注意
2. 観察法概説
3. 基礎課題1: サンプルングによるデータの収集と信頼性の検討。
指定された課題を実施し、個人ごとにレポートを作成する。
4. 基礎課題2: 実験計画に基づいたデータの収集、分析。
指定された課題を実施し、個人ごとにレポートを作成する。
5. 応用課題: グループ単位で具体的な研究テーマを設定し研究をおこなう。
 - 1) 問題の設定
 - 2) データ収集方法の検討
 - 3) データの収集
 - 4) データの分析
 - 5) 報告書の作成と研究発表
 - 6) 個人レポートの作成

【評価方法】

授業への参加態度、基礎課題1・2および応用課題の個人レポートについての個別評価と、応用課題の研究内容についてのグループ評価をあわせて総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜紹介・配布する。

心理学研究法実験演習（生理・認知）

清水 遵 吉崎一人 藤田知加子 赤嶺亜紀

【授業の概要】

- 1：生理心理学の領域で扱われる生理学的測定法を学習する。種々の心理事象（課題解決事象、虚偽事象）での脳波や自律神経ポリグラフの測定や分析法について習得する。
- 2：認知心理学の領域で扱われる心理学実験の手法を学習する。記憶研究等の基礎的実験を通じて実験の計画と実施法データの分析法、結果のまとめ方等を習得する。

【授業の目標】

学生自らが生理心理学・認知心理学の実験に参加することによって、実験で得られた生データを取集、分析、記述するという手続きを体験的に学習し、現象を実証的に論理構成する力を身につける。

【授業計画】

実習は小グループ単位でローテーションしながら行い、総実習回数のうち半数を生理心理学、残りの半数を認知心理学の学習に充てる。生理心理学ではさらに事象関連電位と自律神経ポリグラフに分かれて実習する。

【評価方法】

生理心理学、認知心理学のそれぞれでレポートの課題が与えられる。それぞれのレポートの評点に遅刻、欠席などを考慮した総合評価を行う。

【テキスト】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

心理学研究法実験演習（社会）

小川一美 斎藤和志 栗野理恵子 吉澤寛之

【授業の概要】

コミュニケーション行動や心理学に関する実証的研究を進めていく場合、さまざまな種類の資料・データを集めて分析を進めていくことになる。研究者が人為的統制を加えた状況下で行動を観察し、因果関係を検討する実験法もその1つである。授業では、いくつかの社会心理学的な実験を体験し、研究プロセスを学ぶ。

【授業の目標】

複数の社会心理学的な実験を実際に体験することによって、心理学研究における問題の設定と研究計画の立案、データの収集と分析、報告書の作成といった一連の研究プロセスを習得する。

【授業計画】

- 1： 授業全体のオリエンテーション、諸注意、研究法および実験法概説
- 2～3：基礎課題A
- 4～5：基礎課題B
- 6： 基礎課題の復習
- 7～13：応用課題
- 14： 研究発表会

【評価方法】

授業への参加態度と、数本のレポートによる総合的評価。課題はグループ単位で行うが、レポートは個人単位で作成する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

生理心理学

清水 遵

【授業の概要】

ヒトや動物の行動を生物学的観点から説明する心理学の一分野（生理心理学）の概説をする。本講義では脳の構造と機能に関する基礎的知識の習熟に続いて、喜怒哀楽の感情や学習、記憶などの高次精神、更には精神障害の発現メカニズムなどについて考察する。

【授業の目標】

2年次以降の専門科目に共通する基本的問題である「ヒトの心はどのように生み出されるのか、心と身体はどのように関係しているのか」などについての問題意識を喚起し、われわれの行動に如何に脳が重要な働きを果たしているかを再考させる。

【授業計画】

1. 生理心理学とは
 - ・精神（こころ）と物質（脳）
2. 中枢神経系の構造と機能
 - ・大脳皮質の機能局在
 - ・大脳辺縁系と大脳基底核
 - ・視床と視床下部
 - ・脳幹と小脳
3. 自律神経系の構造と機能
4. ニューロンの電氣的伝導と化学的伝達
5. 心の異常と脳内化学伝達物質
6. ストレスと脳
7. 脳の性差
8. 記憶と脳
9. 言葉と脳
10. 脳の老化
11. まとめ

【評価方法】

学期末試験の成績で評価する。

【テキスト】

使用しない。講義時に適宜プリントを配布する。

社会心理学

小川一美

【授業の概要】

人間の社会的な場面での行動を研究するのが社会心理学であるが、それを「実験」という方法によって明らかにしようとする「実験社会心理学」で得られた興味深い知見を数多く紹介することによって、入門としての社会心理学の面白さを味わってもらいたい。

【授業の目標】

代表的な社会心理学実験に関する正確な知識を身につけ、科学的研究とはどのようなものかを理解する。

【授業計画】

以下のテーマに沿って授業を行うが、各テーマに複数時間をあてることがある。

1. 対人魅力
2. 情動二要因理論
3. 個人と集団
4. 認知的不協和理論
5. 態度変化
6. 攻撃的行動

【評価方法】

試験および受講態度により評価する。

【テキスト】

社会心理学ショート・ショート-実験でとく心の謎-（岡本浩一著 新曜社）

脳への認知心理学的接近

吉崎一人

【授業の概要】

「脳と行動」のメカニズムについて認知心理学の視点で概説する。まず、記憶や注意機能における代表的な認知心理学的知見について紹介する。また、それらの機能が脳のどこで扱われているのかについて議論する。

【授業の目標】

- (1) 認知心理学的な視点でヒトの行動を理解する論理について理解する
- (2) ヒトの行動と脳内活動との対応関係を理解する

【授業計画】

1. 脳と心の研究史
2. 記憶のタキソノミー
3. 記憶と脳
4. 物体の認識メカニズム
5. 顔の認識メカニズム
6. 物体や顔の認識と脳
7. 選択的注意
8. 注意の働きと脳
9. 右脳と左脳の差異—ラテラルティ—

【評価方法】

中間テストと期末テストの得点。

【テキスト】

使用せず。A4版の資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業内で紹介する予定。

ノンバーバル行動

松尾貴司

【授業の概要】

ジェスチャー、表情、視線、空間行動などのヒトのコミュニケーションにおける非言語的なシグナルの諸相について概説し、個々のノンバーバル行動について、心理学的視点からばかりでなく、行動学的な視点からも論ずる。

【授業の目標】

コミュニケーションにおける言語以外のシグナルの諸相について知識を深め、ノンバーバル行動の研究課題および研究方法を理解する。

【授業計画】

- 1) ヒト以外の動物のコミュニケーション
- 2) ノンバーバル行動とノンバーバルコミュニケーション
- 3) ジェスチャーの分類と文化的変異
- 4) 表出としての表情と制御された表情
- 5) 視線の機能と規定因
- 6) ノンバーバルコミュニケーションの理論
- 7) パーソナルスペースと空間行動

各トピックスについて1～2回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう。

なお、授業は座席を指定しておこなう。

【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合はこれを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

参考書籍は授業内で紹介する。

資料は配付せず、プロジェクタ(またはディスプレイ)で提示する。

提示した資料は、後日Webで閲覧できる。

対人コミュニケーション論

小川一美

【授業の概要】

われわれが多くの人々と付き合い、社会生活を営むうえで、欠くことのできない重要な行動の1つが、対人コミュニケーションである。本授業では、集団や社会の中で行われている多様な行動の基礎とも言える対人コミュニケーションについて、様々な観点から心理学的に考察する。

【授業の目標】

対人コミュニケーションに関する知識を習得し、身近な対人コミュニケーションについて考える姿勢を養う。

【授業計画】

以下のテーマに沿って授業を行うが、各テーマに複数時間をあてることがある。

1. コミュニケーションとは
2. 対人コミュニケーションとは
3. 送り手に着目して対人コミュニケーションを考える
4. 受け手に着目して対人コミュニケーションを考える
5. 送り手と受け手という二者による効果
6. メッセージに着目して対人コミュニケーションを考える
7. 自己を知らせるコミュニケーション
8. 現代日本人が抱えるコミュニケーションの問題

【評価方法】

試験および受講態度により評価する。

【テキスト】

対人コミュニケーション論—講義ノート(2008年度版)—(小川一美著ダイテック)

社会的行動の心理学

斎藤和志

【授業の概要】

現実の対人関係にはさまざまな問題が存在する。それらの中にみられる共通した特徴や法則性を、社会心理学的観点から考察する。社会の中で暮らす個人が、他者や社会からどのような影響を受けているのか、また周囲の他者や社会に対してどのように働きかけているのかを、社会心理学の実験や理論を通して考察する。

【授業の目標】

社会心理学の基本的な概念や諸理論を理解し、それらの観点から対人関係や社会的な行動について再吟味すること。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

講義を行うが、必要に応じてレポートを課す場合がある。また、調査や実験の参加者としての体験も重視する。

- I. 社会的行動の理解：帰属過程と帰属の諸理論
 1. 帰属過程と帰属理論
 2. 対応性推論モデル
 3. ANOVAモデル
 4. 割増原理と割引原理
 5. 達成行動と原因帰属
- II. 社会的行動の交換：対人的相互作用と社会的交換の諸理論
 1. 社会的交換理論とは
 2. 対人関係の進展と社会的交換
 3. 相互依存関係と社会的交換
 4. 社会的交換と衡平理論
- III. 社会的行動の理解へ向けて
- IV. 試験

【評価方法】

試験による。レポートや調査・実験の参加者体験を成績に加味する場合には事前に通告する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

パーソナルメディア論

新美明夫

【授業の概要】

個人が手軽に情報を受発信できるパーソナルメディアの浸透は、既存の人的ネットワークと重なりつつも、新たな人的ネットワークを形成している。各種のパーソナルメディアが既存のネットワークに及ぼす影響や、それらを介して形成される新たなネットワークにおいて展開される人間関係やコミュニケーションについて考察する。

【授業の目標】

各種のパーソナルメディアを使ったコミュニケーションの特徴を把握し、日常生活や人間関係に及ぼす影響を理解する。

【授業計画】

1. パーソナルメディアとコミュニケーション
メディアの歴史/メディアコミュニケーションの広がり/パーソナルメディアの特徴
2. メディアコミュニケーションの実験的研究
電話コミュニケーションの実験的研究/CMC (Computer Mediated Communication) の実験的研究
3. ワープロとコミュニケーション
活字 (印刷) 文字の変化/手書き文字の変化/ワープロ文字と手書き文字の与える印象/顔文字の効果
4. 電話とコミュニケーション
電話の歴史と利用形態の変化/電話利用と人間関係
5. モバイルメディアとコミュニケーション
モバイルメディアの歴史/音声メディアとしての携帯電話/文字メディアとしての携帯メール/モバイルメディアと日常生活
6. コンピュータとコミュニケーション
CMCの現状/オンライン・コミュニティ/自己表現とパーソナルホームページ/ウェブ日記

【評価方法】

学期末試験の成績で評価する。試験時には自筆のノートおよび配付資料のみを持ち込み可とする。受講態度により加点・減点することがある。

【テキスト】

使用しない。資料を随時配布する。

認知の生涯発達心理学

坂田陽子

【授業の概要】

胎児期・乳児期から高齢期まで、人の生涯にわたる認知の変化を概説する。特に、記憶や注意能力、日常生活に必要な認知能力の年齢に伴う変化について、さまざまな実験結果に沿いながら取り上げる。

【授業の目標】

- 1) 実験データを基に人の認知の変化を考えることができる。
- 2) 乳幼児から高齢者まで幅広い世代の人に対する理解が深まるようになる。

【授業計画】

1. 生涯発達をとらえるには
2. 加齢理論 1
3. 加齢理論 2
4. 注意 1 乳児期
5. 注意 2 幼児期 1
6. 注意 3 幼児期 2
7. 注意 4 成人期・高齢期
8. 記憶 1 高齢期の記憶の変化
9. 記憶 2 高齢者の自伝的記憶
10. 記憶 3 高齢者のメタ認知
11. 日常生活 1 サーカディアンリズムと加齢
12. 日常生活 2 高齢者の言語と発話理解
13. 日常生活 3 高齢者の日常と認知のエイジング
14. まとめ
15. 定期試験

【評価方法】

定期試験 (もしくは課題) と授業中に出す課題の提出状況による。その他、講義中の発表や質問など、積極的な授業参加態度も評価に加える場合がある。

【テキスト】

認知のエイジング (口ノ町康夫・坂田陽子・川口潤監訳 北大路書房)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に紹介・配布する。

コミュニティ心理学

植村勝彦

【授業の概要】

コミュニティ (地域社会) の中で生起する社会問題について、問題を抱えている個人や家族、集団、組織などを、人よりもむしろ環境に焦点を合わせて、予防したり、支援したり、エンパワーしたり、代替物を選択したり、コミュニティ意識を養うことを通して、人と環境の適合性をはかることを目指すのがコミュニティ心理学である。この講義では、こうしたコミュニティ心理学の理念について、具体的な社会問題と結びつけながら考えていく。

【授業の目標】

新しい心理学としてのコミュニティ心理学の理念を理解し、その視点に立って社会問題を改善・変革する方策を提言することができるようになること。

【授業計画】

- 第1章 コミュニティ心理学とは何か
- 第2章 人と環境の適合一生態学的方法アプローチ
- 第3章 予防
- 第4章 ストレスとコーピング
- 第5章 危機介入とコンサルテーション
- 第6章 ソーシャルサポートとセルフヘルプ
- 第7章 エンパワメント
- 第8章 コミュニティ感覚と市民参加
- 第9章 理論と実践の連携

【評価方法】

課題として出すレポートと、定期テストの合計により評価する。

【テキスト】

コミュニティ心理学入門 (植村勝彦編 ナカニシヤ出版)

【参考文献・資料】

よくわかるコミュニティ心理学 (植村勝彦ほか編 ミネルヴァ書房)

障害児の発達と援助

神野秀雄

【授業の概要】

発達障害といわれる子どもたち(知的障害、自閉性障害、学習障害など)の筆者の療育経験を報告する。受講生は、彼らの障害特性を理解しながら何を育てることが大切なのかについて考える。

【授業の目標】

1. 各障害の概念や特性を理解する。
2. 発達援助の基本として、子どもたちの自発的な遊びや人とのかかわりの重要性を理解する。

【授業計画】

1. 障害児の発達援助の基本的考え方
2. 知的障害
- 3-6 自閉性障害、サヴァン症候群
- 7-9 高機能自閉症/アスペルガー障害
- 10-11 注意欠陥/多動性障害(AD/HD)
- 12-13 学習障害(LD)
- 14 まとめ
- 15 テスト

【評価方法】

最終回に実施するテストの成績による。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

講義に関する資料は、配布する。

分析心理学

後藤秀爾

【授業の概要】

心理療法の理論のひとつにC.G.Jungの分析心理学があり、ここではFreudの精神分析学と同様、無意識の存在を仮定している。しかし分析心理学では個人無意識の深層に普遍的無意識を仮定し、その世界を意識化する技法として夢分析や箱庭、芸術療法等イメージを介在させることが特徴である。

S.Freudとともに精神分析を発展させてきたJungがFreudから決別して独自の心理学をうち立てたのである。理論的にはそれほど複雑ではないものの、その知見を実際に自分のものとするには体験を通さないと分かったことにならないのが特徴と思われる。講義では受講者の日常的な体験に即して説明を行うつもりである。

【授業の目標】

心理臨床の立場から、自己理解と他者理解の深め方とその相互性を知る。

【授業計画】

1. 導入 1) チェスナットロジの奇跡
2. 基礎知識
- 2) 意識・前意識・無意識 3)フロイト・ユング・エリクソン
- 4) 「きく」と「かたる」 5) 影と自我理想
3. 「千と千尋の神隠し」-大人になるということ-
- 6) 思春期モーニング 7) 母性原理と父性原理
- 8) 愛することと働くこと
4. 「ハリリー・ポッター」-トラウマの時代-
- 9) P.T.S.D. 10) 子どもにとっての家庭と学校
- 11) 虐待と世代間伝達
5. 「ゲド戦記」-普遍性と時代性-
- 12) ル＝グウィン のホジョーゴ思想 13) 宮崎吾郎の父親殺し
- 14) 攻撃衝動と解離性障害
6. まとめ 15) 「ビッグO (オー) とのであい」

【評価方法】

出席状況と期末試験結果による。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業内で紹介する。

精神分析療法

米倉五郎

【授業の概要】

精神分析療法(精神分析的な心理療法)について実務的な視点から講義する。精神分析的な心理療法は対話と面接により交わされる言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションによる心理学的な援助技法である。本講では、精神分析的な心理療法とロジャースの来談者中心療法やジェンドリンのフォーカシングなどを統合した対話心理療法についても解説する。

【授業の目標】

心理臨床の実務にとり基本的な面接技法である精神分析的な心理療法についての技法と理論について概説する。

【授業計画】

1. 出会いと対話心理療法
2. 意識と前意識と無意識 心理力動と人格構造
3. 見立てと心理アセスメント、ストーリーを読むこと 心理査定法の活用
4. 面接構造、面接契約(約束) 中断と行動化そして終結
5. 転移と逆転移、抵抗と逆抵抗 ドラの事例とフロイトの失敗
6. ロジャースの来談者中心療法と精神分析的な心理療法
7. ゲシュタルト療法(パウルズ)と精神分析的な心理療法
8. 論理療法(エリス)と精神分析的な心理療法
9. プレエディパルとエディパルの人格水準 抑うつ態勢と妄想分裂態勢
10. 間主観性とウニコットの相互スライグル描画法
11. 神経症、境界線人格障害、統合失調症の心理療法
12. 心身症と自己愛的な人格障害、アレキサイミアと心理療法
13. 集団心理療法とエンカウンターグループ、グループアプローチ
14. コンサルテーション・リエゾン 臨床心理学の実務 病院心理臨床 学校心理臨床 産業心理臨床

【評価方法】

学期末試験の成績で評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介・配布する。

心理療法

西出隆紀

【授業の概要】

数多く存在する心理療法の基礎理論について講義をする。精神分析各学派、現象学的人間学派、家族療法・短期療法など各学派の発達論、治療論、症候論、パーソナリティ論などを具体的な事例も交えながら紹介し、心理療法というもののイメージをつかめるように説明していきたい。

【授業の目標】

各派の心理療法理論を学ぶ。

【授業計画】

1. 心理臨床入門 心理臨床とは、心理臨床と人間関係
2. 古典的精神分析 錯誤行為、夢、心的構造論、精神性発達論、神経症総論、治療論
3. 対象関係論 Klein,M.、Fairbairn,W.R.D.、Guntrip,H.、Winnicott,D.W.、Bion,W.R.などの理論
4. 自我心理学(主にFreud,A.)と自己心理学(Kohut,H.)の理論
5. 現象学的人間学派 Rogers,C.R.の来談者中心療法、Gendlin,E.T.の体験過程療法
6. 家族療法 家族システム論、Erickson,M.の影響、二重拘束理論、構造派、戦略的家族療法、解決志向型短期療法

【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可(コピーを持ち込んだ場合は失格)とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

その都度配布。

カウンセリング

河野文光

【授業の概要】

心理療法の一つとして、日本で広く知られているカウンセリングについて、その理論や歴史について学ぶだけではなく、さまざまなカウンセリング技法についても触れ、簡単な実習を加えながら授業を進めていく。また、カウンセリング事例やさまざまな問題を扱うことによって、カウンセリングの実際についても学ぶ。

【授業の目標】

カウンセリングについて、理論的側面だけではなく、実際の側面についても学ぶことによって、より具体的・実践的なカウンセリングについて理解し学習する。

【授業計画】

1. カウンセリングとは
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの理論と人間観
4. カウンセリングの基本的態度
5. 共感的理解
6. カウンセリングの技法
7. カウンセリングの実際
8. カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

主として期末試験の結果でおこなう。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

そのつと提示

異文化コミュニケーション

佐藤良子

【授業の概要】

本講義では、異文化コミュニケーションの基礎的な概念や理論について取り上げる。本講義を通じ、文化がコミュニケーションにどのような影響を与えるのかを理解し（認知）、文化の違いによる衝突に直面したら、どう受け止め（感情）、解決するにはどう行動したらいいか（行動）学習する。

【授業の目標】

授業目標は、1) コミュニケーションの過程における文化の影響の理解、2) 言語と非言語コミュニケーションの役割と文化的相違性の理解、3) 異文化接触を通じて獲得できる自己成長要因の理解、4) 異文化接触がもたらす弊害の理解、5) 自文化中心性の仕組みの理解とその解消、6) 異文化コミュニケーション能力の獲得である。

【授業計画】

- ① (異文化) コミュニケーション
- ② 文化
- ③ 言語コミュニケーション
- ④ 非言語コミュニケーション
- ⑤ ステレオタイプ
- ⑥ 人種偏見・人種差別
- ⑦ 対人コミュニケーション
- ⑧ カルチャーショックと異文化適応
- ⑨ 異文化間トレーニングと異文化間教育

【評価方法】

筆記試験や出席率、小レポート、グループ課題で成績評価をする。

【テキスト】

未定

比較文化論 I (日・米)

松本青也

【授業の概要】

集団が共有する価値観や規範の体系としての文化について、日本とアメリカを比較対照して、それぞれの文化の特質を浮き彫りにするとともに、異文化理解を深める方法についても考察する。

【授業の目標】

日米の文化を比較することで、それぞれの文化の特質を認識して異文化理解を深め、普遍的価値とは何かを考察する。

【授業計画】

アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進めるこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由で伸びやかな生き方が目の前に広がります。

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則 (CTR)
10. システムとしてのCTR
11. 研究対象としてのCTR
12. 日英語の衝突とCTR
13. CTRと学校英語教育
14. これからの日米文化
15. まとめ

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

日米文化の特質 (松本青也 研究社)

比較文化論 II (日・欧)

山井徳行

【授業の概要】

日本と欧州の関係を歴史的に概観しながら、日本人の中に生成されてきたヨーロッパのイメージを点検する。そのような関係性の中に、日本人としてのヨーロッパ理解の実態が浮き上がる、と思うからである。次に、ヨーロッパ精神の源流をギリシャ文化とキリスト教、さらには近代合理主義の中に求める。以上のような理解をした上で、地理的にヨーロッパをとらえて、具体的な国々の特徴を見て行く。

そして、現代に生きる同時代人としての日本人とヨーロッパ人の具体的な生き方において、比較文化的考察を行う。

時間があれば、ヨーロッパ連合の問題を取り上げたい。2004年には加盟国15ヶ国が25ヶ国に拡大した。2007年1月にはルーマニアとブルガリアが加盟した。トルコの加盟は世界情勢とも関連し多くの議論がある。

【授業の目標】

ヨーロッパの多様性に内在する共通性を把握し、日本と比較することによって世界を見る複眼的視点を獲得すること。

【授業計画】

- | | |
|---------|----------------------------------|
| 第1週 | 授業のやり方や準備の仕方を説明する。 |
| 第2～4週 | 日本とヨーロッパの関係を歴史的に探る。 |
| 第5～7週 | ヨーロッパ文明の根幹をなすキリスト教や科学主義について講義する。 |
| 第8～10週 | 具体的なヨーロッパの国々と生活。 |
| 第11～12週 | 日本人の生き方、ヨーロッパ人の生き方。 |
| 第13～15週 | 整理とまとめ。 |
- 2004年の授業では、イラクにおける「日本人拉致事件」を題材に日本とヨーロッパとの反応を比較した。2005年度と2006年度は特になかったが、もし今年度、関連する事件が起こればその時事問題を題材に比較文化を試みることもありえる。Power Pointを使って授業をする予定です。

【評価方法】

定期試験の結果で行う。

【テキスト】

特になし。プリントを配布。

【参考文献・資料】

沈黙のこぼれ (エドワード・T・ホール著 [The Silent Language (Edward T. Hall)])

「英語と日本人」(太田雄三著 講談社学術文庫)

「ことばと文化」『教養としての言語学』(鈴木孝夫著 岩波新書)

「方法序説」(アカルト 中公文庫)

比較文化論 III (日・アジア)

伊 大辰

【授業の概要】

(概要) アジア諸国の中でも、特に日本と深い関わりのある韓国を取り上げ、日韓の文化交流から歴史認識までを含めた内容で、日韓の同質性と異質性について理解を深める。

前半は日本と、韓国の文化・習慣の違いについて説明する。主として、両国の食文化、風俗習慣、建築文化、漢字文化、交流文化及びお茶とお酒の文化などをテーマにし、講義し、比較する。

後半は「日韓両国の歴史認識への接近」をテーマに、古代から近世までの略史を学んだ後、韓国近代史に焦点をあて、まず自らを点検し、共有する歴史認識の確立をめざし、今後のあるべき姿を模索していこうとするものである。

【授業の目標】

学生のアジア諸国に対する真の理解を深めることを目的としている。本講座では特に韓国の文化風習および日本との交流を多面的に紹介し、「誠信・善隣」の意義を深めるところにある。

【授業計画】

1. 朝鮮半島の自然と文化・風土
2. 韓国の祝日と風俗習慣
3. 韓国の社会生活から見た文化比較
4. 韓国の家族制度と姓・本貫
5. 言語表現から見た文化比較
6. 日本の中の渡来文化
7. 日本列島と朝鮮半島
8. 江戸初期と「朝鮮国」との関係
9. 江戸時代の朝鮮通信使から見た文化交流の意義
10. 雨森芳洲から学ぶ文化交流の意義
11. 近代における日本と朝鮮半島
12. アジア諸国から見た日本
13. 日韓文化交流の意義
14. まとめ
15. 期末試験

【評価方法】

期末試験60%、レポート20%、出席率・平常点20%を加味して総合的に判断する。

【テキスト】

自作教材

【参考文献・資料】

金河基監修図説「韓国の歴史」(河出書房新社)

比較文化論 IV (日・中東)

澤江史子

【授業の概要】

現代の国際政治において重要な位置を占める中東イスラーム世界について、イスラームの教義や政治社会の成り立ち、現代の民族紛争、イスラーム復興、国際政治という多角的側面からアプローチする。事例としては前近代において西洋世界を凌駕する文明を築いたオスマン帝国と現代中東の地域大国であるトルコを中心に取り上げる。

【授業の目標】

中東イスラーム世界に関する情報はテロや抑圧に関するものが圧倒的であり、それがイスラームやムスリムに対する偏見を増殖させている。この授業では、中東イスラーム世界におけるダイナミズムの多様な意味や可能性を学び、マスメディア情報の背景を読み解く力をつけることを目指す。

【授業計画】

1. イスラーム世界を見る目
 - * 我々に潜むオリエンタリズム
2. イスラームの教義と文明
 - * イスラームとは何か
 - * オスマン帝国の繁栄: 多民族多宗教の共存システム
 - * 西洋近代の台頭とオスマン帝国の崩壊: 国民国家化と紛争
 - * 近代日本とイスラーム
3. 現代のイスラーム復興
 - * イスラーム復興運動とは何か
 - * イスラーム復興と女性
4. 国際政治とイスラーム
 - * トルコのEU加盟問題
 - * 冷戦後のイスラーム世界とアメリカ

【評価方法】

授業中の課題および試験によって評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

オスマン帝国-イスラーム世界の「柔らかない専制」(鈴木董 講談社現代新書 1992年)、イスラームとは何か (小杉泰 講談社現代新書 1994年)。その他、授業中に適宜指示する。

080320501_0390 掲載順:0390

MASTER ★

ビジュアルコミュニケーション

中村信次

【授業の概要】

「ヒトは『視覚的動物』である」と言われるように、われわれの行動に視覚情報の与える影響は非常に大きい。さらに近年、マルチメディア通信技術の発達により、情報量の大きな視覚情報が容易に伝達可能となってきた。本講では、主に視覚認識に関する人間の生理学的・心理学的メカニズムを論じることにより、「視覚情報伝達=ビジュアルコミュニケーション」を成り立たせている人間の視覚情報処理の理解を試みる。

【授業の目標】

本講により、人間の視覚認識メカニズムを正しく理解し、それを効果的にビジュアルコミュニケーションに応用するために必要な基礎知識が得られる。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 視覚情報処理とビジュアルコミュニケーションとの関係
- 3・4 視覚の生理学 (眼球光学系、網膜、視覚中枢)
- 5・6・7 視覚の心理学 (時間特性、空間特性、奥行き知覚)
- 8 視覚理論
- 9 視覚応用1 (ヒューマンインタフェース)
- 10 視覚応用2 (視覚芸術)
- 11 視覚応用3 (視覚障害とその支援)
- 12 新しい時代の視覚コミュニケーション
- 13 まとめ

【評価方法】

期末評価として行う論述試験に加え、講義内でのミニレポートを課す。積極的な授業参加 (質問、意見表明等) を歓迎し、評価の加点対象とする。

【テキスト】

使用しない。レジュメを配布する。

080320501_0400 掲載順:0400

MASTER ★

比較文化論 V (日・中)

杜英起

【授業の概要】

中国の花の文化、食の文化、お酒の文化、建築の文化 (民居、庭園)、そして漢字の文化を紹介し、儒教の思想の真髄を探求する。よって、日本の文化と中国の文化の接点を探るとともに、それぞれの文化の特質を浮き彫りにする。目的は、日・中両国間の相互理解を深めることにある。

【授業の目標】

日中文化の共通点と相違点をよりよく理解し、違いを乗り越えて真の友好関係を築くために自分が何をすればよいかを考える力を身につけてもらうことが目標である。

【授業計画】

1. 漢字の生まれ
2. “象形文字” などについて
3. “形声文字” などについて
4. 漢字の文化内包について
5. 色について
6. 数字と文化
7. 日中の比喩表現について
8. 日中文化同源
9. 東洋文化と西洋文化

【評価方法】

レポートと出席率で評価する。

【テキスト】

日中比較文化論 (出版社: マナハウス)

【参考文献・資料】

講義のとき、指示する。

080320501_0400 掲載順:0400

MASTER ★

リスク・コミュニケーション

元吉忠寛

【授業の概要】

私たちは、数多くのリスク (事故・災害・犯罪・環境・食・医療) に囲まれて生活しています。心理学を中心とした社会科学的な視点から、リスクというものについて理解し、リスクに関わるコミュニケーションについて考えます。

【授業の目標】

将来、自分の生活の中で大きなリスクが降りかかってきたときに困らないように、現代社会におけるリスクの特徴を理解する。

【授業計画】

1. 授業ガイダンス
2. リスクとは何か
3. リスク・イメージとリスク認知
4. 意思決定におけるリスク認知のバイアス
5. ゼロリスク症候群とリスクの社会的受容
6. ヒューマンエラーのメカニズム
7. 組織におけるリスク・マネジメント
8. 医療リスクと患者の意識
9. 災害リスクと防災行動
10. 環境と持続可能な社会の構築
11. 安全・安心・信頼
12. リスク教育と情報
13. リスクの予防原則とは
14. まとめ
15. 期末試験

【評価方法】

課題レポートと、出席状況から評価します。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

講義中に紹介します。

言語への認知的アプローチ

増田尚史

【授業の概要】

人間の知的活動の一つとしての言語行動について、それを支える脳と心的表象 (mental representation) とを中心的トピックとしつつ、認知心理学および認知科学的観点から、可能な限り広範囲にわたって検討を加える。なお、教養科目の「心理学」など心理学に関する基本的科目を履修済みか同時履修していると、本講義内容の理解に役立つと思われる。

【授業の目標】

本講義の目標は、われわれ一人一人の日々の言語活動がどのようなモノ (脳) とコト (心的表象) とに支えられているかを修得し、われわれをとりまく言語環境がいかなるものであるのかを再発見してもらうことにある。

【授業計画】

1. 言語の歴史
2. 言語の獲得
3. 言語行動と記憶活動
4. 言語行動を支える脳部位と失語症
5. 心的辞書
6. 文法と文の理解
7. われわれをとりまく言語環境

ただし、受講者数等に鑑みて、順序および内容に変更を加えることもある。なお、方言や敬語に関する社会学および社会言語学的考察については、本講義の対象としないので、履修にあたっては考慮されたい。また、日常では意識化されない言語行動の一端に目を向けてもらうために、授業の中で各種の調査や実験を実施する。

【評価方法】

レポートの成績 (80%) と、授業への出席および調査等への参加協力の程度 (20%) とによって評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜資料を配付する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

社会学概論

高木眞理子

【授業の概要】

社会学は、人間関係を視座を据えて、個人・集団・社会のレベルで、社会を総体的に研究する学問である。授業では、学生の関心と興味を考慮して、現代社会の中心的な課題を分析対象に取り上げる。まず、実証的・相互関連的・生活志向的観点から、その現状・実相を把握する。次に、社会に内在する課題・問題を抽出し、これに検討を加える。最後に、これらの課題を解決・解消するための方策を研究する。さらに、研究方法として、現代社会が絶えず変動を続けている点に着目し、いくつかの変動を選び、これを切り口として、現代社会の実像に迫りたい。さらに、講義を通じて学生の問題解決能力・政策提示能力の涵養をはかりたい。

【授業の目標】

身のまわりの様々な出来事に興味をもち、「社会学」をできる人にならましよう

【授業計画】

大体、以下のトピックを扱ってゆく。授業はレクチャーを主に、ディスカッションを織り交ぜて進めたい。

1. 社会を科学する方法とは
2. 人間関係
3. 学校から職業へ
4. 少年・少女のかかえる問題
5. 格差社会
6. 日本人のライフコースの特徴
7. 家族・ジェンダー
8. リスク社会の克服
9. グローバル化の功罪
10. グローバル化と文明の共生

【評価方法】

毎回ではないが、pop quizを行う。最終評価はレポートか試験。出席を重視する。出席とは単に教室に「存在」することではない。自分なりのノートをつくり、毎回のトピックに対する自分の考えをまとめるなどの形で、授業に積極的に参加することが求められる。

評価＝出席 (25%) pop quiz (25%) レポートまたは試験 (50%)

【テキスト】

友枝敏雄・山田真茂留著『Do!ソシオロジー』(有斐閣アルマ)

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

コミュニケーション障害論

担当者未定

【授業の概要】

ことばには、日常生活の用を足す伝達の機能、人間関係を維持し発展させる社交の機能、ことばそのものを楽しむ鑑賞の機能、それに思考の道具となつて合理的判断を助ける働きがある。ことばを喋って意思を伝えること、言語を操作して考えることは人間の高次の神経活動であるが、この機能に不全がある状態を言語障害という。言語障害はさまざまな原因によって生じるが、このことを人のこころの成長や働きと関連つけて講義し、コミュニケーションに障害をもつ人にはどのような援助が必要かを考えていただく。

【授業の目標】

詳細は後日、掲示にて明示する。

【授業計画】

【評価方法】

哲学概論

長滝祥司

【授業の概要】

古代から現代にいたる西洋哲学をテーマに沿って概観することによって、哲学的思考力を養う。加えて、現代社会に生きるものとして、そうした思考力を人生に生かす方途を探っていく。

【授業の目標】

哲学的なテーマを考察することを通じて、論理的な思考力を養うことを目標とする。

【授業計画】

1. 現代社会において哲学することの意義とは何か
2. 心身二元論と認識論——デカルトから『マトリックス』へ
3. 心身問題というアポリア
4. 実在と表象について
5. 身体論的転回——哲学から認知科学へ
6. コンピュータは心をもつか1——『ブレッドランナー』とチューリングテスト
7. コンピュータは心をもつか2——中国語の部屋
8. ロボットが他者になるとき——『甲殻機動隊』の一話より
9. 他者と心の帰属——心の理論
10. 身体の機械化の果てにあるもの——『ゴースト・イン・ザ・シェル』と人格の同一性
11. 心と脳の同一性をめぐって
12. 水槽のなかの脳
13. クオリアとは何か
14. まとめ

【評価方法】

平常点 (含小テスト)、レポート。

【テキスト】

【講義の進め方】

基本的には講義が中心となるが、折に触れて、講義で扱っている哲学的なテーマに関係する映画などを鑑賞しながら進めていく。

【参考文献・資料】

現象学と二十一世紀の知 (長滝祥司 ナカニシヤ出版)

倫理学概論

井川昭弘

【授業の概要】

社会福祉や環境倫理・生命倫理が例になるように、倫理的なものの人々の関心を集めています。何故なら人間は倫理的な動物であるからです。そこで、本講義では、ソクラテス以降の倫理学を概説しながら、特に、人間の尊厳について考えていきたいと思えます。

【授業の目標】

倫理学とは何かについて、考え方のいくつかの方向性を倫理学史を参照しつつ概略的に理解することを踏まえて、この講義では「よき生」の探求に倫理学の本来の課題を見る立場から、倫理と心理との接点としての「ケアの倫理」に触れつつ、また「ケア」活動を通じて「よき生」の探求を行った主にキリスト教系の幾人かの著者を取り上げ、最終的には「よき死」を問う「死生学」の問題圏に立ち入ることを目指したい。

【授業計画】

- 1 倫理学とは何か (1)
- 2 倫理学とは何か (2)
- 3 「ケアの倫理」とは何か
- 4 「ケアの倫理」の問題点
- 5 神谷美恵子 (1)
- 6 神谷美恵子 (2)
- 7 エリザベス・キューブラー＝ロス (1)
- 8 エリザベス・キューブラー＝ロス (2)
- 9 ヴィクトール・フランクル (1)
- 10 ヴィクトール・フランクル (2)
- 11 「死生学」について (1)
- 12 「死生学」について (2)

【評価方法】

出席、授業中に課すリアクションペーパー、期末に提出すべきレポートにより評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

法律学概論

大嶽 浩

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされており、数多くの「法」が日常生活に関わっているが、この授業では、その日常生活を「民法」の観点からみつめることで、「法」とは何か、を考える。

【授業の目標】

日常生活において「民法が果たす役割」の重要性を理解すること。

【授業計画】

1. 日常生活と法、法律と法
2. 公法と私法、民法と法
3. 商法と民法、民法典と民法
4. 行為能力と法、代理と法
5. 法律行為と法、時効制度と法
6. 占有と法、所有と法
7. 担保物権と法
8. 契約と法、保証と法
9. 不当利得と法、不法行為と法
10. 家族と法
11. 相続と法、法と人生

【評価方法】

試験による評価。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

宗教学概論

川口高風

【授業の概要】

日本には異なった多くの宗教文化が混在している。宗教に関する基礎的知識を習得するため、世界の九種の宗教を概観し、続いて日本の宗教の神道、仏教、キリスト教、諸教に焦点をあてて役割や現代の状況などをながめてみる。祖師の著作や仏教古文書の解説も行う。必要に応じて、ビデオによる視聴覚授業もとり入れる。

【授業の目標】

世界の宗教を概観し知識を得た後、特に仏教を開いた釈尊の生涯、教説を学び、人間の心の豊かさや生き方を学んでもらいたい。

【授業計画】

- 1 : はじめに
- 2 : 宗教の学問的見方
- 3 : 世界の諸宗教 (1)
- 4 : " (2)
- 5 : " (3)
- 6 : 釈尊の生涯 (1)
- 7 : " (2)
- 8 : 釈尊の教説 (1)
- 9 : " (2)
- 10 : " (3)
- 11 : 祖師の著作や古文書の解説 (1)
- 12 : " (2)
- 13 : " (3)
- 14 : まとめ
- 15 : 試験

【評価方法】

授業中に時々行う小試験と学期末に行う論述式の試験による。

【テキスト】

『志は老いず』(川口高風著 大法輪閣)。なお、資料のプリントは当方で用意し配布する。

国際法概論

初谷良彦

【授業の概要】

国際法は、国と国との関係を定める法である。数百年に及ぶ歴史の展開の中で、現代の国際法は地球社会の大変動を反映して、重大な転換期に入っている。地球環境保全、難民の保護、人権保障、安全保障などこれまでに見られなかった新しい問題をできるだけ取り上げ、できるだけ身近なものとして国際法を理解してもらいたい。

【授業の目標】

これからの日本、また学生諸君は、国際社会とどうつき合っていくべきかを考える。

【授業計画】

- 第1回 国際社会と国際法 (国際法とはどんな法か、国際社会の成立と発展)
- 第2回 国際法と国内法 (条約、慣習法)
- 第3回 国家 (国家の主体性、主権国家と半主権国家、国家に準ずる主体、特殊な国家)
- 第4回 国際機構 (国際連合、国際協力)
- 第5回 国家領域 (領土、領空、宇宙)
- 第6回 外交 (外交関係の維持、外交官、領事機関、公館の不可侵)
- 第7回 個人・外国人 (個人と国際法、外国人の法的地位、難民の庇護)
- 第8回 人権の国際的保障 (国際人権法規、人権保障の履行確保)
- 第9回 国際犯罪の規制 (国際刑事法の役割、国際司法協力)
- 第10回 環境の保護と協力 (国内環境法から国際環境法へ、環境保護条約)
- 第11回 国際裁判 (仲裁裁判制度、国際司法裁判所)
- 第12回 集団安全保障 (国際連合安全保障理事会、集団的自衛権、国際連合の平和維持活動)
- 第13回 国家責任 (国家の負う責任、国家に帰属する行為の範囲)
- 第14回 戦争法と中立 (中立法規の発展、中立国の地位)
- 第15回 国際人道法 (武力紛争と人権、ジュネーブ四条約)

【評価方法】

主として平常点と単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

授業の際、指示する。

【参考文献・資料】

文献については、授業の際、随時紹介する。資料については、できるかぎり私の方で配布する。

経済学概論

福澤直樹

【授業の概要】

最初に「経済学とは何か」について述べ、次に「資本主義経済システムの特徴」と「市場経済と政府の役割」について経済学の基礎的知識を与え、さらに「資本主義経済システムの成立と展開」について歴史的視点から考察する。

【授業の目標】

現代の経済社会のしくみを理解するために重要な概念や視点、また最も基本的な理論的枠組みを習得し、自分自身がその一員として生活する現代経済社会について、より深く体系的に理解できるようになることが、この授業の目標である。

【授業計画】

1. 経済学とは何か
2. 資本主義経済システムの諸特徴
 - (1) 市場経済とは何か
 - (2) 経済学者による経済社会観
 - (3) 資本主義市場経済の基本要素
 - (4) 資本主義市場経済の諸機能
 - (5) 市場経済と政府の役割
3. 資本主義の過去と現在
 - (1) 市場経済システムの成立と展開
 - (2) 19世紀の市場経済と自由主義
 - (3) 20世紀の資本主義市場経済の調整システムと福祉国家
4. 経済のグローバル化と今後の経済社会

【評価方法】

成績評価は出席と定期試験の結果で行なう。

【テキスト】

『資本主義のしくみ』（八木紀一郎／宇仁宏幸著 ナツメ社、2003年）

政治学

西尾林太郎

【授業の概要】

政治体制や政治制度との関わりで政治の動態を概括的に捉える能力を涵養すると共に、戦後日本の政治・外交を国際的視野で考察することを、講義の目的とする。

また、政治との絡みではあるが、時事的な問題についても積極的に取り上げていく。特に、立法過程や外国為替の政治・経済のメカニズム、イスラム原理主義および政治指導者について重点的に取り上げたい。

【授業の目標】

現代政治を冷静に観察できる能力を養う。ノートを取る能力の涵養。

【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
 - a. 国際社会の特質
 - b. トランスナショナル現象と国家間の相互依存性の増大
 - c. 政党、官僚、利益団体、議会とその相互関係
2. 市民社会と大衆社会
 - a. 市民社会と古典的デモクラシー
 - b. 大衆社会の病理とマス・デモクラシー
 - c. 立法国家と行政国家
3. 「55年体制」の成立とその崩壊
 - a. 冷戦構造と55年体制との関連
 - b. 日本の政治風土・田中角栄の場合
4. 政治権力
 - a. 権力とは何か
 - b. リーダーシップ
 - c. マス・メディア、シンボル
 - d. 権力分立
 - e. 政治家

【評価方法】

評価は出席状況と試験による。試験の際、自筆ノートと講義資料の持込を許可する。

【テキスト】

使用しない。但し、適宜、講義資料を配布する。

【参考文献・資料】

随時、指示する。

国際経済事情

福澤直樹

【授業の概要】

外国系主要各紙、雑誌等の経済トピックスを毎週採り上げ、世界情勢を分析した上で日本経済がそれにどう対応していくかを考察する。

【授業の目標】

ごく初歩的な経済学の知識を前提に、今日の世界で発生しているいろいろな社会経済問題の原因や構造を考えていく。そうした検討を通じて経済システムのあり方と世界の経済社会の多様性、各国経済の諸特徴と福祉国家としてのあり方、さらには現下の経済のグローバル化や地域統合の実情や意義などについて学習する。

【授業計画】

1. 世界の経済システム
 - (1) 市場経済のメカニズム
 - (2) 経済システムの多様性
 - (3) 労使関係と賃金交渉
 - (4) 資金調達と企業統治
 2. 各国の福祉システムと経済システムの諸特徴
 - (1) アメリカ型福祉と経済社会
 - (2) 日本型福祉と経済社会
 - (3) ヨーロッパ型福祉と経済社会
 - (4) 発展途上国の経済社会
 - (5) 中国の社会主義的市場経済
 3. 経済のグローバル化と世界経済のゆくえ
 - (1) 自由主義市場経済の世界的拡がりとは各国経済
 - (2) EUほか、経済統合の進展とその意義
- 以上のトピックスを順不同で、時々発生する具体的な経済社会問題に即して考えていく。

【評価方法】

成績評価は出席と定期試験の結果で行なう。

【テキスト】

講義中にプリントを配布する。

【参考文献・資料】

『資本主義のしくみ』（八木紀一郎／宇仁宏幸著 ナツメ社、2003年）

国際政治論

瀬戸裕之

【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対決時代から、協力時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域などの対決と紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的事象にふれながら講義する。

【授業の目標】

現代国際社会の紛争と平和の問題について、歴史的背景および日本との関係も含めて理解すること。

【授業計画】

1. 国際社会をみる視点
2. 国際関係の理論
3. 冷戦構造の展開と終焉
4. 地域紛争と対テロリズム戦争
5. 国連改革と平和維持活動
6. 戦後日本の安全保障体制
7. アジアの国際紛争と日本

【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受験しないものは、期末試験の受験資格を失う。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

国際関係学講義 新版（原彬久編 有斐閣）

データ解析 II

斎藤和志 石田靖彦

【授業の概要】

心理学の領域では質問紙によってデータを収集することが少なくない。社会的態度や性格特性を測定するための尺度や心理テストを構成する際には信頼性と妥当性の検討が必要となり、そのために因子分析といった統計的処理を行うことになる。本授業では、こうした尺度構成を行う場合に必要となる統計的な考え方とその技法、その後の尺度得点の扱い方と分散分析について学習する。

【授業の目標】

尺度構成の基本的な考え方と分析技法について学習する。具体的には、尺度の信頼性と妥当性の検討方法、因子分析や分散分析のやり方について、統計ソフト（SPSS）を用いて習得することを目標とする。

【授業計画】

講義とコンピュータを使用した実習を行う。
各単元に複数時間をあてることがある。

1. オリエンテーション
2. 心理統計基礎の確認
3. SPSSの基本操作の確認
4. 尺度構成の基本的考え方と手続き
5. 因子分析と信頼性分析の考え方
6. 因子分析と信頼性分析の実際
7. 尺度得点の扱い方
8. 分散分析の考え方
9. 分散分析の実際

【評価方法】

授業への参加態度とレポート課題（複数回）および単位認定課題（試験）による。

【テキスト】

SPSSとAMOSによる心理・調査データ解析（小塩真司著 東京図書）

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

心理検査法

西出隆紀

【授業の概要】

心理検査の特徴・活用法・倫理的留意点などについて概説を行い、集団実施が可能な心理検査の実施方法や解釈の仕方を実習する。また、その結果を基にレポートを書き、クリニカルレポートの書き方の基礎も学ぶ。

【授業の目標】

各種心理検査を理解し、実施手続きや解釈法を習得する。

【授業計画】

1. 心理検査についての概説（心理検査とは・心理検査の種類等）
2. 各種心理検査の歴史
3. 心理検査の信頼性・妥当性
4. 心理検査の標準化について
5. 心理検査の実施上の留意点
6. 心理検査の有効性と限界
7. 質問紙法心理検査の実例（SDSとYG性格検査）
8. 作業心理検査の実例（内田クレペリン精神作業検査）
9. 質問紙検査法と作業心理検査法の解釈
10. 投影法心理検査の実例（集団TAT、バウムテスト）
11. 投影心理検査法の解釈
12. テストバッテリーについて

【評価方法】

出席点とレポートの評価で成績を出す。

【参考文献・資料】

その都度資料を配付する。

データ解析 III

吉崎一人

【授業の概要】

データ解析IIに引き続き、統計パッケージソフト（SPSS, ANOVA4 on the WEB等）を利用してデータの分析について、実際にデータを処理しながら学ぶ。主に実験計画法に基づいて収集されたデータを分析する分散分析の扱い方について取り上げる。

【授業の目標】

- (1) 要因計画について理解すること。
- (2) 実験計画法に基づいてとられた量的データを分散分析を使って分析できること。
- (3) 検討した結果を解釈すること。

【授業計画】

授業の内容は以下のものであるが、各単元に複数時間を当てることがある。

0. 記述統計の復習
1. 推測統計の考え方
2. 研究計画の進め方・実験計画法について
3. SPSSの基本操作の確認
4. 被験者間1要因計画
5. 被験者内1要因計画
6. 多要因計画と交互作用の意味
7. 被験者間2要因計画
8. 被験者内2要因計画
9. 2要因混合計画

【評価方法】

授業への参加態度と5回～7回のレポート提出による

【テキスト】

よくわかる心理統計（山田・村井著 ミネルヴァ書房）

【参考文献・資料】

心理学マニュアル要因計画法〔再版〕（後藤宗理他編著 北大路書房）
SPSSにおける分散分析の手順〔改訂版〕（遠藤健治著 北樹出版）
心理学のためのデータ解析テクニカルブック（森敏昭・吉田寿夫編著 北大路書房）

心理検査法演習

河野文光 小塚千絵 中村紘子

【授業の概要】

各種の心理検査についての基礎知識と実施方法を学ぶ。扱う心理検査は病院や公的機関で使われやすいものを予定している。実際に心理検査を実施し、結果を解釈し、クリニカルレポートを作成することで、心理診断の基礎を身につける。

【授業の目標】

各種心理検査を理解し、実施手続きや解釈法を習得する。

【授業計画】

- 全体オリエンテーションで授業の進め方等について解説をし、前半クラス、後半クラスのクラス分けをする。次にクラスオリエンテーションで心理検査の基礎について講義した後、以下の心理検査について学ぶ。3グループのローテーションで指導するため、以下に示した順番通りに進まないグループもある。
1. 全体オリエンテーション
 2. 前半クラスオリエンテーション
 3. 知能検査 a 知能の概念知能検査の歴史についての講義の後、WA I S - III知能検査についての基礎知識と実施方法を学び、実際に検査を実施して報告書を作成する。
 4. 知能検査 b 知能の概念及び知能検査の問題点について講義した後、ビネーV知能検査についての基礎知識と実施方法を学び、実際に検査を実施して報告書を作成する。
 5. 人格（性格）検査 MMP I（ミネソタ多面人格目録）、PFスタディについての基礎知識と実施方法を学び、実際に自らも被検査者になり、また他者にも検査を実施して報告書を作成する。
 6. 後半クラスオリエンテーション
 - 7～9は3～5と同じ

【評価方法】

出欠・授業態度とレポートで成績評価する。レポートは各検査毎に提出しなければならない。また、1回でも欠席したりレポート提出を怠ったりした場合は単位を認めない。

なお、この授業は半期をさらに前・後半に分け、2時限連続開講で2単位とする。変則的な開講方法なので注意されたい。

【テキスト】

必要なマニュアルを貸与

【参考文献・資料】

その都度配布

生理測定演習

沖田庸嵩

【授業の概要】

認知課題遂行時の事象関連脳電位（ERP）を測定・分析し、脳内認知活動のERP表出を観察する。

【授業の目標】

実験実習を通して、非侵襲的な電気生理反応の測定法を学ぶとともに、脳内認知活動への精神生理学のアプローチを理解する。

【授業計画】

3つのグループに分かれて、次のような流れで実習を行う。

- 1回目：オリエンテーション
 2-10回目：各グループが課題1・課題2・ERPの分析という3つの演習内容を毎週変えながら順次受ける。課題1・2では異なる認知課題遂行時のERPを記録する。ERPの分析では、記録されたERP波形における振幅・潜時の測定法、その測定結果に基づく統計的処理などについて学ぶ。
 11-12回目：課題1・2で収集されたデータの分析
 13-14回目：レポート作成

なお、2コマ連続で演習を行い、7週間で終了する。

【評価方法】

実習への取り組み、レポート（個人単位で作成）、出欠により評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じ資料を配布する。

視聴覚演習

松尾貴司

【授業の概要】

人の行動や心理、コミュニケーションに関する研究では、映像（静止画像、動画）や音声刺激として提示することがしばしばある。この授業では、ビデオカメラにより撮影した映像を素材として、デジタルビデオ編集機を用いた画像編集の過程を体験的に学習する。

【授業の目標】

デジタルビデオ編集機（エディロール DV-7 DL）を使用して、映像の編集ができるようになること。

【授業計画】

- 第1週 受講者数の調整、オリエンテーション
 第2週 ビデオ撮影の基本1
 第3週 ビデオ撮影の基本2
 第4週 課題作品の企画・立案／素材の撮影
 第5週 編集機の使い方1
 第6週 編集機の使い方2
 第7週 編集作業
 第8週 課題作品の試写および相互評価

1回の授業は2時限連続でおこなう（第1週を除く）。
 作業は第1週に振り分けられたグループでおこなう。
 授業時間外での作業がかなり見込まれる。

【評価方法】

授業への出席状況、グループ作業における自己評価、グループ課題（作品）についての教員および学生相互の評価を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配付する。

学習心理学

川合伸幸

【授業の概要】

私たちの行動は、経験を繰り返すことで比較的永続的に変化する。このような過程を学習という。環境に適応するために行動を柔軟に変化させる学習は、学校の勉強だけでなく、私たちの行動全般に影響を及ぼす。その基本的なメカニズムと日常や臨床場面での応用について概説する。

【授業の目標】

ヒトや動物の行動に大きな影響を及ぼす学習という現象に関する実験や理論を学ぶ。また、ヒトを含めた動物の行動を制御する技法や、行動の背景にある学習のメカニズムを調べるための統制条件の設定方法の理解を目指す。さらに、学習現象に関する進化的・発達の観点からの知識を習得する。（詳細は授業にて解説する）

【授業計画】

- 1) 序論（学習とはどのような現象か）
- 2) 学習以外の要因による行動の変化（学習性と非学習性の行動）
- 3) 学習以外の要因による行動の変化（馴化とその理論）
- 4) 一般的な学習過程
- 5) 古典的条件づけI（連合学習の形態）
- 6) 古典的条件づけII（古典的条件づけの基本原則）
- 7) 古典的条件づけIII（古典的条件づけの理論と臨床研究）
- 8) 道具的条件づけI（道具的条件づけの基本原則）
- 9) 道具的条件づけII（強化スケジュール）
- 10) 道具的条件づけIII（回避と罰）
- 11) 学習の発達と進化I（学習の発達：胎児期の学習）
- 12) 学習の発達と進化II（学習の発達：加齢にともなう学習の変化）
- 13) 学習と進化 / 【授業の進捗状況に応じて予定は変更される】

【評価方法】

授業中の小テストで評価する。（試験の範囲と時期については授業中に説明する）

【参考文献・資料】

心の輪郭（川合伸幸著 北大路書房）
 メイザーの学習と行動（メイザー著 磯博行・坂上貴之・川合伸幸訳 二瓶社）

認知心理学

川口潤

【授業の概要】

認知心理学の基本となる「記憶」と「思考」を中心に講義する。現在のこれらの研究分野では、実験室的研究とともにそれらが日常の人間の生活とどのように関わっているかという生態学的妥当性(ecological validity)を考慮することが当然の考えとなっている。本年は、そのような観点から、特に日常場面に関わる記憶と思考の問題を取り上げることによって、現代の認知心理学が何を解明しようとしているか、また我々の生活にそれらがどのように関わっているのかを考えていく。

【授業の目標】

人間の認知メカニズムについて、認知心理学的アプローチによってどのように解明されてきたか、また、そこで明らかになってきたことがらが日常生活とどのように関わっていることを知るとともに、心のメカニズムの巧妙さについて深く考えることができる力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1. 心のイリュージョン：認知の歪みについて
2. 外界の認識：外界をどのようにして知ることか
3. 展望的記憶：未来の記憶をどのように覚えているのか
4. 注意の役割とヒューマンエラー：不注意とは何か
5. 自伝的記憶：アイデンティティを支えるもの
6. 潜在記憶：覚えていないけれど覚えている？
7. 記憶の歪み：偽りの記憶とは？
8. 認知と感情：不快な思い出したくない記憶はどうすればいい？
9. まとめ：心の進化

【評価方法】

随時のレポート 30%、期末試験 70%

【テキスト】

授業中に指示をする。

【参考文献・資料】

情報処理の心理学（多鹿・川口・池上・山 サイエンス社）、現代の認知研究（梅本堯夫監修・川口潤編 培風館）、認知心理学2：記憶（高野陽太郎（編） 東京大学出版会）、認知のエイジング（D.パーク・N.シュワルツ著 口ノ町・坂田・川口監訳 北大路書房）、日常記憶の心理学（G.コーエン著 川口潤（訳者代表 サイエンス社）、日常認知の心理学（井上・佐藤編 北大路書房）

比較心理学

松尾貴司

【授業の概要】

比較心理学は、ヒト以外の種の行動との比較によってヒトの行動の理解を深めようとするものである。本講義では、様々な動物種の行動についての研究から得られた知見や理論を紹介し、心理学における系統発生的な視点の重要性について考える。

【授業の目標】

ヒト以外の動物に見られる種々の行動パターンを知り、それらを説明する理論を理解する。また、ヒトの行動についても進化的に考える視点を身につける。

【授業計画】

- 1) 比較心理学とは
- 2) 行動の進化
- 3) 資源獲得の競争
- 4) 捕食関係と共生関係
- 5) 利他的行動
- 6) コミュニケーション
- 7) 行動研究の方法

各トピックスについて1～2回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう。
なお、関連する動物行動の映像を適宜視聴する。

【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合はこれを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

パピーニの比較心理学 行動の発達と進化 (M.R.パピーニ著 北大路書房)
比較心理学を知る (ニッキイ・ヘイズ著 プレイン出版)

資料は配付せず、プロジェクト(またはディスプレイ)で提示する。
提示した資料は、後日Webで閲覧できる。

神経心理学

八田武志

【授業の概要】

「脳と行動」の関係の解明を目指す神経心理学の概説をする。特に、認知心理学的な視点から考察を中心とする。まず、基礎的な知識として(1)脳、特に大脳の基本構造論じ、(2)さらに神経心理学の研究法を論じ、(3)最後に大脳半球機能差(ラテラリティ)について論じる。次に、重要な認知活動ごとに脳との関連について論じる。具体的には、脳とことば、脳と記憶、脳と物体の認知、脳と注意、脳と情動、脳と運動である。

【授業の目標】

- 1 人間の行動の基礎にある脳のはたらきについての知識を得ること
- 2 人間の脳が1つのシステムとして統合的に機能していることを理解すること
- 3 脳の損傷の影響と行動との関連から認知リハビリテーションの可能性を理解すること

【授業計画】

- 1 中枢神経系の基礎知識
- 2 失語・失行・失認
- 3 運動コントロール・読み障害・注意障害
- 4 神経心理学の研究法 (1)
- 5 〃 (2)
- 6 脳外傷とそのリハビリテーション
- 7 ラテラリティ (Split Brain)
- 8 健常者のラテラリティ
- 9 学習経験とラテラリティ
- 10 左ききの脳機能
- 11 聴覚のラテラリティ
- 12 加齢と脳機能
- 13 認知リハビリテーションのために
- 14 まとめ

【評価方法】

試験による

【テキスト】

脳のはたらきと行動のしくみ (八田武志著 医歯薬出版)

【参考文献・資料】

左ききの神経心理学 (八田武志著 医歯薬出版)

健康心理学

小川浩

【授業の概要】

複雑な現代社会は心理社会的ストレスを生み、偏った生活習慣をもたらして、様々な現代病を増加させています。これらの機序を理解し対処するためには、心理学の応用が必要です。この授業では、生活習慣と健康の関係、ストレス、保健行動の理論と実際などについて理解を深めます。この授業を通して、健康が意欲で人間らしい生き方が基盤であり、健康な状態こそ人間らしい生き方の具現であることを学びとってほしい。

【授業の目標】

生活習慣病についての理解を深めるとともに、受講生に身近な喫煙、飲酒、睡眠を取り上げて、健康影響、心理行動プロセス、対処方法、関連社会環境などを概説します。また、ストレスの医学的および心理社会的意味、ストレス障害、ストレス対処について学びます。

【授業計画】

- 第1回 1. 授業ガイダンス
授業の日程、概要、ねらい、受講上の注意事項、講師紹介
- 第2回 2. 健康とは
健康の定義、健康の意味
3. 健康心理学とは
健康心理学の歴史と課題、健康心理学を支える社会背景
- 第3回 4. 生活習慣と健康
受講生の健康生活習慣、アラメダ郡研究、生活習慣病と対策
- 第4回 5. 喫煙と健康
喫煙の実態、たばこの歴史、喫煙の健康影響
- 第5回 6. 飲酒と健康
飲酒の実態、精神作用と代謝、飲酒による精神・行動障害、上手なお酒の飲み方
- 第7回 7. 睡眠と健康
睡眠の実態、睡眠のメカニズム、睡眠障害、上手な睡眠の取り方
- 第8回 8. 養生訓
総論、煙草、飲酒、睡眠
- 第9回 9. 健康行動の心理学的理解
保健信念モデル、計画的行動理論、変化のステージモデル
- 第10回 10. ストレスと健康
ストレスとは、ストレス研究の流れ
- 第11回 11. ストレスの心理学的モデル
トランスアクションル・モデル、アプレイザル、コーピング
- 第12回 12. ストレス障害
心身症、タイプA行動パターンと心臓病、タイプC行動パターンとがん
- 第13回 13. ストレスとどう付き合うか
- 第14回 14. 授業の総括と評価
- 第15回 15. 試験

【評価方法】

試験の成績、出席状態(5回以上は失格)、および提出物・レポートによって総合的に評価します。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

「健康心理学概論」(日本健康心理学会(編) 実務教育出版)
「健康心理カウンセリング」(日本健康心理学会(編) 実務教育出版)
「健康心理学辞典」(日本健康心理学会(編) 実務教育出版)
「養生訓・和俗童子訓」(貝原益軒、石川謙(校訂) 岩波書店)
「ストレスと情動の心理学」(リチャードS. ラザルス、本明寛(監訳) 実務教育出版)

産業・組織心理学

松浦均

【授業の概要】

産業・組織心理学では、テーマとして「集団と組織の心理学」について講義する。授業では、基本的な心理学の内容を踏まえた上で、できるだけ社会の中の現場で実証された理論や知見を紹介する。学生諸君には、とくに産業組織場面、企業や行政組織に関する場面において生の現代社会の様相を切り取ってくる課題を与える。インターネットや図書雑誌を通して自分で情報を収集し、また現実社会を実感できる機会などを通して理解していくことを目標とする。

【授業の目標】

授業の中で話したことが、現実の社会における具体的事例と直結するような形で、理解されることを望んでいる。したがって、抽象的な説明はなるべくしないように、常に具体的な説明を心がけていきたい。また受講生に対しては、インターネットや図書雑誌を通して自分で情報を収集すること、また現実社会を実感できる機会を積極的に作っていくことをお願いしたい。

【授業計画】

1. オリエンテーション(第1週)
半年間の授業の進め方を説明する。また学習方法や学習目標を説明し、授業方法、成績評価方法なども説明する。組織の問題に関するビデオ視聴。
2. 集団と組織の心理学1「集団について」(第2週～第4週)
組織問題についての概略説明。集団の意義と定義。人間関係と対人関係の定義。集合と集団の相違。集団の機能。公式集団と非公式集団。集団内コミュニケーション構造・ソシオメトリック構造。
3. 集団と組織の心理学2「組織について」(第5週～第7週)
組織の定義と概念。現代の組織の特徴。組織の原則。組織内コミュニケーションの特徴と問題点。成員の選別と組織社会化。組織行動の統制。組織の改革。硬直化現象と革新指向性。イノベーション。
4. 集団に関する実験研究の紹介(第8週～第10週)
革新の過程：少数者が多数派に及ぼす影響。集団圧力、同調の過程。集団による課題解決、集団浅慮、リスクシフト。
5. リスクの心理学(第11週～第14週)
リスク心理学について概略説明とビデオ視聴。リスクの定義、リスク受容行動。リスクのイメージ形成要因とイメージ構造。リスク認知におけるバイアス。リスクに関するマスコミ報道の特質。リスクと災害、緊急時の人間行動。情報伝達の課程。

【評価方法】

出席(30%)と試験(70%)による

【テキスト】

使用しない。プリントを配布する。

人格心理学

小塩真司

【授業の概要】

人格心理学全般に渡って講義する。人格の特性論と類型論の違い、オルポートの人格理論、キャッテルの人格理論、クレッチマー、ユング、シュプレランガー、シェルドンの類型論を説明する。次に人格査定の方法論を質問紙法から投影法に至るまで説明する。最後に精神分析学における人格理論を扱う予定である。

【授業の目標】

心理学の中でも個人差と個人間の共通性を研究する人格心理学の諸理論および研究方法を概観し、一般的な知識と照らし合わせながら理解を深めること。

【授業計画】

- 1) イントロダクション
- 2) 人格・性格・気質・personality・character
- 3) 類型論と特性論
- 4) 個人差の測定方法 (1)
- 5) 個人差の測定方法 (2)
- 6) 人格心理学の歴史背景
- 7) 人格心理学の歴史背景
- 8) 人格の発達・遺伝と環境
- 9) 血液型性格関連説に関して
- 10) まとめ

【評価方法】

出欠および試験により総合的に評価する (試験の内容は授業にて指示する)。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

小塩真司・中間玲子 (2007). あなたとわたしはどう違う? パーソナリティ心理学入門講義 ナカニシヤ出版

(テキストとして指定はしないが、授業内容に大きくかわる内容となっているので参考にしてもらいたい)

080320501_0670 掲載順:0670

MASTER ▲

家族心理学

小原倫子

【授業の概要】

時にはこころの支えとなり、また別の時にはこころや行動の自由を奪うものになる「家族」について心理学的観点から学ぶ。家族を研究対象とする学問は心理学以外にも、社会学、人類学などいくつかあるが、この授業では、家族心理学の基本的な概念を中心に説明しながら、家族への支援についても検討していく。

【授業の目標】

本講義の目的は、「家族」がヒトの発達にどのような意味を持つかを、社会的・歴史的・文化的文脈の中に位置づけて考察できるようにすることである。さらに、家族全体のダイナミクスの視点から、個人の不適応の背後にある「家族」の問題と問題解決への援助について考えることを目的とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション：人間の一生と家族との関わり
2. 「家族」の多様性と普遍性：「家族」の心理学的機能
3. 愛着理論：乳幼児にとっての安全基地としての家族
4. 情動理論：乳幼児の情動発達と家族機能との関連
5. 母子関係及び父子関係と子どもの発達
6. 夫婦関係と子どもの発達
7. きょうだい関係と養護性の発達
8. 「親となること」による発達・親にとっての子どもの価値
9. 乳幼児の問題行動と家族機能との関連
10. 思春期・青少年の問題行動と家族機能との関連
11. 家族機能の心理査定
12. 高齢社会の家族の心理学的問題
13. これからの家族のありかた

【評価方法】

課題の提出と定期試験の成績による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

犯罪・非行心理学

鈴木眞悟

【授業の概要】

本講義は、犯罪(非行を含む、以下同様)および犯罪者(非行少年を含む、以下同様)について、理論的にまた、調査・統計データに基づき、心理学からの視点を中心に理解を深めることを目的とする。内容としては、犯罪の実態・動向、犯罪の原因論、主要な犯罪についての犯罪および犯罪者の特徴、犯罪者の処遇、犯罪の防止、犯罪が被害者や社会に与える影響等を含む。

【授業の目標】

犯罪・非行の原因、特徴や非行少年の矯正・処遇の他、犯罪の種々の側面にも心理学が応用・活用されていることを理解し、犯罪・非行について、多面的に見る目を養う。

【授業計画】

- 1) 序：犯罪・非行とは
- 2) 統計に見る犯罪の動向
- 3) 非行の動向と最近の非行の特徴
- 4) 犯罪・非行の理論 (1)
- 5) 犯罪・非行の理論 (2)
- 6) 犯罪・非行の理論 (3)
- 7) 犯罪の被害化：悪質商法を例に
- 8) 犯罪捜査と心理学：目撃証言、供述、ポリグラフ
- 9) 犯罪捜査と心理学：プロファイリング
- 10) 非行少年の矯正・処遇 (1)
- 11) 非行少年の矯正・処遇 (2)
- 12) 犯罪被害者の心理的問題
- 13) 行動科学的犯罪防止理論
- 14) 犯罪報道に関する諸問題

【評価方法】

課題・レポートおよび平常点。

【テキスト】

市販のものは使用せず、講義資料を配付する。

【参考文献・資料】

講義の中で示す。

080320501_0680 掲載順:0680

MASTER ▲

青年心理学

平石賢二

【授業の概要】

児童から成人へと移行する独特な時期である青年期の位置づけを検討し、その時期の心理・行動特性などについて説明する。また、自己意識特性や時間的展望など青年期を考えるにあたり重要な心理学的概念や青年期の心理的問題についても概説する。

【授業の目標】

移行期としての思春期、青年期の心理社会的発達の特徴について、生涯発達の視点も取り入れながら理解していくことを目標とする。また、青年の成長・発達を支援する心理教育的かかわりのあり方についても学習する。

【授業計画】

- 以下の内容について講義を行う。
1. 青年期発達と青年を取り巻く社会的文脈
 - 1) 移行期としての思春期・青年期
 - 2) からだどころ
 - 3) 自分とのかかわりーアイデンティティの探求
 - 4) 親子の絆・家族の絆
 - 5) 同性・異性の友人関係
 - 6) 学校・社会のなかでの体験
 2. 発達を支援するためのスクールカウンセリングシステムと心理教育プログラム
 - 1) スクールカウンセリング
 - 2) 予防・発達促進的心理教育プログラム

【評価方法】

筆記試験およびレポート、出席状況などを総合的に評価する。

【テキスト】

平石賢二 (編著) 思春期・青年期のこころーかかわりの中での発達 北樹出版 (近刊)

【参考文献・資料】

テキストの購入方法については初回の講義で説明する。また、参考文献については講義中に適宜紹介する。必要な資料については配布する。

老年心理学

久世淳子

【授業の概要】

近い将来、わが国の65歳以上の人口の割合は総人口の約20%を超え、世界の先頭を切って「超高齢社会」に突入する。このような中で「老年」というキーワードを多面的に理解する事は重要である。本講義では、心理学を中心に、医学、社会福祉学、工学、生体科学などの観点から「高齢者」や「歳をとること」について概説する。

【授業の目標】

これまで心理学において発達とは、子どもを対象にした初期発達の研究が中心であった。しかしヒトのライフサイクルを生涯発達という視点でとらえれば、加齢にともなうさまざまな変化について知ることは重要であろう。本講義では老年期の身体的・精神的発達の特徴を理解し、老年期に生じる諸問題について考える力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

以下のトピックについて、それぞれ1-2回の講義をおこなう。

- ・高齢社会の現状
- ・老年心理学研究の歴史と現在
- ・身体・生理機能の老化
- ・高齢者の感覚・知覚・注意
- ・高齢者の学習・記憶
- ・加齢と人格
- ・高齢者の幸福感と生きがい
- ・高齢者の家族関係と社会生活
- ・老年期の精神的老化と精神障害
- ・高齢者の保障制度と介護

【評価方法】

レポート（講義中の小レポートを含む）で評価する。評価のポイントについては講義中に説明する。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献・資料】

講義中に紹介する。

カウンセリング

清滝裕子

【授業の概要】

心理療法の一つとして、日本で広く知られている“カウンセリング”。その理論や歴史について学ぶだけでなく、さまざまなカウンセリング技法についても触れ、簡単な実習を加えながら授業をすすめていく。また、カウンセリング事例やさまざまな問題点も扱うことによって、カウンセリングの実践的な部分についても扱っていききたい。

【授業の目標】

カウンセリングについて、理論的側面だけでなく、実際の側面についても学ぶことによって、より具体的・実践的な“カウンセリング”について、理解し学習する。

【授業計画】

1. カウンセリングとは
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの理論と人間観
4. カウンセリングの基本的態度
5. 共感的理解とは
6. カウンセリングの技法
7. カウンセリングの実際
8. カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

成績評価はおもに期末試験の結果でおこなう。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に提示する。

専門演習 I

植村勝彦

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

コミュニティ心理学の理念（考え方・発想法）に基づく共同研究を構想し、実施すること。

【授業計画】

コミュニティ心理学が対象とする社会問題について、ゼミ生の討論に基づいてテーマを決め、共同研究を行う。夏のゼミ合宿までに面接データを収集し終え、そのまとも方をゼミ合宿で討論する。

また、前期のうちから、各自の研究テーマを模索しておかないと、なかなか卒論のための問題意識が定まらないという経験的現実から、後半には毎回個人発表を行う。

【評価方法】

毎回の演習への出席と、個人発表、さらには授業での取組みの姿勢等を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

特に使用しない。必要なものは資料として配付する。

専門演習 I

小川一美

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

社会心理学研究の研究手法、分析手法、データの読み取り、論理的な思考を習熟する。

【授業計画】

対人社会心理学に関する研究論文などの文献を講読する。各回、レポーターが発表をし、全員で討論を行うという形式である。

【評価方法】

出席状況、レポーターおよび討論時の取り組み態度などから総合的に評価する。

【テキスト】

文献や資料などについては、適宜指示する。

専門演習 I

沖田庸嵩

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の研究に必要な基礎的事項について解説するとともに、実験研究の体験実習を行う。

【授業の目標】

卒業研究に必要な専門領域の基礎を習得し、学生各自が興味を持てる研究課題を明確化する。

【授業計画】

1. 事象関連脳電位 (ERP) に関する基礎知識
2. ERP研究が扱う認知心理学のテーマ
3. 各自の研究テーマの明確化

【評価方法】

課題への取り組み、発表・討論、出欠により評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じ資料を配布する。

【参考文献・資料】

入戸野 宏 (2005) 心理学のための事象関連電位ガイドブック、北大路書房。

専門演習 I

河野文光

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑応答を行う。またボディ・ワークの実習を行う。

【授業の目標】

各自の研究に向けて、研究課題を明確化していく。

【授業計画】

1. オリエンテーション
授業計画について説明
2. 論文講読
いくつかの研究論文を講読する。その内容を報告し、討論する。
3. 体験実習
呼吸法、坐禅、漸進的弛緩法、臨床動作法の実習をとおして、からだところの一体感およびコミュニケーションの基盤としてのからだを体験する。
4. グループ研究
興味のあるテーマについて、グループごとにミニ研究を行う。その結果をレポートにまとめ、報告する。
5. 学外授業
夏休み中に合宿として学外授業を行う。

【評価方法】

レポート報告および討論の内容から評価する。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

専門演習 I

後藤秀爾

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、あるいは種々の体験を通して学習内容の確認を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

この授業を通して、「時代のニーズを知ること」「自分自身を知ること」「心理臨床の基本を知ること」を、それぞれに目指す。

【授業計画】

- 1) 自己理解のためのワーク
- 2) ボランティア活動の経験
- 3) 関連の文献講読

この3つの活動が授業の柱となる。

1) は、授業時間内にボディワークを中心に行なう。無意識のうちに身につけてしまっている身構えや、人とかかわり方の癖などについての自己理解を深める。

2) は、各自で心理臨床に関連するボランティア活動に参加した経験を、授業内で交流する。体験したことを文章化して他者に伝える努力は、感情を理性化して内省的自己を育てるための大切な作業である。

3) は、1) 2) の活動を通して生まれる問題意識にそって進める自己学習の成果を、授業内で報告する形をとる。各自に必要な文献を探すためのアドバイスは、個別に行なう。

夏期休業期間中に、研究テーマを確定するための合宿研修を予定している。

【評価方法】

授業への参加状況 (出席回数だけのことではない) と、期末に出す課題レポートの内容による。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業の流れの中で個別に指示する

専門演習 I

斎藤和志

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味を持てる研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

卒業研究へ向けての問題と目的の設定。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. 社会心理学的研究法
2. 社会心理学論文講読
3. 研究課題の明確化

【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

専門演習 I

坂田陽子

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

- 1) 各自の研究テーマを決めることができる。
- 2) テーマに沿った文献検索ができる。
- 3) 国内外の論文を読んでまとめることができる。

【授業計画】

1. 実験計画法についての講義
2. 卒業論文のテーマを大まかに絞る
3. 各自興味のあるテーマにそった先行研究の集め方を学ぶ
4. 各自興味のあるテーマにそった先行研究を講読する
5. 先行研究の要旨の発表

【評価方法】

出席状況、論文講読状況および発表内容等から判断する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介・配布する。

専門演習 I

清水 遵

【授業の概要】

生体内外の情報のコミュニケーション過程で生じる様々な反応のうち、行動に直接変化をもたらす感情的プロセスを精神生理学的観点から考察していく。

【授業の目標】

精神生理学に関する基礎的知識の習熟のため、配布プリント等を用い、解説を加える。その後、学生各自が興味を持つ専門領域の論文を選択講読し、発表、質疑、応答を行う過程で研究課題を明確化していく。

【授業計画】

- (1) 生理指標の解説
- (2) 精神生理学における実験計画
- (3) 文献検索
- (4) 購読論文の発表

【評価方法】

出欠および授業への積極的参加度で評価する。

【テキスト】

特に指定せず、適宜配布するプリント等を用いる。

専門演習 I

二宮 昭

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。

【授業の目標】

人の発達とその障害について、「やりとり」「からだ」「こころ」という面から検討することを行うとともに、卒業研究に向けて、学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業計画】

1. 論文講読
教員の指定する研究論文を各自が読み、担当者がその内容を報告し、それに基づいて討論する。
2. 体験実習
からだを使った様々な課題を通して、からだとこころの結びつき、コミュニケーションの基盤としてのからだのもつ意義などを体験する。
3. ミニ研究の実施
グループで関心のあるテーマについて簡単な研究を実施する。その結果をレポートにまとめ、夏休み中のゼミ合宿で報告する。
4. 学外授業
夏休み中にゼミ合宿として学外授業を行う。

【評価方法】

1. 論文の講読
担当者がそれぞれ関心のある研究テーマに関する研究論文を報告し、それに基づいて討論を行う。
2. 研究方法の検討
最も関心のあるテーマについて、それを研究として具体化するための研究方法を報告し、討論を通して検討する。

【テキスト】

報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

【参考文献・資料】

適宜、紹介・配布する。

専門演習 I

新美明夫

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

メディアコミュニケーションに関する基本的な知識を身につけ、各自の関心と関連する文献研究を進め、予備研究の計画を立てる。

【授業計画】

社会心理学的な観点からメディアコミュニケーションを扱った基本的な文献の輪読を行う。毎回、指定されたレポーターが発表を行い、参加者全員での討論を通して、互いに知識を深めていく。

【評価方法】

毎回の個人発表の内容、および、適宜提出を求めるレポートにより、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。授業内で取り上げる文献については、適宜指示する。

専門演習 I

西出隆紀

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

心理臨床的事例理解に必要な知識を習得し実践に活かす。

【授業計画】

1. オリエンテーション 感受性訓練（運動場で実施）
2. 事例研究論文講読 神経症、不登校、摂食障害、自閉症、統合失調症などの症例の論文を読んでレジメにまとめ、レポーター形式で討論する。各症例の発症メカニズムや治療方針等を検討する。
3. 体験実習 箱庭療法体験、コラージュ療法体験、催眠療法体験などを通じて、心理臨床実践への体験的理解を深める。

なお、2、3の内容は毎週交互に行われる。箱庭療法体験などは授業時間外にも箱庭作成等のための時間が必要となる。

また、授業時間枠とは別に情緒障害児短期治療施設での臨床実習を泊まり込みで行う予定である（5泊6日）。臨床現場の厳しさを肌で感じ、1人の子どもに真剣に関わり、その生き方を考え、ケースレポートをまとめてケースカンファレンスに臨む。それによって、心理臨床の本当の難しさを体験することになろう。また、実習に先立って、夏期休業中に事前学習を行う。

【評価方法】

出欠と授業態度を中心にして成績評価する。

【参考文献・資料】

その都度配布。

備考：受講者には守秘義務が課せられる。

専門演習 I

松尾貴司

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

1. ノンバーバル行動に関する実験的研究の流れを体験する。
2. 卒業研究のテーマを見つける。

【授業計画】

1. ノンバーバル行動に関する実験実習
 - 2～3のグループに分かれ、ノンバーバル行動をテーマとした実験をおこなう。グループごとに、関連する文献の紹介、実験計画の立案・実施、結果について報告し、全員で討論する。実施した実験についてはグループでレポートを作成する。

2. 各自の研究テーマの明確化および研究論文の紹介

4年次の卒業論文に向けて、各自の具体的な研究テーマを報告する。報告にはレジメを用意し、研究テーマの概略と関連する研究論文を紹介する。進行状況によっては、夏期休業中に自主補講をおこなうことがある。

【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

専門演習 I

吉崎一人

【授業の概要】

主に注意、半球間相互作用に関する最近の研究論文を講読し、当該領域の背景や理論、研究方法、分析等を学ぶ。また、認知心理学、神経心理学研究の方法を実際に体験し学ぶ。

【授業の目標】

- (1) 与えられた研究論文の講読を通じ、研究論文の読み方を学習する。
- (2) 関心のある研究論文を自ら見つけ、理解する。

【授業計画】

前半は指定された研究論文を読む。
後半は認知心理学、神経心理学の研究方法を実習形式で学ぶ。

【評価方法】

授業への取り組み姿勢を評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

随時紹介する。

専門演習 I

米倉五郎

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業の目標】

臨床心理学の基礎的な文献を講読しながら面接法の技法について体験的な学習をしつつ、院生とのミニインタビューや小グループによるエンカウンターグループによる体験学習による自己分析も行う。

【授業計画】

心理アセスメントは、クライアントにはどのような問題と苦悩を抱え、どんな心理療法を求め必要としているかを見立て理解する臨床心理学的な面接技法である。また心理面接では、どのような技法を用いようとも、面接と対話による問答法である。すなわち、面接し対話することに治療的な要因があると考える方法である。したがって、心理療法は実践であり、その技法を習得するためには、自分の身体にその技法のコツをのみこませなくてはならない。聴き方、話し方などの言語的コミュニケーションとともに、非言語的コミュニケーションも大切なものである。実習講義では、初回面接のロールプレイング（二人一組の役割演技）による実習により、心理アセスメントや見立てを実際的に理解できる体験学習をする。

【評価方法】

作成されたレポートと授業への参加態度から評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

必要な参考文献と資料は紹介・配布する。

専門演習 II

植村勝彦

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

共同研究をまとめ、「報告書」を完成させること。それと共に、卒業論文のテーマと方法を確定すること。

【授業計画】

各自の卒論のための研究テーマの発表を主体とする。また、夏期ゼミ合宿でまとめ方を検討した共同研究について、「報告書」を作成する作業を行い、出版する。

【評価方法】

毎回の演習への出席と、個人発表、さらには授業での取組みの姿勢等を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

特には使用しない。必要なものは資料として配付する。

専門演習 II

小川一美

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

卒業研究テーマの明確化、および研究計画の立案を目指す。

【授業計画】

下記のような流れで進めていくが、各回、交代で研究の進捗状況を報告し、全員で討論を行う。

1. 各自の関心をもとに、先行研究の講読
2. 研究課題の明確化
3. 研究計画の立案

【評価方法】

出席状況、レポーターおよび討論時の取り組み態度などから総合的に評価する。

【テキスト】

とくに指定はしない。必要な資料は各自で手配すること。

専門演習 II

沖田庸嵩

【授業の概要】

専門領域の論文を学生各自が講読・発表し、ゼミ全体で質疑、応答を行う。

【授業の目標】

4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを習得する。

【授業計画】

1. 各自の興味に沿った先行研究の講読・発表
2. 卒業研究のテーマに応じたグループ分け
3. 卒業研究で取り上げる問題・目的の明確化
4. 卒業研究の実験計画の立案

【評価方法】

課題への取り組み、発表・討論、出欠により評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じ資料を配布する。

専門演習 II

河野文光

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的表現法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

各自の研究テーマを絞り、研究方法についての見通しがつくようにする。

【授業計画】

1. 論文講読
各自が関心のある研究テーマに関する先行研究論文を報告し、それに基づいて討論する。
2. 研究方法の検討
各自が関心のある研究テーマについて、それを研究として具体化するための研究方法を報告し、討論をととして検討する。

【評価方法】

報告および討論の内容から評価する。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

専門演習 II

後藤秀爾

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に向けて、問題意識を明確にし、主題を絞り込むと同時に、研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

この授業を通して、「時代のニーズを知ること」「自分自身を知ること」「心理臨床の基本を知ること」をさらに深めることはもとより、年度の終わりには卒業研究につながる論文を完成させる。

【授業計画】

- 1) 自己理解のためのワーク
- 2) ボランティア活動の経験
- 3) 関連の文献講読

前期に引き続き、この3つの活動が授業の柱となる。

1) は、心理査定や投影法の基礎的な技法や考え方をを用いて、自己理解と他者理解の表裏一体性への気付きを深める。

2) は、前期のボランティア経験を継続しつつ、個別の事例を理解することに焦点を移していくことを期待したい。

その視点でレポートを作成し、授業内で報告する。

3) は、さらに問題意識を絞り込んで、特定のテーマについての文献学習を進める。2) の活動と結びつくような学習ができるとよい。

【評価方法】

授業への参加状況（出席回数だけのことでない）と、学期末に提出する1年間の成果をまとめたレポートの内容による。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業の流れの中で指示する

専門演習 II

斎藤和志

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

卒業研究へ向けての方法の明確化。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1. 社会心理学論文講読
2. 研究課題の明確化
3. 研究計画の立案

【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

専門演習 II

坂田陽子

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

- 1) 各自の研究の序論を構成できる。
- 2) 各自の研究の仮説を立てることができる。
- 3) 各自の研究の方法を考えることができる。

【授業計画】

1. 各自興味のあるテーマにそった先行研究の講読および発表
2. 先行研究から問題点を見つける
3. 卒業論文の問題・目的を絞る
4. 卒業論文の実験計画を立てる
5. 幼稚園や老人ホームでの実験実習

【評価方法】

出席状況、論文講読および発表状況、実験計画、実習への積極的参加・協力等から判断する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介・配布する。

専門演習 II

清水 遵

【授業の概要】

4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

実習形式の実験を行う中で生理測定法、分析法を習熟させ、3年次終了までには自己の研究テーマを具体化し、生理学的手法を取り入れた実験計画が立案できるよう方向づけを行う。

【授業計画】

- (1) 自律神経指標を用いた実験実習と解説
- (2) 中枢神経指標を用いた実験実習と解説

【評価方法】

授業への積極的参加度、レポート評点など総合的に評価する。

【テキスト】

適宜配布するプリント等を用いる。

専門演習 II

二宮 昭

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

人の発達とその障害について、「やりとり」「からだ」「こころ」という面から検討することを行うとともに、卒業研究に向けて、学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

【授業計画】

1. 論文の講読
担当者がそれぞれ関心のある研究テーマに関する研究論文を報告し、それに基づいて討論を行う。
2. 研究方法の検討
最も関心のあるテーマについて、それを研究として具体化するための研究方法を報告し、討論を通して検討する。

【評価方法】

報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜、紹介・配布する。

専門演習 II

新美明夫

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

各自のテーマにしたがって予備的な研究を行い、卒業研究に向けての検討課題を洗い出す。また、その過程で卒業研究に必要なスキルを身につける。

【授業計画】

- 各自の関心テーマにしたがって、予備的な研究を行うとともに、研究の一連の流れや方法論を身につける。作業は、おおよそ次のような過程をたどる。授業では、それぞれの段階での成果を発表し、全員で検討を行う。研究テーマによってはグループで行うこともある。
1. 問題意識の明確化と研究目的の具体化
 2. 研究方法の検討
 3. データの収集と分析
 4. 結果の考察と研究レポートの作成

【評価方法】

毎回の発表の内容と、提出された研究レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要な参考文献は適宜指示する。

専門演習 II

西出隆紀

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

心理臨床実践に必要な技法と研究論文執筆の基礎を学ぶ。

【授業計画】

1. 論文講読
「Family Process」等の家族心理学関係の研究誌に掲載された論文を中心に、広く家族心理学・家族臨床に関わる論文にふれ、研究論文の読み方・書き方を学ぶ。
2. 体験実習
ミニ試行カウンセリング、解決志向型短期療法のロールプレイ等を行い、体験的に心理療法を理解していく。また、実際のケースのビデオを見て、模擬ケースカンファレンスなども行い、症例に対する見立ての仕方などについても学ぶ。

【評価方法】

出欠と授業態度、提出されたレポートをもとに評価する。

備考：受講者には守秘義務が課せられる。

専門演習 II

松尾貴司

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

【授業の目標】

卒業研究の内容について予備研究をおこない、研究方法を確定する。

【授業計画】

1. 研究課題の検討
各自の興味に基づいて、研究テーマを報告し、全員で検討する。
2. 研究方法の検討
各自の研究テーマに基づいて、予備的研究のための具体的な研究方法（実施可能な手続き）を報告し、全員で検討する。
3. 結果の整理
予備研究を実施し、その結果を報告する。この予備研究については、全員が個人で論文形式のレポートを作成し学期末に提出する。

【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジュメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

専門演習 II

吉崎一人

【授業の概要】

4年次の卒業研究のために、実際にデータをとってそれを使って「ミニ卒論」を各自執筆する。

【授業の目標】

- (1) 認知心理学、神経心理学の研究手法を学ぶ。
- (2) 実験研究レポートの書き方を学ぶ。
- (3) 分析手法を学ぶ。

【授業計画】

- (1) 10月～11月 グループで実験準備、実験実施
- (2) 12月 結果の分析、結果のプレゼン、議論
- (3) 1月 各自研究レポートを執筆
- (4) 2月～3月 卒論テーマを各自決める

【評価方法】

授業に取り組む姿勢、プレゼン、レポート等を総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

随時紹介する

専門演習 II

米倉五郎

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。ポランティア活動などでかかわった事例について検討しつつ卒業論文の研究主題を絞り込んでいく。

【授業の目標】

卒業研究に向けて事例研究法を中心とする個人発表をしながら卒業論文の研究テーマと方法について検討する。

【授業計画】

心理療法の学習では、フロイトの精神分析的心理療法を中心として、ロジャース、ユング、サリヴァン、クライン、ウイニコットなどの心理治療と人格理論のエッセンスを講義する。また思春期から青年期、成人期の事例を報告しながら、クライアントの人格発達の病理とともに成長の過程、家族療法や集団心理療法についても講義する。実習講義では、心理面接の佳境期でのロールプレイングにおける、転移と抵抗および逆転移と逆抵抗などについてのカウンセリングの技法、態度、自己理解について、体験的な学習をする。

【評価方法】

作成されたレポートと授業での参加態度から評価する。

【テキスト】

必要に応じて指示する。

【参考文献・資料】

参考文献はその都度提示する。

専門演習 III

植村勝彦

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

卒業研究のための面接質問項目の確定と、研究参加者を確保すること。

【授業計画】

3年次までに確定した各自のテーマに従って、面接や調査の項目を作成し、対象者を得て、実施・分析・論文作成に至るまでの全過程について指導・助言する。

毎回個人発表を行い、進捗状況に応じての助言・指導を行うが、とくに面接・調査の質問の構造の完成までの段階に全力を注ぐ。

【評価方法】

毎回の演習への出席と個人発表、さらには授業での取り組みの姿勢等を加味して総合的に評価する。

専門演習 III

小川一美

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

卒業研究としての実験や調査計画の立案、および実施、さらにはデータ分析を目指す。

【授業計画】

専門演習IIに引き続き、下記のような流れで各自、積極的に卒業研究を進めていく。各回、交代で研究の進捗状況を報告し、全員で討論を行う。

1. 研究計画の立案
2. 実験や調査などによるデータの収集
3. データ分析

【評価方法】

出席状況、研究への取り組み状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

とくに指定はしない。必要な資料は各自で手配すること。

専門演習 III

沖田庸嵩

【授業の概要】

学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、実験・調査を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

テーマに沿った先行研究の知識を広めるとともに、卒業研究の実験を実施し分析する。

【授業計画】

研究テーマにより分けたグループ単位で研究指導を行う。

1. 卒業研究の実験計画の検討と確立
2. 卒業研究の実験の実施
3. 卒業研究の実験データの分析

【評価方法】

卒業研究への取り組みにより評価する。

【テキスト】

使用しない。

専門演習 III

河野文光

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を購読し、調査、面接、実験等を通じて卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

ゼミでの発表・討論をふまえて、卒業研究のテーマの確定と方法の具体化を図る。

【授業計画】

1. 研究テーマの確定と研究方法の具体化を図るため、今まで準備してきた各自の構想を発表し合い、全員で討論することを通して、より確かなものにしていく。
2. 研究の実施については、各自が進めることとするが、そのつど進捗状況を発表し合い、夏休みまでに実際のデータ収集、分析までの研究を行う。
3. 夏休み中のゼミ合宿で、研究の中間発表を行う。

【評価方法】

発表の内容、および討論への参加の仕方での評価

【参考文献・資料】

適宜、提示する。

専門演習 III

後藤秀爾

【授業の概要】

学生が各自設定した研究テーマに沿って、問題意識の整理、必要な文献の購読、研究方法の選定、考察の方向性などについて、指導・助言を行なう。

【授業の目標】

卒業論文の作成に向けて、最低限、論文内容の概略の完成していることが望ましい。

【授業計画】

必要に応じて報告会などを行なうほか、卒業論文の作成に向けて個別に指導を行なう。

学期末にはゼミ生全員で、卒業研究に向けての中間報告会を行なう。そのため、1泊ないしは2泊程度の合宿を予定している。

【評価方法】

報告会でのレポートの完成度とプレゼンテーションの仕方などを考慮して、研究に取り組む姿勢を中心に評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

研究に必要なものを個別に指導する。

専門演習 III

斎藤和志

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

卒業研究へ向けてのデータの収集と整理。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. 研究課題の明確化
2. 研究計画の立案
3. 実証的データの収集

【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

専門演習 III

坂田陽子

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

- 1) 各自の研究について全体を見渡し、論理的展開ができる。
- 2) 各自の研究の実験を実施する。
- 3) 各自の研究目的に沿ったデータ処理ができる。

【授業計画】

1. 卒業論文の方法部分の検討・推敲
2. 卒業論文の実験計画の明確化および序論と方法部分の執筆
3. 卒業論文の実験の実施

【評価方法】

出席状況、発表態度、発表内容の進展、卒業論文作成における計画性等から判断する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介・配布する。

専門演習 III

清水 遵

【授業の概要】

学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

研究テーマに即した実験機器への習熟や実験環境の整備など、卒業研究のスムーズな遂行を可能にする。

【授業計画】

以下の研究テーマのうち、同領域のテーマをもつ4～5人を1グループとし、グループ単位で研究指導する。

1. 環境刺激の感情に及ぼす影響
2. パーソナリティ特性がストレス反応に及ぼす影響
3. 高齢者の感情コントロール法の評価
4. その他

【評価方法】

研究に取り組む姿勢により、評価する。

【テキスト】

使用しない。

専門演習 III

新美明夫

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

3年次に行った予備研究の成果に基づいて、卒業論文のアウトラインを作成し、実施可能な研究計画を立案する。

【授業計画】

3年次の専門演習I・IIを通して検討してきた各自の関心テーマにしたがって、必要十分なデータを収集・分析し、最終的に卒業論文として結実させる。

4年前期に行われる専門演習IIIでは、すでに行った予備的な研究の成果をもとに、質問紙調査や面接調査など各自のテーマに適切な研究方法を用いて、データ収集の実施が可能となるまで、各自の研究計画をブラッシュアップする。

授業では、毎回個人発表を行い、各自の進捗状況を報告し、参加者全員での討論を通して、研究計画を完成させていく。

研究計画の完成した者から順次、データ収集の実施を許可する。

【評価方法】

毎回の個人発表の内容と、提出された研究計画により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

専門演習 III

西出隆紀

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

(1) 卒業論文執筆に必要な知識・研究法の習得。(2) 投影法技法の習得。

【授業計画】

1. 卒業論文指導 卒業論文の作成に向けて、各自が興味を持つ内容に関する論文をレポーター形式で発表してもらい、討論をする。その後、それぞれが卒業論文作成の進行状況をまとめて報告し、参加者全員(3年ゼミ生を含む)で問題点などを討議しつつ、よりよい論文作成を目指す。おおよそ各自の発表は以下の過程をたどることになる。
 - a. 問題意識と研究目的の検討
 - b. 研究方法の検討
2. 体験実習(投影法実習) 投影法を中心に心理臨床、特に病院臨床分野に必要な検査の実習を行う。扱った投影法は、Rorschach法、TAT(主題統覚検査)、各種描画法(動的家族画、Baum test、風景構成法など)で、まず各自が実際にテストを受けて検査を受ける。その後、各検査の理論的背景、実施法、解釈法などについて説明し、臨床データをもとにスコアリング、解釈を実践する。そして、最終的には自分のデータをまとめ自己理解を深めることになる。

【評価方法】

出欠と授業態度を中心にして成績評価する。

備考:受講者には守秘義務が課せられる。

専門演習 III

二宮 昭

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

ゼミでの発表と討論を通して、卒業研究のテーマの確定と方法の具体化を行う。また、実際にデータを収集する。

【授業計画】

1. 研究テーマの確定と研究方法の具体化
専門演習I・IIで検討してきたことを基に、各自の研究テーマを確定させる。また、そのテーマに従い、実験や調査などの研究方法を具体化させる。原則として、毎回交代で個人発表を行い、全員で討論することを通して、その作業をより確実に、より内容あるものとするようにする。
2. 研究の実施（データの収集）
夏休みまでに、実際にデータを収集し、分析するという作業を進める。夏休み中のゼミ合宿で進行状況をまとめて報告する。
3. 学外授業
夏休み中にゼミ合宿として学外授業を行う。

【評価方法】

発表の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜、紹介・配布する

専門演習 III

吉崎一人

【授業の概要】

専任教員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

卒業研究に向けての実験計画の立案、データの収集、データ分析を目指す。

【授業計画】

- 1) 研究計画の立案
- 2) 問題と目的、方法、部分の執筆とその推敲
- 3) データの収集と分析

【評価方法】

ゼミへの出席状況、参加態度、与えられた課題レポートなどを総合的に考慮する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

専門演習 III

松尾貴司

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

【授業の目標】

卒業研究の方法を確定し、必要なデータを収集する。

【授業計画】

1. 研究方法の改善
専門演習IIで実施した予備研究の結果に基づいて、各自の研究テーマおよび具体的な研究方法を修正し、最終的な方法を決定する。
2. データの収集
確定した研究方法に基づいて必要十分なデータを収集し、その結果を報告する。
3. レポートの作成
研究の結果を卒論と同じ形式でまとめてみる。

【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジュメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

専門演習 III

米倉五郎

【授業の概要】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

【授業の目標】

卒業研究と論文のテーマについてゼミナールでの討論と個人指導で明確化する。前期の最終講義では、卒業論文の中間発表会をする。

【授業計画】

4年次の前期では学年各自が卒業論文のテーマを特定することになる。卒業研究の対象と方法では、臨床面接法による事例研究を中心としながらも、自己分析法、調査法、文献、資料、およびそれらを組み合わせたものなど、さまざまなアプローチを選択できる。臨床事例研究（精神障害、不登校、虐待、非行、児童期・思春期・青年期）および研究方法（臨床面接法、調査法、文献など）において共通する3-4名のサブグループを作り、グループ別での検討と発表も活用しながら、各自の研究テーマを決定していく。

【評価方法】

発表の内容や討論への参加態度、および学外での心理臨床のボランティア活動の内容により評価する。

【テキスト】

その都度指定する。

【参考文献・資料】

必要な文献と資料を配布する。

専門演習 IV

植村勝彦

【授業の概要】

専門演習IIIに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。とくに、面接、調査などで得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業の目標】

面接調査の実施・データ化・分析を通して、卒業論文を完成させること。

【授業計画】

夏休み中に提出を求めた卒業論文の「問題」および「方法」の下書きに対して、個別に指導することを皮切りに、適宜個別および全体指導を行い、11月中旬の中間発表、12月初旬の論文全部の下書き提出に基づく個別添削指導、と順序を踏んで卒業論文の完成・提出に導く。

【評価方法】

毎回の演習への出席と個人発表、さらには各段階での下書き内容などの取組への姿勢等を加味して、総合的に評価する。

専門演習 IV

小川一美

【授業の概要】

専門演習IIIに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて指導を行う。

【授業の目標】

卒業論文を完成し、卒業研究について効果的なプレゼンテーションを行うことを目指す。

【授業計画】

下記のような流れで卒業研究を完成させる。

1. データ分析
2. 卒業論文の完成
3. 卒業研究に関するプレゼンテーション

【評価方法】

卒業研究への取り組み状況、完成度などから総合的に判断する。

【テキスト】

とくに指定はしない。必要な資料は各自で手配すること。

専門演習 IV

沖田庸嵩

【授業の概要】

専門演習IIIに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、実験で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて指導を行う。

【授業の目標】

卒業論文を完成させる。

【授業計画】

1. 実験データの分析
2. 実験目的・方法・結果について発表・討論
3. 卒業論文の下書き・改訂
4. 卒業論文の完成

【評価方法】

課題への取り組みにより評価する。

【テキスト】

使用しない。

専門演習 IV

河野文光

【授業の概要】

専門演習IIIに引き続いて、学生各自の研究の進み具合に応じ、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについては、個別の指導を行う。

【授業の目標】

各自の卒業研究を論文として完成させる。

【授業計画】

- 1 講義や討論を通して各自が行った研究結果を、どのようにまとめたらいかにについて討論する。
- 2 各自の研究を卒業論文としてまとめるための個別指導を行う。途中で中間発表をし合う。

【評価方法】

研究への意欲、態度、まとめ方等、総合的に評価する。

【参考文献・資料】

適宜提示する。

専門演習 IV

後藤秀爾

【授業の概要】

専門演習IIIに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言・指導を行なう。体験記録を含め、調査・面接・心理検査的手法などによって得られた情報を、卒業論文のためのデータとしてどのように生かすかを中心に、個別的な指導を行なう。

【授業の目標】

卒業論文の完成は、自己と向かい合い自己を確認するための作業となる。新しい自分に出会えたという内的体験の構築を目指す。

【授業計画】

必要に応じて適宜報告会を行なうほか、テーマの絞込み、問題意識の整理、研究方法の選択、結果の整理と考察の方向性などについて、指導・助言を行なう。その経過において、参加者全員が相互に意見交換することで自分の研究を見直す機会とする。

【評価方法】

指導過程を考慮して、完成論文の内容により評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

必要に応じて個別に指示する。

専門演習 IV

斎藤和志

【授業の概要】

専門演習IIIに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業の目標】

卒業研究のまとめとしての卒業論文の作成。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. 研究計画の立案
2. 実証的データの収集
3. 研究論文の作成

【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

専門演習 IV

坂田陽子

【授業の概要】

専門演習IIIに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業の目標】

- 1) 各自の研究結果に基づいた考察ができる。
- 2) 各自の研究論文全体を通して論理的展開が明確にできる。

【授業計画】

1. 卒業論文のための実験実施
2. データ分析
3. 卒業論文の結果及び考察部分の作成
4. 卒業論文およびレジュメの完成

【評価方法】

出席状況、卒業論文作成における計画性、考察力、完成度等から判断する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介・配布する。

専門演習 IV

清水 遼

【授業の概要】

専門演習IIIに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業の目標】

2年間の専門演習で得られた成果を卒業論文として結実する。

【授業計画】

以下の研究テーマのうち、同領域のテーマをもつ4～5人を1グループとし、グループ単位で研究指導する。

1. 環境刺激の感情に及ぼす影響
2. パーソナリティ特性がストレス反応に及ぼす影響
3. 高齢者の感情コントロール法の評価
4. その他

【評価方法】

研究に取り組む姿勢により、評価する。

【テキスト】

使用しない。

専門演習 IV

新美明夫

【授業の概要】

専門演習IIIに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて指導を行う。

【授業の目標】

卒業論文を完成する。

【授業計画】

4年前期の専門演習IIIに引き続き、各自の関心テーマにしたがって、必要十分なデータを収集・分析し、最終的に卒業論文として結実させる。

各個人の進捗状況にしたがって、データの収集・コーディング・入力・分析作業を順次行う。

授業では、データの分析方法の解説を行う一方で、各自の進捗状況を毎回報告しあい、励まし合うとともに自己の進捗を客観的に確認する。

11月より、順次中間発表を行い、参加者全員での討論を行う。中間発表を終了した者から、卒業論文の下書き提出を許可し、添削指導を行う。

【評価方法】

毎回の個人発表の内容と、提出された卒業論文により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

専門演習 IV

西出隆紀

【授業の概要】

専門演習IIIに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業の目標】

(1) 卒業論文の作成。(2) 投影法を解釈できるようにする。

【授業計画】

- 卒業論文指導 卒業論文の作成に向けて、各人が興味を持つ内容に関する論文をレポーター形式で発表してもらい、討論をする。その後、それぞれが卒業論文作成の進行状況をまとめて報告し、参加者全員(3年ゼミ生を含む)で問題点などを討議しつつ、よりよい論文作成を目指す。おおよそ各自の発表は以下の過程をたどることになる。
 - 結果と考察の検討
 - 論文提出前の全体的検討
 - 卒業論文の発表
- 体験実習(投影法実習) 投影法を中心に心理臨床、特に病院臨床分野で必要な検査の実習を行う。扱う投影法は、Rorschach法、TAT(主題統覚検査)、各種描画法(動的家族画、Baum test、風景構成法など)である。最終的には各自がテストィーに対し、投影法を実施し解釈する。

【評価方法】

出欠と授業態度を中心に成績評価する。

備考:受講者には守秘義務が課せられる。

専門演習 IV

二宮 昭

【授業の概要】

専門演習IIIに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業の目標】

研究を卒業論文として完成させる。

【授業計画】

- 研究結果の分析・検討
講義や討論を通して、各自が行った研究結果をどのようにまとめたらよいかについて検討する。
- 卒業論文の作成
各自の研究を卒業論文としてまとめるための個別指導を行う。11月中旬には卒業論文の中間発表会を行う予定である。

【評価方法】

研究論文作成に対する意欲や態度、および作成された論文の内容によって評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜、紹介・配布する。

専門演習 IV

松尾貴司

【授業の概要】

専門演習IIIに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

【授業の目標】

卒業研究を論文にする。

【授業計画】

- レポートの添削
専門演習IIIで作成したレポートを学生相互で添削し、論文の書き方、分析方法などについて検討する。
- 追加のデータ収集
必要に応じて、第2実験もしくは、追加実験をおこないデータを補う。
- 論文作成のための講義
研究結果の分析方法、および論文の作成方法について講義をおこなう。個人の卒業論文については必要に応じて個別に指導する。

【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度(レジュメの内容および提出期限の遵守)を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

専門演習 IV

吉崎一人

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法、それに対する解釈について指導を行う。

【授業の目標】

卒業論文の完成を目指す。

【授業計画】

- 1) 各自の得たデータの結果について発表する。
- 2) 卒業論文の「結果」の部分を執筆し、推敲する。
- 3) 各自の状況に合わせて、卒業論文全体の執筆指導を行う。

【評価方法】

授業への出席状況、卒業研究に取り組む姿勢、等を総合的に評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

専門演習 IV

米倉五郎

【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

【授業の目標】

卒業研究である事例研究法、自己分析研究法、文献研究法、病跡学、心理検査法などについて、卒業論文の完成を目指して個人指導をしていく。

【授業計画】

専門演習Ⅲで特定した卒業論文のテーマと研究方法に基づいて収集されていく情報について、学生各自がレポーター形式で発表し、参加者全員で討論し検討する。また適宜個別指導を行い、事例の情報や面接過程についての分析と考察を深めていく。

【評価方法】

卒業論文作成に取りくむ意欲や姿勢、作成された論文の内容、および心理臨床のボランティア活動の内容により評価する。

【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて配布する。

卒業研究 I

植村勝彦 小川一美 沖田庸嵩 河野文光 後藤秀爾 斎藤和志 坂田陽子
清水 遼 新美明夫 西出隆紀 二宮 昭 松尾貴司 吉崎一人 米倉五郎

【授業の概要】

所属する専門演習において培ってきた専門知識をベースにして、各自の興味に基づいた卒業研究のテーマを策定し、実施可能な研究計画を完成する。

【授業の目標】

卒業論文として結実可能な研究計画を立案し、実施する。

【授業計画】

適宜、助言・指導を受けながら、研究計画を立案し、それにしたがって自主的に研究を進める。

【評価方法】

卒業研究に対する取り組みの態度および、研究の進行状況等を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

とくに指定はしない。必要な資料は各自で手配すること。

卒業研究 II

植村勝彦 小川一美 沖田庸嵩 河野文光 後藤秀爾 斎藤和志 坂田陽子
清水 遼 新美明夫 西出隆紀 二宮 昭 松尾貴司 吉崎一人 米倉五郎

【授業の概要】

各自の卒業研究テーマに基づいて、卒業論文を完成させることで、コミュニケーション心理学科における4年間の学習を完結させる。

【授業の目標】

卒業論文を完成し、その要約である卒業論文レジュメで研究内容を公刊する。

【授業計画】

適宜、助言・指導を受けながら、卒業論文を完成させる。

【評価方法】

提出された卒業論文、レジュメ、および卒業研究に対する取り組みの態度等を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

とくに指定はしない。必要な資料は各自で手配すること。

プレゼンテーション

佐藤良子

【授業の概要】

プレゼンテーションの技法を基礎と実践から学ぶ。基礎編では、プレゼンテーションをコミュニケーション活動としてとらえ、プレゼンテーションに関わるコミュニケーション理論についてとりあげる。次に、実践編では、インターネットやパワーポイントなどマルチメディアの活用やグループディスカッションなどコミュニケーション活動を通して、プレゼンテーション資料を作成する。また、授業内に個人・グループで発表を行い、実践を通してプレゼンテーションの技法を学ぶ。

【授業の目標】

本講義を履修することにより、履修生には次の効果を目指す。

1. 聴き手に自分の意見や情報を効果的に伝達できるようにする。
2. パワーポイントの基本的な使い方を習得する。
3. グループワークを通して、自分の意見を相手に伝えたり、相手の意見を聞いたりするなど相互的なコミュニケーションができるようにする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション: コミュニケーションとしてのプレゼンテーション
第2回 プレゼンテーションの基礎 (1) プレゼンテーションとコミュニケーション
第3回 プレゼンテーションの基礎 (2) プレゼンテーションと言語・非言語
第4回 プレゼンテーションの基礎 (3) プレゼンテーションと説得
第5回 プレゼンテーションの準備 (1) プレインストーミング
第6回 プレゼンテーションの準備 (2) プレインストーミング
第7回 プレゼンテーションの応用 (1) パワーポイントによるスライド作りの基本
第8回 プレゼンテーションの応用 (2) パワーポイントによる資料作成
第9回 プレゼンテーションの応用 (3) パワーポイントによる資料作成
第10回 プレゼンテーションの実践 (1) 効果的なプレゼンテーション・スキル
第11回 プレゼンテーションの実践 (2) グループ・個人発表とフィードバック
第12回 プレゼンテーションの実践 (3) グループ・個人発表とフィードバック
第13回 プレゼンテーションの実践 (4) グループ・個人発表とフィードバック
第14回 まとめ

【評価方法】

出席状況・実習課題・プレゼンテーションなどによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント

【参考文献・資料】

プリブル・チャールズ、坂本正裕 2004「現代プレゼンテーション正攻法」ナカニシヤ出版

異文化トレーニング

佐藤久美

【授業の概要】

文化背景の違う人々と交流を深め、ボーダレス社会での共生を確実なものにしていくための方策について、ディスカッションやプレゼンテーションをすすなかで考える。

【授業の目標】

異文化間の理解と異文化への尊敬の態度は情報の交流を通して培われる。交流を深めるためのコミュニケーションを円滑に行うための態度やスキルについて学ぶ。さらに、情報の受け手としてだけでなく、世界の人々に対して自文化を発信するための方策についても考える。

【授業計画】

教師である佐藤がプロデューサーを務めた、フレンドシップ・フィルム・フェスティバル (万博時に21カ国の映画監督が制作した愛知を舞台にした映像製作事業) の映像を見て、外国人が愛知の人々、文化、歴史などをどう捉えたか、外国人に紹介したい日本の文化とは何かなどについて話し合う。さらにグループワークとして、実際に自分たちが外国人の家を訪問し滞在することを想定したロールプレイを行う。その上で、異文化を受け容れることの意義を考える。

【評価方法】

授業への参加態度、プレゼンテーションや提出レポートなどによって、総合的に判断する。

【テキスト】

適宜配布します。

【参考文献・資料】

異文化コミュニケーションワークブック (八代京子、他、著 三修社)
異文化トレーニング (八代京子、他、著 三修社)

プレゼンテーション

川田敏章

【授業の概要】

プレゼンテーションを実践的に学習する。プレゼンテーションの知識やコミュニケーション理論を踏まえた上で、実際にパワーポイントなどを活用して資料を作成し、個人またはグループで発表を行う。

【授業の目標】

発表等において、自分の意見や考え方を相手にわかりやすく伝え、説得する技術の習得を目標とする。そのために必要な資料作成、パワーポイントの使い方などを学習する。

【授業計画】

- 以下のテーマに沿って学習する。
1. コミュニケーションとしてのプレゼンテーション
 2. 言語・非言語コミュニケーション
 3. プレゼンテーションの企画と構成
 4. プレゼンテーションの表現方法
 5. パワーポイントなどを用いた資料作成
 6. 効果的なプレゼンテーション方法
 7. 個人・グループ発表とフィードバック

【評価方法】

出席状況・実習・レポートなどを総合的に評価する。

【テキスト】

適宜プリント等を配布します。

【参考文献・資料】

プレゼンテーション(関根健夫監修 一橋出版)
実践プレゼンテーション入門 (三宅隆之著 慶應義塾大学出版会)
パーフェクト・プレゼンテーション (八幡純芦史 生産性出版)

英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

BROWNING, Jeremy S. HARRIS, Richard S. EDMONDS, Robert
MC GOLDRICK, Gemma SUTHONS, Philip

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を身に付ける。

【授業の目標】

TOEICに向けての基本的な文法や語彙など基本事項を徹底的に身につけることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のよう

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーウィング、ペア・ブラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション2 (Listening I)

JUNEJA, Indu COLEBORNE, Bryan Edward
BINFORD, Paul K. SUTHONS, Philip WRINGER, Paul

【授業の概要】

基本的なリスニング能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション3 (Listening II)

JUNEJA, Indu COLEBORNE, Bryan Edward
BINFORD, Paul K. SUTHONS, Philip WRINGER, Paul

【授業の概要】

リスニングの発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション4 (Reading I)

BROWNING, Jeremy S. HARRIS, Richard S. EDMONDS, Robert
MC GOLDRICK, Gemma SUTHONS, Philip

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業の目標】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システム ALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) のSpeed Reading機能を自習課題とする。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

DOIRON, Heather BAILEY, Mark JUNEJA, Indu WACHOLTZ, Terry
COLEBORNE, Bryan Edward CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B.

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テスト TOEIC に向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業の目標】

リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることが目標である。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システム ALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を自習課題として活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション6 (Oral Communication I)

COX, Thomas HARRIS, Richard S. EDMONDS, Robert LACEY, Charles F. MC GOLDRICK, Gemma SUTHONS, Philip

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Course objectives】

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション7 (Oral Communication II)

COX, Thomas HARRIS, Richard S. EDMONDS, Robert LACEY, Charles F. MC GOLDRICK, Gemma SUTHONS, Philip

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Course objectives】

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション8 (Reading II)

DOIRON, Heather BAILEY, Mark JUNEJA, Indu WACHOLTZ, Terry COLEBORNE, Bryan Edward CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B.

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業の目標】

目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

言葉とコミュニケーション

野口朋香

【授業の概要】

他者とのコミュニケーションでは多くのメッセージがやりとりされており、それらのメッセージをどう発信し、どう受け止めるかは、それぞれの人の社会的・文化的背景と大きく結びついています。本講義では、コミュニケーションにおける「言葉」に焦点をしぼり、私たちがどのように言葉を用いながらコミュニケーションを行っているのかを考察していきます。

【授業の目標】

言葉の持つ役割を知ることで、自分自身のコミュニケーション活動について分析する能力を身につける。

【授業計画】

ことばとは？言語・社会・文化的側面からの考察
子供の言語習得とコミュニケーション
対人関係と会話
談話分析と会話のスタイル
対人関係からみた会話のスタイル
言語・非言語コミュニケーション
サイバーコミュニケーションにおける「ことば」の役割

【評価方法】

授業参加および試験・レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布

コミュニケーション入門

野口朋香

【授業の概要】

本講義では、コミュニケーションの基礎概念を学びながら、コミュニケーションの色々な形態について考察します。私たちの身近に起こっている具体例を挙げながら、コミュニケーション全般に対する理解を深めることを目的とします。

【授業の目標】

コミュニケーションについての基本的な知識を習得し、実際のコミュニケーション活動について客観的に分析できる能力を養う。

【授業計画】

コミュニケーションとは？
 家族内におけるコミュニケーション
 男女間におけるコミュニケーション
 組織内におけるコミュニケーション
 異文化間コミュニケーション
 対人コンフリクト
 コミュニケーション・スキル（アクティブ・リスニング）
 交渉・説得

【評価方法】

授業参加および試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布

応用言語学概論

松本青也

【授業の概要】

応用言語学の主な研究分野について、最新の研究成果を概観する。特に外国語学習に関連のある第二言語習得理論と、母語である日本語の認識を深める日英対照言語学、更に外国語学習の意義を考える社会言語学について詳しく考察する。

【授業の目標】

現実的な問題解決のために、言語学とその周辺科学の研究成果がどのように応用されているのかについて理解を深める。

【授業計画】

1. 言語コミュニケーションとは
2. 英語の楽しみ方
3. 応用言語学とは
- 4～6. 第二言語習得理論
- 7～11. 日英対照言語学
- 12～14. 社会言語学
15. まとめ

【評価方法】

レポート、確認テスト、毎回の感想、出席状況による総合評価。

【テキスト】

自作教材

【参考文献・資料】

松本青也（2006）『英語は楽しく使うもの ～インターネットが可能にした最新英語習得法～』朝日出版社

English Interaction I

MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J. McDANIEL, Edwin R. CHARLEBOIS, Justin WRINGER, Paul DAVIES, Alun WILLIAMS, Allen D.

【Course description】

概念、機能、状況など、様々なレベルでの話し言葉としての英語への導入。学生は英語を使用してお互いにやり取りしながら、基本的な会話に焦点を絞って多様な表現を学ぶ。

This course aims to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

【Course objectives】

1. To improve the students' use of English.
2. To introduce students to English as it would be used in Japan when dealing with native speakers of English.

【Course schedule】

The course will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Greetings
2. Small talk
3. Social encounters.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

【Textbooks】

A text may be assigned on the first day of the course.

Cyber-English I

McGEE, Jennifer J. MOLDEN, Danny T.

【Course description】

Eメールやメーリングリスト、さらにリアルタイムなチャットなどによる、コンピュータを介しての英語コミュニケーションを実際に経験する。お互い同士の英語によるやり取りも活動に含めながら、インターネットの歴史と仕組みにも触れる。

【Course objectives】

To learn different techniques for communicating using English on the Internet. Students will be exposed to various modes of communicating with other people in real time or through asynchronous methods.

【Course schedule】

1. Introduction to the computers
2. Introduction to the Internet
3. Web pages and search engines
4. Email keypals
5. Blogs and Diaries

【Assessment】

Assessment will be based on classroom attendance, effort, and completion of assignments.

【Textbooks】

An English-language textbook may assigned.

中国語入門

馮 富榮

【授業の概要】

中国語の漢字、発音、文の構成規則などにおける中国語全体の特徴について重点的に説明する。また日本語と比較しながら、両言語の相違による中国語の学習の困難点を探る。この授業と平行して、言語コミュニケーション学科の「中国語作文I」、「中国語会話I」と「中国語読解I」を履修することが望ましい。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、中国語の発音、中国語の基礎知識を身に付けることができるだけでなく、簡単な会話や簡単な文章も書けるようになる。

【授業計画】

本講義では、主として、中国語能力の基礎作りに力を入れるので、中国語の発音の基礎、中国語コミュニケーションに使う基礎的な語彙、基礎的な文型を講義する。自作教材を使用するが、学生たちの興味などを考慮して作ったものである。さらに、教材を学科HPのウェブサイトに載せてあるので、授業以外の時間でも、大学のパソコン自習室などを利用して、発音の練習や宿題の提出ができる。授業は、下記のように展開される。

- 1) 単母音と複合母音について
- 2) 子音について
- 3) 音節について
- 4) 我姓松本（私は松本と言います）
- 5) 我的家庭（私の家族について）
- 6) 我叫田中愛子（私は田中愛子と言います）
- 7) 家庭紹介（家庭の紹介）
- 8) 大学紹介（大学の紹介）
- 9) 我的一天（私の一日）
- 10) 我的房间（私の部屋）
- 11) 我的好朋友上（私の親友上）
- 12) 我的好朋友下（私の親友下）
- 13) 我終於能回家了上（私はとうとう家に帰られるようになりました上）
- 14) 我終於能回家了下（私はとうとう家に帰られるようになりました下）
- 15) 期末テスト

【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを行い、その成績と出席状況及び平日の宿題の完成状況を期末テストに加味して、総合的に判断する。

【テキスト】

中国語入門（出版社：マナハウス）
精選日中・中日辞典（商務印書館出版 販売先：AS書店シーボー）

中国語情報処理

葛 漢彬

【授業の概要】

本講義では、主として（1）日本語Windows環境で如何にして中国語ワープロを作るか；（2）如何にして中国語のメールを受送信するか；（3）如何にして中国語のホームページを利用するか等の3点に力を入れて説明する予定である。要するに、本講義では、中国語の語学力とマルチIT知識を活用できる人材の育成とメディアによる中国語授業を実施するための基礎作りを目的としている。

【授業の目標】

本講義では日本語Windows環境における多言語システムの基本を理解するとともに、中国語を使用できる環境の設定、文字化け対策、中国語メールによる文章の作成・受送信、中国語による情報検索の技能を習得することを目標としている。

【授業計画】

1. パソコン操作の専門用語の日中対照
2. パソコンの基本設定
日本語と中国語IMEの設定
多言語処理の時の条件
3. Wordによる文章の作成・編集
中国語の入力、日本語と中国語混在文の入力、印刷、文字化け時の対策、フォントの指定
4. 電子メール
エンコードの指定、フォント・サイズの選定、中国語メール（ワードファイルの添付形式を含む）の受送信
5. 通信ネットワーク
各種中国語ウェブサイトの紹介、インターネットの情報収集
6. 拼音（pinyin）を使わない中国語入力法

【評価方法】

出席状況、レポート及び期末テストで総合して評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の時、指示する。

日本語論 I

山内啓介

【授業の概要】

日本語の各論について基礎的な知識を学習する。言語類型論から膠着語としての日本語の特徴を知る。対照言語学から英語および中国語との異同について学ぶ。言語系統論から世界の言語で孤立した日本語の位置を理解する。そして、応用言語学から、広く日本語学、日本語教育学、日本語コミュニケーションを論じる。

【授業の目標】

日本語を言語類型、対照言語、言語の系統など言語学の学問分野と日本語研究の立場から学び、世界の言語のひとつである日本語の理解を得る。

【授業計画】

- 次の項にしたがって講義を行う。
- 1 言語類型論
膠着と屈折 孤立言語と借用 発音と文法
 - 2 対照言語学
英語と日本語 中国語と日本語 語彙と意味
 - 3 言語の系統
日本語の祖先 日本語の起源 そもそも日本語とは
 - 4 応用言語学
日本語学 言語教育 日本語コミュニケーション
言語として日本語の知識を得て、国語を日本語の理解に高める。

【評価方法】

クイズ、学期末レポート、出席など。
評点は、クイズ60%、レポート20%、出席20%としておこなう。

【テキスト】

日本語論I（予定）

【参考文献・資料】

言語学辞典 言語の辞典 日本語百科 日本国語大辞典

日本語表現演習 I

山内啓介 窪田守弘

【授業の概要】

日本語表現演習はIからIVまで開講している。そのIは、作文演習である。文章作成指導をおこなって、添削をして、日本語の文章の基本的な表現力を身につけることを目標としている。そのために、テーマに従って自分の考えをまとめ、練習をして文章の完成を図る。そして、また、お互いのディスカッションを通してテーマの内容を深めていくようにする。

【授業の目標】

作文練習を通じて論理的な思考、文章構成と表現法を学ぶ。
論文の書き方を通して、引用形式を練習する。

【授業計画】

- 次の項にしたがって、実践演習をする。
- 1 演習ガイダンス 自己紹介文の作成 350字
 - 2 作文課題 大学に入学して 800字
 - 3 小論文 最近のニュースから 1200字
 - 4 要約を作る 200字文に要約してみる<1>
 - 5 要約を作る 200字文に要約してみる<2>
 - 6 要旨を作る 100字文にしてみる<3>
 - 7 要旨を作る 100字文にしてみる<4>
 - 8 小論文 政治と経済と 2000字
 - 9 小論文 社会と国際と 2000字
 - 10 小論文 教育と専門と 2000字
 - 11 ディスカッション テーマについて
 - 12 ディスカッション 文章について
 - 13 ディスカッション 論文について
 - 14 論文課題 愛知淑徳大学の未来像について

クラスにわかれて担当する。
複数クラスの希望クラスに登録する。
作文練習はクラス編成をして行う。
なお、クラス編成は必要があれば調整を行う。

【評価方法】

提出物、作文、小論文により、評価をおこなう。3回の小論文と論文課題を必須とする。提出状況、出席を重視する。

【テキスト】

文章表現法（樺島忠夫 角川選書）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

日本語教育入門 I

山内啓介

【授業の概要】

日本語教育入門 I では、日本語の基本的なことがらを概観し、日本語学習者、日本語教師、日本語教材、日本語教育と能力試験などについて講義をおこなう。

【授業の目標】

日本語教育の実態を理解し言語教育の重要性を学ぶ。
日本語教育に興味と関心を持つようにする。

【授業計画】

日本語教育は、外国語として日本語を学習する人たちのための教育である。日本語を第2言語とする教育をふくめて、コミュニケーションのための語学教育科目として日本語教育を捉える。

次の項について入門のための概説をおこなう。

- 1 日本語教育とは 日本語教育の実態
- 2 日本語教育の学習者 日本国内と海外
- 3 日本語教師の資格と役割 日本語教師養成
- 4 日本語教材と教科書 みんなの日本語・日本語初歩
- 5 日本語教育と能力試験 学習者の試験と教師の資格試験
- 6 日本語と外国語教授法 教授法の歩み

【評価方法】

レポート提出30%、期末テスト50%、出席度20%で評価する。

【テキスト】

日本語教育入門（予定）

【参考文献・資料】

日本語教育事典 日本語教育ハンドブック 応用言語学辞典

中国語読解 I

周素芬 李昱 湯海鵬

【授業の概要】

「是」による判断文、形容詞による描写文、動詞による叙述文と存在文などを中心にして説明していくので、中国語の入門編にあたる講義である。この講義と平行して、同学科の「中国語作文I」と「中国語会話I」を履修することが望ましい。

【授業の目標】

本講義を履修することによって、中国語の簡単な文章を読んで理解できるようになる。また発音の基礎や基礎的な文型と語彙を身に付けることが期待できる。

【授業計画】

学生の中国語の読解力の養成を目的としているので、中国の学校、社会、経済及び文化習慣などを紹介する多くの楽しい話題を提供する。説明の重点を日・中両言語の違いに置き、興味深く読めるか否か、そして知識性が高いか否かという2つの要素を配慮に入れながら作ったオリジナル教材である。その教材を言語コミュニケーション学科HPのウェブサイトにも載せてあるので、自習室などで自分の好きな時間に発音の練習や宿題の提出ができる。授業の具体的な内容は、主として下記の通りである。

- 1) 我是学生（私は学生です）
- 2) 春天很暖和（春はとても暖かいです）上
- 3) 春天很暖和（春はとても暖かいです）下
- 4) 我家在名古屋（私の家は名古屋にあります）上
- 5) 我家在名古屋（私の家は名古屋にあります）下
- 6) 鈴木早晨七点起床（鈴木さんは朝7時に起きます）上
- 7) 鈴木早晨七点起床（鈴木さんは朝7時に起きます）下
- 8) 他去打排球了（彼はバレーに行きました）上
- 9) 他去打排球了（彼はバレーに行きました）下
- 10) 日本人和中国人（日本人と中国人）上
- 11) 日本人和中国人（日本人と中国人）下
- 12) 田中会游泳（田中さんは水泳ができます）上
- 13) 田中会游泳（田中さんは水泳ができます）下
- 14) 鈴木和佐藤（鈴木さんと佐藤さん）上
- 15) 鈴木和佐藤（鈴木さんと佐藤さん）下

授業は、2回で1つの話題をするように展開される予定である。単語や本文の発音を徹底的に指導し、立派な発音を身に付けられるように期待している。

【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを行い、その成績と出席状況及び平日の宿題の完成状況によって、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

【中国語読解入門】（出版社：マナハウス）

中国語作文 I

巖 萍

【授業の概要】

中国語の学習者にとって、読んで理解するだけでなく、自分で中国語が書けることも必要である。ゆえに、本講義では、作文の練習を反復して行う。よって、中国語に関する基礎的な文法知識と基本的な語彙の使い方をマスターする。

本講義で使われる教材は、教育効果が高いという理由で、私立大学情報教育協会より奨励賞を受賞した。本講義と平行して、「中国語会話I」と「中国語読解I」を履修することが望ましい。

【授業の目標】

簡単な中国語が書け、中国語の発音基礎、基礎的な文型と語彙がマスターできる。

【授業計画】

中国語は、格助詞も述語の語尾変化もない。中国語を作文する時、語彙を並べれば、文になる。ゆえに、中国語の作文をするとき、一番大切なのは語彙の並べ順序である。ゆえに、本講義では中国語の語彙の並べ順序とそのコツを徹底的に説明する。本講義に出れば中国語の力が一段と高まることを期待できよう。具体的な内容は下記である。

- 1) 曜日の言い方（上）
- 2) 曜日の言い方（下）
- 3) 天気について（上）
- 4) 天気について（下）
- 5) 家庭の紹介（上）
- 6) 家庭の紹介（下）
- 7) 自己紹介（上）
- 8) 自己紹介（下）
- 9) 愛知淑徳大学の紹介（上）
- 10) 愛知淑徳大学の紹介（下）
- 11) 四季について（1の上）
- 12) 四季について（1の下）
- 13) 公園（上）
- 14) 公園（下）

授業は2回で1つの話題をするように展開される予定で、教材を言語コミュニケーション学科HPのウェブサイトに載せてあるので、パソコン自習室などで発音や作文の練習ができるので、中国語の実力が一段と高まることを期待している。

【評価方法】

平常点出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

「中国語作文入門」（出版社：マナハウス）

中国語会話 I

杜 英起

【授業の概要】

自己紹介、初対面の挨拶、家庭で交わされている家族の間での基本的な挨拶、また友達同士でよく使われている基本的な会話、要するに中国語会話の基本を中心に説明する。会話の練習をすると同時に、発音の徹底的な指導を行う。

本講義と平行して、言語コミュニケーション学科の「中国語作文I」と「中国語読解I」を履修することが望ましい。

【授業の目標】

本講義の受講によって、自己紹介、家族紹介、大学の紹介など、簡単な中国語の会話ができるようになる。

【授業計画】

以下のステップを踏んで、授業を展開する予定である。

- 1) 私の苗字は山田です
- 2) 今日は何月何日ですか（上）
- 3) 今日は何月何日ですか（下）
- 4) これは何ですか（上）
- 5) これは何ですか（下）
- 6) あなたは今から家に帰りますか（上）
- 7) あなたは今から家に帰りますか（上）
- 8) 南京の天気はどうですか（上）
- 9) 南京の天気はどうですか（下）
- 10) 私は映画を見に行きました（上）
- 11) 私は映画を見に行きました（下）
- 12) あなたは中華料理店に行ったことがありますか（上）
- 13) あなたは中華料理店に行ったことがありますか（下）
- 14) あなたは中国語を勉強していますか（上）
- 15) あなたは中国語を勉強していますか（下）

本教材では、本文の暗記ではなく、中国語の生きている会話表現を身に付けることができるように工夫なされている。また楽しく中国語の会話ができるように授業をデザインしている。本教材を学科HPのウェブサイトに載せてあるので、パソコン自習室などで発音や会話の練習ができる。

【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを実施し、その成績と出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

「中国語会話入門」（出版社：マナハウス）

中国語読解 II

馮 富榮 湯 海鵬

【授業の概要】

基本的な文法知識と幅広い語彙の習得に力を入れて授業を進める。受講者の読解力を高めるほか、中国語の勉強意欲を引き出すことも本講義の目的である。本講義と平行して、同学科の「中国語作文II」と「中国語会話II」及び言活科目の「HSK基礎A・B」を履修することが望ましい。

【授業の目標】

本講義の受講によって、800字前後の中国語の文章を読むことができるようになる。またHSK基礎科目との平行履修によってHSK基礎試験の3級を取ることが期待できる。

【授業計画】

中国語読解IIは、学生の中国語の読解力の養成を目的としているほか、後期の言活科目の中国語HSK基礎コースの講義と協力することによって、翌年の5月のHSK基礎試験3級の合格を目標としている。ゆえに、HSK基礎試験の内容を配慮に入れて作ったオリジナル教材である。本教材を学科HPのウェブサイトに載せてあるので、パソコン自習室で好きな時間に発音の練習や宿題の提出ができる。授業の内容は下記の通りである。

- 1) 高橋さんは病気をしました (上)
- 2) 高橋さんは病気をしました (下)
- 3) 日中挨拶の習慣について (上)
- 4) 日中挨拶の習慣について (下)
- 5) 私はとうとう部屋を綺麗に片付けました (上)
- 6) 私はとうとう部屋を綺麗に片付けました (下)
- 7) 私は先生に叱られました (上)
- 8) 私は先生に叱られました (下)
- 9) 麗麗は綺麗になりました (上)
- 10) 麗麗は綺麗になりました (下)
- 11) 今日は運がっていない (上)
- 12) 今日は運がっていない (下)
- 13) 私はどうすべきでしょうか (上)
- 14) 私はどうすべきでしょうか (下)
- 15) 全体の復習

部屋の掃除が嫌いなことや先生に叱られたときの気持ち、そして女の子が年頃になると綺麗になることなど、身近な笑話も多く取り入れている。

【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを実施し、その成績に出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

「中国語読解入門」(出版社: マナハウス)

中国語会話 II

杜 英起

【授業の概要】

この授業は中国語会話Iの延長である。中国人とコミュニケーションをするときの場面を教材に取り入れている。たとえば、家族や大学の紹介、趣味や夏休みなどが主な素材となっている。要するに、実用性を最大限に重視し、中国人と生きている会話ができるように期待している。

本講義と平行して、言語コミュニケーション学科の「中国語作文II」と「中国語読解II」及び言活科目の「HSK基礎A」と「HSK基礎B」を履修することが望ましい。

【授業の目標】

本講義の受講によって、大学での友だちや先生との日常会話、病院での医者さんとのやり取り、クラブ活動や趣味を紹介するなど簡単な中国語の会話ができるようになる。

【授業計画】

各回の授業の内容は以下の通りである。

- 1) お久しぶりです
- 2) あなたは何をしていますか (上)
- 3) あなたは何をしていますか (下)
- 4) あなたは何を買いたいですか (上)
- 5) あなたは何を買いたいですか (下)
- 6) あなたはどんなスポーツが好きですか (上)
- 7) あなたはどんなスポーツが好きですか (下)
- 8) 私はもうそろそろ帰ります (上)
- 9) 私はもうそろそろ帰ります (下)
- 10) 必ずお伝えします (上)
- 11) 必ずお伝えします (下)
- 12) ちょっと気分が悪いです (上)
- 13) ちょっと気分が悪いです (下)
- 14) 私たちは万里の長城に登りました (上)
- 15) 私たちは万里の長城に登りました (下)

本教材は、本文の暗記ではなく、中国語の生きている会話表現を身につけることができるように工夫されている。しかも楽しく中国語の会話ができるように授業をデザインしている。本教材を学科HPのウェブサイトに載せてあるので、パソコン自習室などで発音や会話の練習ができる。宿題はすべてランで提出するので、公平な評価が期待できる。本講義の履修によって、中国人と簡単な会話ができるように期待している。

【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを実施し、その成績に出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

「中国語会話入門」(出版社: マナハウス)

中国語作文 II

巖 萍

【授業の概要】

中国語を書く力を養成することが本講義の最大の目的であるが、内容を聞いてから書くこと、図の意味を言葉で書くこと、概要の内付けを書くこと、または文章の概要を書くこと、短文の表現を変えて別の表現にすることなど多くの方法を取り入れ、常に書く材料があるように心がけて授業を進める。

【授業の目標】

本講義の履修によって、1000文字前後の中国語の文章が読めるだけでなく、400文字前後の中国語が書けるようになる。またHSK基礎科目との同時履修によって、HSK基礎試験の3級の取得が目標である。

【授業計画】

中国語は格助詞もなく、述語の語尾変化もない。中国語を作文する時、語彙を並べれば文になる。ゆえに、語彙の並べ順序はとても大切である。本講義では、中国語の語彙の並べ順序と並べる時のコツを徹底的に説明する。語学力は作文にあると言われてるように、本講義を履修すれば、中国語の力が一段と高まることが期待できよう。授業の内容は、下記の通りである。

- 1) 名古屋と南京の紹介 (上)
- 2) 名古屋と南京の紹介 (下)
- 3) 趣味について語る (上)
- 4) 趣味について語る (下)
- 5) 理想について (上)
- 6) 理想について (下)
- 7) 日記の書き方1 (上)
- 8) 日記の書き方1 (下)
- 9) 日記の書き方2 (上)
- 10) 日記の書き方2 (下)
- 11) 四季について2 (上)
- 12) 四季について2 (下)
- 13) 一年の大学生活を振り返って (上)
- 14) 一年の大学生活を振り返って (下)
- 15) 全体的な復習

授業は、2回で1つの話題をするように展開される予定である。教材を学科HPのウェブサイトに載せてあるので、パソコン自習室などを利用して発音や作文の練習ができる。宿題はすべてランで提出する。本講義を履修することによって、中国語の実力が一段と高まることを期待している。

【評価方法】

毎回10点満点の単語テストを実施し、その成績に出席状況及び平日の宿題の提出状況などを加味して、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

「中国語作文入門」(出版社: マナハウス)

【参考文献・資料】

基礎漢語写作 (北京語言学院出版社)

Sociolinguistics I

DONAHUE, Ray T.

【Course description】

An entrance into the interface of language, communication and community. A major goal is to develop an understanding of concepts and principles by which to make informed decisions about sociocultural matters, such as the relation between language, dialects, and accents; bilingualism and society; ethnicity and communication style; gender and language; language and equality, and so on.

【Course objectives】

- 1 to learn basic concepts and principles of sociolinguistics and intercultural communication;
- 2 to increase perceptual skill and cultural awareness
- 3 to learn basic discourse analysis
- 4 to improve English comprehension skills through an academic content study

【Course schedule】

Tentatively, the course schedule follows but the instructor reserves the right to make changes where appropriate.

- 1 Course Introduction
- 2 Sociolinguistics as a Field of Study
- 3 Concepts of Society and Culture
- 4 Language, Society, and Identity (1)
- 5
- 6 Language, Society, and Identity (2)
- 7
- 8 Language, Society, and Ethnicity
- 9
- 10 Language, Society, and Gender
- 11
- 12 Language, Society, and Culture
- 13
- 14 Cross-Cultural Applications

【Assessment】

Class participation and assignments 25%; tests 75%

【Textbooks】

To be announced in class.

Sociolinguistics II

DONAHUE, Ray T.

【Course description】

A further entrance into the interface of language, communication and community. This course is a continuation of Sociolinguistics I. A major goal is to develop an understanding of concepts and principles by which to make informed decisions about sociocultural matters, such as the relation between language, dialects, and accents; bilingualism and society; ethnicity and communication style; gender and language; language and equality, and so on.

【Course objectives】

- 1 to learn basic concepts and principles of sociolinguistics and inter-cultural communication;
- 2 to increase perceptual skill and cultural awareness
- 3 to learn basic discourse analysis
- 4 to improve English comprehension skills through an academic content study

【Course schedule】

Tentatively, the course schedule follows but the instructor reserves the right to make changes where appropriate.

- 1 Introduction
- 2 Communication and Culture
- 3
- 4 Cultural Factors in Communication
- 5
- 6 Culture and Beauty
- 7
- 8 Culture and Perception
- 9
- 10 Discourse Analysis
- 11 Contrastive Rhetoric
- 12
- 13 Applications of Discourse Analysis
- 14

【Assessment】

Class participation and assignments 25%; tests 75%

【Textbooks】

To be announced in class.

080321002_0310 掲載順 : 0310

MASTER ★

英語科教育法 I

松本青也

【授業の概要】

英語教育法をテーマとして、目的論、技能論、方法論を中心に、日本における英語教育の歴史、諸外国の言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育、などの話題を含めて考察する。

【授業の目標】

日本の英語教育が直面する様々な課題と、その可能性について、主に理論的な側面から考察する。

【授業計画】

1. 目的論：問題提起。コミュニケーション能力
2. 学習指導要領。学校英語教育の目標
3. 異文化と国際理解
4. 技能論：Sound
5. Listening
6. Speaking
7. Reading & Writing
8. 方法論：教授法の歴史（日本）
9. 教授法の歴史（外国）
10. 外国語教授理論
11. 新しい教授法
12. マルチメディア利用の可能性と課題
13. 指導過程の構成と授業評価
14. まとめ：これからの英語教育
15. テスト

【評価方法】

テストの成績、学習態度、出席状況等による総合評価。

【テキスト】

英語は楽しく使うもの（松本青也 朝日出版社）

【参考文献・資料】

自作教材資料

080321002_0320 掲載順 : 0320

MASTER ★

英語科教育法 II

高橋美由紀

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って実践的コミュニケーション能力の基礎を育成するために、特に入門期でどのような指導をすればいいかを中心に教育方法を考える。授業は、入門期の英語教育の意義や効果的な指導法、授業計画、指導案の書き方、教材・教具研究などの講義と、入門期の学習者が楽しめる英語教育を行うためのワークショップから構成される。

【授業の目標】

中学校入門期の英語教育の指導者を養成することを目標としている。

【授業計画】

1. オリエンテーション：入門期の英語教員の資質について
2. 入門期の英語教育の現状と課題・レベルや経験年数が異なる学習者の指導について
3. 入門期の英語教育の目的と意義・入門期の学習者の効果的な教授法
4. 音声重視の英語教育・入門期の学習者と文字教育
5. 歌やゲームを利用した英語教育
6. 入門期の英語教育の視覚教材・聴覚教材研究
7. 入門期の英語教育のコンピュータ教材やビデオ教材の研究
8. ALTとのTT授業について・テキストと授業計画、指導案の書き方について
9. 中学校入門期の英語教育・アジア諸国の英語教育
10. 模擬授業の具体例と指導案
11. 模擬授業
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 模擬授業の反省と今後の課題

【評価方法】

テスト、出席状況、授業態度
課題レポート

【テキスト】

中学校学習指導要領 外国語（英語）（文部科学省）
小学校英語活動実践の手引き（文部科学省 開隆堂出版）
小学校英語と中学校英語を結ぶ（松川禮子編 高陵社書店）
Sunshine Kids Book 1（山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版）
Sunshine Kids Book 2（高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版）
その他、絵本、カセット、CD、文献等は授業内に紹介する。

【参考文献・資料】

教材、教具作成のために、画用紙、色紙、マジックなどが必要である。

英語科教育法 III

高橋美由紀

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力の基礎を育成するためには、日本の中学校ではどのような授業を行えばよいのか、模擬授業を行いながらその具体的な指導法を研究する。

【授業の目標】

中学校英語教育の指導者を養成することを目標としている

【授業計画】

1. オリエンテーション：中学校英語教師の資質について、テキスト説明、小・中・高・大の英語教育について
2. 授業の組み立て：授業を盛り上げるための教材・教具について、教案作成ワークショップその1、ビデオによる模範授業参観その1
3. 授業の組み立て：歌やゲームを取り入れた授業展開、教案作成ワークショップその2、ビデオによる模範授業参観その2
4. 授業研究：テキスト内容に沿ったオリジナル教材・教具の作成、生徒を引きつける授業の様々なアイデア
- 5～14. 各グループによる模擬授業
15. 予備日

【評価方法】

テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

【テキスト】

Sunshine Kids Book 1（山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版）
Sunshine Kids Book 2（高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版）
Sunshine 1・2・3（松本青也他 開隆堂出版）
中学校学習指導要領 外国語（英語）（文部科学省）
その他、ゲーム集、歌、カセット、CD等はコピーを使用する。

【参考文献・資料】

教材・教具作成のために画用紙、マジックなどの文具類が必要である。

英語科教育法 IV

山森孝彦

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼を置いて、生徒の多様化した日本の高等学校における英語教育を効果的に行うにはどのようにするか、具体的、実践的に指導する方法を研究する。

【授業の目標】

高等学校で教育実習を行う際に必要な心構えと英語教授力の基礎を身につける。具体的目標は次の通りである。

- ・高校生が各学年でどれくらいの文法事項、語彙、英語力を身につけているかある程度予想することができる。
- ・与えられた教材を研究し、高校生に適した効果的な教授法を工夫し、授業案を作成することができる。
- ・考えた授業案にそって授業を行うことができる（発声、視線、発音、板書、生徒とのやりとり、落ち着きなど）。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと班分け（担当部分を決める）
 第2～5回 高校英語教師に求められる力、授業の組み立て方などについての講義
 第6～13回 模擬授業実習
 ・数人1組で模擬授業を行う。（教材研究・授業案作り・授業）
 ・発表者と記録・計時係以外の学生は生徒役となる。
 ・毎回授業に対するフィードバックとディスカッションを行う。
 第14～15回 教育実習生としての心得についての講義と課題レポート提出

【評価方法】

成績は、模擬授業（教案、模擬授業、集計と反省）、授業参加度（出席率、課題や授業中の取り組みなど）、期末レポートを総合して評価する。

【テキスト】

英語Iの教科書（出版社未定）

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 文部省

応用言語学特殊講義 II

外池俊幸

【授業の概要】

この講義では、Iと内容を分け、Iを受講していることを前提としないで、ヒトの特性に関わる問題を言語だけに限定せず取り上げます。応用言語学特殊講義Iだけ取ることも、応用言語学特殊講義IIだけ取ることもできます。

【授業の目標】

目標はIと基本的には同じで、ヒトの特性に関わる問題を、言語に限定せず取り上げ、その特徴、要点を具体的に学ぶこと。

【授業計画】

応用言語学特殊講義Iを受講していることを前提にはしません。Iとは違う問題を取り上げますが、ヒトの特性、言語、認知、知覚などの特徴を具体例をもとに学びます。

【評価方法】

出席とレポートの評価によって成績評価を行います。

【テキスト】

特定のテキストは使用しません。参考にして欲しい文献は随時授業で紹介しします。

【参考文献・資料】

言語だけでなく、進化に関する重要な文献をいくつか紹介しようと考えています。

応用言語学特殊講義 I

外池俊幸

【授業の概要】

言語は、ヒトという種が進化の過程で獲得した能力だと考えられます。この講義では、言語だけでなく、進化についての一般的な点で興味深い問題を取り上げます。ヒトの特性としての知覚、認識、判断、さらには文化的な問題で興味深いと思われることがらも取り上げます。

応用言語学特殊講義Iだけ取ることも、応用言語学特殊講義IIだけ取ることもできます。

【授業の目標】

言語だけでなく、ヒトの特性の本質を考えること。また、進化がどういうものなのかの要点を理解すること。

【授業計画】

- 1 ヒトが進化の結果できるようになったことは、そのほとんどが脳で実現されていると考えられます。しかし、できるようになったことのほとんどのことに関して、なんらかの意味で脳に損傷があったりして、できないという人がいることが知られています。例えば、人の顔を識別できることもそうです。人の顔を識別できない人がいることが知られています。ヒトの認識、知覚などの特徴について具体例をもとに学びます。
- 2 ヒトの特性を考えると、進化の問題を避けて通ることはできません。進化の要点を、現代人が必ずしも理解しているとは限りません。進化の要点を理解することを目指します。
- 3 そして、言語が私たちの生活の中でどういう役割を果たしているのかを、具体的な問題を取り上げ考えます。

【評価方法】

出席とレポートの評価によって成績評価を行います。

【テキスト】

特定のテキストは使用しませんが、参考文献の1と2を通読してから受講してもらえるとよいと思います。

【参考文献・資料】

- 1 言語学への招待（中島平三・外池滋生編著 大修館書店）
- 2 認知心理学（守一雄著 岩波書店）
- 3 認知心理学 全5巻（東京大学出版会）
 - 1 知覚と運動
 - 2 記憶
 - 3 言語
 - 4 思考
 - 5 学習と発達

応用言語学海外研修

CHARLEBOIS, Justin

【授業の概要】

異文化体験学習（ホームステイ、小旅行など）を加味した語学研修を中心に、両大学教員の連携指導のもとで、各自のテーマに沿った調査・研究も行う。

【授業の目標】

集中的な語学研修でコミュニケーション能力を高め、海外生活を体験することで、異文化理解を深める。

【授業計画】

米国の提携大学で実施。詳細は別の資料を参照のこと。

【評価方法】

提携大学での成績を中心に、事前オリエンテーションへの参加状況、事後報告レポートなどを加味して評価する。

English Linguistics I

CHARLEBOIS, Justin

【Course description】

The purpose of this course is to introduce you to the field of linguistics. Students will learn how to analyze both the sound system and structure of the English language. This class will be taught mostly in English, however, translations of difficult concepts and terminology will be provided in Japanese.

【Course objectives】

- To introduce students to some main areas of study within linguistics.
- To enhance students' understanding of the classification, structure, and sound system of American English.
- To provide practice in deciphering difficult sounds for Japanese learners of English.
- To introduce students to some key issues in the field of applied linguistics.

【Course schedule】

Topics to be considered may include:

phonetics (音声学)
 phonology (音韻論)
 morphology (形態論)
 syntax (統語論)

【Assessment】

Exams (2)

【Textbooks】

Not required

English Linguistics II

CHARLEBOIS, Justin

【Course description】

The main purpose of this course is to introduce students to the field of sociolinguistics (社会言語学). The knowledge acquired from English Linguistics I will aid students as we look at the relationship between language and society in this course.

【Course objectives】

- To introduce students to the field of sociolinguistics: the interaction between language and society.
- Through the use of class activities, illustrate the applicability of sociolinguistics to everyday life.

【Course schedule】

Topics to be considered may include:

Linguistics and Sociolinguistics (言語学と社会言語学)
 Speech Act Theory (言語行動論)
 Language Variation (言語のバリエーション)
 Language and Gender (言語とジェンダ)
 Language and Identity (言語とアイデンティティ)
 Politeness (ポライトネス)
 Intercultural Communication (異文化コミュニケーション)
 Discourse Analysis (談話分析)

【Assessment】

Exams (2)

【Textbooks】

社会言語学入門 (東照二 研究社 2006)

【Reference】

社会言語学への招待 (田中春美 2004 ミネルヴァ)
Sociolinguistics: A Reader and Coursebook (Coupland, N. and Jaworski, A. (Eds.). (1997). London: Macmillan)
Sociolinguistics. (Spolsky, B. (1998). Oxford: Oxford)

English Linguistics III

CHARLEBOIS, Justin

【Course description】

This course will serve as an advanced introduction to the study the English language and to the more specific field of language and linguistics. Particular attention will be paid to the study of English pragmatics and variation.

【Course objectives】

- To provide an introduction to the field of second language acquisition (SLA).
- To familiarize students with seminal SLA research.
- To encourage students to reflect on their own language learning practices.
- To consider how SLA theory can be applied to language learning and teaching.

【Course schedule】

Topics to be considered may include:

Introduction
 Key Issues in SLA
 The role of first language
 Individual learner differences and SLA
 Input, interaction, and SLA
 Learner strategies
 Universal Grammar
 The role of formal instruction in SLA

【Assessment】

- Attendance
- Class Participation/Effort
- Research Paper

【Textbooks】

A decision about a suitable textbook will be made after the first week of classes.

【Reference】

Understanding SLA. Oxford: (Ellis, R. Oxford University Press. 1985.)
The Study of SLA. Oxford: (Ellis, R. Oxford University Press. 1995.)

English Literature I

EASLEY, Keith

【Course description】

Romanticism (1789-1832)

The course will show something of the literary and cultural importance of Romantic poetry, both in its own time and today. Key themes will be Romantic individualism, beauty and nature. Selections will be made from Keats, Byron, Shelley, Wordsworth, Coleridge and Blake.

【Course objectives】

1. To improve students' understanding of a key period in Western culture.
2. To develop students' language skills.

【Course schedule】

Weeks 1-2 Key themes, then and today
 Weeks 3-6 Individual writers
 Weeks 7 Key themes
 Weeks 8-11 Individual writers
 Week12 Review

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, coursework and final examination.

Depending on the size of the class, there may be tests during the semester to decide whether students can continue the course.

【Textbooks】

To be announced.

English Interaction V

CHARLEBOIS, Justin DAVIES, Alun

【Course description】

This course aims to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

【Course objectives】

1. To improve the students' use of English.
2. To introduce students to English as it would be used in academic and professional settings.

【Course schedule】

The course will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Using libraries
2. Giving presentations

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

【Textbooks】

A text may be assigned on the first day of the course.

English Interaction VI

CHARLEBOIS, Justin DAVIES, Alun

【Course description】

This course aims to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

【Course objectives】

1. To improve the students' use of English.
2. To introduce students to English as it would be used in academic and professional settings.

【Course schedule】

The course will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Using libraries
2. Giving presentations

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

【Textbooks】

Textbooks may be assigned on the first day.

English Interaction for Business I

GREENE, Scott R.

【Course description】

This class is focused on introducing students to English interactions in a business context. Students will be expected to communicate with each other and the instructor in a variety of business contexts.

【Course objectives】

This class aims to:

1. Familiarize the students with the form and style of spoken business interactions in English speaking countries.
2. Familiarize the students with the form and style of written business interactions in English speaking countries.
3. Familiarize the students with business style interviews in English.

【Course schedule】

The course will feature a variety of tasks which may include:

Interviews
Memo writing
Report writing
Report presentations
Sales presentations
Phone conversations
Small talk

【Assessment】

Assessment will be made through a variety of tasks and projects.

【Textbooks】

No textbook is currently assigned for the class, though one may be assigned on the first day of class.

English Interaction for Business II

GREENE, Scott R.

【Course description】

This class is focused on introducing students to English interactions in a business context. Students will be expected to communicate with each other and the instructor in a variety of business contexts.

【Course objectives】

This class aims to:

1. Familiarize the students with the form and style of spoken business interactions in English speaking countries.
2. Familiarize the students with the form and style of written business interactions in English speaking countries.
3. Familiarize the students with business style interviews in English.

【Course schedule】

The course will feature a variety of tasks which may include:

Interviews
Memo writing
Report writing
Report presentations
Sales presentations
Phone conversations
Small talk

【Assessment】

Assessment will be made through a variety of tasks and projects.

【Textbooks】

No textbook is currently assigned for the class, though one may be assigned on the first day of class.

Interpretation Practice I

CHARLEBOIS, Justin DAVIES, Alun

【Course description】

The aim of this course is to introduce students to the field of translation studies, with a focus on interpreting. While some theoretical background will be provided, emphasis will be placed on practice. Through the use of various media students will develop their ability to interpret from English into Japanese.

【Course objectives】

- To introduce students to the field of translation studies.
- To introduce students to interpreting strategies.
- To provide students with practice interpreting.

【Course schedule】

Topics to be considered may include:

- Translation studies
- How are interpreting and translating different?
- Source language versus target language
- consecutive versus simultaneous interpreting
- Practical Training: English to Japanese

【Assessment】

- Exam
- Research Paper

Interpretation Practice II

CHARLEBOIS, Justin DAVIES, Alun

【Course description】

This course will continue from where Interpretation Practice I left off. The main focus will be to refine students' ability to interpret from English into Japanese with some practice going from Japanese into English as well. Students will also be asked to examine various challenges and issues that interpreters face.

【Course objectives】

- To further develop the ability to interpret.
- To consider some issues facing interpreters.

【Course schedule】

Topics to be considered may include:

- Practical Training
- phonemic shadowing
- phrase shadowing
- monitoring strategies
- approximation strategies
- sight translation
- Contemporary issues facing interpreters

【Assessment】

- Exam
- Research Paper

Writing and Presentation I・II

CHARLEBOIS, Justin DYCUS, David C.

【Course description】

英文を書き、英語で口頭発表する際に役立つ実用的な知識や方法を学ぶ。更にコミュニケーションの様々な状況を考えながら実際に論文を完成し、それを口頭発表する。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

【Course objectives】

1. To improve the students' ability to write academic papers.
2. To improve the students' ability to prepare and give presentations.

【Course schedule】

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and / or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

- Topics may include:
- Organization and outlining
 - Using outside sources
 - Footnotes and Endnotes
 - Speech Anxiety
 - Impromptu and extemporaneous speaking
 - Persuasive speaking

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

【Textbooks】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

Communication Strategies I

MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J.

【Course description】

議論やディベートについて基本的な概念を学びながら、その際の主張や証拠、論理の組立てについて分析し、話し合う。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

【Course objectives】

1. To introduce students to argument and debate.
2. To improve the students' ability to prepare and present arguments in a debate.

【Course schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students may give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion theory
2. Debate theory
3. Research

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

【Textbooks】

A textbook may be assigned

中国語表現 I

杜 英起

【授業の概要】

本講義は中国語の幅広い表現に触れ、中国語独特の表現の仕方に慣れることを目的とする。特に重要な表現に関しては、日本語との比較をしながら重点的に説明を行う。

【授業の目標】

本講義を履修することによって、HSK試験の4級に合格することができることを目標としている。

【授業計画】

本講義では中国語専攻クラスと非中国語専攻クラスに分けて授業を進める予定である。毎回単語テストを実施するほか、ランによる宿題の提出を要求する。どのクラスも2回の授業で1課を進める予定であるが、中国語専攻クラスには、2課が終わるところで小テストを行う。本講義の履修により、より多くの単語を覚え、中国語による豊かな表現力が身につくことが期待できる。

授業の内容は、下記の通りである。

1. 南京師範大学の校園
2. 我的留学生活
3. 感謝信 (1)
4. 感謝信 (2)
5. 幸福与快樂
6. 自相矛盾
7. 師生情

本講義の目的は学生にとって身近な話題を提供することによって、中国語学習への意欲を引き出し、積極的に中国語でコミュニケーションする姿勢を養成することにある。本講義に使う教材を言語コミュニケーション学科のWebサイトに掲載し、学生たちは大学のパソコン実習室で自分の好きな時間に、発音やリスニングなどの練習ができる。また教材の練習問題は中国語能力試験として中国政府によって唯一に認定されたHSK試験の問題に倣って作られているので、HSKの4級か5級の合格に大いに役立つことを期待している。

【評価方法】

受講態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて、総合的に評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中国語表現 (出版社: マナハウス)

【参考文献・資料】

授業の時に指示する。

080321002_0690 掲載順 : 0690

MASTER ★

中国語表現 II

杜 英起

【授業の概要】

本講義は中国語の幅広い表現に触れ、中国語独特の表現の仕方に慣れることを目的とする。特に重要な表現に関しては、日本語との比較をしながら重点的に説明を行う。

【授業の目標】

本講義を履修することによって、HSK試験の5級に合格することができることを目標としている。

【授業計画】

本講義では中国語専攻クラスと非中国語専攻クラスに分けて授業を進める予定である。毎回単語テストを実施するほか、ランによる宿題の提出を要求する。どのクラスも2回の授業で1課を進める予定であるが、中国語専攻クラスには、2課が終わるところで小テストを行う。本講義の履修により、より多くの単語を覚え、中国語による豊かな表現力が身につくことが期待できる。

授業の内容は、下記の通りである。

1. 中国的龍
2. 中国的茶
3. 孔子
4. 中秋節
5. 屈原
6. 新婚之喜
7. 中国的春節

前期と違って後期の内容は中国の文化の紹介に重点を置き、目的は中国語を学習すると共に、中国の文化への理解を深めることにある。本講義に使う教材を言語コミュニケーション学科のWebサイトに掲載し、学生たちは大学のパソコン実習室で自分の好きな時間に、発音やリスニングなどの練習ができる。また教材の練習問題は中国語能力試験として中国政府によって唯一に認定されたHSK試験の問題に倣って作られているので、HSKの5級か6級の合格に大いに役立つことを期待している。

【評価方法】

受講態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて、総合的に評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中国語表現 (出版社: マナハウス)

【参考文献・資料】

授業の時に指示する。

080321002_0710 掲載順 : 0710

MCode:080104008_0100 ★

中国文学講読 I・II

陳 惠貞 嚴 萍

【授業の概要】

この授業の目的は、中国語の表現力を高めること、豊富な語彙を獲得させること、読む力を身に付けさせることにある。授業の内容は、主として故事物語になっているが、その狙いが普段話しやすい故事物語の学習を通して、中国語コミュニケーションにおける豊富な表現力を身に付けることにある。そのほかに、練習問題がHSKの出題方式に倣って作られているため、この授業を履修することによってHSKの合格率を高めることも期待できる。

【授業の目標】

中国の歴史、文化を深く理解し、HSKの4級試験に必要な表現を習得することができるとともに、中国語の会話表現を幅広く習得することもできることが本講義の目標である。

【授業計画】

前期:

1. 道听途説
2. 拔苗助長
3. 空中樓閣
4. 杯弓蛇影
5. 黔驢技窮
6. 囫圇吞棗
7. 呆若木鷄

後期:

1. 坐井觀天
2. 毛遂自荐
3. 守株待兔
4. 争先恐后
5. 伯樂識馬
6. 一鳴驚人
7. 熟能生巧

【評価方法】

受講の態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中国文学講読 (出版社: マナハウス)

【参考文献・資料】

講義のとき、随時指示する。

中国語会話 3

大森信徳 曹志偉 周素芬

【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い、さらなる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための授業である。さらに、HSK初等試験の4級合格を目指し、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語ることができる。なおHSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語読解能力を高めるためには<中国語読解3>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話2を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 初めまして
2. 私達の中国語の先生
3. 朝食を食べる
4. タクシーに乗る
5. 宿舎のおばさん
6. 言葉のパートナー

各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 4

大森信徳 曹志偉

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級合格を目指し、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語ることができる。なおHSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語読解能力を高めるためには<中国語読解4>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話3を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 市場での買い物
2. 旅行に行こう
3. 体を鍛える
4. ついてない一日
5. ダイエット
6. 友情に乾杯

各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語聴解 II

馮富榮 周素芬

【授業の概要】

本講義は中国語専門コースのための専門クラスとその他のコースの非専門クラスに分けて授業を進める予定である。みなオリジナル教材を使うが、専門クラスは1回で1課進み、非専門クラスは2回で1課進む。専門クラスはメディア教材による事前の練習を必要とし、練習の成果を授業で確かめた後、単語や文章の解説を行う。そして習った表現を使って会話の練習を行う。教材の内容は2年の開講科目「中国語表現II」と「中国文学講義II」の内容とHSKによく出題された問題を組み合わせたものである。本講義によって学習した知識をいっそう固め、HSKのよりよい成績が出せるように期待できる。

【授業の目標】

本講義の目標は、中国人の一般的な会話が開き取れるようになるだけでなく、中国語専攻のクラスの学生はHSK初中等の5級、中国語非専攻のクラスの学生はHSK初中等4級が取得できることである。

【授業計画】

中国語専攻のクラスでは1回の授業で1課の進度で、「中国語表現」及び「中国文学講義」と連携しながら授業を進めていく予定である。たとえば第1課と第2課の内容はそれぞれ左記の2冊の教材の第1課の内容をブレンドしたものである。出題の方法HSKの聴解問題とはまったく同じなので、HSKに合格するための特訓として位置づけている。中国語非専攻のクラスでは2回の授業で1課の進度で進めていく予定である。

- 1) 第1回聴解模擬試験
- 2) 第2回聴解模擬試験
- 3) 第3回聴解模擬試験
- 4) 第4回聴解模擬試験
- 5) 初中等HSK模擬試験
- 6) 聴解IIの第5課
- 7) 聴解IIの第6課
- 8) 聴解IIの第7課
- 9) 聴解IIの第8課
- 10) 聴解IIの第9課
- 11) 聴解IIの第10課
- 12) 総合復習
- 13) 聴解IIの第11課
- 14) 聴解IIの第12課
- 15) 初中等HSK模擬試験

【評価方法】

毎回の宿題を点数化して、出席状況などを加味して総合的に評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中国語聴解I (出版社: マナハウス)

【参考文献・資料】

HSK初中等試験の受験用の模擬試験問題集

中国語聴解 I

馮富榮 周素芬

【授業の概要】

本講義は中国語専門コースのための専門クラスとその他のコースの非専門クラスに分けて授業を進める予定である。みなオリジナル教材を使うが、専門クラスは1回で1課進み、非専門クラスは2回で1課進む。専門クラスはメディア教材による事前の練習を必要とし、練習の成果を授業で確かめた後、単語や文章の解説を行う。そして習った表現を使って会話の練習を行う。教材の内容は2年の開講科目「中国語表現I」と「中国文学講義I」の内容とHSK問題を組み合わせたものである。本講義によって学習した知識をいっそう固め、HSKのよりよい成績が出せるように期待できる。

【授業の目標】

要するに、中国人の普通の会話が開けるだけでなく、日本人にとって難関となるHSKの聴解問題が開けるようになることを本講義の最大の目標である。

【授業計画】

中国語専攻のクラスでは1回の講義で1課の進度で、「中国語表現」・「中国文学講義」と連携しながら進めていく予定である。たとえば第1課と第2課の内容はそれぞれ左記の2冊の教材の第1課の内容をブレンドしたものである。出題の方法はHSKの聴解問題とまったく同じなので、HSKに合格するための特訓として位置づけている。中国語非専攻のクラスでは2回の講義で1課の進度で進めていく予定である。

- 1) 第1回聴解模擬試験
- 2) 第2回聴解模擬試験
- 3) 第3回聴解模擬試験
- 4) 第4回聴解模擬試験
- 5) 基礎HSK模擬試験
- 6) 聴解Iの第5課
- 7) 聴解Iの第6課
- 8) 聴解Iの第7課
- 9) 聴解Iの第8課
- 10) 聴解Iの第9課
- 11) 聴解Iの第10課
- 12) 総合復習
- 13) 聴解Iの第11課
- 14) 聴解Iの第12課
- 15) 初中等HSK模擬試験

【評価方法】

毎回の宿題を点数化して、出席状況などを加味して総合的に評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中国語聴解I (出版社: マナハウス)

【参考文献・資料】

HSK基礎試験の受験用の模擬試験問題集

中国語聴解 III

杜英起 嚴萍

【授業の概要】

楽しい視覚教材、主として楽しい中国の映画や、童話、また有名な観光地と名所旧跡の紹介を授業の内容とする。もちろん映画の全部ではなく、中の一節である。耳の聞く力があくまでも熟練にあると思われているので、学生が随時授業の内容の聞く練習ができるように工夫されている。具体的に言うと、各授業の内容をパソコンに録音しておく。学生がクリック一つで繰り返し聞けるようにCD教材を作成する。学生の理解を助け、興味をもって聞けるようにするために、教材の内容と関連のある画面もできるだけ添えるようにする。

要するに、この中国語の聴解IIIと聴解IVという授業は、中国人の普通の会話のみでなく、聞き取りにくいとされている中国語の映画も聞ける程度の力を養成することを目的とする。

【授業の目標】

本講義の目標は、HSK試験の5級か6級に合格するのに必要な語彙量、表現力、聴解力を身につけてもらうことにある。

【授業計画】

具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. まず映画や童話などの大まかな内容を日本語で解説し、それから聞く練習に入る。
2. 学生に質問しながら、内容を解明していく。もちろん教材に出ている新しい表現については説明する。学生側は、CD教材を使って予習する必要がある。
3. 映画などの内容についてのプリント(穴埋め問題式)を配り、学生は内容を聞きながらそのプリントの穴埋めをする。
4. 最後に、教材の内容を学生自身が全体的にまとめ、グループ分けて、発表する。

以上によって、聞く力だけでなく、中国語による表現力を引き伸ばすことも狙っている。

【評価方法】

出席状況と平常点に基づいて総合的に評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中国語聴解III (出版社: マナハウス)。

【参考文献・資料】

授業で指示する。

中国語聴解 IV

杜英起 嚴萍

【授業の概要】

楽しい視覚教材、主として楽しい中国の映画や、童話、また有名な観光地と名所旧跡の紹介を授業の内容とする。もちろん映画の全部ではなく、中の一節である。耳の聞く力があくまでも熟練さにあると思われるので、学生が随時授業の内容の聞く練習ができるように工夫されている。具体的に言うと、各授業の内容をパソコンに録音しておく。学生がクリック一つで繰り返し聞けるようにCD教材を作成する。学生の理解を助け、興味をもって聞けるようにするために、教材の内容と関連のある画面もできるだけ添えるようにする。

要するに、この中国語の聴解IIIと聴解IVという授業は、中国人の普通の会話のみでなく、聞き取りにくいとされている中国語の映画も聞ける程度の力を養成することを目的とする。

【授業の目標】

本講義の目標は、HSK試験の6級か7級に合格するのに必要な語彙量、表現力、聴解力を身につけてもらうことにある。

【授業計画】

具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. まず映画や童話などの大まかな内容を日本語で解説し、それから聞く練習に入る。
2. 学生に質問しながら、内容を解明していく。もちろん教材に出ている新しい表現については説明する。学生側は、CD教材を使って予習する必要がある。
3. 映画などの内容についてのプリント（穴埋め問題式）を配り、学生は内容を聞きながらそのプリントの穴埋めをする。
4. 最後に、教材の内容を学生自身が全体的にまとめ、グループ分けて、発表する。

以上によって、聞く力だけでなく、中国語による表現力を引き伸ばすことも狙っている。

【評価方法】

出席状況と平常点に基づいて総合的に評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

中国語聴解IV（出版社：マナハウス）

【参考文献・資料】

授業で指示する。

中国語学 I

周素芬

【授業の概要】

本講義は、中国語の全体的な文法知識、中国語の構文ルール、また中国語研究の基本方法など、中国語学に関する基礎知識の紹介に重点を置いて行う予定である。中国語の教師として、または中国語の研究者として基本的な知識を身につけることを本講義の目的とする。

【授業の目標】

中国語の全体的な文法知識、中国語の構文ルールまたは、中国語学の基礎知識を身につけること。（詳細は授業にて解説する）

【授業計画】

主として、論文講読という方法を取るが、授業は、講義式で展開するのではなく、討論という形で展開する予定である。具体的に言うと、学生が事前に論文を講読し、質問や自分の意見を考えておく必要がある。それを授業で発表し、意見交換を行う。最後に授業の担当者がまとめをする。この授業を履修することによって、中国語学に関する知識を獲得するだけでなく、中国語による発話能力や、中国語の研究力を身につけることもできるよう期待している。授業は、学生による輪読という形式であるので、学生を主体とする展開となる。

【評価方法】

学年末にレポートを提出してもらい、それを基本としながら、平常点と出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

関連の論文のコピーを使用する。

中国文学 I・II

陳惠貞

【授業の概要】

この授業の目的は、文学作品の鑑賞と言語能力の向上という二つのところにある。言語能力の内、特に読む力とそのテクニックの養成に重点を置く。授業の内容は、主として近代の有名な短編小説や散文である。たとえば朱自清、魯迅や巴金などの作品であり、いずれも代表的な作品である。作品の後に作品を鑑賞する文章があり、それらを読むことによって、中国の文学に対する初歩的な理解を得ることができると同時に、中国語の読む力もアップすることができるのを狙っている。各課の後に、作品に関する課題を5つ設定し、それについてディスカッションを行うことが予定されている。要するに、本講義の目的は、先生の助けがなくても学生が自分で中国語の簡単な文学作品を読めるようになると同時に文章を書く力と中国語で意見を述べる力を養成することにある。

【授業の目標】

1. 文学作品の朗読を通じて、中国語の発音を確認する。そして、文学作品を読むことで、読むテクニックを養成する。
 2. 各作品の後に作家の紹介と作品の鑑賞があり、文学作家の生い立ちや当時の時代背景を理解し、作品の鑑賞を通じて、内容をより深く理解することを目指す。
 3. 各課の後に、作品に関する課題を設定し、ディスカッションを通じて、文章を書く力と中国語で意見を述べる力を養成する。
- 以上のように、本授業の目標は、学生が自分で中国の簡単な文学作品を読む力と文章を書く力と中国語で意見を述べる力を養成することにある。

【授業計画】

前期：

1. 海上日出
2. 匆匆
3. 春
4. 荷塘月色
5. 我的空中楼阁

後期：

1. 済南の冬天
2. 駱駝祥子
3. 一件小事
4. 諷刺論
5. 从百草园到三味书屋

【評価方法】

受講の態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

自作教材

中国語学 II

周素芬

【授業の概要】

本講義は、中国語研究の歴史、研究の分野などを紹介すると共に、中国語研究の最新成果を反映する代表的な論文を講読する。さらに、中国語と日本語の構文ルールなどの相違点を探り、その相違点による日本人の中国語学習上の問題点を想定する。そしてその問題点を質問紙調査などで検証すると同時に、その問題点を解決することのできるような中国語の教授法も吟味する。

【授業の目標】

中国語と日本語の構文ルールなどの相違点を探り、その相違点について分析して、一人一人にいろいろな疑問におつかつて討論して、少しでも役に立つすること。（詳細は授業にて解説する）

【授業計画】

主として、論文講読という方法を取るが、授業は、講義式で展開するのではなく、討論という形で展開する予定である。具体的に言うと、学生が事前に論文を講読し、質問や自分の意見を考えておく必要がある。それを授業で発表し、意見交換を行う。最後に授業の担当者がまとめをする。この授業を履修することによって、中国語学に関する知識を獲得するだけでなく、中国語による発話能力や、中国語の研究力を身につけることもできるよう期待している。さらに、日本人が中国語を学習するとき、どこで、どのような問題を抱えるか、それを解決するためには、どのような教授法を取ればよいのかなどについても議論する予定である。よって、卒論が書きたい学生にぜひ薦める授業である。

【評価方法】

学年末にレポートに平常点を加味して評価する。

【テキスト】

関連の論文のコピーを使用する。

中国語時事討論 I

孫 江

【授業の概要】

教授者が執筆した新聞記事をテキストとする。関連する背景知識も含めて、教授者がテキストの内容について解説を行う。受講生は毎回のテーマについてそれぞれ意見を述べ、討論を行う。

【授業の目標】

すでに習得した中国語の基礎的知識を活用して、流動する中国社会の諸側面を反映するタイムリーな記事を幅広く取りあげ、中国語の上達とともに、中国社会に対する理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

- 1、幺と風と心——オリエンテーション
- 2、桜の表象
- 3、越境する日本語
- 4、人造美女
- 5、牛の死
- 6、魔都上海
- 7、ネット婚姻
- 8、受験移民
- 9、ピンチャー
- 10、ネットライター
- 11、IT業界の過労死
- 12、超級女声（スーパーギャル）
- 13、北京の水事情
- 14、聖誕節と春節
- 15、試験

【評価方法】

出席と小テストを平時点とし、期末試験を行う。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考文献・資料】

詳細は授業にて指示する。

中国語時事討論 III

張 勤

【授業の概要】

この授業は現代中国を反映する各ジャンルの中国語の文章を読解し、関連する背景について理解するとともに、それについて既習の中国語で自分の考えを述べ、討論を行う練習をする。この授業で講読する文章は、履修生に参加してもらって一緒に選ぶこととする。なお、この授業は、中国語時事討論 I・II よりより高度な内容と授業展開となるが、この授業自身で完結したものであり、中国語時事討論 I・II の履修歴がなくても選択が可能である。

【授業の目標】

すでに習得している中国語を読解と口頭表現の両方において固めていながら、中国語によって成り立つ中国社会と文化について理解を深めることを目指す。この授業で講読する文章は、履修生に参加してもらって一緒に選ぶので、このプロセスにおいて中国の資料の調べ方が分かり、中国語実践力を高めることを期待する。なお、この授業の教材に用いる予定の文章は、中級から上級にかけてのレベルまでの文法形式、やや長めの複文が繰り返される分かりやすいものである。この授業を通して既習の中国語を復習するだけでなく、より実践的な中国語の力が身につくことをも目標とする。

【授業計画】

- 1 中国語時事情報の調べ方 I
- 2 中国語時事情報の調べ方 II
- 3 今週の新聞（読解）
- 4 今週の新聞（討論）
- 5 今月の雑誌（読解）
- 6 今月の雑誌（討論）
- 7 今日のテレビニュース（読解）
- 8 今日のテレビニュース（討論）
- 9 今月のベストセラー書籍（読解）
- 10 今月のベストセラー書籍（討論）
- 11 今週のヒットチャート（読解）
- 12 今週のヒットチャート（討論）
- 13 今週の映画ベストワン（読解）
- 14 今週の映画ベストワン（討論）
- 15 試験

【評価方法】

出席と授業参加態度を平常点とし、期末試験も合わせ、総合的判定をする。

【テキスト】

プリント配布。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

中国語時事討論 II

張 勤

【授業の概要】

この授業は現代中国を反映する各ジャンルの中国語の文章を読解し、関連する背景について理解するとともに、それについて既習の中国語で自分の考えを述べ、討論を行う練習をする。

なお、この授業は、中国語時事討論 I よりワンステップ上の内容と授業展開となるが、この授業自身で完結したものであり、中国語時事討論 I の履修歴がなくても選択が可能である。

【授業の目標】

すでに習得している中国語を読解と口頭表現の両方において固めていながら、中国語によって成り立つ中国社会と文化について理解を深めることを目指す。なお、この授業の教材に用いる予定の文章は、中級レベルまでの文法形式、短い複文が繰り返される平易なものである。この授業を通して既習の中国語を復習するだけでなく、より実践的な中国語の力が身につくことをも目標とする。

【授業計画】

- 1 今週の新聞（読解）
- 2 今週の新聞（討論）
- 3 今月の雑誌（読解）
- 4 今月の雑誌（討論）
- 5 今日のテレビニュース（読解）
- 6 今日のテレビニュース（討論）
- 7 今月のネットヒット話題（読解）
- 8 今月のネットヒット話題（討論）
- 9 今月のベストセラー書籍（読解）
- 10 今月のベストセラー書籍（討論）
- 11 今週のヒットチャート（読解）
- 12 今週のヒットチャート（討論）
- 13 今週の映画ベストワン（読解）
- 14 今週の映画ベストワン（討論）
- 15 試験

【評価方法】

出席と授業参加態度を平常点とし、期末試験も合わせ、総合的判定をする。

【テキスト】

プリント配布。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

ビジネス中国語 I

杜 英起

【授業の概要】

本講義は、ビジネス中国語IIと共に中国語でのビジネスに必要となる全般的な知識を紹介することを目的とする。講義の内容には、中国の経済状況と日・中経済交流の全般に対する紹介から、日・中貿易および対中投資の実務まで、ビジネスに関する幅広い知識が含まれる。具体的には、駐在員の生活、商談、交渉、そして通関などのようなさまざまなビジネスの場面が各講義のテーマとなる。

【授業の目標】

対外貿易関係の基本的な知識と専門用語を習得し、日中ビジネスの相違点などを理解させ、中国の経済に関する基本的な知識を身につけさせることが本講義の目標である。

【授業計画】

2回の講義で、1課を進める予定である。各課の内容は下記の通りである。

1. 招聘状
2. 訪日日程
3. 礼状
4. 値段交渉
5. パートナー探し
6. 引き合いとオファー
7. 決済について

【評価方法】

平均点に出席を加味し評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

商務中国語（出版社：マナハウス）

【参考文献・資料】

授業のとき、指示する。

ビジネス中国語 II

杜 英起

【授業の概要】

本講義は、ビジネス中国語Iと共に中国語でのビジネスに必要なとなる全般的な知識を紹介することを目的とする。講義の内容には、中国の経済状況と日・中経済交流の全般に対する紹介から、日・中貿易および対中投資の実務まで、ビジネスに関する幅広い知識が含まれる。具体的には、駐在員の生活、商談、交渉、そして通関などのようなさまざまなビジネスの場面で各講義のテーマとなる。

【授業の目標】

対外貿易関係の基本的な知識と専門用語を習得し、日中ビジネスの相違点などをよく理解するとともに中国の経済に関する基本的な知識を身につけてもらうことが本講義の目標である。

【授業計画】

- 2回の講義で1課を進める予定で、各課の内容は下記の通りである。
8. 信用状
 9. 包装と輸送
 10. 保険について
 11. 商品検査
 12. クレーム (一)
 13. クレーム (二)
 14. 中華人民共和国涉外経済契約法

【評価方法】

平均点に出席を加味して評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

ビジネス中国語 (出版社: マナハウス)

【参考文献・資料】

授業で指示する。

中国語作文 2

曹 志偉 嚴 萍

【授業の概要】

二年半ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることをねらいとする。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目指し、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要なとなる平易な文章だけでなく、各文体に沿って練習を重ねることで社会のさまざまな場面で使用される実用な文体を身につけることも目標とする。

【授業計画】

学習のペースとしては、教科書の構成に沿って学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

- 第七課 契約書
- 第八課 就職書類
- 第九課 記述文
- 第十課 説明文
- 第十一課 感想文
- 第十二課 意見文

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

中国語作文 1

曹 志偉 嚴 萍

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることをねらいとする。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目指し、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要なとなる平易な文章だけでなく、各文体に沿って練習を重ねることで社会のさまざまな場面で使用される実用な文体を身につけることも目標とする。

【授業計画】

学習のペースとしては、教科書の構成に沿って学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

- 第一課 文章記号と文章形式
- 第二課 自己紹介
- 第三課 書き付けと招待状
- 第四課 日記
- 第五課 手紙
- 第六課 電子メール

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門 1

大森信徳 曹 志偉

【授業の概要】

第二外国語として二年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な実務通訳ができる実力を養成する。高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることをねらいとする。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の6級または7級に合格する程度の2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目・表現をマスターしてゆく。

【授業計画】

教科書は通訳が必要とされるさまざまな状況を想定して、各課ごとに一つのシチュエーションを取り上げて構成されている。それぞれの状況でよく使われる語彙・表現を学習した上で、日本語と中国語のリビート、通訳の練習を行う。教科書に沿って一課を二回の授業で進め、この授業では第一課から第六課まで学習する予定である。

1. 出迎え
2. ホテルにて
3. 工場見学
4. 宴席にて
5. 交渉
6. 観光ショッピング

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門 2

大森信徳 曹志偉

【授業の概要】

二年半以上中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を用い、平易な同時通訳ができる実力を養成する。高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることをねらいとする。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目指し、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等高級コース2A>か<HSK中等高級コース2B>と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには<中国語作文2>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の7級または8級に合格する程度の3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法事項・表現を身につける。

【授業計画】

教科書は通訳が必要とされるさまざまな状況を想定して、各課ごとに一つのシチュエーションを取り上げて構成されている。それぞれの状況でよく使われる語彙・表現を学習した上で、日本語と中国語のリピート、通訳の練習を行う。教科書に沿って一課を二回の授業で進め、この授業では第七課から第十二課まで学習する予定である。

1. 電話会談
2. 商品見本市
3. 納品・支払い
4. 梱包・輸送
5. 損害賠償
6. 仲裁

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

日本語論 II

窪田守弘

【授業の概要】

日本語とはどういう言語かについて、その系統、周辺の言語との関係、日本語の体系などを概観する。特に日本人の話し言葉と書き言葉の違い、地域による違い、性別による違い、階層による違いなどをまとめ、日本人がどのような言語生活を送っているかについて資料やデータを活用しながら言及していく。

【授業の目標】

日本語に関する基本的な知識を習得し、日本語や日本文化への関心を高める。

【授業計画】

日本語には多くの特徴や面白さがあり、それが現代の日本人の言語運用にどのように反映されているかを解明する。そして日本語の構造を中心として生きた日本語の諸相について、具体的な例をあげながら考えていく。本講義は、日本語と外国語との比較も随時行ない、広い視野より日本語を考え、発音・語彙・文法・文体などの領域が概観できるように配慮する。主な内容は次のようになっている。

<日本語の世界に触れる>

1. 日本語の特徴
2. 発音からみた日本語
3. 語彙からみた日本語
4. 表記法からみた日本語
5. 文法からみた日本語
6. 方言（名古屋弁）の魅力
7. 新しい日本語の特徴
8. 日本人の日本語表現

【評価方法】

学期末の試験結果、提出レポート、出席状況などで総合的に判断する。

【テキスト】

自作プリントを配布する。

【参考文献・資料】

日本語（上・下）（金田一春彦著 岩波新書）

中国語海外研修

馮富榮 杜英起

【授業の概要】

この研修は、2年次の後期から中国語しか使わない中国語講義への準備学習として位置付けられているので、今まで獲得してきた中国語の語学力をさらに磨き、高度な中国語の力の獲得と異文化との触れ合いを最大の目的とする。

この研修は、合計7週間（6週間の語学研修と1週間の観光）である。事前研修も行うが、それは研修先の紹介や注意事項の説明などである。語学研修には、6週間の授業と天津の市内観光が含まれる。授業期間中、月曜日から金曜日まで毎日2コマの授業があるので、密度の高い研修内容なので、高い教育の効果が期待できる。具体的に説明すると「中国語読解」と「中国語会話」の2本柱で講義を進めるので、中国語の読解能力と中国語のコミュニケーション能力を徹底的に伸ばすことができる。そのほか、週に1回「中国文化講座」の授業がある。主として中国の伝統的な音楽、中国文化、水墨画、太極拳などを紹介する。

研修期間中、中国語の授業のほか、1日のホームステイ体験も計画している。さらに、中国に到着した翌日に、中国の大学生との交流会を開くので、一対一の交流ができ、中国人の大学生と一対一の友だち作りもできる。研修期間中、自分のパートナーと一緒に天津の町に出かけたり、一緒に食事にいったりすることができる。最後には、送別会を開き、そこで、研修に参加している学生は自分の中国語学習の成果を歌や踊り、または寸劇などの形で発表し、中国人の大学生は踊りや日本語スピーチなどを披露してくれる。最後の1週間は研修旅行になるが、場所は中国の青島などである。

【授業の目標】

この研修を通して、中国語を深く知り、中国語に内包されている文化的背景を理解することができ、また自分から進んで中国語を発信し、そしてそれが理解されるとき楽しさを体験することもできる。

【授業計画】

【履修上の注意】

この授業の対象者は、言語コミュニケーション学科の2年次以上の学生である。

【評価方法】

研修先の担当先生の評価を参考にして、引率者が最終の成績を出す。

【テキスト】

学生のレベルにあった教科書を使用する。研修先で提供する。

日本語表現演習 II

窪田守弘

【授業の概要】

文章の表現能力は、短期間では養成されにくいだが、少なくとも本演習では学生が自らの文章で自己表現できるようにする。従って、担当教員は、当初学生に対して小論文の書き方の様々な知識や技術を与えるにしても、最終的には学生が自身の手で自分の文章の問題点を発見し、推敲ができるような力を身につけるよう配慮する。それによって、学生が将来あらゆる分野の職業に対応できるような文章力を養う。

【授業の目標】

本演習を通して文章作成の楽しさを実感してもらい、自主的に自由な発想で文章が書けるようにする。

【授業計画】

学生は文章を書くことを苦手としているので、毎回課題を与えて自由に考えたり議論したりして、それに対する感想レポートをまとめるようにする。学生は自分の書いた文章に対して、毎回教員から直接指導を受けて、自ら問題点を明確に把握し推敲を重ねていくようになる。

本演習は新聞や雑誌の文章だけでなく、有名な小説や評論や学術論文なども補助教材として使用する。文章を徹底的に書き込むことによって、学生に真の表現力や文章力が自然につくことを目標としている。

1. ショート・ストーリー作成
2. 映画・演芸・文藝評論作成
3. 新聞や雑誌をもとにした広告文の作成
4. 短編小説の創作（資料：賢治の『風の又三郎』、漱石の『夢十夜』）
5. 自伝のまとめ（資料：論吉『福翁自伝』、映画『福沢論吉』）
6. レジメの書き方（資料：論文）
7. レジメの作成（研究発表）
8. 課題文作成（レポート提出）など

【評価方法】

毎回の発表、学期末のレポート、出席状況などで総合的に評価する。

【テキスト】

自作資料配布。

【参考文献・資料】

『賢治全集』、『漱石全集』など、授業時に随時紹介する。

日本語表現演習 III

窪田守弘

【授業の概要】

日本語表現演習Ⅰ・Ⅱにおいて、日本語にはさまざまな表現形式と内容があることを学んだが、それらの基礎的な知識や技術によって、さらに専門的な日本語表現についての分析と考察を進めていく。本演習では学生の自発的な参加を求めているが、学生自らの力で考える習慣を身につけ、それを口頭発表することによってディスカッションやプレゼンテーション能力を高めていくように配慮する。

【授業の目標】

日本語の専門的な知識を得て、それが学生の文章表現に活用できるようにする。

【授業計画】

1. 動詞の基本的な体系を考える。
動詞の役割、動詞の変化、動詞の種類、補助動詞の役目、授受動詞、「する」と「なる」動詞など
2. 敬語表現の理論と実践
敬語の意義、敬語表現の現実、敬語体系の分析、常体と敬体、敬語行動、新しい敬語法など
3. プレゼンテーションの方法を学ぶ
口頭発表の準備、資料の収集と整理の仕方、テーマの絞り方、レジメの作成法、ディスカッションの進め方、全体討議（ディスカッション）の在り方の練習など

【評価方法】

授業中の発表内容や参加態度、提出課題の内容、学期末のレポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

配布資料を主な教材とするが、授業時に簡単なテキストを指示する予定である。

【参考文献・資料】

授業時に提示する。

日本語学Ⅰ

山内啓介

【授業の概要】

言語の基本である音声を科学的、客観的に提示し、日本語がどのような発音から構成されているかをみていく。

【授業の目標】

日本語話者として話している日本語の発音がどういうものか客観的に理解することを目標とする。

【授業計画】

- 1 文字と音声
- 2 発音のメカニズム
- 3 日本語の音
- 4 韻律現象

以上の構成で主に講義の形で授業を進める。
日本語話者としての受講者の直感、意見等も積極的に講義の中に取り入れていく。
随時、課題を出す。

【評価方法】

学期末試験、および課題を評価の対象とする。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

プリント資料を配布する。

日本語表現演習Ⅳ

山内啓介

【授業の概要】

日本語表現演習Ⅰ～Ⅲで学習した作文技術、口頭発表技術を、議論と討論における言語技術として高める。日本語によるディベートと目的に応じたプレゼンテーションを実践する。

【授業の目標】

ディベートのルールを知り、論証による口頭表現を学ぶ。
プレゼンの主張を論理だてて構成できるようにする。

【授業計画】

テーマを設定し、ディベートをおこなう。

- 1 日本語ディベートの効果
- 2 ディベートのルール
- 3 2人制ディベート方式
- 4 ディベートのテーマと問題点
- 5 討論の応用

プレゼンテーションツールを用いた口頭発表をおこなう。

- 1 ホームページとプレゼンテーション
- 2 ウェブサイトとコンテンツ
- 3 パワーポイントとテンプレート
- 4 説得することは聞き手の立場を知ること
- 5 ツールの応用

【評価方法】

出席と参加度30%、実践練習50%、発言とコミュニケーション20%で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

頭を鍛えるディベート入門（松本茂（1996）講談社 BLUE BACKS）
日本語ディベートの技法（松本茂（2001）七寶出版）

日本語学Ⅱ

山内啓介

【授業の概要】

日本語学はⅠ、Ⅱ、Ⅲまであり、日本語学Ⅱは現代日本語の文法現象の中から基本的なことから、重要なトピックまでをとりあげて解説し、演習の形式で学習をおこなう。言語学、日本語学の手法で分析し、日本語の体系を理解していく。

【授業の目標】

日本語話者として日本語の成り立ちを客観的に理解し、日本語に親しむことを目標とする。

【授業計画】

次の項について、現代日本語の文法現象を整理し、その体系を理解する。

- はじめに 国語と日本語
- 1 日本語の基本構造
 - 2 構造の階層性
 - 3 文を情報の単位として
 - 4 述語の型
 - 5 助詞
 - 6 自動詞と他動詞
 - 7 受動文
 - 8 使役文
 - 9 テンスとアスペクト
 - 10 主題の「は」

【評価方法】

学期末試験60%、課題20%、出席20%で評価をおこなう。

【テキスト】

指定しない。プリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

日本語概説書、日本語をテーマとしたもの。

日本語学 III

山内啓介

【授業の概要】

語彙について概論的な理解を得る。そのために術語や理論を学習して、言語研究の応用方法を解説する。

また、意味についての研究史から、意味の基本三角形、指示の意味、差異化、概念の外延と内包、関係の意味などの基本知識を得る。

【授業の目標】

語と語彙の違い、語彙論の基礎を学び、また、意味の研究について興味を持つようにする。

【授業計画】

- 1 はじめに 語と語彙
- 2 語彙論とは何か 語の単位・語彙調査・語彙表
- 3 語の延べと異なり 資料体の総量・古典対照語彙
- 4 基本語彙について 基礎語彙・基幹語彙・語彙量
- 5 語彙の構造 分類基準・意義・形態・語性・地域
- 6 語誌の研究 語源・語義・本義・派生義・語構成
- 7 語種 和語・漢語・外来語・混種語・カタカナ語
- 8 語と意味 意味とは、意味の捉え方・語義反義語
- 9 語の意味の研究 指示の意味・意味の基本三角形
- 10 関係の意味 象徴記号・概念と用法・語義の差異
- 11 意味分析の方法 文脈の意味・臨時的意味・比喻
- 12 語の意味変化について 意味の変遷・辞書の記述
- 13 日本語語彙の特徴 死語・流行語・若者語・造語
- 14 語彙史と辞書史 字引き・索引・コンゴードダンス
- 15 語彙研究の課題・意味研究の将来

【評価方法】

学期末試験による。出席を重視する。

【テキスト】

プリント資料を配布する。

【参考文献・資料】

語彙について各講座などの参考書をから文献を紹介する。

日本語特殊講義 II

窪田守弘

【授業の概要】

最近、日本人でありながら過去の時代古い文献が読めなくなっている。そこで、明治の著名な作品を通して、生の原文に触れるようにする。明治や明治以前のもは漢文力がなければ、なかなか原書で読めるものではない。そこで、ときには現代語訳によってその著者の凡その考えを理解するようにするが、学生が特に苦手とする漢文の読解力を身に付けるようにしたい。

【授業の目標】

日本語の文献で学生の関心のある資料に関しては、各自が分担して発表を行うようにする。特に、漢文の資料は、少なくとも分担した部分が原書で読めるような読解力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

日本語の漢文の資料を中心に読解を心がける。本講義はこれまでの日本語関連の知識をもとに、日本人の弱点となっている漢文読解力をつけるために、いくつかの資料をじっくり時間をかけて読むようにする。

【評価方法】

授業時の発表、レポートの内容、出席状況などで評価する。

【テキスト】

配布プリント

【参考文献・資料】

講義時に紹介する。

日本語特殊講義 I

山内啓介

【授業の概要】

日本語教材の研究をすすめる
ウェブサイトの日本語教育用資料を活用して、日本語学習の遠隔教育による支援を探る。ホームページに学習用、研究用のサイトを公開、e-Japaneseを目指す。

【授業の目標】

ウェブで学習教材を作成して、ホームページを作りながら日本語教育の遠隔支援について実践する。

【授業計画】

次の項にしたがって、講義と実践をおこなう。

- 1 インターネットの基礎
- 2 ウェブサイトの作り方
- 3 ホームページ利用の日本語学習
- 4 日本語教材の新研究を実践

【評価方法】

作成した日本語教材を提出、それについて評価をおこなう。

【テキスト】

ウェブサイトにあるコンテンツなど。

【参考文献・資料】

ホームページを作る材料などを資料とする。

日本語教授法 I

山内啓介

【授業の概要】

日本語教授法Iは、初級日本語学習者を対象にした日本語教育方法を扱う。日本語を外国語として教える日本語教授法について、教科書のステップをふまえて講義をおこなう。

【授業の目標】

日本語学習の入門期および初級で教える学習項目について知識を得る

【授業計画】

次の項にしたがって講義をおこなう。

- 1 日本語学習入門期
- 2 日本語初級の学習
- 3 科目型と集中型
- 4 日本語教育の要点
- 5 文型積み上げ方式の教科書のステップ(1)
- 6 文型積み上げ方式の教科書のステップ(2)
- 7 文型積み上げ方式の教科書のステップ(3)
- 8 教材と教授法
- 9 音声教育
- 10 文字教育
- 11 文法教育
- 12 聴解と会話
- 13 読解と作文
- 14 日本語教育の実際
- 15 入門期、初級のまとめ

【評価方法】

レポート30%、クイズ50%、出席および議論の参加度20%で評価をおこなう。

【テキスト】

発音教材、初級教科書など。なお、必要に応じてプリント配布。

【参考文献・資料】

日本教育事典、各種ハンドブック。

日本語教授法 II

窪田守弘

【授業の概要】

外国人に対する日本語教授法の中級、上級の日本語教授法を中心に学習する。中・上級の教授法は、初級とは違った意味で教材や指導法に、より深い知識と経験が求められるが、現場の日本語教育にすぐ役立つ専門的、または分野別レベルの日本語教授法について考えてみたい。

【授業の目標】

初級の教授内容をふまえて、中・上級の段階の指導の在り方を学ぶ。専門分野の日本語教授法について理解を深める。

【授業計画】

- 講義は次のような内容とする。
- 1 学習者のニーズ（初・中・上級）
 - 2 教師の教授能力の育成
 - 3 教室でのインターアクション
 - 4 授業の観察と分析（ビデオ使用）
 - 5 教案作成と授業展開
 - 6 中・上級指導上の問題点と解決法
 - 7 中・上級学習者の傾向と対策
 - 8 日本語教材の新しい開発
 - 9 日本語教育とコミュニケーション
 - 10 日本語教育とメディア

【評価方法】

授業への出席状況、参加態度、レポートなどで評価する。

【テキスト】

自作資料、プリントの使用。

【参考文献・資料】

『タスク 日本語教授法』（日本語教育学会編、凡人社）

日本語教授法 III

山内啓介

【授業の概要】

日本語教授法Ⅲは、専門日本語、上級クラスの日本語教育を扱う。中級までの学習者は、聞く、話す、読むための日本語を中心に学習してきている。さらに日本語の書きかたなどを学習してきているが、より専門的な分野にすすんでの日本語、日本語文章の作成、そして日本語研究、日本文化研究にすすむ上級クラスがあるので、その教育法について講義する。

【授業の目標】

日本語学習の上級クラスについて、日本語文章の学習と作成、日本語研究と文化的背景などの理解を得る。

【授業計画】

- 次の項について講義をおこなう。
- 1 学習用日本語とはどんな言語か
 - 2 専門日本語とは
 - 3 上級クラスの日本語学習
 - 4 教材分析
 - 5 日本語文章の構成法
 - 6 日本事情と日本語教育
 - 7 日本文化を教える
 - 8 漢字文化
 - 8 外来語文化
 - 9 日本研究のための日本語
 - 10 これからの日本語

【評価方法】

レポート30%、クイズ50% 出席重視、議論への参加度20%で評価をおこなう。

【テキスト】

上級用日本語教材、日本語論文のテキストなどを、プリント作成、配布する。

【参考文献・資料】

専門分野の日本語文献を講義時に紹介する。

日本語教授法 IV

窪田守弘

【授業の概要】

留学生の増加にともない、日本語教師の役割も大きくなってきている。特に多様化している学習者に適した教材やテストを選び、現場に必要とされる実践的な日本語教材の取り扱い方を学ぶ。また、日本語教育における評価法についても理解を深めるようにする。

【授業の目標】

これからの日本語教育の現場で、すぐ役立つ知識や実践能力を身につけるため、具体的な項目にそって学習する。また、日本語教育に関するカリキュラム、シラバス、コースデザインなどの知識を応用できるように、実践的な講義内容としたい。

【授業計画】

- 次のような講義と演習を行う。
- 1 日本語教育の実際
 - 2 日本語教育とカリキュラム
 - 3 コースデザインのとらえかた
 - 4 シラバスデザインのあり方
 - 5 日本語学習とコーパス
 - 6 教科書・教具の作成
 - 7 テストと評価法
 - 8 日本語教師の専門性と研究分野
 - 9 日本語教育の地域性と国際性
 - 10 日本語教育とボランティア
 - 11 日本語教授法の課題
 - 12 日本語教育の現状と将来

【評価方法】

授業参加、受講生の授業態度、レポート1などで評価する。

【テキスト】

自作資料・ビデオ教材、プリントの使用。

【参考文献・資料】

『日本語教育の方法 日本教育とコース・デザイン』（大修館書店）
『日本語テストハンドブック』（日本語教育学会、大修館書店）

日本語教育入門 II

窪田守弘

【授業の概要】

言葉は文化を映し出す鏡とよく言われている。これからの日本語教育は、日本社会で実際にうまくコミュニケーションをするために、文法・発音・語彙などの正確さだけでなく、話し手や聞き手の人間関係、状況や場面に応じた言葉の使い分けが必要である。

そこで、本講義では日本語の学習者がその構造上の知識だけではなく、それが社会・文化・生活などに深く密着しているという観点から、日本語コミュニケーションの実態を明かにする。そして、日常会話での典型的な文型を分類し、発話行為の実態を理解するために基本的な談話分析も試みていく。

【授業の目標】

日本語が日本社会の中で、コミュニケーションの手段としてどのような機能を果たしているかを学ぶ。

【授業計画】

人と人がコミュニケーションを円滑にするには、人間関係の中できちんとしたルールがある。それをいろいろな角度から観察し、分析してみるとおもしろい発見がある。

1. 話し手と聞き手の人間関係
2. 敬語の仕組みとその応用
3. 授受動詞の実際と応用
4. 標準語と方言の関係
5. コミュニケーション行動
6. 日常会話の分類と分析
7. 発話行為と談話分析
8. 第二言語習得

【評価方法】

課題レポート、学期末のレポート、出席状況などで総合的に判断する。

【テキスト】

プリント配布

【参考文献・資料】

講義時に随時紹介する。

日本語・日本文化講読 I

窪田守弘

【授業の概要】

言葉は文化を映し出す鏡とよく言われている。これからの日本語教育は、日本社会で実際にうまくコミュニケーションをするために、文法・発音・語彙などの正確さだけでなく、話し手や聞き手の人間関係、状況や場面に応じた言葉の使い分けが必要である。

そこで、本講義では日本語の学習者とその構造上の知識だけではなく、それが社会・文化・生活などに深く密着しているという観点から、日本語のコミュニケーションの実態に併せて若者文化などの関連も理解できるようにする。

【授業の目標】

日本語の構造を歴史と文化の変遷の中でとらえ、各時代別の特色を明らかにしていく。

【授業計画】

1. 話し手と聞き手の人間関係
2. 敬語の仕組みとその応用
3. 授受動詞の実際と応用
4. 標準語と方言の関係
5. 第二言語習得
6. コミュニケーション行動
7. カルチュラル・スタディーズ
8. 若者文化と映像素材（映画・アニメ・マンガなど）

【評価方法】

課題レポート、学期末のレポート、出席状況などで総合的に判断する。

【テキスト】

プリント配布

【参考文献・資料】

講義時に随時紹介する。

日本語史・日本語教育史 I

山内啓介

【授業の概要】

日本語の歴史は1945年を画期に話し言葉を主として変化を始める。日本語教育の歴史は1980年代に大きく転換期を得る。日本語と日本語教育の歴史についての認識はわたしたちの日本語をとらえる上で重要であることを論じたい。

【授業の目標】

日本語および日本語教育の歴史をどう見るかについて学び、言語と教育の接点を理解する。

【授業計画】

- 次の項について講義し、受講生と議論を深める。
1. 日本語の歴史
漢文と英語教育
 2. 日本語教育の歴史
戦後とアジア地域
 3. 日本語史と日本教育史
遣唐使派遣から留学生10万人受け入れ政策まで
 4. 歴史から得るもの
日本語教育の普遍性

【評価方法】

レポート60%、出席と参加度40%で評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業時に、日本語教育史の文献を紹介する。

日本語・日本文化講読 II

山内啓介

【授業の概要】

日本語講読は、日本語テキストの読み取りを学習する。テキストについて日本文化を読み解き、日本文化論の変容について受講生とともに考えたい。日本語の背景にある日本語コミュニケーションと言語文化の問題を探究する。

【授業の目標】

1945年以降の日本文化論の歴史区分を学習し、それぞれに時期における日本文化の議論について知識を得る。現代の視点で、日本文化の捉え方を学習する。

【授業計画】

次の項にしたがって、日本文化論の内容を捉える。

1. 日本文化論とは
2. 日本文化論の変容
3. 菊と刀——文化人類学から
4. 特殊性、歴史的相対性
5. 日本文化の肯定的特殊性
6. 日本人論と日本文化議論
7. 日本文化議論のキーワード
(1) ギリ
(2) 甘え
(3) たて社会
(4) 間人主義
(5) グローバリズム
8. 文化基盤
9. クール・アニメ・若者文化
10. 日本文化論の流れ

【評価方法】

出席、レポートによる。

【テキスト】

日本文化論の変容（青木保 中央公論社（1990））

【参考文献・資料】

テキストで取り上げている言語と文化についての文献を紹介する。

日本語史・日本語教育史 II

窪田守弘

【授業の概要】

日本語の文章・文体は、大きく口語体と文語体に分けられるが、それは平安時代の漢文訓読の試みに始まり、明治の言文一致運動が大きな契機となった。近代では近隣のアジア諸国で行われた国語教育と現在の日本語教育がどのような関係にあったかを分析する。

【授業の目標】

口語文と文語文の歴史と背景を調べ、それが時代の変遷とどのような関係にあるかを学ぶ。

【授業計画】

日本語がどのような歴史的な背景で発展し、現在の日本語に至ったかを調べる。特に、日本語は口語体と文語体の相違が大きいが、それはどのような理由によるものかを考える。また、日本語は戦前・戦中・戦後の社会的変動に大きな左右されたが、それが現在の若者の日本語にどのような影響を受けたのかについても歴史と教育の面から分析していきたい。

1. 漢文・漢文訓読法について
2. 和漢混濁文について
3. 談話調・口語体の文章
4. 戦前の国語教育と政策
5. 日本語教育の変遷と歴史
6. 口語文と文語文について
7. 現在の口語文の文法構造
8. 若者の口語文の特色

【評価方法】

課題レポート、学期末のレポート、出席状況などで総合的に判断する。

【テキスト】

プリント配布

【参考文献・資料】

講義時に随時紹介する。

日本語教育海外研修

山内啓介 窪田守弘

【授業の概要】

日本語教育海外研修を9月に、南京師範大学で行う。
日本語教育実習を実施する。
日本語を学ぶ南京師範大学外語学院大の日本語科学生に対して3週間行う。海外での異文化体験、旅行を含めて行われる。

【授業の目標】

日本語教育実習として授業の見学参加、教壇実習する実際に教えることを実践体験する。異文化の中での生活を通して視野を広める。

【授業計画】

日本語教育実習説明会で具体的に通知する。
説明会は3回行い、参加者は説明会で登録届けをする。

第1回 (予定)	4月下旬
第2回	6月上旬
第3回	7月下旬

【評価方法】

実習指導者の評点と授業記録、教育指導案、そして教壇実習の成果を総合的に評価する。

【テキスト】

日本語教育実習のために (予定)

【参考文献・資料】

説明会会場で指示する。

専門演習 I

松本青也

【授業の概要】

アメリカの言語とその背景文化について、様々な角度から理解を深める。

【授業の目標】

今や世界共通語とも言われるアメリカ英語と、日本人の考え方や生き方にも大きな影響を与えているアメリカ文化を考える。アメリカで高い評価を受けている哲学者や評論家などの思想に触れ、人生、孤独、愛などの基本的なテーマについて日米の思想を比較対照して、アメリカ人の基本的な価値観を探る。

【授業計画】

2年次前期では次のような活動を中心に進めます。

- (1) アメリカの作家、哲学者、科学者、ジャーナリストなどによる珠玉の英文の味読と討論
- (2) ゼミ合宿でのプレゼンテーションと討論
- (3) 松本ゼミのウェブサイト作成

【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況などによる総合評価

【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、ウェブサイトからの資料

専門演習 I

McDANIEL, Edwin R.

【Course description】

The world's population is becoming more and more international as people work, study, and travel in other countries. Today, meetings between people from different cultures are very common. Intercultural exchanges can cause misunderstandings and conflicts, and the critical factor is communication. To live and work with people who have different beliefs, values, and attitudes, you must develop good intercultural communication skills.

This seminar studies culture, communication, and how culture influences communication. The different topics studied will be determined by, and adapted to, the students' interests. Each student will be expected to identify a particular area of interest and develop a degree of expertise in that area. The emphasis will be on comparing Japan with other cultures, and the class should be of particular interest to students who anticipate engaging in a significant amount of intercultural communication.

【Course objectives】

- ・ Provide an appreciation of what culture is and how it influences daily life.
- ・ Examine the interaction between culture and communication
- ・ Explore cultural differences in different contexts.
- ・ Gain skills to become a competent intercultural communicator

【Course schedule】

Class meetings will be a combination of lecture, discussion, and activities. Topics examined may include, but are not limited to, the following:

- ・ Culture
- ・ Communication
- ・ Intercultural Communication
- ・ Cultural Adjustment and Culture Shock
- ・ Cultural Identity
- ・ Cultural Diversity
- ・ Examination of National Cultures (e.g., China, Mexico, Korea, etc)

【Assessment】

Class participation, short written or oral reports, and at least one class presentation each term relating to the selected topic of interest will be used to evaluate student progress. During the third year, students will concentrate on writing their senior thesis.

【Textbooks】

Short reading assignments will be provided in class.

専門演習 I

山内啓介

【授業の概要】

言語コミュニケーションの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を学びながら演習受講生の理解と関心を深める。

【授業の目標】

実践的な知識を学ぶ。

【授業計画】

次の項について講義と演習を行う。

- 1 日本語学 (1) コミュニケーションと音声学
- 2 日本語学 (2) コミュニケーションと音韻論
- 3 日本語学 (3) コミュニケーションと文法・形態論
- 4 日本語学 (4) コミュニケーションと文法・統語論
- 5 日本語学 (5) 日本語と語彙について
- 6 日本語学 (6) 日本語意味論について

【評価方法】

演習におけるプレゼンテーションを評価する。
議論の参加と発言を参考とする。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

言語学大辞典の日本語の項目 (三省堂 第2巻世界言語編 1569ページ)

専門演習 I

馮 富榮

【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすことと、多角的に中国の社会について幅広く考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化を紹介することで、もう一つは中国の現代社会に特有な社会現象を紹介することである。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人っ子政策などの例が挙げられる。この授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていく方法を取る。

【授業の目標】

2年生前期の目標は、中国語聴解能力を集中的に伸ばすことと、HSK試験4級の合格である。

【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、教員主導で授業を展開する。具体的に説明すると、教員は本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明するが、受講者は本文の翻訳を行う。できないところは教員が補足的な説明を加える。練習問題は、受講者各自でやってくるが、講義のはじめにその答えあわせをしながら、できないところや間違ったところを説明する。場合によっては宿題として出すこともある。宿題として出すとき、ノートに問題を写した上、答えを書く必要がある。それを教員に提出し、教員がそれを添削した後、受講者に返す。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、日常的に行う。また、速いスピードで講義を進める予定なので、予習と復習が必要である。要するに、本専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階になると、中国語によるディスカッションなど、いわゆる受講者の応用能力の養成に重点が移っていく。

【評価方法】

平常点で評価する。

【テキスト】

《漢語教程》第二冊下 (北京語言文化大学出版社)

専門演習 I

窪田守弘

【授業の概要】

日本語コミュニケーションについて、特に「談話分析」などの先行研究を概観し、日常会話における日本語の基本的な文型や表現形式をまとめる。その際に、日本映画(アニメを含む)やテレビ・ドラマのシナリオや字幕などを主な資料として分析を試みる。

また、本ゼミでは「談話分析」という新しい理論を習得し、それを応用して日本語コミュニケーションの教材開発の可能性も研究する。

【授業の目標】

日本語の「談話分析」の基礎的な理論を習得し、コミュニケーションにどう活用できるかを学ぶ。

【授業計画】

日本人の日常会話は自然に行なわれているようであるが、実はそこには多様な必然的なルールがある。その実態を詳しく調べるため多くの会話場面のサンプルを集め、「談話分析」という方法論で考察を進めていく。なお、分析は日本語に関する文献だけでなく、アニメやマンガなども素材として調べていく予定である。

<基礎的な会話分析>

1. 会話とは何か。
2. 会話の順番取りとシステム
3. 会話とトピックの組織化
4. 会話の制度的状況とは何か。
5. 制度的状況と会話分析
6. 会話分析と日本語記述の種類

【評価方法】

授業態度、出席状況、課題レポートの内容などを総合的に判断する。

【テキスト】

配布プリント、ビデオ、DVDなど。

【参考文献・資料】

演習時に随時紹介する。

専門演習 I

MOLDEN, Danny T.

【Course description】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

【Course objectives】

1. To introduce students to the ideas of rhetoric in communication.
2. To improve the students' use of English.
3. To help the students understand the variety of ways people can communicate.

【Course schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

専門演習 I

McGEE, Jennifer J.

【Course description】

This seminar focuses on mediated communication in its many different forms. Mediated communication is any communication that goes through a medium or channel between the speakers. This can mean telephones, magazines, books, radio, television, movies and the Internet. This seminar will look at the effects of technology on the ways we communicate. This seminar has two areas of study-theoretical and practical. Studying media theory means you will learn about how media works and why communication in the media is different from face-to-face communication.

【Course objectives】

To understand how mass media influences our lives and communication.

【Course schedule】

The schedule will be flexible. Topics will depend on student interests and current events.

【Assessment】

Grades will be based on attendance, participation in class, and short reports.

【Textbooks】

There will be no certain textbook, but there will be various readings in Japanese and English.

専門演習 I

杜 英起

【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすことと、多角的に中国の社会について考えることが本講義の目的である。講義の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例が挙げられる。この授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていく方法を取る。

【授業の目標】

2年生前期の目標は、中国語聴解能力を集中的に伸ばすと同時には、HSK試験の4級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするときも、提出してもらってそれを添削した後、受講者に返すときもある。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるディスカッションなど、いわゆる学生たちの応用能力の養成に重点を移していく。2年生の目標は、中国語能力検定の3級や準2級に合格すること、または、中国のHSK試験の5級か6級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

【評価方法】

平常点で評価する。

【テキスト】

漢語教程 第二冊 (北京語言文化大学出版社)

【参考文献・資料】

講義のとき、指示する。

専門演習 I

WRINGER, Paul

【Course description】

This course will attempt to cover some of the many aspects of life in contemporary Britain. Through articles, short documentary films, and other published materials, students will be introduced to facts and information on the aspects of life in Britain shown below.

As well as reading and writing about and discussing various topics, the students will be expected to relate what they have understood to similar aspects of their own culture.

British and Japanese cultural awareness will be used to encourage analytical and imaginative participation of students in the language learning process. This course is based around genuine communication and will take into account genuine contexts, reproducing realistic conditions through pair and group work, interviews, and presentations.

【Course objectives】

- To increase student's knowledge and awareness of all aspects of British and Japanese culture.
- To raise student's English language ability levels by practicing the four skills of reading, writing, listening and speaking, as well as improving pronunciation and building vocabulary.

【Course schedule】

- Each topic will be covered over a two to three week period
- WHAT IS BRITAIN?
 - CULTURAL DIVERSITY
 - CUSTOMS AND HABITS
 - EDUCATION
 - THE MEDIA

【Assessment】

Grades will be determined from the following:

- ATTENDANCE
- HOMEWORK ASSIGNMENTS
- PRESENTATIONS
- PARTICIPATION IN PAIR/GROUP WORK
- SHORT END OF SEMESTER REPORTS

【Textbooks】

No set text. Handouts will be prepared and made available.

専門演習 I

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

This seminar will begin to examine Australian language and culture, along with the main situations and events which have influenced it. The emphasis will be on starting to understand the language and culture of modern Australia.

【Course objectives】

By developing a better appreciation of Australian language and culture it is hoped that the students will have more affinity for Australia and Australian people.

【Course schedule】

A wide range of magazines, newspaper articles, TV shows, DVD documentaries / movies etc. will be used to help the students become acquainted with the language and culture which is uniquely Australian.

Topics to be covered: Australian-Food / Shopping / Facts and Figures / Famous people / Leisure activities etc.

【Assessment】

Students will be required to keep a detailed record (and commentary) of the things that they have learnt (from classes AND their own research). In addition, they will need to discuss / record their opinions.

Attendance/Classwork 50%

File 50%

【Textbooks】

No text required

専門演習 I

CHARLEBOIS, Justin

【Course description】

Gender is the socio-culturally constructed meanings attached to "masculinity" and "femininity." While gender is ever-present in our daily lives, most people remain largely unconscious of it due to its "naturalness" in the society that we live. Therefore, it varies across cultures and changes over time.

In this seminar, we will study the meaning of gender and its influence on communication. Specifically, we will look at how gender is constructed in various institutions such as the media, schools, and workplaces. The course is not limited to the study of language, but it will examine the relationship between gender and language. In addition to examining socio-psychological concepts related to gender, we will examine the relationship between gender and discourse. The goals of the seminar are to increase your English and communicative ability and heighten your awareness of gender-related issues.

【Course objectives】

- Introduce students to gender and how it is socially constructed.
- Introduce students to the concept of discourse and deconstruct the relationship between gender and discourse.
- Examine cross-cultural and generation-specific dimensions of gender construction.

【Course schedule】

- Gender and society
- Gender and discourse
- Gender and the media
- Gender and the workplace
- Gender and education

【Assessment】

- Class attendance
- Homework assignments
- Term papers

専門演習 II

松本青也

【授業の概要】

アメリカの言語とその背景文化について、様々な角度から理解を深める。

【授業の目標】

今や世界共通語とも言われるアメリカ英語と、日本人の考え方や生き方にも大きな影響を与えているアメリカ文化を考える。アメリカで高い評価を受けているジャーナリストや学者などの思想に触れ、職業観、生と死、幸福などの基本的なテーマについて日米の思想を比較対照して、アメリカ人の基本的な価値観を探る。

【授業計画】

- 2年次後期では次のような活動を中心に進めます。
- (1) アメリカの作家、哲学者、科学者、ジャーナリストなどによる珠玉の英文の味読と討論
 - (2) 各自が選んだテーマについて、インターネットによる情報検索やE-mailでの情報収集をもとにした研究発表
 - (3) 研究小論文の執筆

【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況などによる総合評価

【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、ウェブサイトからの資料

専門演習 II

McDANIEL, Edwin R.

【Course description】

This seminar continues the study of culture and communication. Students will examine how culture influences both oral and nonverbal communication. The emphasis will be on comparing Japan with other cultures. Classroom activities will be used to demonstrate the practical application of intercultural communication.

【Course objectives】

- ・ Increase student awareness of globalization
- ・ Provide an understanding of the role of culture in daily life
- ・ Examine the interaction of culture and communication
- ・ Build an appreciation for international diversity

【Course schedule】

Class meetings will be a combination of lecture, discussion, and activities. Students will be expected to participate in the discussions.

【Assessment】

Class attendance, class participation, short written or oral reports, and occasional class presentations will be used to evaluate student progress.

【Textbooks】

All readings will be provided.

専門演習 II

山内啓介

【授業の概要】

専門的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

【授業の目標】

日本語学の各分野、日本語教育の諸問題、日本文化論、日本語コミュニケーションについて各自のテーマを立てて問題追求を行う。

【授業計画】

- 専門演習 I につづき、日本語学、日本語教育の演習を行う。
- 次のテーマで受講生と演習を行う。
- 7 日本語教育と日本語コミュニケーション
 - 8 日本語コミュニケーションのケース・スタディ
 - 9 日本語コミュニケーションが必要な場面とその会話
 - 10 日本語学の理論
 - 11 日本語教育の実践
 - 12 日本語と文化

なお、課題の発見は広く領域をとって国語教育や日本文化などの問題に及ぶことがあってよい。

- 文献解題 問題点と調査・実験 演習は2回を担当する
 プレゼンテーションにはそれぞれ、レジュメを用意する
 1回目：文献選択、内容の抄録、梗概説明、問題提起
 2回目：課題提示、トピックとアンサー、調査実験のプロセス

演習の参加は、発表について事前準備に3週間は必要とする。あらかじめ、発表当番をエントリーし、計画的に学習が進められるように話し合い、プレゼンテーションを実行する。

【評価方法】

プレゼンテーションによる。

【テキスト】

特がない。
各自の発表用レジュメ

【参考文献・資料】

授業時に示される。

専門演習 II

馮 富榮

【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすことと、多角的に中国の社会について幅広く考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例がある。また授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていくという方法を取る。

【授業の目標】

2年生後期の目標は、中国語の会話能力を集中的に伸ばすと同時にHSK試験の5級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするか、宿題として出す。それを先生が直してから受講者に返す。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるディスカッションなど、いわゆる学生たちの応用能力の養成に重点が移っていく。

【評価方法】

平常点で評価する。

【テキスト】

《漢語教程》第三冊 (北京語言文化大学出版社)

専門演習 II

窪田守弘

【授業の概要】

「談話分析」に関する論文の主要なものを資料とし、日本語コミュニケーションの実態を整理する。そして、今日的課題があればそれを分類しながら、学生自らの課題として考察を進めていく。日常会話では無意識に取り上げるトピックや選択手順などが、一定の条件下では、かなり限定的、かつ複雑な言語行動となっている。学生はその現象を的確に把握するために、さまざまな場面を明確に顕在化させるための分析方法論が学べるようにする。演習は学生が主体となり、十分時間をかけて議論や発表ができるように配慮する。

【授業の目標】

実際のコミュニケーションの中で、談話の構造や理論がいかに応用されているかを調べる。その際、映画やアニメといった映像を素材としての分析も試みる。

【授業計画】

日本語コミュニケーションの概念を明確にするため、「談話分析」に関して基礎から応用まで、主な理論と方法論に理解を学ぶ。その際に、外国の文献のみならず日本のマスメディアの資料も参考にしながら、詳しく調べていく。

＜発話と行動の分析について＞

1. 発話の構成単位と機能
2. 発話行為と展開
3. 発話の基本的スタイル
4. 談話構造
5. 形式と機能
6. 談話分析の方法論上の考察

【評価方法】

授業態度、出席状況、課題レポートの内容などを総合的に評価する。

【テキスト】

配布プリント、ビデオ、DVDなど。

【参考文献・資料】

『日本語の談話の構造分析』（ポリール・ザトラウスキー著、くろしお出版）

専門演習 II

McGEE, Jennifer J.

【Course description】

This seminar focuses on mediated communication in its many different forms. Mediated communication is any communication that goes through a medium or channel between the speakers. This can mean telephones, magazines, books, radio, television, movies and the Internet. This seminar will look at the effects of technology on the ways we communicate. This seminar has two areas of study-theoretical and practical. Studying media theory means you will learn about how media works and why communication in the media is different from face-to-face communication.

【Course objectives】

To understand how mass media influences our lives and communication.

【Course schedule】

The schedule will be flexible. Topics will depend on student interests and current events.

【Assessment】

Grades will be based on attendance, participation in class, and short reports.

【Textbooks】

There will be no certain textbook, but there will be various readings in Japanese and English.

専門演習 II

MOLDEN, Danny T.

【Course description】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

【Course objectives】

1. To continue to introduce students to the ideas of rhetoric in communication.
2. To improve the students' use of English.
3. To help the students understand the variety of ways people can communicate.

【Course schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

専門演習 II

杜英起

【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすことと、多角的に中国の社会について考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例がある。また授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていくという方法を取る。

【授業の目標】

2年生後期の目標は、中国語の会話能力を集中的に伸ばすと同時にHSK試験の5級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするときもあり、また宿題として出してもらってそれを添削した後受講者に返すときもある。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるディスカッションなど、いわゆる学生たちの応用能力の養成に重点が移っていく。2年生の目標は、中国語能力検定の3級や準2級に合格すること、または、中国のHSK試験の5級か6級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

【評価方法】

平常点で評価する。

【テキスト】

漢語教程 第三冊（北京語言文化大学出版社）

【参考文献・資料】

講義のとき、指示する。

専門演習 III

McDANIEL, Edwin R.

【Course description】

This seminar continues the study of culture and communication. Students will examine how culture influences both oral and nonverbal communication. The emphasis will be on comparing Japan with other cultures. Classroom activities will be used to demonstrate the role of culture in daily life.

【Course objectives】

- ・ Provide an appreciation of what culture is and how it influences daily life.
- ・ Examine the interaction between culture and communication
- ・ Explore cultural differences in different contexts.
- ・ Gain skills to become a competent intercultural communicator

【Course schedule】

Class meetings will be a combination of lecture, discussion, and activities. Students will be expected to participate in the discussions.

【Assessment】

Class attendance, class participation, short written or oral reports, and occasional class presentations will be used to evaluate student progress.

【Textbooks】

Short reading assignments will be provided.

専門演習 III

山内啓介

【授業の概要】

自らのテーマについて演習発表を行う。
プレゼンによる発表と議論をおこなう。
演習Ⅱに続いて、演習Ⅲではより深くテーマを探究する。

【授業の目標】

演習参加者と議論を通して問題解決を知る。

【授業計画】

プレゼンテーションの当番を決めて発表を行う。
発表には資料探索、データ収集、文献整理など、必要な手順を踏むようにする。
文献情報を確かめるようにし、必要事項をメモする。
また、インターネット検索はURL、サイト名など、アクセス日とともに記録をするようにする。

- 13 インターネット日本語
- 14 日本語研究

【評価方法】

出席、プレゼンテーションによる。

【テキスト】

特に定めない。
プリント資料配布。

【参考文献・資料】

プレゼンに応じて紹介する。

専門演習 III

馮 富榮

【授業の概要】

この授業では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループ分けする。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点をまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で報告する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習Ⅲと専門演習Ⅳは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成することができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできるように期待されている。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、幅広い分野の知識を得られるだけでなく、中国語のコミュニケーション能力をアップすること、社会問題を含めいろいろな問題について自分で考え、自分の考えをみんなの前で堂々と述べる力を身に付けることが期待できる。

【授業計画】

前期では、関連文献や先行研究の学習を主とする。具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

- (1) 学生の関心のある話題や、研究テーマについての調査を実施する。
- (2) 人数的に比較的集中できる研究テーマを選出し、それに従って学生をいくつかのグループに分ける。
- (3) 各個人が研究のテーマに関する先行研究を探したり、ホームページなどで興味のある話題について調べたりしてきて、各グループ内でそれを中国語で発表する。そして、グループごとに先行研究や、発表した材料についてディスカッションを行う。
- (4) 先行研究や、興味のある話題に関する材料をグループでまとめ、まとめられた結果をゼミ全員を対象にグループ毎に発表する。発表のポイントは、先生は授業で説明する。

【評価方法】

平常点、研究課題の取り組み姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

【テキスト】

プリントと自作教材

専門演習 III

窪田守弘

【授業の概要】

学生による課題発表や討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。発表時のレジュメ作成を積極的に進める。

【授業の目標】

学生が言語と文化について総合的な知識が得られるように、「カルチュラル・スタディーズ」の理論と実践行動を体系的に学ばせる。

【授業計画】

日本語やコミュニケーションのさまざまな資料を通して、日本人の言語行動のパターンを学ぶ。特にカルチュラル・スタディーズという観点から、サブカルチャーの受容についてしらべて、各自が発表と討論を通じて日本人の言語と文化観を分析する。

【評価方法】

演習時の発表態度、提出レポートや作品、出席状況などで総合的に評価する。

【テキスト】

カルチュラル・スタディーズ (上野俊哉・毛利嘉孝著 ちくま新書)

【参考文献・資料】

演習時に随時紹介する。

専門演習 III

MOLDEN, Danny T.

【Course description】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

【Course objectives】

1. To continue to introduce students to the ideas of rhetoric in communication.
2. To improve the students' use of English.
3. To help the students understand the variety of ways people can communicate.

【Course schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

専門演習 III

McGEE, Jennifer J.

【Course description】

This seminar focuses on mediated communication in its many different forms. Mediated communication is any communication that goes through a medium or channel between the speakers. This can mean telephones, magazines, books, radio, television, movies and the Internet. This seminar will look at the effects of technology on the ways we communicate. This seminar has two areas of study-theoretical and practical. Studying media theory means you will learn about how media works and why communication in the media is different from face-to-face communication.

【Course objectives】

To understand how mass media influences our lives and communication.

【Course schedule】

The schedule will be flexible. Topics will depend on student interests and current events.

【Assessment】

Grades will be based on attendance, participation in class, and short reports.

【Textbooks】

There will be no certain textbook, but there will be various readings in Japanese and English.

専門演習 III

杜 英起

【授業の概要】

この授業では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループ分けする。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点などをまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で発表する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習IIIと専門演習IVは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成させることができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできると期待できる。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

【授業の目標】

本講義の受講によって、幅広い分野の知識を得られるだけでなく、中国語のコミュニケーション能力をアップすること、社会問題を含め様々な問題について自分で考え、自分の考えをみんなの前で堂々と述べる力を身に付けることが期待できる。

【授業計画】

前期では、関連文献や先行研究の学習を主とする。具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

- (1) 学生の関心のある話題や、研究テーマについての調査を実施する。
- (2) 人数的に比較的集中できる研究テーマを選出し、それに従って学生をいくつかのグループに分ける。
- (3) 各個人が研究のテーマに関する先行研究を探したり、ホームページなどで興味のある話題について調べたりしてきて、各グループ内でそれを中国語で発表する。そして、グループごとに先行研究や、発表した材料についてディスカッションを行う。
- (4) 先行研究や、興味のある話題に関する材料をグループでまとめ、まとめられた結果をゼミ全員を対象にグループ毎に発表する。発表のポイントは、先生は授業で説明する。

【評価方法】

平常点、研究課題の取り組み姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

【テキスト】

漢語教程 第三冊 (北京語言文化大学)
自作教材

【参考文献・資料】

講義のとき、指示する。

専門演習 III

WRINGER, Paul

【Course description】

Review and further in depth study of various aspects of British language and culture with a comparison to similar aspects of Japanese culture.

【Course objectives】

- ・ To consolidate and review previous topics.
- ・ To further introduce students to different aspects of British and Japanese culture.
- ・ To develop and practice the four skills of reading, writing, listening and speaking.

【Course schedule】

The following topics will be covered over a two to three week period :

- ・ Multicultural faiths
- ・ British and Japanese fashion
- ・ The British Royal family and Japanese Imperial family
- ・ English language

【Assessment】

Grades will be determined from the following :

- ・ Attendance
- ・ Homework and assignments
- ・ Presentations
- ・ Participation in pair/group/whole class activities

【Textbooks】

No set text.

Handouts will be prepared and made available.

専門演習 III

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

This semester will be spent reading, speaking, and listening to contemporary Australian English. News articles, from Australian media sources, will be used to generate group discussions. Pair discussions will utilize vocabulary and themes taken from Australian pop music magazines.

【Course objectives】

Students will be given ample opportunities to appreciate the issues and events which are currently at the forefront of Australian peoples lives, whilst exploring the words, slang, and idiomatic expressions used by Australian people.

【Course schedule】

Each lesson will be divided into three parts:
Part A: reading and discussion
Part B: Pair discussions
Part C: Vocabulary/ Language explanation

【Assessment】

Students will be required to keep a detailed record and commentary of the things that they have learnt (from classes AND their own research).
Attendance / Classwork 50%
File 50%

専門演習 III

CHARLEBOIS, Justin

【Course description】

Gender is the socio-culturally constructed meanings attached to “masculinity” and “femininity.” While gender is ever-present in our daily lives, most people remain largely unconscious of it due to its “naturalness” in the society that we live. Therefore, it varies across cultures and changes over time.

In this seminar, we will study the meaning of gender and its influence on communication. Specifically, we will look at how gender is constructed in various institutions such as the media, schools, and workplaces. The course is not limited to the study of language, but it will examine the relationship between gender and language. In addition to examining socio-psychological concepts related to gender, we will examine the relationship between gender and discourse. The goals of the seminar are to increase your English and communicative ability and heighten your awareness of gender-related issues.

【Course objectives】

- Introduce students to gender and how it is socially constructed.
- Introduce students to the concept of discourse and deconstruct the relationship between gender and discourse.
- Examine cross-cultural and generation-specific dimensions of gender construction.

【Course schedule】

- Gender and society
- Gender and discourse
- Gender and the media
- Gender and the workplace
- Gender and education

【Assessment】

- Class attendance
- Homework assignments
- Term papers

専門演習 IV

松本青也

【授業の概要】

グループによる研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考える。

【授業の目標】

様々な課題について考察しながら、研究テーマを発見し、英語による発表能力を高める。

【授業計画】

各自の研究テーマについて、英語による研究発表（メディアを駆使した本格的なプレゼンテーション）を中心に、現代アメリカ英語と文化のさまざまな課題を取り上げます。

【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、ウェブサイトからの資料

専門演習 IV

McDANIEL, Edwin R.

【Course description】

This seminar continues the study of culture and communication. Students will begin to apply knowledge learned from previous seminars. A major focus of this class will be to begin exploring different topics related to culture and communication that can be used for the senior thesis. Classroom discussions will emphasize greater use of English and the ability to understand academic material relating to culture. Practical application activities will be used to demonstrate how to analyze the influence of culture and communication in daily settings.

【Course objectives】

- Provide an understanding of what culture is and how it influences daily life.
- Examine the interaction between culture and communication
- Explore cultural differences in different contexts.
- Gain skills to become a competent intercultural communicator

【Course schedule】

Class meetings will be a combination of lecture, discussion, and activities. Students will be expected to participate in the discussions.

【Assessment】

Class attendance, class participation, short written or oral reports, and occasional class presentations will be used to evaluate student progress.

【Textbooks】

Short reading assignments will be provided in class.

専門演習 IV

山内啓介

【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、4年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

【授業の目標】

演習参加者と議論を通して問題解決を知る。

【授業計画】

日本語学、日本語教育、日本文化などの演習を行う。日本語学、日本語教育、国語と日本語、日本語と文化など、また応用言語学について、自らの研究テーマを探究する。次の演習を行う。

プレゼンテーションをおこなう。
レポート・論文を作成する。

【評価方法】

プレゼンテーション、レポート、研究発表、討議の参加をみて、総合的に評価を行う。

【テキスト】

発表用資料。
日本語学・日本語教育の論文、専門書。

【参考文献・資料】

プレゼンに応じて紹介する。

専門演習 IV

窪田守弘

【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。レジュメ作成から論文の原稿への導入を図るため、資料を十分に読みこなす力を養う。

【授業の目標】

次年度のプロジェクトに向けて、毎時間学生の発表に教員が指導する中で、自分の研究テーマを絞り準備していく。

【授業計画】

プロジェクト作品を作成する中から疑問点をいくつか選び、それが完成するまでの過程を計画的に実行する。そして、各自が設定したテーマについて個人発表して、内容を充実させる。

1. 日本語の文法
2. 日本語の文章
3. 日本語の構造
4. 日本人の発想と国際感覚
5. 日本人の言語観と伝統文化
6. 言語行動とコミュニケーション

【評価方法】

提出レポート、出席状況などで評価する。

【テキスト】

日本語練習帳（大野晋著 岩波新書）

【参考文献・資料】

自作資料配布

専門演習 IV

馮 富榮

【授業の概要】

この講義では、自由自在に中国語を使って、コミュニケーションする能力を高めることを最大の目標としている。授業は演劇という形を取って進めている。具体的に言うと、3回の講義で一つの演劇を完成させる。1回目の講義では劇の内容を説明し、役割分担を決める。その後、簡単な発音練習をする。2回目の講義では各グループで練習するが、教員は発音だけでなく、感情やしぐさの指導もする。3回目の講義では、各グループ毎に発表をする。長い台詞を全部暗記しなければならないし、その上、丸暗記ではなく、感情を込めて覚えなければならないので、大変だと予想できるが、半年訓練した後、自由自在に中国語でコミュニケーションすることができるようになると期待できる。要するに、専門演習IVは、まもなく始まる就職活動の準備作業に当たる。この講義で磨かれている中国語の能力は社会からも高い評価が得られるように工夫している。授業は、講義式ではなく、学生が主体となっていくことになる。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、中国語のコミュニケーション能力を高めることができる。つまり、自分の考えや言いたいことを堂々と人の前で、自由自在に話すことができるようにすることがこの講義の最大の目標である。そのほかに、HSK初中等試験の6級か7級の取得も目標として掲げている。

【授業計画】

3年の後期では、主として5つの演劇を完成させることができるように、授業を展開していく。

- 1) 劇1:「有朋自遠方来」(1回～3回の講義で完成させる)
- 2) 劇2:「民以食为天」(4回～6回の講義で完成させる)
- 3) 劇3:「賓至如帰」(7回～9回の講義で完成させる)
- 4) 劇4:「助人為楽」(10回～12回の講義で完成させる)
- 5) 劇5:「送別」(13回～15回の講義で完成させる)

上記した5つの劇はすべて自作したオリジナル教材であるが、どれもこれも日本人の留学生が中国でホームステイをしていたときの出来事である。主な内容は文化習慣などの違いによって起きた誤解や中国人との友情などであるが、それを笑いを交えながら、ユーモアに再現することができるように工夫している。要するに、上記の演劇によって、日中文化の違いをよりよく理解し、両国が世世代代友好していくために、民間交流がいかに大切かが感じられるのではないかと期待している。教材はCDに作るが、その役者には中国のプロの俳優もいるので、学生たちは自宅で発音の練習だけでなく、役者の演技を学ぶこともできる。

【評価方法】

平常点、演劇に取り組む姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

【テキスト】

自作教材

専門演習 IV

MOLDEN, Danny T.

【Course description】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

【Course objectives】

1. To continue to introduce students to the ideas of rhetoric in communication.
2. To improve the students' use of English.
3. To help the students understand the variety of ways people can communicate.

【Course schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

専門演習 IV

McGEE, Jennifer J.

【Course description】

This seminar focuses on mediated communication in its many different forms. Mediated communication is any communication that goes through a medium or channel between the speakers. This can mean telephones, magazines, books, radio, television, movies and the Internet. This seminar will look at the effects of technology on the ways we communicate. This seminar has two areas of study-theoretical and practical. Studying media theory means you will learn about how media works and why communication in the media is different from face-to-face communication.

【Course objectives】

To understand how mass media influences our lives and communication.

【Course schedule】

The schedule will be flexible. Topics will depend on student interests and current events.

【Assessment】

Grades will be based on attendance, participation in class, and short reports.

【Textbooks】

There will be no certain textbook, but there will be various readings in Japanese and English.

専門演習 IV

WRINGER, Paul

【Course description】

In this section of the course, topics already studied will be reviewed through group discussions, short reports, and presentations. In addition there will be further in depth study of different aspects of British and Japanese culture.

【Course objectives】

- ・ To consolidate and review previous topics.
- ・ To further introduce students to different aspects of British and Japanese culture.
- ・ To develop and practice the four skills of reading, writing, listening and speaking.

【Course schedule】

The following topics will be covered over a two to three week period :

- ・ The British way of life today
- ・ Health and welfare
- ・ Occupations and the economy
- ・ Britain and the wider world

【Assessment】

Grades will be determined from the following :

- ・ Attendance
- ・ Homework and assignments
- ・ Presentations
- ・ Participation in pair/group work and whole class activities

【Textbooks】

No set text.
Handouts will be provided and made available.

専門演習 IV

杜 英起

【授業の概要】

本講義では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループ分けする。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点などをまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で報告する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習IIIと専門演習IVは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成することができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできるように期待されている。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、幅広い分野の知識を得られるだけでなく、中国語のコミュニケーション能力をアップすること、社会問題を含めいろいろな問題について自分で考え、自分の考えをみんなの前で堂々と述べる力を身に付けることが期待できる。またHSK初中等試験の6級か7級を取ることも狙っている。

【授業計画】

後期では、4年次のプロジェクトで引き続き取りこんでいく研究テーマを各グループで議論して決定する。それを完成させるための準備作業に入る。具体的には以下のステップを踏んで、授業が展開される。

- (1) 各グループでディスカッションをして4年次のプロジェクトという必修科目で取りこむ研究テーマを最終的に決定する。
- (2) 研究テーマを完成させるための研究計画をグループで議論し、12月までには決める。
- (3) 各学生は自分の研究テーマに関する先行研究を調べ、それを授業のときグループ内で報告する。

【評価方法】

平常点、研究課題の取り組み姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

【テキスト】

漢語教程 第三冊 (北京語言文化大学)
自作教材

【参考文献・資料】

講義のとき、指示する。

専門演習 IV

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

This semester will involve further study of important Australian icons, famous people, and famous events. In addition, other aspects of Australian language and culture (which the students have yet to come-across) will be explored.

【Course objectives】

Misunderstandings with Australians, based on language and cultural differences, are not confined to non-native English speakers. Even dealings between Australians and British or American people are fraught with problems.

Appreciating and understanding the unique characteristics of the Australian psyche will aid in future relations between Japanese and Australians.

【Course schedule】

Discussions will cover such topics as:

- Australian ways of thinking
- religion in Australia
- multiculturalism in Australia
- misconceptions about Australia
- discrimination in Australia

【Assessment】

Classwork / Attendance 50%
File 50%

専門演習 IV

CHARLEBOIS, Justin

【Course description】

Gender is the socio-culturally constructed meanings attached to “masculinity” and “femininity.” While gender is ever-present in our daily lives, most people remain largely unconscious of it due to its “naturalness” in the society that we live. Therefore, it varies across cultures and changes over time.

In this seminar, we will study the meaning of gender and its influence on communication. Specifically, we will look at how gender is constructed in various institutions such as the media, schools, and workplaces. The course is not limited to the study of language, but it will examine the relationship between gender and language. In addition to examining socio-psychological concepts related to gender, we will examine the relationship between gender and discourse. The goals of the seminar are to increase your English and communicative ability and heighten your awareness of gender-related issues.

【Course objectives】

- ・ Introduce students to gender and how it is socially constructed.
- ・ Introduce students to the concept of discourse and deconstruct the relationship between gender and discourse.
- ・ Examine cross-cultural and generation-specific dimensions of gender construction.

【Course schedule】

- ・ Gender and society
- ・ Gender and discourse
- ・ Gender and the media
- ・ Gender and the workplace
- ・ Gender and education

【Assessment】

- ・ Class attendance
- ・ Homework assignments
- ・ Term papers

080321002_1550 掲載順 : 1550

MASTER ★

異文化コミュニケーション

佐藤良子

【授業の概要】

本講義では、異文化コミュニケーションの基礎的な概念や理論について取り上げる。本講義を通じ、文化がコミュニケーションにどのような影響を与えるのかを理解し（認知）、文化の違いによる衝突に直面したら、どう受け止め（感情）、解決するにはどう行動したらいいか（行動）学習する。

【授業の目標】

授業目標は、1) コミュニケーションの過程における文化の影響の理解、2) 言語と非言語コミュニケーションの役割と文化的相違性の理解、3) 異文化接触を通じて獲得できる自己成長要因の理解、4) 異文化接触がもたらす弊害の理解、5) 自文化中心性の仕組みの理解とその解消、6) 異文化コミュニケーション能力の獲得である。

【授業計画】

- ① (異文化) コミュニケーション
- ② 文化
- ③ 言語コミュニケーション
- ④ 非言語コミュニケーション
- ⑤ ステレオタイプ
- ⑥ 人種偏見・人種差別
- ⑦ 対人コミュニケーション
- ⑧ カルチャーショックと異文化適応
- ⑨ 異文化間トレーニングと異文化間教育

【評価方法】

筆記試験や出席率、小レポート、グループ課題で成績評価をする。

【テキスト】

未定

080321002_1560 掲載順 : 1560

MASTER ★

プロジェクト

松本青也 McDANIEL, Edwin R. 山内啓介 馮 富榮 窪田守弘 MOLDEN, Danny T. McGEE, Jennifer J. 杜 英起 WRINGER, Paul WOODMAN, Jo-Anne CHARLEBOIS, Justin

【授業の概要】

4コースそれぞれの分野において、個性を生かした多様な学習・研究活動の目標を主体的に選択、設定させ、各自の目標達成に向けて適切な指導を加える。

【授業の目標】

大学における4年間の学習・研究活動の集大成として自主的な活動に取り組み、優れた業績をあげさせる。

【授業計画】

学習・研究業績には、論文のほか、言語コミュニケーションの実践の場としての1ヶ月以上にわたる海外ボランティア活動、実用英語検定試験1級、HSK8級合格などが含まれる。なお、論文以外は報告書を提出するものとする。週2回の授業時間は、原則として1回を全員参加による演習、他の1回を個人指導に充てる。

<主な日程>

- ・ 5月2日（金）「プロジェクト計画書」提出締切り：4月17日以降、研究棟1階事務室窓口にある用紙に記入して1号棟3階レポートボックスに提出。
- ・ 6月2日（月）『プロジェクト概略』提出締切り：5月15日以降、研究棟1階事務室窓口にある用紙に記入して1号棟3階レポートボックスに提出。
- ・ 個別指導の日程、論文の梗概提出、初稿提出などの詳細は指導教員の指示による。
- ・ 12月19日（金）午後4時：論文もしくは報告書提出締切り（12月10日より研究棟1階事務室で受け付け）

【評価方法】

授業担当者より、別途指示。

【テキスト】

授業担当者より、別途指示。

【参考文献・資料】

授業担当者より、別途指示。

080321002_1560 掲載順 : 1560

MASTER ★

比較文化論 I (日・米)

松本青也

【授業の概要】

集団が共有する価値観や規範の体系としての文化について、日本とアメリカを比較対照して、それぞれの文化の特質を浮き彫りにするとともに、異文化理解を深める方法についても考察する。

【授業の目標】

日米の文化を比較することで、それぞれの文化の特質を認識して異文化理解を深め、普遍的価値とは何かを考察する。

【授業計画】

アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由に伸びやかな生き方が目の前に広がります。

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則 (CTR)
10. システムとしてのCTR
11. 研究対象としてのCTR
12. 日英語の衝突とCTR
13. CTRと学校英語教育
14. これからの日米文化
15. まとめ

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

日米文化の特質 (松本青也 研究社)

比較文化論 II (日・欧)

山井德行

【授業の概要】

日本と欧州の関係を歴史的に概観しながら、日本人の中に生成されてきたヨーロッパのイメージを点検する。そのような関係性の中に、日本人としてのヨーロッパ理解の実態が浮き上がる、と思うからである。次に、ヨーロッパ精神の源流をギリシャ文化とキリスト教、さらには近代合理主義の中に求める。以上のような理解をした上で、地理的にヨーロッパをとらえて、具体的な国々の特徴を見て行く。

そして、現代に生きる同時代人としての日本人とヨーロッパ人の具体的な生き方において、比較文化的考察を行う。

時間があれば、ヨーロッパ連合の問題を取り上げたい。2004年には加盟国15ヶ国が25ヶ国に拡大した。2007年1月にはルーマニアとブルガリアが加盟した。トルコの加盟は世界情勢とも関連し多くの議論がある。

【授業の目標】

ヨーロッパの多様性に内在する共通性を把握し、日本と比較することによって世界を見る複眼的視点を獲得すること。

【授業計画】

第1週	授業のやり方や準備の仕方を説明する。
第2～4週	日本とヨーロッパの関係を探る。
第5～7週	ヨーロッパ文明の根幹をなすキリスト教や科学主義について講義する。
第8～10週	具体的なヨーロッパの国々と生活。
第11～12週	日本人の生き方、ヨーロッパ人の生き方。
第13～15週	整理とまとめ。

2004年の授業では、イラクにおける「日本人拉致事件」を題材に日本とヨーロッパとの反応を比較した。2005年度と2006年度は特になかったが、もし今年度、関連する事件が起こればその時事問題を題材に比較文化を試みることもありえる。Power Pointを使って授業をする予定です。

【評価方法】

定期試験の結果で行う。

【テキスト】

特になし。プリントを配布。

【参考文献・資料】

沈黙のこぼれ (エドワード・T・ホール著 [The Silent Language (Edward T. Hall)])
 「英語と日本人」(太田雄三著 講談社学術文庫)
 「ことばと文化」「教養としての言語学」(鈴木孝夫著 岩波新書)
 「方法序説」(デカルト 中公文庫)

比較文化論 IV (日・中東)

澤江史子

【授業の概要】

現代の国際政治において重要な位置を占める中東イスラーム世界について、イスラームの教義や政治社会の成り立ち、現代の民族紛争、イスラーム復興、国際政治という多角的側面からアプローチする。事例としては前近代において西洋世界を凌駕する文明を築いたオスマン帝国と現代中東の地域大国であるトルコを中心に取り上げる。

【授業の目標】

中東イスラーム世界に関する情報はテロや抑圧に関するものが圧倒的であり、それがイスラームやムスリムに対する偏見を増殖させている。この授業では、中東イスラーム世界におけるダイナミズムの多様な意味や可能性を学び、マスメディア情報の背景を読み解く力をつけることを目指す。

【授業計画】

1. イスラーム世界を見る目
*我々に潜むオリエンタリズム
2. イスラームの教義と文明
*イスラームとは何か
*オスマン帝国の繁栄：多民族多宗教の共存システム
*西洋近代の台頭とオスマン帝国の崩壊：国民国家化と紛争
*近代日本とイスラーム
3. 現代のイスラーム復興
*イスラーム復興運動とは何か
*イスラーム復興と女性
4. 国際政治とイスラーム
*トルコのEU加盟問題
*冷戦後のイスラーム世界とアメリカ

【評価方法】

授業中の課題および試験によって評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

オスマン帝国-イスラーム世界の「柔らかな専制」(鈴木董 講談社現代新書 1992年)、イスラームとは何か (小杉泰 講談社現代新書 1994年)。
 その他、授業中に適宜指示する。

比較文化論 III (日・アジア)

伊 大辰

【授業の概要】

(概要) アジア諸国の中でも、特に日本と深い関わりのある韓国を取り上げ、日本の文化交流から歴史認識までを含めた内容で、日韓の同質性と異質性について理解を深める。

前半は日本と、韓国の文化・習慣の違いについて説明する。主として、両国の食文化、風俗習慣、建築文化、漢字文化、交流文化及びお茶とお酒の文化などをテーマにし、講義し、比較する。

後半は「日韓両国の歴史認識への接近」をテーマに、古代から近世までの略史を学んだ後、韓国近代史に焦点をあて、まず自らを点検し、共有する歴史認識の確立をめざし、今後のあるべき姿を模索していこうとするものである。

【授業の目標】

学生のアジア諸国に対する真の理解を深めることを目的としている。本講座では特に韓国の文化風習および日本との交流を多面的に紹介し、「誠信・善隣」の意義を深めるところにある。

【授業計画】

1. 朝鮮半島の自然と文化・風土
2. 韓国の祝日と風俗習慣
3. 韓国の社会生活から見た文化比較
4. 韓国の家族制度と姓・本貫
5. 言語表現から見た文化比較
6. 日本の中の渡来文化
7. 日本列島と朝鮮半島
8. 江戸初期と「朝鮮国」との関係
9. 江戸時代の朝鮮通信使から見た文化交流の意義
10. 雨森芳洲から学ぶ文化交流の意義
11. 近代における日本と朝鮮半島
12. アジア諸国から見た日本
13. 日韓文化交流の意義
14. まとめ
15. 期末試験

【評価方法】

期末試験60%、レポート20%、出席率・平常点20%を加味して総合的に判断する。

【テキスト】

自作教材

【参考文献・資料】

金河基監修図説「韓国の歴史」(河出書房新社)

比較文化論 V (日・中)

杜 英起

【授業の概要】

中国の花の文化、食の文化、お酒の文化、建築の文化(民居、庭園)、そして漢字の文化を紹介し、儒教の思想の真髄を探究する。よって、日本の文化と中国の文化の接点を探るとともに、それぞれの文化の特質を浮き彫りにする。目的は、日・中両国間の相互理解を深めることにある。

【授業の目標】

日中文化の共通点と相違点をよりよく理解し、違いを乗り越えて真の友好関係を築くために自分が何をすればよいかを考える力を身につけてもらうことが目標である。

【授業計画】

1. 漢字の生まれ
2. “象形文字” などについて
3. “形声文字” などについて
4. 漢字の文化内包について
5. 色について
6. 数字と文化
7. 日中の比喩表現について
8. 日中文化同源
9. 東洋文化と西洋文化

【評価方法】

レポートと出席率で評価する。

【テキスト】

日中比較文化論 (出版社：マナハウス)

【参考文献・資料】

講義のとき、指示する。

ビジュアルコミュニケーション

中村信次

【授業の概要】

「ヒトは『視覚的動物』である」と言われるように、われわれの行動に視覚情報の与える影響は非常に大きい。さらに近年、マルチメディア通信技術の発達により、情報量の大きな視覚情報が容易に伝達可能となってきた。本講では、主に視覚認識に関する人間の生理学的・心理学的メカニズムを論じることにより、「視覚情報伝達=ビジュアルコミュニケーション」を成り立たせている人間の視覚情報処理の理解を試みる。

【授業の目標】

本講により、人間の視覚認識メカニズムを正しく理解し、それを効果的にビジュアルコミュニケーションに応用するために必要な基礎知識が得られる。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 視覚情報処理とビジュアルコミュニケーションとの関係
- 3・4 視覚の生理学（眼球光学系、網膜、視覚中枢）
- 5・6・7 視覚の心理学（時間特性、空間特性、奥行き知覚）
- 8 視覚理論
- 9 視覚応用1（ヒューマンインタフェース）
- 10 視覚応用2（視覚芸術）
- 11 視覚応用3（視覚障害とその支援）
- 12 新しい時代の視覚コミュニケーション
- 13 まとめ

【評価方法】

期末評価として行う論述試験に加え、講義内でのミニレポートを課す。積極的な授業参加（質問、意見表明等）を歓迎し、評価の加点対象とする。

【テキスト】

使用しない。レジュメを配布する。

言語への認知的アプローチ

増田尚史

【授業の概要】

人間の知的活動の一つとしての言語行動について、それを支える脳と心的表象（mental representation）とを中心的トピックとしつつ、認知心理学および認知科学的観点から、可能な限り広範囲にわたって検討を加える。なお、教養科目の「心理学」など心理学に関する基本的科目を履修済みか同時履修していると、本講義内容の理解に役立つと思われる。

【授業の目標】

本講義の目標は、われわれ一人一人の日々の言語活動がどのようなモノ（脳）とコト（心的表象）とに支えられているかを修得し、われわれをとりまく言語環境がいかなるものであるのかを再発見してもらうことにある。

【授業計画】

1. 言語の歴史
2. 言語の獲得
3. 言語行動と記憶活動
4. 言語行動を支える脳部位と失語症
5. 心的辞書
6. 文法と文の理解
7. われわれをとりまく言語環境

ただし、受講者数等に鑑みて、順序および内容に変更を加えることもある。なお、方言や敬語に関する社会学的および社会言語学的考察については、本講義の対象としないので、履修にあたっては考慮されたい。また、日常では意識化されない言語行動の一端に目を向けてもらうために、授業の中で各種の調査や実験を実施する。

【評価方法】

レポートの成績（80%）と、授業への出席および調査等への参加協力の程度（20%）とによって評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜資料を配付する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

リスク・コミュニケーション

元吉忠寛

【授業の概要】

私たちは、数多くのリスク（事故・災害・犯罪・環境・食・医療）に囲まれて生活しています。心理学を中心とした社会科学的な視点から、リスクというものについて理解し、リスクに関わるコミュニケーションについて考えます。

【授業の目標】

将来、自分の生活の中で大きなリスクが降りかかってきたときに困らないように、現代社会におけるリスクの特徴を理解する。

【授業計画】

1. 授業ガイダンス
2. リスクとは何か
3. リスク・イメージとリスク認知
4. 意思決定におけるリスク認知のバイアス
5. ゼロリスク症候群とリスクの社会的受容
6. ヒューマンエラーのメカニズム
7. 組織におけるリスク・マネジメント
8. 医療リスクと患者の意識
9. 災害リスクと防災行動
10. 環境と持続可能な社会の構築
11. 安全・安心・信頼
12. リスク教育と情報
13. リスクの予防原則とは
14. まとめ
15. 期末試験

【評価方法】

課題レポートと、出席状況から評価します。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

講義中に紹介します。

コミュニケーション障害論

担当者未定

【授業の概要】

ことばには、日常生活の用を足す伝達の機能、人間関係を維持し発展させる社交の機能、ことばそのものを楽しむ鑑賞の機能、それに思考の道具となつて合理的判断を助ける働きがある。ことばを喋って意思を伝えること、言語を操作して考えることは人間の高次の神経活動であるが、この機能に不全がある状態を言語障害という。言語障害はさまざまな原因によって生じるが、このことを人のこころの成長や働きと関連つけて講義し、コミュニケーションに障害をもつ人にはどのような援助が必要かを考えていただく。

【授業の目標】

詳細は後日、掲示にて明示する。

【授業計画】

【評価方法】

比較文化特論

山井徳行

【授業の概要】

日本とフランスを比較する。日本人とフランス人の一生を比較しながら展開する。出生・子供時代・教育・退職後の生活などなど、人生の具体的な一こま一こまを通して日本文化とフランス文化を比較してゆく。また、フランスの社会・地理・文化的多様性を語ることで、おのずと日本との比較になると考えるので、具体的なフランスの生活風景を提示して考察したい。

【授業の目標】

具体的な生活のなかに文化的な相違を見つけて、抽象的な文化比較をする能力を涵養すること。

【授業計画】

パワーポイントを使った授業になります。フランスのテレビニュースをビデオで紹介しながら、フランスの現在も紹介する。

1. 授業のやり方や準備の仕方を説明する。
2. 誕生・出生率・国籍・子供時代
3. 大学生生活・友情・愛情
4. 仕事・余暇
5. 同棲生活・結婚・離婚
6. 家族・社交・人生の楽しみ
7. 社会問題
8. 衣食住に見る文化財・芸術
9. 第二の人生・人生の暮
10. 地方の風土と文化
11. 総括-人生を豊かにするために

【評価方法】

定期試験で行う。

【テキスト】

特になし。プリント配布。

【参考文献・資料】

ビゴーが見た日本人 (清水勲著 講談社学術文庫)
コレアン・ドライバーはバリーで眠らない|洪世和 (ホン セ ファ) みすず書房
フランス語で広がる世界 (日本フランス語教育学会編)

ノンバーバル・コミュニケーション I

野口朋香

【授業の概要】

この授業では、私達が意識的・無意識的に行うコミュニケーションのプロセスの中で、非言語コミュニケーションがどのような役割を果たしているかについて具体的な例を挙げながら考察します。

【授業の目標】

非言語コミュニケーションの基礎知識を習得し、その重要性を理解する。

【授業計画】

Introduction: ノンバーバル・コミュニケーションとは
Aspects of nonverbal communication
Body movements and gestures
Facial expression & eye behavior
Territoriality & personal space
Touching behavior
Time
The voice and vocal expression
Clothing as Communication & Personal Artifacts as communication
Environmental influences on communication

【評価方法】

授業参加および試験・レポートによって総合的に評価する

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布

ノンバーバル・コミュニケーション II

野口朋香

【授業の概要】

この授業では、私達の日常の対人コミュニケーションのしくみを学び、その中で重要な機能を果たしている非言語コミュニケーションの諸相を探ります。

また、分担発表により基本的な文献や論文を読みながら、ノンバーバルコミュニケーションに関する理解を深めていきます。

【授業の目標】

課題としてのプロジェクトに取り組みながら、身近なノンバーバルコミュニケーションについて理解するだけでなく、リサーチの意義やリサーチ方法をも学ぶ。

【授業計画】

この授業では、授業中の実験や課題を通じて、自分で実際に観察、経験することを重視し、授業への貢献を期待します。

また、音調学 (vocalics)、対物学 (objectics)、接触学 (haptics)、動作学 (kinesics)、嗅覚学 (olfactics)、近接学 (proxemics)、時間学 (chronemics) などの見地から、私達をとりまくノンバーバルコミュニケーションについてグループでリサーチし、その結果についてディスカッションを行います。

【評価方法】

授業参加および発表・レポートによって総合的に評価する

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布

中国語科教育法 I

王麗英

【授業の概要】

中学校及び高等学校の学習指導要領の趣旨に沿って、中国語科教育法について目的論、技能論、方法論を中心にして、中国語教育のあり方を考察する。中学生、または高校生を対象とする中国語教育は、どういった内容のものを教材として使ったほうがよいか、どういった指導法を取ればよいかなどについて、具体的に研究する。

【授業の目標】

中国語科教育の歴史、現状、課題などを総合的に学習することによって、中国語科教育について理解を深める。

【授業計画】

1. 中国語科教育の原点と教育理念を議論する。
2. 中国語科教育の目標を設定する。
3. 中国語科教育の内容を議論する。
 - (1) 異文化理解
 - (2) 中国語によるコミュニケーション能力 (聞くこと; 話すこと; 読むことと翻訳能力)
 - (3) 各学習期間区分の到達度
4. 教育方法について
 - (1) 教授法の歴史 (中国)
 - (2) 教授法の歴史 (日本)
5. 問題を提起する。
 - (1) 教育の内容について
 - (2) 教授方法について
 - (3) 異文化理解について
 - (4) 言語と文化の関係について
6. 改善方法について考える。
 - (1) 教育の内容について考える
 - (2) 教授法について考える
 - (3) 異文化理解について考える

【評価方法】

レポートと出席率で評価する。

【テキスト】

自作教材を使用する。

中国語科教育法 II

王 麗英

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、国際理解、異文化理解と中国語コミュニケーション能力を育成するためには、中学校では、どのような授業を行えばよいかを講義し、こちらに用意した教材を元に、学習指導案を作成してもらい、また模擬授業を実施することによって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業の目標】

中国語の特徴、指導方法などを理解した上で、各自で指導案を作成し、模擬授業をして、中国語教育の在り方を模索する。

【授業計画】

1. 外国語の教育理論
2. 外国語教育の伝統的な教授法と新しい試み
3. 中学生向けの中国語教育の特殊性と目標
4. 高校生向けの中国語教育の特殊性と目標
5. 指導案の構成
6. 指導案の作成指導
7. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、授業の在り方を考える。

【評価方法】

レポート、各自が作成した指導案と模擬授業の実施状況などで評価する。

【テキスト】

自作教材を使用する。

中国語科教育法 III

馮 富榮

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、高度な中国語コミュニケーション能力を育成するのに、どういった内容の教材を使えばよいか、またどういった指導法が学習意欲をより引き出すことができるのかを研究し、高校生向けの中国語の学習教材の作成、学習指導案の作成に取り組み、そして模擬授業を実施することによって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、日本の大学における中国語教育のあるべき姿について考える力を身に付けることが期待される。

【授業計画】

1. 従来の中国語教育に残っている問題点を整理する。
2. 会話能力を高めるための工夫
 - 1) 教材の工夫
 - 2) 授業の進め方の工夫
 - 3) 授業外の学習時間の確保についての工夫
3. 学習意欲を燃やすための工夫
 - 1) 教材の工夫
 - 2) 授業の進め方の工夫
 - 3) 学生を認めるための工夫
4. 上記した工夫を入れ込んだ教材と学習指導案の作成指導
5. グループわけをして、各自が作成した教材と学習指導案に基づいて、50分の模擬授業を実施する。
6. 授業の実践の後、グループでディスカッション形式で、授業の批評をし合う。よってよりよい授業を工夫していく。

【評価方法】

作成した教材の出来具合や普段の努力で評価する。

【テキスト】

特になし。

中国語科教育法 IV

馮 富榮

【授業の概要】

情報化が速いスピードで進んでいる中、外国語教育でもインターネットなどによるマルチメディアが発達したために画期的な変化が起ころうとしている。インターネットなどのマルチメディアによる外国語教育法は、さまざまに試みられつつある。この授業では、そうした斬新的な中国語の教育方法を試み、メディアによる中国語教育の教材や学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。よって中国語教育への新しい可能性を提起する。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、学生の視点に基づき、また学生のアイデアを生かすことのできる斬新的な中国語のメディア教材が誕生することが期待される。

【授業計画】

1. インターネットやCDROMの外国語教育のモデルを紹介する。
2. 中国語教育におけるインターネットなどのマルチメディアの利用現状を説明する。
3. 中学生、高校生向けの中国語の授業に貢献できるマルチメディア教材としては、どんなものが必要なか、またどんなものがよいかを考える。
4. 自分の考えを取り入れるような、比較的簡単に制作できるようなマルチメディア教材をグループ毎に制作する。
5. その教材に基づいて学習指導案をグループ毎に作成する。
6. グループ毎に、各自で作成した教材と学習指導案を元にした模擬授業を実施する。
7. グループ毎に、模擬授業を評価し、良い点と反省点をまとめ、今後の中国語教育への新しい可能性を提案する。

【評価方法】

教材の出来具合や普段の努力で評価する。

【テキスト】

特になし。

日本語教育実習

窪田守弘

【授業の概要】

具体的な日本語の授業を見学参加して、教育指導案に基づいて授業実習を行なう。

【授業の目標】

教壇実習を中心とする。必要に応じて、日本語教育の現場で見学参加を実践する。

【授業計画】

日本語教育実習にあたっては事前の準備を十分に行い、指導教案を作成して模擬授業を実践する。実習は学習する事柄が多いので、受講生は真剣に取り組む積極的な姿勢が欲しい。

【評価方法】

事前・事後の学習の態度、実習の参加度を評価する。
レポートを提出する。

【テキスト】

『秘伝 日本語教育実習 プロの技』(凡人社)

【参考文献・資料】

『日本語教育ハンドブック』(大修館書店)

中国現代事情

杜 英起

【授業の概要】

80年代に、中国は、経済改革、開放路線を打ち出して以来、大きな社会的な変貌を見せてきている。とくに、教育制度、教育のあり方、そして現代の生活様式、消費観念、及び政治と経済など多面にわたって、画期的な変化が起こっている。しかし、日本は中国の隣国でありながら、中国のそうした激しい変化が一般的な日本人にあまり知られていないようである。本講義では、主として中国の現代教育、経済と政治などの現状を紹介する。

【授業の目標】

中国の政治、経済及び中国人の生活など、中国の現代社会に関する幅広い知識を得ることを目標とする。

【授業計画】

1. 中国の教育
 - (1) センター試験
 - (2) 大学生
2. 中国の政治
3. 中国人の朝
4. 中国人の定年退職
5. 中国人の生活
 - (1) 朝食
 - (2) 病院
 - (3) 身障者
6. 中国の人口問題
7. 中国人の家庭
8. 中国人との付き合い

【評価方法】

レポートと出席率で評価する

【テキスト】

中国現代事情（出版社：マナハウス）

【参考文献・資料】

講義のとき、指示する。

研究方法論

高井次郎

【授業の概要】

言語コミュニケーションのテーマにおける研究を実施するための基礎的な知識と、さまざまな研究方法を取り上げる。コミュニケーション・スタイルの性差の検討法、非言語コミュニケーションの実験観察法、集団作業におけるコミュニケーション・パターンの検討法、テレビ番組の内容分析法などの具体例を紹介しながら、受講者の卒論に向けて必要な研究ツールの獲得を目指す。さらにレポートや研究報告の書き方についての指導も行う。

【授業の目標】

授業目標は、1) 研究を実施するための基礎的な知識の獲得、2) 研究目的および仮説の設定法の理解、3) さまざまな研究方法の紹介とその実施法についての教授、4) データのまとめ方と研究報告書の書き方の指導である。

【授業計画】

1. 研究とは何か
2. 研究の企画および計画の立て方
3. 研究法の種類とそれぞれのメリット・デメリット
4. 実験法
5. 観察法
6. 調査法
7. 内容分析法
8. ～11. データのまとめ方
12. ～14. 報告書の書き方
15. 研究実施のための倫理的配慮

【評価方法】

期末試験による。

【テキスト】

社会心理学研究入門（末永俊郎著 東京大学出版）

【参考文献・資料】

適宜紹介する

統計学 I

石橋善弘

【授業の概要】

コンピュータを用いた統計解析能力の育成を念頭において、確率論および統計学の基本的概念を講義し、統計と社会との関わりあいについて学ばせる。

【授業の目標】

統計学の応用能力の習得

【授業計画】

- | | |
|----------|------------------|
| 第1回 | 本講義の目的および授業計画の提示 |
| 第2回～第6回 | 確率論 |
| 第7回～第11回 | 統計学の基礎的概念の解説 |
| 第12回 | 補足とまとめ |
- また、随時Excelの利用訓練を行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

統計学 II

石橋善弘

【授業の概要】

コンピュータを用いた統計解析能力の育成を念頭において、統計学および推計学の基本的概念を講義し、統計と社会との関わりあいについて学ばせる。

【授業の目標】

統計学の応用能力の習得

【授業計画】

- | | |
|----------|-----------------------------------|
| 第1回 | 本講義の目的および授業計画の提示 |
| 第2回～第4回 | 統計学の基礎的概念の解説 |
| 第5回～第8回 | 推計学の基礎的概念の解説 |
| 第9回～第11回 | 言語コミュニケーション学に関係の深い統計学、推計学の応用問題の解説 |
| 第12回 | 補足とまとめ |

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

ジェンダーと社会

中島美幸

【授業の概要】

文学作品を始めとする「表現」を取り上げ、「女」「男」がどのように描かれているか、また、なぜそのように「女」「男」が描かれたのか、社会的・歴史的・心理的視点から考える。また、「表現」された「女」「男」によって、社会や個人がいかに固定的なイメージに縛られているかを認識し、さらに、固着したイメージから自由な、現実の多様な女と男の生と性を「表現」に探る。

【授業の目標】

「表現」を分析する能力を高めることで、社会の身近なところにさまざまなジェンダー問題が存在することに気づき、自らの生き方を考える機会とする。

【授業計画】

- 第1回 講義概要説明
- 第2回 表現する女性の困難(1)——イギリス小説誕生の背景
- 第3回 表現する女性の困難(2)——樋口一葉の挑戦
- 第4回 『青鞥』の女性たちの主張
- 第5回 <母>の表現——母性神話を問う
- 第6回 <娘>の表現——恋愛と自立と
- 第7回 ことばとジェンダー
- 第8回 男性作家のジェンダー
- 第9回 幼い頃に出会った表現——「シンデレラ」
- 第10回 教科書のなかのジェンダー
- 第11回 映画のなかのジェンダー
- 第12回 <家族像>を描きなおす

【評価方法】

学期末レポートを基本に、授業毎に提出のコメントカードの総合計によって評価する。(詳細は授業にて説明する)

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

女性学・男性学

竹信三恵子

【授業の概要】

少子化時代に不可欠といわれるワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）が、戦後の日本社会でなぜ阻害されてきたのかを、新聞記者としての取材の成果を通じて明らかにし、その実現へ向けた方策をさぐる。

【授業の目標】

ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要な働き方の仕組みや男女平等のための法制度、男女がともに働いて子育てできる経済・社会構造のあり方を総合的に身につけさせ、両立できる働き方のため個人が将来をどう設計すればいいかを考えさせる。

【授業計画】

- 新聞記事、ビデオを多数使って、以下の4点から戦後の企業社会がワーク・ライフ・バランスを軽視するに至った理由と、その軽視が招いた社会の行き詰まり、今後の企業社会のあるべき方向性を示す。
1. 戦後の日本の経済政策が男女分業に支えられてきた状況とこれを可能にした社会状況～高度経済成長からバブル崩壊まで
 2. ワーク・ライフ・バランスへシフトする海外の変化への日本社会の対応法とその限界～男女雇用機会均等法・男女共同参画社会基本法と「ワーク・ライフ・バランス」
 3. 格差社会と少子化のはざままで～不安定雇用と福祉削減に揺れる「子育てできる社会」
 4. 仕事と生活を両立できる社会構造の実現～男女が働ける税制と年金制度、福祉・雇用制度とは

【評価方法】

出席日数、授業後のフィードバックシートの提出状況と内容、授業内での質問や意見発表などの貢献度で評価する。

【テキスト】

『家事の値段』とは何か（久場嬉子・竹信三恵子著 岩波ブックレット 1999年）

【参考文献・資料】

ジェンダーから見た新聞のうら・おもて～新聞女性学入門（田中和子・諸橋泰樹著 現代書館 1996年）
ワークシェアリングの実像～雇用の分配か、分断か（竹信三恵子著 岩波書店 2002年）

女性学・男性学

中島美幸

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

【授業の目標】

男女をめぐる状況は、近年大きく変化してきた。男女に関する従来の思い込みから自由になれるよう、新しい情報に接し、自己決定できるための知識を獲得する。

【授業計画】

- 第1回 講義の概要説明
- 第2回 作られる「女らしさ」「男らしさ」
- 第3回 恋愛と結婚
- 第4回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- 第5回 母になるということ、父になるということ
- 第6回 多様性とエンパワメント
- 第7回 女性に対する暴力の根絶
- 第8回 「男らしさ」からの解放
- 第9回 近代的性別分業——現在と2055年の日本
- 第10回 男女をめぐる国際比較
- 第11回 「働くしかない男」と「働けない女」
- 第12回 女性学・男性学の誕生
- 第13回 テスト

【評価方法】

学期末テストを基本に、授業毎に提出のコメントカードの総合計によって評価する。(詳細は授業にて説明する)

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

女性学・男性学

中村 彰

【授業の概要】

1999年6月に成立した「男女共同参画社会基本法」がめざす社会システムを検証し、仕事の間や家庭、地域で、私たち男女がフェアで対等に生きるとは何かを説明します。日本における女性運動、男性運動のあゆみにもふれ、先人たちの心根を学びます。セクシャル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンス、過労死、中高年の自殺など、そのときどきの社会問題を男女共同参画の視点で読み解きます。

【授業の目標】

男女共同参画社会とは何か？ 新聞などのプリント、ビデオなどで判りやすく講義します。ワークショップで自分を振り返る工夫も試みます。

【授業計画】

- 1 ジェンダーと男女共同参画社会
- 2 日常に潜むジェンダー・バイアス
- 3 女子差別撤廃条約と男女共同参画社会基本法
- 4 ドメスティック・バイオレンス
- 5 セクシャル・ハラスメント
- 6 恋愛・性をめぐるジェンダー
- 7 多様な性を考える一性自認・性指向・インターセックス
- 8 メディア・リテラシー
- 9 教育とジェンダー
- 10 仕事社会がもたらしたもの
- 11 高齢社会とジェンダー
- 12 育児支援とジェンダー
- 13 福祉・医療現場とジェンダー
- 14 ジェンダーからみた障害者問題

【評価方法】

レポートにより評価します

【テキスト】

中村彰『男性の「生き方」再考 —メンズリブからの提唱』世界思想社 2005
日本DV防止・情報センター編『デートDVってなに？ Q&A』解放出版社 2007

比較文化

文 嬉眞

【授業の概要】

国際化が進み、世界の文化について触れる機会が多くなってきた。この授業では、さまざまな文化を考察する上で必要な概念について学ぶことによって、世界の文化の特徴について考える。さらに、異文化交流についても講義する。

【授業の目標】

外国人が日本文化を見て表現したことを分析し、それによって「日本文化」を再認識することを目標とする。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

東アジアの生活と文化

楊 衛平

【授業の概要】

日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

【授業の目標】

中国の多民族の構成からそれぞれの生活・民俗・風習を中心に取り上げ、中国の歴史・宗教・食・医学・音楽などについての認識を深め、伝統的な中国文化を理解していくことが目標とする。

【授業計画】

1. 中国の民族構成
2. 儒・仏・道とは
3. 中国の年中行事
4. 医食同源食文化
5. 東西医学の比較
6. 気文化と気功術
7. 飲茶文化と歴史
8. 伝統武術と雑技
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の百家姓
12. 中国の名勝物語
13. 中国人の考え方

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

中国人・文字・暮らし（李順然 東方書店）
中国仏・道・儒教史話（劉克蘇 河北大学出版社）
中国伝統文化導論（劉榮興 河北大学出版社）

比較文化

星山幸子

【授業の概要】

国際化が進み、世界の文化について触れる機会が多くなってきた。この授業では、文化を考察する上で必要な概念について学ぶことによって、種々の文化の特徴について考える。さらに、異文化交流についても講義する。

その際、民族、国家、南北問題、ジェンダー等といったさまざまな視点から文化について考える。とくに、イスラームの文化の事例も授業のなかで取り上げる。

【授業の目標】

私たちの生活には、さまざまなモノや考え方に関する多くの情報があふれている。この授業では、複数の事例をとおして、異文化に対する視座について学習する。さらに、多様な文化や価値観を学ぶことにより自分自身の社会や文化を見つめ直すことを目標とする。

【授業計画】

1. 文化と文明
2. 文化の理解
3. 民族と国家と文化
4. ナショナリズムと文化
5. イスラームの文化
6. イスラームとジェンダー
7. トルコの農村の暮らしと文化
8. 南北問題とモノの国際化
9. 食の文化
10. グローバル化とローカル化
11. 異文化交流

【評価方法】

出席、授業中の提出物、討論と質疑応答 20%
期末試験 30%
期末レポート 50%

【テキスト】

テキストは使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考文献については、授業のなかで適宜指示する。また、ビデオなどの視聴覚資料を使用する。

国際交流

松本一子

【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNPOやNGOの活躍がめざましい。国際交流の歴史を概観しながら、主として日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のあり方について講義する。

【授業の目標】

地球市民としての意識を育むことを目標とする。

【授業計画】

1. 国際交流とは
2. 国際交流の歴史
3. 国際交流活動の現状
 - ・自治体と国際交流
 - ・地域の国際化と多文化共生
 - ・地球市民教育
 - ・ネットワークの形成と活用
4. 実践国際交流
 - ・先進的組織運営のさまざまな事例
 - ・交流から共生へ

以上を骨組みに、受講生が「自分に何ができるか」を考える材料を提供する。

【評価方法】

レポート及び平常点（リアクションカードの提出&出席率）で評価する

【テキスト】

オリジナル教材

【参考文献・資料】

草の根の国際交流と国際協力（毛受敏浩編著 明石書店 2003年）
国際交流の組織運営とネットワーク（榎田勝利編著 明石書店 2004年）

手話・点字

堀 正和

【授業の概要】

手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

【授業の目標】

手話及び点字の成り立ちがわかり、手話の簡単な日常会話の読み取りや表現ができるようになり、点字のカナ・数字・アルファベットの読み書きができるようになる。

【授業計画】

1. 視覚障害概要
2. 視覚障害者のコミュニケーション方法
3. 点字の概要
4. 点字演習
5. 聴覚障害概要
6. 聴覚障害者のコミュニケーション方法
7. 手話の概要
8. 手話演習

【評価方法】

点字や手話の読み取りや表現のテストにより行う。

【テキスト】

点訳のしおり・点字器付き（日本点字図書館）及び手話教室入門（全日本ろうあ連盟出版局）

生涯学習

山川法子

【授業の概要】

身近に繰り返し広げられている“生涯学習”について、まず知り、生涯学習の成り立ちや目的・内容等について、整理する。また、受講者自身の生涯学習について、キャリア・シートを活用しながら、考えていく。

【授業の目標】

受講者が、自らの生涯を見据えて、ライフプランを立てる方法を獲得することを目標とする。そのために、人の生涯や学習の内容等に関する基礎知識の解説と、受講者による考察を中心に行う。なお、キャリアシート等を用いた、自己分析や職業選択、ライフプラン作成の作業を行ってもらう。

【授業計画】

- 1 生涯とは
- 2 学習と教育
- 3 生涯学習とは
- 4 身近な「学習のできる場」
- 5 家庭・学校・社会
- 6 マイライフ(キャリアシート全4回)
- 7 学ぶ場の保障
- 8 まとめ

【評価方法】

レポート2回により評価する。
(レポート課題のおおまかな説明や提出期日については第1回目の授業にて伝える)

【テキスト】

テキストは特に指定しない。プリントを配布することがある。

【参考文献・資料】

生涯学習と自己実現(放送大学教育振興会、堀薫夫・三輪建二)
生涯学習論-現代社会と生涯学習(放送大学教育振興会、岩永雅也)等授業中に随時紹介する。

日本の歴史

岩口和正

【授業の概要】

社会のもっとも基礎的な構造のひとつである家族や親族関係は、時代とともに大きく変貌してきました。そして、このような変貌こそが歴史の最も大きな変動要因のひとつとなっているものです。そこで、日本歴史における家族や親族関係の特徴・変遷の意味について、東アジア諸国のそれとも比較しながら、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

【授業の目標】

- (1) 人間の歴史が日々のたえない暮らしの中からつくられることを理解する
- (2) 家族や親族をめぐるあまり変わらない歴史と大きく変わってきた歴史を学ぶ
- (3) 家族や親族の歴史と社会制度・政治制度等の歴史との関係を考える
- (4) 歴史史料に親しみ、その扱い方について習熟する

【授業計画】

- (1) 婚姻と家族・親族の諸形態1<妻問婚の特徴>
- (2) 婚姻と家族・親族の諸形態2<婿取婚と嫁取婚の成立>
- (3) 前近代日本社会における離婚法と密婚法の成立と展開
- (4) 明治民法の成立と日本近代の「家制度」
- (5) 氏・名字・姓の歴史
- (6) 戸と戸籍
- (7) イエとヤケ
- (8) イエの成立と展開1 貴族社会とイエ
- (9) イエの成立と展開2 開発領主とイエ
- (10) 家族と親族<日本の親族体系の特徴>

【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。ただし、受講者数の特に少ない場合は平常点による評価となります

【テキスト】

使用しません

【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

東洋の歴史

大森信徳

【授業の概要】

東アジア地域に大きな影響を及ぼした中国の歴史・文化について学び、その文化的特質を考察するとともに、自国の文化との比較を通じて、相互間における共通性・異質性が存在するかという点についても議論したい。

【授業の目標】

個々の事象を手がかりに、中国の文化的風土、中国人のメンタリティーについて考察し、ステレオタイプに依存した見方から抜け出して、自分なりの見識を培うことを目標とする。

【授業計画】

(1) 先史 (2) 殷周 (3) 春秋戦国 (4) 秦漢 (5) 魏晋南北朝 (6) 隋唐 (7) 宋 (8) 遼西夏金元 (9) 明 (10) 清
毎回一つないしは二つのテーマについて、基本的な示したように時代順に講義を進める予定である。文献史料のみならず、遺跡・美術品・出土文物などのモノも数多く扱うため、ビデオやOHCなどの視覚教材を積極的に活用する。

【評価方法】

期末試験およびレポートによる課題提出にもとづき総合的に評価する。

【テキスト】

毎回プリントを配布する。

【参考文献・資料】

教場で提示する。

西洋の歴史

北村陽子

【授業の概要】

ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心とした西洋の歴史を概説する。近代以降の日本にも影響を与えた「国民国家」が形成される過程を追い、「国民意識」とは何かについて理解を深める。

【授業の目標】

他者との線引きを行い、異質なものを排除するナショナリズムがどのように発展し、何によって補強されたのか。この点をナショナリズム発祥の地ヨーロッパの歴史を学ぶことで理解すると同時に、その危険性にも留意し、現代社会を建設的に分析する視点をもつようになってほしい。

【授業計画】

1. はじめに－国民国家とは何か
2. 近代国民アイデンティティ形成の前段階
3. イギリスの国民国家－「イングランド」から「イギリス」へ
4. アメリカ合衆国の国民国家－誰が「アメリカ人」か？
5. フランスの国民国家－国民共同体創出の理念型
6. ドイツの国民国家－統一国家形成までの道のり
7. おわりに－20世紀のナショナリズムと国民国家

【評価方法】

成績評価は、学期末テストをもとに行う。

【テキスト】

とくに定めない。

【参考文献・資料】

- 国民国家とナショナリズム（谷川稔 山川出版社）
- 国民国家を問う（歴史学研究会編 青木書店）
- ヨーロッパ市民の誕生（宮島喬 岩波書店）
- その他講義中に指示する。

伝統芸能

林 和利

【授業の概要】

日本の伝統芸能である能・狂言・歌舞伎・人形浄瑠璃（文楽）などの歴史や文化的意義について講義し、ビデオなどによる鑑賞も行う。

【授業の目標】

各ジャンルの概要・歴史を知り、その価値を認識して、日本人として当然わきまえるべき知識を修得する。

【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示
 2. 日本芸能演劇史概説
 3. 芸能の発生について
 4. 神楽について
 5. 伎楽・舞楽・散楽について
 6. 田楽について
 7. 猿楽について
 8. 能について
 9. 狂言について
 10. 歌舞伎について
 11. 文楽について
- また、学外で催される伝統芸能の舞台を種々案内し、各自の判断で鑑賞することを促す。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。
学外の伝統芸能を鑑賞した場合は、レポート提出により評価の対象にする。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

【参考文献・資料】

- 日本演劇全史（河竹繁俊著・岩波書店）
- 演劇百科大事典（早稲田大学演劇博物館編・平凡社）

日本の文学

堀尾幸平

【授業の概要】

日本の文学史について概説し、日本文学の特色や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

【授業の目標】

1. 文学とは何か。その定義、形態、特色などを理解する。
2. 日本の文学の著名な作品を鑑賞しながら、文学史全体を把握する。

【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙、二葉亭四迷
4. 三輪弘忠、巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 少年詩、童謡、金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑、江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉、坪田譲治
13. 平成期の文学
14. 創作の方法理論
15. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

新日本児童文学論（堀尾幸平著 中日文化 2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

書道

森美恵子

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書の美について考え、書道への関心を高める。

【授業の目標】

すぐれた古典の臨書並びに鑑賞を通して、用美一体の書作を習得し、審美眼を得させる。

【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。
書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

【テキスト】

書の鑑賞と学び方（上田桑鳩 教育図書研究会）

書道

小川晃治

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書之美について考え、書道への関心を高める。

【授業の目標】

東洋独自の文化遺産である書、用美一体の書美。
漢字、ひらがな、カタカナと世界で類を見ない最高の言語、文字を有する書と文化、この現代社会そして人々の生活の中にしっかりと存在していることを理解、認識すること。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探索することを基準として進める。

【評価方法】

レポート二種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の手本、古典法帖。

音楽

松下伸也

【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、いろいろなジャンルの名曲を鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

【授業の目標】

音楽の情操教育を通して創造性・自己表現力を養い感性を磨く。アンサンブルを体験し他人とのコミュニケーションを図る。

【授業計画】

- 第1回 自分の身体の楽器を知る
- 第2回 腹式呼吸と身体の使い方（えっ？赤ちゃんは「ラ」の音で誕生してくるの？）
- 第3回 ヴォーカルトレーニング1（腹式呼吸と身体の使い方2 男の子は腹式呼吸はすぐマスターできるのに女の子はなぜ難しい？）
- 第4回 ヴォーカルトレーニング2（腹式呼吸と身体の使い方3（柔軟）「アイーン体操」）
- 第5回 ヴォーカルトレーニング3（自分の声域を知る）
- 第6回 ヴォーカルトレーニング4（自分の楽器を磨く）
- 第7回 鑑賞1（声楽曲・声楽作品の鑑賞）
- 第8回 鑑賞2（声楽作品以外を中心とした鑑賞）
- 第9回 創作（音の出る仕組みを知る）
- 第10回 演奏法1（音楽の3要素）
- 第11回 演奏法2（コード・和音付け）
- 第12回 実践1（発表会に向けてグループ分け）
- 第13回 実践2
- 第14回 実践3
- 第15回 実技演奏発表会

【評価方法】

実技発表を5割、平常点（出席状況・授業態度・達成度・授業内でのレポート）を5割として評価する。

【テキスト】

必要に応じ適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

必要に応じ授業内で紹介する。

大衆文化

鈴木 亙

【授業の概要】

現在は大衆化社会と言われ、文化にもまた大衆に愛され、大衆に浸透したものが社会で高い地位を占めている。大衆化社会の中で流行しているさまざまな文化について考察し講義する。

【授業の目標】

消費社会における戦後若者文化の実態解明を通じて、文化の逆転現象を確認し、人間にとって消費に基づく大衆文化がいかなるものか、その本源に迫りたい。それが今後の各自にとってどういう意味があるかにも触れたい。

【授業計画】

- 1 戦後世代の特徴からみた大衆文化の諸相を探る
 - 1 : 1 団塊の世代（1965～1975）
 - 1 : 2 新人類（1980年代）
 - 1 : 3 団塊ジュニア（1990年代）
 - 1 : 4 新人類ジュニア（2005～2015）
- 2 大衆文化を支える消費社会を分析する
 - 2 : 1 現状認識
 - 2 : 2 『消費社会の神話と構造』（ボードリヤール）
 - 2 : 3 人間の本源的な欲求としての消費（G・バタイユ）
- 3 モダンの脱構築=21世紀の大衆文化との戯れ方を探る

【評価方法】

出席、受講態度、提出物によって総合的に評価する。学習意欲のある、明るく元気な学生の受講を歓迎します。

【テキスト】

必要に応じて、授業中に指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指示する。

映像文化

小倉 史

【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。欧米やアジアの映画との比較の視点から日本映画の特徴について講義し、映画への興味と関心を高める。

本講義では、特に「ホームドラマ」というジャンルに着目し、日本映画のなかで「家族」がどのように表象されてきたかを考える。比較対照として欧米の映画、アジアの映画、TVドラマなどにも幅広く視野を広げるつもりである。また、関連する映像作品は授業内に鑑賞する機会を設けたい。

【授業の目標】

「ホームドラマ」というサブジャンルを通して、映像表現の特質を理解し、映像を意識的に「読む」習慣を身につける。

【授業計画】

1. イントロダクション～映画のジャンルを考える～
2. ハリウッド映画に見る「ファミリー・メロドラマ」
3. 「ホームドラマ」の源泉
4. 「ホームドラマ」の誕生
5. 1950年代～黄金期の日本映画に見る家族の変容・解体
6. 「ホームドラマ」の様式と映像表現
7. 1980年代～「ネオ・ホームドラマ」の出現
8. TVドラマに見る「ホームドラマ」の変遷
9. 欧米・アジアの映画における家族の表象
10. 終わりに～近年の映画・TVドラマを批評する～

【評価方法】

学期末にレポートを課す。出席状況と毎回授業後に提出してもらったミニレポートの内容も加味する。

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

『映画ジャンル論』（加藤幹郎著、平凡社）
『（家族）イメージの誕生 日本映画にみる〈ホームドラマ〉の形成』（坂本佳鶴恵著、新曜社）

数学の世界

岡田克彦

【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活や他の学問分野はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているため、例えば、物理学と数学との関連、日常体験と数学の関連性といったことにもふれてみたい。

【授業の目標】

文科系の学生が、社会に出て仕事をする上で、最低限必要な数学の知識を習得させる。数学が面白くて簡単なものである事を理解させる。

【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 1 確率
- 2 統計、偏差値
- 3 ベクトル
- 4 微分
- 5 積分
- 6 物理学への応用

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

生き物の世界

江崎敏之

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業の目標】

地球上の生物の持つ共通性と特殊性を学ぶ。生命の単位である細胞という概念を知り、細胞の外部から内部への情報伝達のしくみ、細胞の発生や分化のしくみ、生殖と遺伝のしくみなどをとりあげ、生命の基本を理解する。

【授業計画】

- | | |
|----------|--|
| 第1回 | 1. 生物の多様性と一様性
1) 生物の系統
2) 生体を構成する物質 |
| 第2回～4回 | 2. 生物体のつくりとはたらき
1) 細胞の構造
2) 酵素
3) 光合成と呼吸 |
| 第5回～10回 | 3. 生命の連続性
1) 生殖と減数分裂
2) 発生と分化 |
| 第11回～13回 | 3) 遺伝
(1) 遺伝の法則
(2) 遺伝子と染色体
(3) 遺伝情報の複製
(4) 遺伝子の発現 |

【評価方法】

出席状況とテストによる。

【テキスト】

使用しない。

生き物の世界

服部一三

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業の目標】

地球という太陽系第3惑星に住んでいる種々動物・植物と人間との関わりを理解するとともに、特に、植物との関わりを中心として、今後の関わり方についても理解を得られるようにする。

【授業計画】

- | | |
|---------|---|
| 第1回 | 1. 生物界の分類
2. 生物の進化 |
| 第2～6回 | 3. 植物と人の関わり
1) 農耕の始まり
2) 世界の農耕文化
3) 日本農耕文化の起源と発展
4. 人が手を加えた植物一作物
1) 作物とは？
2) 世界の作物の起源 |
| 第7～8回 | 5. 作物改良の原理と方法
1) 作物改良の原理
(1) メンデルの法則一遺伝学
(2) 遺伝の物質的基礎 |
| 第9回 | 2) 作物の改良方法 |
| 第10回 | 6. バイオテクノロジー |
| 第11～12回 | 1) バイオテクノロジーとは？
2) 作物の改良とバイオテクノロジー
(1) 細胞・組織培養
(2) 遺伝子操作
(3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか？
(1) 倫理
(2) 安全性 |

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。
生物的自然と人間 (平田豊著 開成出版)

生命の科学

林 博司

【授業の概要】

生命の誕生、生命の維持、生体を構成する物質の特徴、遺伝の仕組み、遺伝子変異のメカニズムと機能などについてヒトの身体を例に講義する。

【授業の目標】

生命現象の多くの側面が、物理学と化学の言葉で説明できることを理解し、生命の科学が、人類の幸福にどう役立っているかを学ぶ。

【授業計画】

1. 命の惑星地球
2. 命の理解に必要な物理と化学のエッセンス
3. 命を支える器官
4. 器官を作る細胞。
5. 細胞の仕組み
6. 分子機械としての生命
7. 分子機械の設計図：遺伝子
8. 遺伝子の働き
9. 遺伝子进行操作する
10. 細胞を操作する
11. 器官を操作する
12. 遺伝子と環境のかかわり

以上12講を実験・映像資料も用いておこなう。

【評価方法】

出席点と小テストの得点で総合的に評価する

【テキスト】

指定しない

【参考文献・資料】

講義中に適宜触れる

生命の科学

小野佳成

【授業の概要】

ヒトの生命維持機構を他の脊椎動物と比較しながら解説する。

【授業の目標】

ヒトの生命維持機構(消化器、呼吸器、循環器、泌尿器、運動器、感覚器、神経系等)が効率的に上手く働き、生命維持が行われているかを理解する。

【授業計画】

1. ヒトはなぜ食べるのか? (1) 消化管:消化と吸収
2. ヒトはなぜ食べるのか? (2) 消化器:肝臓と膵臓
3. ヒトは冬にも活動できるのか? (1) 循環器:心臓
4. ヒトは冬にも活動できるのか? (2) 循環器:血管
5. ヒトは冬にも活動できるのか? (2) 血液系:赤血球、白血球、凝固系
4. ヒトは陸上で生活できるのか? (1) 腎臓と排尿
5. ヒトは陸上で生活できるのか? (2) 肺呼吸
6. ヒトは陸上で生活できるのか? (3) 運動器:骨、筋肉系
7. ヒトは細菌、ウイルス等の微生物からどのようにして身体を守っているのか? 免疫(感染防御)
8. ヒトはどのように殖えるのか? 生殖、受精、妊娠
9. ヒトはどのようにして外界との変化をとらえるのか? 視覚 聴覚、嗅覚等
10. ヒトはどのように行動するのか? (1) 神経中枢からの調節
11. ヒトはどのように行動するのか? (2) 本能行動
12. ヒトはどのように行動するのか? (3) 高次機能

【評価方法】

講義ごと的小テストによって評価する。学期末試験は施行しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

なし

食品の科学

杉浦信彦

【授業の概要】

ヒトの生命の源泉は食物に在り、幸福の源泉は健康に在るといわれています。生涯を通して健やかで安らかな暮らしを続けるにはどうしたらよいのか。生命と健康を脅かす様々なリスクに対処しながら健康を守るための手段を、食品と栄養の視点から学びます。

【授業の目標】

1. 食と健康のかかわりの基礎的知識を学ぶ。
2. 食品の表示を知り、正しい知識に基づいた食品の選択を考える。
3. 過剰および不足栄養成分と生活習慣病とのかかわりを学ぶ。
4. 食の化学的安全性について添加物や農薬の功罪を中心に考える。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 食と健康を考える “食の5条件とは”
3. 食品の表示
4. 健康補助食品・サプリメント
5. 現代人に不足する成分元素 1)カルシウム
6. “ ” 2)鉄
7. 過剰栄養とメタボリックシンドローム
8. 食生活の安全 1)食品添加物
9. “ ” 2)天然着色料と合成着色料
10. “ ” 3)合成保存料の功罪
11. “ ” 4)合成甘味料の恐怖
12. “ ” 5)残留農薬とポストハーベスト
13. 飲料水の化学的安全性を考える。

テーマによりVTR視聴や簡単な演習を行います。

【評価方法】

出席回数、授業内容についてのメモリーシートおよびレポートの提出により評価します。

【テキスト】

使用せず、適時プリントを配布します。

【参考文献・資料】

適時紹介します。

食品の科学

千葉善根

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業の目標】

日常生活で、身近にある食品が化学的(科学的)にどのような意義・性質・機能などを持っているかを理解する。

【授業計画】

1. 現代食生活の問題点
食生活の変化と食糧資源について。
2. 糖質と食品
デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3. たんぱく質と食品
変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4. 脂質と食品
脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化食品。
5. 無機質と食品
骨粗鬆症等。
6. ビタミン
食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7. 発酵食品
食品と酵素・微生物との関係。

【評価方法】

定期試験にて評価。

【テキスト】

使用しない(プリント配布)。

【参考文献・資料】

講義の際 紹介

生活の化学

永井慎一

【授業の概要】

私たちの生命や健康で豊かな暮らしは化学の力で支えられている。日々の暮らしにかかわる物質や現象を、事例をあげながら化学の目で学ぶ。

【授業の目標】

身近な物質の性質や現象の違いを、物質の顔というべき構造式を眺めながら理解を深める。

【授業計画】

- 生命の科学1-2(有機化合物の構造式、受容体、酵素のX線構造など)
身じかな現象の科学1-3(青いバラ、紅葉、タンパク質と変性、ジスルフィド結合、ふとん干し、にぎり寿司、味、ヘモグロビンエーワンシー値とパンのキツネ色、エビカニの色、瞬間接着剤など)
ホルモンとフェロモン(チャバネゴキブリの性フェロモンなど)
薬と作用の化学(モルフィネから最強の鎮痛パッチの開発とペニシリンから最新の抗生物質への誘導)
毒の化学(体内で究極の発がん物質に変化するタバコの成分などの毒)
ヒット商品の化学1-3(最近発売された数々の生活関連商品の化学的なしくみ)などを、最先端の研究成果を紹介しながらイラストで解説、有機化学の楽しさを学ぶ。

【評価方法】

期末に提示する問題の回答を、1問につき原稿用紙400字で期限内に提出させ、解答と出席した授業の実時間数で成績評価する。

【テキスト】

毎回配布する教材(A3両面)で講義。

【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介。

環境の保護

田部一史

【授業の概要】

いま、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれを取りまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

【授業の目標】

1. さまざまな地球環境問題の現状とその原因についての理解を深める。
2. 環境汚染物質が生命と健康へ与える影響の大きさについて学ぶ。
3. 人の手による生態系破壊の現状を知り、環境保護の方策を考える。

【授業計画】

- 第1講 序論：自然に学ぶ
- 第2講 森林破壊：森はいのちの母である
- 第3講 砂漠化：人為による沙漠の拡大
- 第4講 地球温暖化と異常気象：人間がつくり出した異常
- 第5講 大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
- 第6講 フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
- 第7講 いのちのしくみ1・細胞レベル：遺伝子とタンパク質
- 第8講 いのちのしくみ2・個体レベル：生体防御
- 第9講 環境汚染とがん：細胞を狂わせる物質の氾濫
- 第10講 環境ホルモン：いのちのつながりを絶つ
- 第11講 生態系のバランス：壊れやすい自然のしくみ
- 第12講 生命の多様性：人の手による大量絶滅
- 第13講 美しい自然を守ろう：循環型社会をめざして

【評価方法】

出席状況、中間レポートおよび期末試験の成績によって総合的に評価する。(出席20%、レポート30%、試験50%)

【テキスト】

使用せず。毎回講義資料プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

日本国憲法

初谷良彦

【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業の目標】

激動する世界の乱拍子が聞こえるような時代となった。今、次代を担う学生諸君にとって、もっとも大切なことは豊かな憲法感覚を身につけることである。憲法の基本原理やその歴史的背景をしっかりと学んで欲しいと願っている。

【授業計画】

- 第1回 憲法総論
- 第2回 日本国憲法制定の経緯
- 第3回 日本国憲法の基本原理
- 第4回 国民主権
- 第5回 平和的生存権と戦争の放棄
- 第6回 基本的人権
- 第7回 教育を受ける権利
- 第8回 国会
- 第9回 内閣
- 第10回 裁判所
- 第11回 地方自治
- 第12回 国法の諸形式
- 第13回 国家と国家統治の基本
- 第14回 日本国憲法と法の支配
- 第15回 政府の手續に関わる諸権利

【評価方法】

主として中間試験及び期末試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義I(改訂新版)(初谷良彦著 成文堂)

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

日本国憲法

大嶽 浩

【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業の目標】

基本的人権の「獲得の歴史」を理解し、人権の「保障の意味」を理解すること。

【授業計画】

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 国民の司法参加
5. 憲法の最高法規性
6. 憲法の改正

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

入門政治学

西尾林太郎

【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的な話題にもふれつつ講義を進める。

【授業の目標】

現代政治や現代社会について主体的な視座を確立する。ノートを取る技術と能力を身につける。

【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
 - a 国際社会とは?
 - b 国民国家、ナショナリズム、外国為替、国際貢献
 - c トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
 - a 「都市国家」のデモクラシー
 - b 市民社会と大衆社会
 - c 立法国家と行政国家
 - d 大衆社会の病理
3. 現代の政治過程
 - a 政治と利益団体、NPO、市民運動
 - b 選挙、官僚、議会、政治家
 - c マスメディアとマスコミュニケーション
4. 戦後国際社会と日本の政治
 - a 冷戦構造と55年体制
 - b 政党政治と市民参加

【評価方法】

試験(教科書と自筆ノートの持込可)と出席状況による。

【テキスト】

市民政治再考(高島通敏 岩波ブックレット)

【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。

入門政治学

李 相睦

【授業の概要】

本講義は、政治学を勉強する人々に、政治学に関する基本概念の意味を的確に把握させると共に、更にその諸概念間の関係を正確に理解させる点に、その目的がある。本講義の関心は、現代の政治が現実如何なる問題に直面しているのか、又それを理解する上で、今日の政治学が、何を示唆しているのか、との点を理解する所にある。その際、その分析に当たっては、概ね現代の政治や社会に見られる様々な事象を説明の素材として用いることとする。

【授業の目標】

1. 国内・国際政治
 - a 国家とは？
 - b 政治とは？
 - c 国民国家、ナショナリズム、国際社会、国際貢献
2. 政治の機構
3. 地方自治
4. 現代の政治過程
 - a 政治と利益団体、NPO、市民運動
 - b 選挙、官僚、議会
 - c マスメディアとマスコミュニケーション
 - d 議会制デモクラシーと市民
5. 社会福祉
 - a 高齢者社会
 - b 児童福祉
6. 戦後国際社会と日本の政治
 - a 内政と外交
 - b 国際社会
 - c 日本政治

【授業計画】

政治に関心を持たせ、その基礎的な理解を追究する。
試験（持ち込み全て可）と出席状況による。

【評価方法】

試験70% レポート20% 出席10%

【テキスト】

阿部 齊『政治学入門』（岩波書店）

【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。
授業は、ディベート方式、教科書は必ず読んで来ること。

入門法律学

大嶽 浩

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、法とは何か、という問題を「文学作品」、「映像作品」、「新聞記事」などを利用して考えてみたいと思います。

【授業の目標】

「社会あるところに法がある」ことを文学作品を通して理解すること。

【授業計画】

1. 法学の入門書と文学作品
2. 法学学習と文学作品
3. 法学学習の方法
4. 法学と政治と文学
5. 法学と活字
6. 法学と批評

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

入門経済学

細野義晴

【授業の概要】

経済の仕組みと役割について、マクロ経済とミクロ経済の双方の視点から基礎的知識を学ぶ。日常生活や時事問題としての経済的事象についてもふれ、経済学を身近なものにする。

【授業の目標】

経済の基礎理論にとどまらず、経済の実情把握に重点をおいて、わが国の経済の仕組みの変化やそこでの課題なども講義し、日々の新聞などで見聞きする経済の動きが十分理解できるようになることをめざす。

【授業計画】

1. 経済学とその体系
経済学とは、マクロの経済とミクロの経済、市場のメカニズム
2. マクロ経済のとらえ方
GDP統計のしくみ、三面等価、有効需要と乗数のメカニズム
3. 日本の経済と景気
日本経済の成長、日本の景気変動、バブルとバブル崩壊後の経済
4. 個人のくらしと経済
個人の消費行動の理論、消費と貯蓄、貯蓄と金融資産の選択
5. 企業の経済活動
企業の生産活動の理論、消費者余剰と生産者余剰、独占の弊害
6. 政府の経済活動
財政のしくみと役割、日本の財政事情と財政改革、地方の財政
7. 金融のしくみと経済
貨幣と金融機関の役割、中央銀行と金融政策、金融ビッグバン
8. 日本と世界の経済
経済のグローバル化、国際収支のしくみ、外国為替相場の変動と影響

【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

使用しない（資料配布）。

【参考文献・資料】

- (1) What's 経済学（辻正次・八田英二著、有斐閣）
- (2) 入門の入門 経済のしくみ（大和総研著、日本実業出版社）

入門法律学

高橋秀治

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、いろいろな生活場面ごとに、法律がどのようなものになっているのかを、身近な事例を挙げたりしながら考察していきます。

【授業の目標】

それぞれの法律や、その基礎にある考え方を学び、またそれらの考え方を実際の生活に当てはめてみる。

【授業計画】

授業では、冒頭でそれぞれの回に関係する問題を考えもらい、その解説も含めながら講義をしていきます。項目としては、いまのところ以下のものを考えています。

1. 法律を学ぶということ
2. 憲法はなぜ一番大切な法律なのか
3. 民法と毎日の生活
4. 会社法と起業のための基礎知識
5. 民事訴訟法を知って裁判所を使いこなす
6. 罪と罰と刑法
7. 犯人逮捕で一件落着とはならない刑事訴訟法
8. バイト・OL・サラリーマンと労働法
9. 国際法から見た日本
10. 意外と身近な行政法
11. いろいろな国や地域の法律
12. 法律の歴史をひもといてみる
13. 常識を使って少年犯罪の問題を考え直す

【評価方法】

学期末の筆記試験を基本にして評価します。

【テキスト】

授業でプリントを配布します。その他に、小型の『六法』を購入してください。（詳細は第一回目の授業で話しますが、ポケット六法（有斐閣）、コンパクト六法（岩波書店）、新六法（三省堂）などがあり、価格は1700円～1800円程度です。）

【参考文献・資料】

講義の際、随時紹介したり、配布します。

入門社会学

高木眞理子

【授業の概要】

社会学は、人間関係を視座を据えて、個人・集団・社会など、社会を総合的に研究する学問である。学生の関心と興味を中心に、現代社会の課題を分析対象に取り上げ社会学の入門とする。

【授業の目標】

身の回りで起こっていることに興味をもち、それについて深く考察できるようにしましょう。

【授業計画】

世界で、そして日本でおこっている身近な事柄をとりあげ、社会のしくみや制度に目を向ける。『社会学』という本をテキストとして使うが、授業ではテキストの内容だけでなく、いろいろな事象に興味をもってもらいたいと思っている。

1. はじめに—社会学について
2. 社会とは—私たちと彼ら
3. 行為とは—4類型
4. 集団とは—コミュニティ
5. 家族とは—少子化や介護の問題へ
6. 逸脱とは—少年非行
7. コミュニケーションとは—携帯電話？メール？
8. 社会心理とは—群集心理など
9. ジェンダーとは—あらためて見直すジェンダー

以上のようなテーマについて、授業時間1～2回を使ってクラスで学んでいきたい。授業回数や進行速度の関係で、割愛する部分が出てくる可能性があることをあらかじめ了解しておいていただきたい。

【評価方法】

毎回ではないが、pop quizを行う。最終評価はレポートか試験。出席を重視する。出席とは単に教室に「存在」することではない。自分なりのノートをつくり、毎回のトピックに対する自分の考えをまとめるなどの形で、授業に積極的に参加することが求められる。
評価＝出席(25%) pop quiz(25%) レポートまたは試験(50%)

【テキスト】

奥井智之著『社会学』東京大学出版会

【参考文献・資料】

授業中に紹介する

入門社会学

堀田裕子

【授業の概要】

社会学は、人間関係を焦点をあてつつ、個人・集団・社会など「社会」を総合的な視座から研究する学問です。学生の皆さんの関心と興味を中心に、現代社会の抱えるさまざまな課題を取りあげ、社会学の入門とします。

【授業の目標】

人間および人間関係に関する多様な見方・考え方や現代の主要なトピックを扱うことで、「社会」についての多角的な知見を学びます。また、そうした知見にふれることで皆さんのもっている「常識」を少しでもうち破っていただけたらと思います。

【授業計画】

- 1) イントロダクション—社会学とは
- 2) 社会化と自我—人「間」になるプロセス
- 3) 相互行為—地位と役割の社会的意義
- 4) 行為—行為の意味を「理解」する
- 5) 集団と組織—集団での活動とルール
- 6) 未組織集合体—人間は群れるとどうなるか
- 7) 権力と支配—支配する側/される側
- 8) 見えない権力—権力主体不在の権力
- 9) ジェンダー—女と男をめぐる諸問題
- 10) 家族—変わりゆく家族と少子高齢化
- 11) 社会病理—自殺や犯罪はなぜ起こるか
- 12) 教育—学校は何を教える所か
- 13) 情報化—ハイパースペースの中の間
- 14) 医療—病気と健康はいかにして作られるか
- 15) まとめ—社会調査と社会をみる眼

【評価方法】

出席20%、筆記試験80%で評価します。(受講者数によっては若干の変更もあり得ますので、詳細については講義にて説明します。)

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

講義中に適宜紹介します。

入門心理学

青柳眞紀子

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

「心理学」の概要について、正しい理解を深めること。「心理学」は身近な存在でもあることを認識し、自分自身を振り返るきっかけをつかむ。

【授業計画】

1. ガイダンス、心理学とは
2. 無意識の世界1
3. 無意識の世界2
4. ストレスとタイプA性格
5. 錯視の不思議
6. 学習1
7. 学習2
8. パーソナリティ1
9. パーソナリティ2
10. 対人関係1
11. 対人関係2
12. 集団の心理

【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

入門心理学

加藤智宏

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

近年マスコミ等で心理学が取り上げられることが多くなってきた。それだけ心理学が身近になってきたと考えられる。しかしその一方で、マスコミ等で取り上げられた内容だけから心理学のイメージが作られているようにも思われる。そこでこの授業では、心理学の様々な切り口を取り上げることで、心理学の持つ広範な知識を獲得することを目標とする。

【授業計画】

- a. 知覚と感覚
- b. 要素と全体（ゲシュタルト心理学）
- c. 学習と記憶
- d. 忘却と変容
- e. 発達心理学（ピアジェとエリクソン）
- f. 防衛機制
- g. フロイトとユングの精神構造モデル
- h. 心理療法
- i. 心理テスト
- j. 個人と集団
- k. 応用心理学（犯罪心理学、環境心理学）

以上を中心に、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

入門心理学

梅林 薫

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

心理学とは人の行動や心的過程を科学的に研究する学問分野である。人はどのように外界を認知し、どのように記憶し、あるいはいかにして学習するのか。またその心、行動を司る脳機能とはどのようなものか。本講義では心理学全般の基本的知識の習得を目指す。

【授業計画】

1. 心理学の定義、心理学の研究領域
2. 知覚：錯視
3. 知覚と注意：知覚の情報処理モデル、選択的注意
4. 記憶：記憶の貯蔵庫モデル、長期記憶の種類
5. 記憶：作業記憶
6. 学習：レスポナント条件づけ、オペラント条件づけ
7. 情動：情動モデル
8. パーソナリティ：類型論、特性論、パーソナリティ検査
9. 脳と行動：脳機能の概略

以上を中心に、それぞれ1～2回の講義を予定

【評価方法】

試験の成績、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

入門文化人類学

三木 誠

【授業の概要】

人間は無意識のうちに自然に生れ育った文化からさまざまな影響を受けている。世界中の社会に見られるさまざまな文化的事象を、できるだけ多くの事例をあげて講義する。

【授業の目標】

人間の文化の多様性を理解するとともに、文化相対主義的な考え方を身につけ、自文化の客観的な把握と、異文化の正当な理解ができるようにする。

【授業計画】

以下のようなテーマで講義を行う。それぞれのテーマを総合的に理解するのに不可欠な概念や用語の解説と、テキスト、プリント等を利用した事例研究が主になる。異文化に対する興味や好奇心を喚起するためにVTR資料なども活用する。

1. 文化とは何か?
2. 性別と社会
3. 婚姻と家族
4. 宗教と信仰
5. 独特の民族文化
6. 民族と国家

【評価方法】

定期試験により評価する。ノートは持ち込み可とする。

【テキスト】

指定せず。

【参考文献・資料】

興味を持った学生にはそのつど指示する。

入門心理学

加藤公子

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

心理学の各領域における基本的な考え方を理解する。

【授業計画】

1. 心理学とは
2. 知覚
3. 注意の働き
4. 記憶
5. 問題解決
6. 学習
7. 感情
8. パーソナリティ
9. 脳の機能

【評価方法】

試験の成績から評価する。

【テキスト】

使用しない。授業時に適宜資料を配布する。

国際情勢

瀬戸裕之

【授業の概要】

近年、日本とアジアの国際関係は、経済関係だけにとどまらず、地域の安全保障体制を構築するうえでも重要性を増している。講義では、アジアにおける国際関係について、具体的な事象に触れながら説明し、アジアと日本の関係について考察することにした。

【授業の目標】

アジアの国際関係の形成と発展、並びにアジアと日本の関係を、歴史的背景およびアジアが抱える課題をふまえて理解すること。

【授業計画】

1. アジアを学ぶために
2. アジアの国家形成－植民地からの独立
3. アジアの革命－中国の革命と改革
4. アジアの冷戦－朝鮮半島の分断国家
5. アジアの地域統合－ASEANの形成と発展
6. アジアにおける日本の戦争－戦前のアジア政策
7. アジアに対する日本の外交－戦後の国際協力

【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受検しないものは、期末試験の受験資格を失う。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業において、関連文献を紹介する。

現代のマナー

近藤乃美子

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】

良識ある家庭人であり、自立し誇りを持って行動できる社会人となり、伝統と文化に裏打ちされた広い教養を身につけ、自信を持って国際社会においても活躍できる人材を育成する一端を担うことを目標とする。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. マナーの基本
2. 会話と傾聴
3. 身だしなみとおしゃれ
4. 服装 フォーマルとカジュアル
5. 訪問と応接 和風
6. 「 」 洋風
7. 茶菓のマナー
8. 贈答のマナー
9. 冠婚のマナー
10. 葬祭のマナー
11. 食事のマナー
12. パブリックマナー

【評価方法】

出席状況、授業態度、期末試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

参考文献・資料はなし。

文章表現法

青木 健

【授業の概要】

マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎的技法や構成について具体例を示しながら講義する。

【授業の目標】

書くことは同時に読むこと。文章表現の多様さにふれ、読む楽しさと、書くことによって自らの言葉で考えるトレーニングをしたい。書くことで新しい自己を発見し、自己の世界を拡げてもらえることがのぞましい。

【授業計画】

- 第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現1)
- 第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現2)
- 第3回～12回

例文をテキストに、文章の構成、表現技法、話法、リズム、修辭法など具体的に講義。

この間に課題を3回提出し、短文(2～3枚、400字詰)を書いてもらい、提出原稿から文章表現についての共通の問題点を抽出して講評する。

【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

高校生のための文章読本(筑摩書房) 参考書籍は授業中に数冊提示します。

現代のマナー

嘉悦祐子

【授業の概要】

コミュニケーションを円滑に進めるには、相手を尊重する気持ちや思いやりが大切で、マナーとはこの相手を思いやる気持ちを形にしたものである。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】

自分の気持ちをどのような形で表現すれば相手に誤解なく伝わるのか、状況に応じたマナーを身につける。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. マナーとは
2. 学生と社会人の違い
3. 第一印象の重要性
4. マナーの五原則
 - (1) 挨拶
 - (2) 表情
 - (3) 態度
 - (4) 身だしなみ
 - (5) 言葉づかい
5. 電話応対
6. 訪問と来客対応
7. 報告、連絡、相談
8. 文書
9. 冠婚葬祭
10. テーブルマナー

【評価方法】

出席状況、授業態度、試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

必要により授業中に指示する。

話し方作法

三久保角男

【授業の概要】

音声表現。

(1)日本語の発音のメカニズム、豊かな表現のための技術 (2)読む・話すことの実践と応用 (3)ことばの用法、を視点に、音声言語の特質とコミュニケーションのメカニズムを知る。

【授業の目標】

マルチメディアの発達で直接的な会話をするのが少なくなり、話すことが苦手な人が増えている。自分の意思を効果的にことばで伝えるための基礎的な技術を身につけられるための方策を考える。

【授業計画】

1. 話しことば概論
 - ことばの機能 話しことばの特徴 共通語と方言
2. 日本語の音声 1 (発声)
 - 音声器官 呼吸法 発声法
3. 日本語の音声 2 (発音)
 - 拍と音節 母音と子音 調音 アクセント 環境による音声変化
4. 話しことばの表現技法
 - スピード ポーズ イントネーション プロミネンス
5. 文を読む
 - 読みの基本 朗読
6. 話しをする
 - パブリックスピーキング リポート インタビュー
7. 話しことばの用法
 - ことば事情 ことばの変化 敬意表現

授業は講義が中心になるが、可能な限り実践を伴うものにする。

【評価方法】

筆記試験を行う。随時の提出物も評価に加味する。

【テキスト】

毎回、レジュメ・資料等を配布する。

キャリアの形成

樋口貴子

【授業の概要】

キャリア形成とは、将来の働き方をデザインすることであり、これからの生き方をデザインすることでもあります。そのためには、自分を理解し、職業と社会経済動向の理解も深め、さらにキャリアの選択を可能にする心構えが必要になってきます。人が働くことを意識するのは、学生生活から職業生活へ移行する「節目」のときです。これから迎える職業生活という本格的なキャリアのスタートを切る前に、働くことを中心としたキャリア形成をぜひ描いておきましょう。それに必要な考え方や方策を実践的に学習します。

【授業の目標】

社会変革の激しい時代を自らの手で切り拓きながら、たくましく且つたおやかに生き抜くために、まずは今、学生生活を通じて何を感じ、どう行動すればよいのかを、自らのキャリアデザイン（人生設計）を描きながら思考を深めます。また、複雑化・高度化する産業社会において、プロ人材として求められる能力・スキル・心構えなど、ケーススタディを交えて学びます。

【授業計画】

- ・ 21世紀に求められる人材像
- ・ 社会経済の動向とキャリア形成の必要性
- ・ キャリア形成のプロセスと各ステップのあり方
- ・ キャリア発達理論と自己理解関連ワーク
- ・ キャリア選択理論と自己理解関連ワーク
- ・ 職業興味と職業適性診断
- ・ 仕事理解と職業研究ワーク
- ・ 意思決定理論と職業選択関連ワーク
- ・ 社会的学習理論とキャリアモデル関連ワーク
- ・ プロフェッショナル意識とキャリアマネジメント
- ・ ビジネス基礎能力診断とキャリアコンピテンシー
- ・ キャリアゴールと課題設定（なりたい自分のデザイン）

【評価方法】

筆記試験と出席状況

【テキスト】

キャリアの形成（樋口貴子著）

【参考文献・資料】

授業の中で適宜、紹介します

現代社会と倫理

大野波矢登

【授業の概要】

民主主義社会と自由主義社会は人々に多くの権利を保障しているが、それは人々がモラルや義務を守ることを前提としている。現代社会の守るべき倫理と課題について講義する。

【授業の目標】

近現代の倫理学の代表的な理論を理解すること。
現在の社会問題について倫理的な視点から思考する能力を身につけること。

【授業計画】

授業では以下のようなトピックスを取り上げていく。必要に応じてビデオ等の資料を使用する。

1. 倫理的視点から見た現代の社会問題
2. 倫理における絶対的価値と道徳的相対主義
3. 帰結主義と非帰結主義
4. 功利主義
5. 功利主義批判
6. 義務論とカント倫理学
7. 人格性の原理
8. 自由と道徳
9. 正義論
10. 倫理理論の応用（道徳的意思決定の方法）
 11. 生命倫理学の問題（生命操作と人間改造はどこまで許されるか）
 12. 環境倫理学の問題（水俣病事件における問題とはなにか）
 13. 情報倫理学の問題（知や情報はだれのものか）
 14. ビジネス倫理学の問題（「倫理は儲かる」という考え方は倫理的か）
15. まとめ

【評価方法】

授業中に実施する小レポート（5回実施予定）50%、期末レポート50%

【テキスト】

入門講義 倫理学の視座（新田孝彦著 世界思想社）

【参考文献・資料】

社会哲学を学ぶ人のために（加茂直樹編 世界思想社）

ライフサイクルと健康

松田秀子

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて講義する。

【授業の目標】

ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて考える。

【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 姿勢
3. プロポーション（理想と現実）
4. 肥満とやせ
5. 隠れ肥満
6. 骨密度・体脂肪測定
7. 自分のからだを判定しよう
8. 体脂肪を正しく落とす方法
9. 筋肉と運動神経
10. 健康づくりのための運動
11. Walking
12. 性への理解
13. 学生生活と健康

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。
必要に応じて参考資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で適宜、紹介します

ライフサイクルと健康

土田 洋

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて講義する。

【授業の目標】

ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて考える。

【授業計画】

1. 現代の健康問題
2. 身体の構造と機能
3. 心と健康
4. 栄養と健康
5. 運動と健康
6. 運動による傷害
7. 生活習慣と健康
8. 学生生活と健康①
9. 学生生活と健康②
10. 社会と健康
11. 科学技術と健康①
12. 科学技術と健康②
13. 健康に関する社会の仕組み

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

資料としてプリントの配布、ビデオ等を利用する。

メンタルヘルス

太田龍朗

【授業の概要】

複雑な現代社会において、心の病はもはや人ごとではない。なぜ心は病んでいくのだろうか。この授業では、心理学・医学モデルや事例などをもとに、心に影響を及ぼす様々な要因について検討し、心の健康について考える。

【授業の目標】

心の健康についていろいろな病を通して考え、身体の病気と同じように、ごく身近なものであることを理解しつつ、正しい知識を修得するとともに、全人的なとりくみの重要性が分かるようにする。

【授業計画】

概論：第1回	心の病とその歴史
第2回	いろいろな病と症状のとりえ方
第3回	ライフサイクルと心：性格、発達と加齢
各論：第4回	青年期、思春期にはじまる統合失調症（分裂病）
第5回	気分・感情の障害としての躁うつ病（気分障害）
第6回	うつ病と現代社会を考える
第7回	ストレスとその反応：神経症と心身症
第8回	やまらない、止まらない：薬物依存
第9回	眠りと食と性の偏り：睡眠、摂食、性障害
第10回	大人とは異なる児童・小児の心の問題
第11回	老人と高齢者の病：器質性障害(認知症など)
総論：第12回	病を前にして：治療、面接、カウンセリング
第13回	心の健康に向けて：地域社会、制度と活動
第14回	期末試験

【評価方法】

おもに期末試験の成績とレポート提出によって総合的に評価する。

【テキスト】

改訂 大学生のための精神医学（高橋俊彦・近藤三男編 岩崎学術出版社）

【参考文献・資料】

精神を病むということ（秋元波留夫・上田敏著 医学書院）
図解雑学 心の病と精神医学（景山任佐著 ナツメ社）

健康とくすり

永井慎一

【授業の概要】

現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレスのためくすりの助けがなければ健康の維持は難しい。病気とくすりについて正しい知識を学び、くすりの効きかたと副作用について理解を深める

【授業の目標】

病気は、酵素の働きで過剰に生成する生理活性物質が受容体に結合することで発症し、くすりの大部分は、酵素と受容体の働きを阻害することで効くことを学ぶ。

【授業計画】

第1回	全講義の要旨〔病気とくすりのまとめ〕を配布したのち、最新の医薬品事情や薬事行政などを解説
第2～3回	くすりの基礎知識として、生体内運命、新しくくすりのかたち、受容体拮抗薬、酵素阻害薬、危険なくすりの飲み合わせなど2回にわたって解説
第4回	くすりの正しい知識を、イラスト入りの質問形式で学ぶ
第5回	要処方だが保険適用外の生活改善薬をはじめ、女性のくすりや検査器具、最新の一般用医薬品（OTC）と繁用される医療用医薬品を解説
第6回	頭痛、生理痛の原因物質とくすりの効きかた
第7回	花粉症、アトピー性皮膚炎発症のメカニズムとくすりの効きかた
第8回	生活習慣病の早期発見に不可欠な血液検査値のみかたと心疾患
第9～12回	生活習慣病である高血圧、がん、糖尿病と、近年若者に拡大するクラミジアやエイズの発症原因と治療薬

【評価方法】

期末に提示する問題の解答を、期限内に1問につき原稿用紙400字で答えさせ、解答と出席した実授業時間数で成績評価する。

【テキスト】

教材（A3両面）を毎回配布して講義する。

【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介する

メンタルヘルス

長谷川純子

【授業の概要】

この授業では心理学および医学的な観点から多角的に心の成長や健康について講義する。現代ストレス社会の中で、自分らしく健やかな生活を過ごすために必要なセルフコントロールの実際や心の健康に関わる事例なども紹介する予定である。

【授業の目標】

心の健康管理に必要な大学生教養レベルの知識習得を目指す。

【授業計画】

1. 心の構造
2. 心と脳の発達
3. ストレスと心の健康
4. 心の病

【評価方法】

単位認定試験の結果を重視するが、出席日数や授業マナーも評価に加味される場合がある。

【テキスト】

なし。プリント配布。

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜紹介する。

スポーツと文化

松田秀子

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業の目標】

スポーツが文化であることを論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには教育が関係する
8. スポーツには政治が関係する
9. スポーツには科学が関係する
10. スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
11. スポーツには民族性が反映される
12. スポーツには商業主義がつきまとう
13. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
14. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

スポーツと文化

門間 博

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業の目標】

スポーツが文化であることを論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】

1. 導入、授業の全体について
2. スポーツとは何か（スポーツの起源とその歴史）
- 3～4. スポーツの魅力
- 5～6. スポーツとメディア
- 7～8. スポーツと商業主義
- 9～10. スポーツと政治・経済
- 11～12. スポーツと教育
- 13～14. スポーツと倫理
15. まとめ

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

入門ボランティア

小島祥美

【授業の概要】

1997年11月の国際連合総会において、日本の提案に基づき122カ国の共同提唱国を得て、「2001年ボランティア国際年(International Year of Volunteers)とすることを宣言する」という決議が採択されました。1995年の阪神・淡路大震災以後、日本国内においてはボランティア活動に対する関心と理解が高まり、各地に多種多様なボランティア活動が展開されています。

本講義では、ボランティア活動についての理解と認識を深め、地域での実践事例を通じて、「ボランティア活動の魅力」について学びます。なお、地域で活躍するボランティア活動実践者をゲストスピーカーとしてお招きする予定です。

【授業の目標】

ボランティア活動の「魅力」を学び、ボランティア活動の「楽しさ」を知り、実践活動への「参加」へ繋げることを目指します。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. ボランティア活動に参加することの意義を考える
3. 基本的な用語とキーワードを学ぶ
- 4～8. 地域で活躍するボランティア活動から学ぶ
 - ・社会教育・まちづくりの推進を図る活動
 - ・情報化社会・経済発展を図る活動
 - ・保健・医療または福祉の増進を図る活動
 - ・環境保全・地域安全を図る活動
 - ・人権の擁護・平和を推進を図る活動
- 9～11. 企業の社会貢献事業とは？
 - ※企業の社会貢献事業を学ぶ場として学外活動を予定しています
12. 行政とボランティア団体とのコラボレーションとは？
13. ボランティア団体の抱える課題とは？
14. 地域にあるボランティア・市民活動推進機関とは？
15. 総括

【評価方法】

毎回出席確認を兼ねた感想文の他、授業態度、レポート課題により、総合的に評価します。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

ボランティア・NPO用語事典（社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版）

入門ボランティア

橋本吉広

【授業の概要】

自分自身の周りにある壁を破って、ボランティアの世界に入っていくことを「入門」と位置付けてみます。ボランティア活動の実際を紹介することで、そこにある問題を自分の力で発見し、どのような活動につなげていったらいいか、ボランティア発想を鍛える自問型授業とします。

【授業の目標】

ボランティアの現場を取り巻く状況に視点をあて、ボランティアとは何か、なぜボランティアが必要とされているかなどを考えながら、ボランティアの世界に踏み出す心構えと作法を身につけることをめざします。

【授業計画】

- 1-2 生死と関わるボランティア- ボランティアの責任 / 国境なき医師団の活動
- 3-4 住まうこととボランティア- 宅老所の実践 / ホームレスの自立支援
- 5-6 自然災害と向き合うボランティア- 災害救援活動 / 災害復興・まちづくり
- 7 ボランティアの現代（中間まとめ）
- 8-9 自然環境と向き合うボランティア- 霞ヶ浦での自然再生 / 風力発電への取り組み
- 10 ボランティアと企業との協働
- 11 ボランティアとNPO・市民事業～ボランティアとして働く
- 12-13 ボランティア活動のマネジメント 資金調達の世界/ボランティア組織のガバナンス
- 14 さあボランティアの世界へ
- 15 試験

【評価方法】

授業にもとづくレポート提出を数回求め、その提出状況を評価の基礎に置きます(25%程度)。期末試験を実施し、学習の成果を確認します(75%程度)。

【テキスト】

授業毎に資料を配布します。

【参考文献・資料】

『平成16年版国民生活白書』(内閣府)
『ボランティア学を学ぶ人のために』(内海成治他編 世界思想社)

性差と健康管理

後藤節子

【授業の概要】

私たちは、女性と男性は精神・身体機能が異なる特徴を持つことを漠然と認識しています。特に、女性には月経周期があり、思春期から年齢を重ねた老年期までに特徴的な変化が見られます。これらを性差の観点から学びます。

【授業の目標】

女性と男性のライフ・ステージにおける特徴を理解し、特に、女性における正しい健康管理方法を理解するとともに、生涯の健康管理方法を身につける。

【授業計画】

- | | | |
|----|------|--------------------------|
| 概論 | 第1回 | 性の決定はどのようになされるか |
| | 第2回 | 女性ホルモンと男性ホルモン |
| | 第3回 | 女性に多い病気、男性に多い病気 |
| | 第4回 | 中高年における女性の健康管理と男性の健康管理 |
| 各論 | 第5回 | 女性の月経周期と女性ホルモンの役割 |
| | 第6回 | 月経の異常（月経痛、無排卵月経、無月経など） |
| | 第7回 | 20～30代の女性の疾患（子宮内膜症、子宮筋腫） |
| | 第8回 | 30代以降の女性の疾患（子宮がん、乳がん） |
| | 第9回 | 性感染症（エイズ感染症と免疫機能の低下） |
| | 第10回 | 性感染症（クラミジア感染、トリコモナス感染） |
| | 第11回 | 周産期（妊娠の成立、不妊症、避妊） |
| | 第12回 | 周産期（妊娠による母体の変化と分娩） |
| | 第13回 | 周産期（分娩後の母体の回復と育児） |
| | 第14回 | 試験 |

【評価方法】

期末試験とレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

新版 テキスト母性看護Ⅰ（後藤節子他編、名古屋大学出版会）
ジェンダーを科学する（松本伊瑛子・金井篤子編、ナカニシヤ出版）
性差医学入門（監修 貴邑富久子、翻訳編集代表 荒木葉子、株式会社じほう）

健康と医学

小野佳成

【授業の概要】

いろいろ健康問題が注目を浴び、「メタボリックシンドローム」「低侵襲治療」「エイズウイルス」「診療ガイドライン」「リハビリテーション」「後期高齢者」等の耳慣れない言葉がマスコミによって報道されています。本講では、これらの健康問題を取り上げ、医学的な見地から解説します。

【授業の目標】

マスコミで取り上げられる最近の健康に関する問題を理解する。

【授業計画】

1. メタボリックシンドローム
2. エイズウイルス
3. 診療ガイドライン
4. 脳梗塞とリハビリテーション
5. 後期高齢者と認知症
6. ノロウイルス：下痢集団発生
7. 女性は膀胱炎になりやすい？：尿路感染防御機構

※適時追加する予定です。

【評価方法】

講義ごとの小テストによって評価します。期末テストは行いません。

【テキスト】

ありません。

【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配付します。

英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

山田久美子 DYCUS, David C. 他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を身に付ける。

【授業の目標】

TOEICに向けての基本的な文法や語彙など基本事項を徹底的に身につけることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のよう

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーウィング、ペア・プラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション2 (Listening I)

山田久美子 SUTHONS, Philip 他

【授業の概要】

基本的なリスニング能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション3 (Listening II)

石橋千鶴子 SUTHONS, Philip 他

【授業の概要】

リスニングの発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション4 (Reading I)

小沢 茂 BROWNING, Jeremy S. 他

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業の目標】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) のSpeed Reading機能を自習課題とする。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

小沢 茂 DYCUS, David C. 他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業の目標】

リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることが目標である。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を自習課題として活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション6 (Oral Communication I)

SUTHONS, Philip 他

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Course objectives】

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション7 (Oral Communication II)

HARRIS, Richard S. 他

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Course objectives】

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション8 (Reading II)

小沢 茂 MC GOLDRICK, Gemma 他

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業の目標】

目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

ASU TOEIC I E

天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ (I, IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)
 ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)
 ・演習 (文法問題・リーディング・リスニング) (30分)
 ・問題解説 (25分)
 第15回 模擬テスト
 *宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回7時間相当分
 (合計 7時間×13回=91時間)
 リスニング演習 (60分×7日) = 毎回7時間相当分
 (合計 7時間×13回=91時間)

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

ASU TOEIC II E

CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B. PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ (I, IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)
 ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)
 ・演習 (おもに、リスニング・リーディング) (30分)
 ・問題解説 (25分)
 第15回 模擬テスト
 *宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回7時間相当分
 (合計 7時間×13回=91時間)
 リスニング演習 (60分×7日) = 毎回7時間相当分
 (合計 7時間×13回=91時間)

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

ASU TOEIC I F

天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ (I, IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)
 ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)
 ・演習 (文法問題・リーディング・リスニング) (30分)
 ・問題解説 (25分)
 第15回 模擬テスト
 *宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回7時間相当分
 (合計 7時間×13回=91時間)
 リスニング演習 (60分×7日) = 毎回7時間相当分
 (合計 7時間×13回=91時間)

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

ASU TOEIC II F

CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B. PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ (I, IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)
 ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)
 ・演習 (おもに、リスニング・リーディング) (30分)
 ・問題解説 (25分)
 第15回 模擬テスト
 *宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回7時間相当分
 (合計 7時間×13回=91時間)
 リスニング演習 (60分×7日) = 毎回7時間相当分
 (合計 7時間×13回=91時間)

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

Get together and Talk I

石橋千鶴子 福本明子 太田晶子 WOODMAN, Jo-Anne

【授業の概要】

英語集中授業、ディスカッション、フィールドワーク、合宿などから構成される英語対話実践セミナー。ネイティブスピーカーの教員が担当し、本学および中部地区在住の留学生が、セミナー・アシスタントとして参加する。多様な文化背景を持つ留学生と行動を共にし、共通語の英語を使ってコミュニケーションを持つことにより、英語対話力の強化を目指す。

本科目の履修資格は以下の通り：

- 1) 英語コミュニケーション科目2科目（4単位）以上を履修済みであること。
- 2) 英語でのコミュニケーション実践に十分な意欲があること。
- 3) 全日程に出席できること。

なお、本科目はCAP制の対象にならない。

【授業の目標】

異なる文化背景を持つ留学生とのコミュニケーションを通して、英語運用能力の向上を目指すと共に、文化の多様性に対する認識を深め、それに対応できる柔軟な視点の育成を目指す。

【授業計画】

前期 2008年9月上旬に実施予定。

後期 2009年2月上旬に実施予定

英語集中授業、フィールドトリップなどを含む15コマ相当の活動を行う。

詳細は掲示および説明会（前期：6月中旬、後期：11月下旬の予定）で発表する。指定された期間（前期：6月末、後期：12月上旬）に外国語教育センターを通じて履修の申し込みを行う。定員を超えた場合は抽選となる。

【評価方法】

全日程の活動が総合的に評価される。

【テキスト】

授業担当者により異なる。資料のコピーは配布される。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業担当者から指示がある。

上級英語セミナー 2008 A

BROWNING, Jeremy S. WRINGER, Paul

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー 2008A」は受講できない。）

【授業の目標】

Aims:

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

Browning

Students will develop stronger vocabulary, idiomatic expressions, and language learning strategies that cover various language skill areas.

【授業計画】

Course plans:

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

Browning

Students will explore various topics that go beyond the simple conversation level. Every 2 weeks a new topic will be introduced that challenges the students to express themselves in greater detail. During the 2-week exploration of the topic, students will use various language skills (reading, writing, listening & speaking) to help them holistically learn the topic & its language requirements.

【評価方法】

「上級英語セミナー 2008A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日1限（担当教員：BROWNING, Jeremy）、木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

Wringer : To be announced.

Browning: Handouts will be provided

Get together and Talk II

ARNOLD, Brent C.

【Course description】

対話力養成モジュールの1つとして、学生同士の意見交換を活発に行うことで、説得力のある議論を口頭で展開する方法を、実際の経験を通して学ぶことを目標とします。

Get together and Talk IIでは、本学学生同士の意見交換のみならず、インターネットのロードバンド接続によるビデオコンファレンス機能（アップルコンピュータ社のiChat）を利用して、キャンベラ大学等の学生と意見交換を行います。

さまざまなテーマに基づいて、キャンベラ大学等の学生と意見を交換することで、英語運用力を高めるのみならず、日本語と英語の違い、日本とオーストラリアの文化・考え方の違いなどさまざまな違いを発見することが期待されます。

【Course objectives】

There are three main objectives.

1. To allow students to converse with native speakers, helping the students' listening and speaking fluency skills.
2. Discuss topics of interest with people of a similar age who live in a different country.
3. Listening to native English speakers speaking in Japanese will help students understand their own speaking difficulties and increase their awareness and confidence.

【Course schedule】

This lesson will be held over 2nd and 3rd periods, 10.50 - 2.50.

During this time there will be 4 time periods, 1. Preparation, 2. Chat, 3. Review, and 4. Lunch! Due to the time difference between Japan and Australia it may be necessary to have a flexible lunch period.

Time Will be used for real time chat with Australian University students. Topics for discussion will include

1. Death penalty
2. The article no.9 of Japanese constitution
3. Marriage between the same sex couple
4. Should we accept more refugees?

【Assessment】

Assessment will be based on

- 50% Homework and Chat preparation
- 50% Participation

【Textbooks】

No text

【Reference】

<http://www.apple.com/support/isight/>

上級英語セミナー 2008 B

BROWNING, Jeremy S. WRINGER, Paul

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Aims:

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

Browning

Students will develop stronger vocabulary, idiomatic expressions, and language learning strategies that cover various language skill areas.

【授業計画】

Course plans:

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

Browning

Students will explore various topics that go beyond the simple conversation level. Every 2 weeks a new topic will be introduced that challenges the students to express themselves in greater detail. During the 2-week exploration of the topic, students will use various language skills (reading, writing, listening & speaking) to help them holistically learn the topic & its language requirements.

【評価方法】

「上級英語セミナー 2008B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日1限（担当教員：BROWNING, Jeremy）、木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

Wringer : To be announced.

Browning: Handouts will be provided

上級英語セミナー 2008C

横山綾子 DAVIES, Alun

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー 2008C」は受講できない。）

【授業の目標】

横山
通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Davies
Aims:
To strengthen existing skills and develop fluency via communication tasks. To learn about CHUNKS as an aid to building a powerful vocabulary of natural English. To practice speed, rhythm, stress and intonation patterns of native speaker English.

【授業計画】

横山
第1回 通訳一般概論 Sight translation
第2～10回 The Student Timesからの記事使用（テープ）
Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Davies
Course Plan:
This course will provide opportunities for oral interaction in English. Vocabulary-building is central to the aim of using English for communication in a range of speaking and listening tasks (e.g. drama; discussion; interpreting; conversation).

【評価方法】

「上級英語セミナー 2008C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日1限（担当教員：DAVIES, Alun）、水曜日2限（担当教員：横山綾子）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

横山：The Student Times その他
Davies: No text is required.

上級英語セミナー 2008E

難波豊子 CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー 2008E」は受講できない。）

【授業の目標】

Bev Curran
To create a community of supportive language learners and to develop each student's confidence in their ability to express their ideas in prepared presentations and extemporaneous discussion in English.

難波豊子
通訳は「逐次に始まり、同時に進み、そして逐次に終わる」と言われる。このクラスでは主に逐次通訳力強化を目指す。「分かりやすい通訳とは？」を、通訳練習を通して考えてもらう。教材内容は時事及び一般。

【授業計画】

Bev Curran
Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

難波豊子
・スラッシュ・リーディングによる情報処理
・分かりやすい日本語の検討
・短い時間で、英文のメッセージを把握
・2点集中力育成練習

上記基礎力強化を基本に
(1)英語のテープを聞いて、グループで内容把握
(2)次回日本語への逐次通訳練習
(3)簡単な内容の日英逐次通訳練習
をサイクルとした講義となる。内容把握ができた教材を使用して適宜同時通訳練習も導入する。

【評価方法】

火曜日2限（担当教員：難波豊子）、木曜日2限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢、ゲストスピーカー招待時におけるディスカッションへの貢献度等を総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

上級英語セミナー 2008D

横山綾子 DAVIES, Alun

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

横山
通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Davies
Aims:
To strengthen existing skills and develop fluency via communication tasks. To learn about CHUNKS as an aid to building a powerful vocabulary of natural English. To practice speed, rhythm, stress and intonation patterns of native speaker English.

【授業計画】

横山
第1回 通訳一般概論 Sight translation
第2～10回 The Student Timesからの記事使用（テープ）
Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Davies
Course Plan:
This course will provide opportunities for oral interaction in English. Vocabulary-building is central to the aim of using English for communication in a range of speaking and listening tasks (e.g. drama; discussion; interpreting; conversation).

【評価方法】

「上級英語セミナー 2008D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日1限（担当教員：DAVIES, Alun）、水曜日2限（担当教員：横山綾子）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

横山：The Student Times その他
Davies: No text is required.

上級英語セミナー 2008F

難波豊子 CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Bev Curran
To continue to give students practice in preparing and leading a discussion, as well as sustaining a discussion through careful listening and questions. The group discussion aims to form a community of supportive language learners and to develop each student's ability to express their ideas in English.

難波豊子
通訳は「逐次に始まり、同時に進み、そして逐次に終わる」と言われる。このクラスでは主に逐次通訳力強化を目指す。「分かりやすい通訳とは？」を、通訳練習を通して考えてもらう。教材内容は時事及び一般。

【授業計画】

Bev Curran
In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

難波豊子
・スラッシュ・リーディングによる情報処理
・分かりやすい日本語の検討
・短い時間で、英文のメッセージを把握
・2点集中力育成練習

上記基礎力強化を基本に
(1)英語のテープを聞いて、グループで内容把握
(2)次回日本語への逐次通訳練習
(3)簡単な内容の日英逐次通訳練習
をサイクルとした講義となる。内容把握ができた教材を使用して適宜同時通訳練習も導入する。

【評価方法】

火曜日2限（担当教員：難波豊子）、木曜日2限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢、ゲストスピーカー招待時におけるディスカッションへの貢献度等を総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

Traditional Arts in Japan

山田久美子 小沢 茂 二村慎一

【授業の概要】

日本の伝統文化に携わる方をゲストスピーカーとして招き、伝統文化に直に触れ、その歴史、現状などを英語で学ぶ。

【授業の目標】

伝統文化に直に接する機会は、日常生活では多くない。この授業を通して、一から伝統文化を学び、日本の優れた文化を理解し、それを自らの言葉で表現できるようにする。

【授業計画】

日本の伝統文化に携わる専門家をゲストスピーカーとして招き、講義を受ける。講義の際、あらかじめ、その伝統文化についての学習を行う。

日本舞踊（西川流）
尺八
琴
からくり
華道
歌舞伎
能・狂言

などの分野のゲストスピーカーを迎える。詳しくは、最初の授業の時に説明する。

なお、狂言、歌舞伎などの公演鑑賞のため、3000円程度の経費を必要とする場合がある。

【評価方法】

レポート 80% （各授業のレポート等）
出席 20%

【テキスト】

プリント

【参考文献・資料】

講義時に配布

Multiculturalism in Aichi

ブイ チ トルン

【授業の概要】

社会のグローバル化とともに一つの地域や国だけでは解決できない問題などが生まれている。愛知県においても製造業の発展に伴い諸外国から移住されてきた人々が年々増加している。多様な人種・文化・価値観が混在している愛知県における多文化社会の実態を理解し共生社会構築への道を考える。

【授業の目標】

- * 日本社会および愛知県における多文化性を理解すること
- * 行政・企業・NPOによる多文化共生事業の現状を理解すること
- * 県内における外国人コミュニティの実態を理解すること
- * 外国人労働者等を送り出し国の現状を理解すること
- * 在住外国人支援事業を理解すること
- * 授業は英語で進行するため英語力アップも期待すること

【授業計画】

1. Japan as a Multicultural Society
2. History of Multiculturalism in Japan and Aichi Prefecture
3. Consultation and Advisory Services for Foreign Residents
4. Helping Foreign Residents through Voluntary Activities
5. JICA's Cooperation Activities and Development Education
6. Activities of the Philippines Society
7. Life of a Brazilian in Aichi
8. Japanese Teaching in Community
9. Activities of Foreign Students in Aichi
10. NGO Activities in supporting of Foreign Residents
11. Information and Communication through English Magazine
12. Report on the Society and Culture of Trainee's Sending Asian Country / Report on the Multicultural Society like Australia

【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

【テキスト】

プリント資料など配布。

Central Japan

福本明子 若山真幸 太田晶子 MC GOLDRICK, Gemma

【授業の概要】

中部地方から世界に向かって進出する企業の第一線で活躍している方をゲストスピーカーとして迎え、企業の社会での役割、活動、スピーカーの経験等を英語で講義してもらう。この講義は、ゲストスピーカーの授業に対する事前、事後の学習も行う。

【授業の目標】

地元企業で活躍する方をゲストスピーカーとして招き、その講義を聞き、実社会における企業の役割、また厳しい現状等を理解し、より広い視野を育てることを目標とする。授業での内容を理解し、それを自分の言葉（英語又は日本語）でまとめることができるようにする。

【授業計画】

ゲストスピーカーは、
Hilton Nagoya
中部電力株式会社
ブラザー工業株式会社
ファイザー株式会社
Harman/Becker Automotive Systems - Japan
アイ ティ クリエイト
日経メディアマーケティング株式会社
太陽化学株式会社
生化学工業株式会社
豊田通商株式会社

などから招待の予定。詳しくは、最初の授業で説明する。

【評価方法】

出席と事前、事後、最終レポートを総合的に評価する。最初の授業で説明する。

【テキスト】

配布プリント

【参考文献・資料】

配布プリント、ゲストスピーカーの企業ウェブサイト

PowerPoint Presentations

LEWIS, Paul

【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究の成果、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、動画・音声・写真などを盛り込みながらPowerPointを使ってまとめ、英語による情報発信が行えるよう訓練する。

【授業の目標】

- ・ コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
- ・ アイデアや意見を英語で論理的に口頭発表できる自己表現力を身に付ける。
- ・ 他者のプレゼンテーションを聴いて、英語で討論を行える能力を身に付ける。

【授業計画】

- 以下の項目を学習する。
- ・ Introduction to PowerPoint
 - ・ Creating a basic slide show
 - ・ Formatting
 - ・ Editing text
 - ・ Using images
 - ・ Adding animation
 - ・ Adding sounds
 - ・ Advanced PowerPoint

【評価方法】

- ・ Participation & Attendance
- ・ Class work
- ・ Final Presentations

【テキスト】

Computers for Communication: PowerPoint (2007). Perceptia Press.

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

PowerPoint Presentations

ARNOLD, Brent C.

【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究の成果、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、動画・音声・写真などを盛り込みながらPowerPointを使ってまとめ、英語による情報発信が行えるよう訓練する。

【授業の目標】

- ・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
- ・アイデアや意見を英語で論理的に口頭発表できる自己表現力を身に付ける。
- ・他者のプレゼンテーションを聴いて、英語で討論を行える能力を身に付ける。

【授業計画】

以下の項目を学習する。

- ・ Introduction to PowerPoint
- ・ Creating a basic slide show
- ・ Formatting
- ・ Editing text
- ・ Using images
- ・ Adding animation
- ・ Adding sounds
- ・ Advanced PowerPoint

【評価方法】

・ Participation, class work & Attendance 25%
 ・ 4 Presentations make up the other 75%
 (Presentation 1 - 10%; Presentation 2 - 15%; Presentation 3 - 20%; Presentation 4 - 30%)

【テキスト】

Computers for Communication: PowerPoint (2007). Perceptia Press.

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

Booklet Publishing

HARRIS, Richard S.

【Course description】

所属学科に関係なく様々な卒業研究、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、視覚的効果を高めてポスター、冊子、レポートにまとめ、英語を使って世界に向けた情報公開が行えるよう訓練する。

The purpose of this course is to provide students with practical guidance on the preparation and presentation of research projects in English. The course will focus on the acquisition of practical research skills, which will assist students in presenting posters, pamphlets and reports in the course of their future studies. Given the practical nature of the course, students will be expected to prepare and present research projects throughout the course of the program.

【Course objectives】

- By the end of the course students will be able to:
- ・ Produce visual aids which add to the impact of their oral presentations
 - ・ Understand the structure and content of printed media, such as newspapers, magazines and journals
 - ・ Utilize English language resources
 - ・ Write short, simple English sentences to present research findings

【Course schedule】

- ・ Participation and attendance
- ・ Completion of assigned projects
- ・ Presentation of assigned projects

【Assessment】

Students will be referred to appropriate reference materials throughout the course.

Presentations on the Web

ARNOLD, Brent C.

【Course description】

学生が世界に向けて学修成果を英語で情報を発信し、受け手から情報を得て、双方向の情報交換を広げていく機会となるよう、主にホームページ・動画・ラジオ（音声ストーリーミング）での英語による情報公開をサポートする。英語を専門とする学科以外の学生でも研究成果を積極的に世界に向けて英語で発表できるように、英語での自己表現力育成を主な目的とする。

【Course objectives】

To make students aware of how to make a web page and how to prepare information for posting on the Web.

【Course schedule】

Introduction
 ASMAP linked company research
 Making a web poster using Microsoft Word
 Making an radio style commercial using GarageBand
 Making a TV style commercial using PowerPoint, Quicktime and iMovie
 Posting to a web page using iWeb.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance and 4 assignments.
 1. Data collection (10%)
 2. Poster (20%)
 3. Radio CM (25%)
 4. TV CM (30%)
 5. Attendance (15%)

【Textbooks】

None

英語コミュニケーション基礎

太田直子 山田久美子 小沢 茂

【授業の概要】

英語力の向上の為にはまず基礎が大切である。基礎をもう一度確認することで大学レベルの英語の授業をさらに効果的に活用できると考える。授業は、そのためのステップとして、もう一度、英語基礎を一からやり直します。

【授業の目標】

文法を復習すること、そして基本的な例文を暗記することで英語の基礎を再確認する。次回のTOIECスコア350を目指す。

【授業計画】

授業計画
 1) 授業オリエンテーション
 2) 品詞
 3) 5文型
 4) 時制 <現在形・過去形>
 5) 進行形・未来形
 6) 完了形
 7) 助動詞
 8) 受動態
 9) 不定詞
 10) 動名詞
 11) 関係詞
 12) 比較級・最上級
 13) 仮定法
 14) まとめ
 15) まとめ
 但し、授業の進行状況により内容を変更する場合があります。

この授業は、英語サポートプログラムである「基礎からのやり直し英語」と同時に履修することができる。同時に履修することにより、さらに英語の基礎力が付くと考える。「基礎からのやり直し英語」についての詳細は、授業中に説明をする。また、「基礎からのやり直し英語」のパンフレット（9号棟に設置）が用意されている。

【評価方法】

出席と小テスト

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

講義の際に説明する

中国語読解 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 周素芬 楊衛平 湯海鵬
吳凌非

【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の発音・文法面・表現面における基礎的能力を養成する。さらにHSK基礎試験の2級合格を目指し、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文章の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 母音、数字、挨拶
3. 疑問文、形容詞述語文
4. 子音、声調、曜日表現
5. 省略疑問文、疑問詞疑問文
6. 音節、勧誘表現
7. 動詞述語文、指示代名詞
8. 我姓松本。自己紹介
9. 介詞“和”、副詞“也”“都”
10. 我的家庭。所有・存在の“有”、名詞述語文
11. 部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
12. 我们的大学。介詞“给”“在”
13. 名詞の修飾表現
14. 我的一天。日時・時刻の表現、方向補語
15. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 A 2 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 1 A

大森信徳 李昱 曹志偉 周素芬 嚴萍 陳惠貞 中塚亮

【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて、中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の発音・音声面・表現面における基礎的能力を養成する。さらにHSK基礎試験の2級合格を目指し、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に、日常会話表現の習得を目指す。

- | | |
|------|----------|
| 第一課 | 発音 (1) |
| 第二課 | 発音 (2) |
| 第三課 | 発音 (3) |
| 第四課 | 発音 (4) |
| 第五課 | あいさつ表現 |
| 第六課 | 時間の表し方 |
| 第七課 | 年齢を言う |
| 第八課 | 家庭を語る |
| 第九課 | 自分の家を語る |
| 第十課 | 学校について語る |
| 第十一課 | 趣味について語る |
| 第十二課 | 中国へ行く |

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 A 2 (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは〈中国語読解 1 A〉に準ずるが、中国語の基礎を固め理解をより深めるために週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈中国語読解 1 A〉と異なる教材を使用する。このことで、学習した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって学習する。

- | | |
|------|--------------|
| 第一課 | 発音 (1) |
| 第二課 | 発音 (2) |
| 第三課 | 発音 (3) |
| 第四課 | 発音 (4) |
| 第五課 | 人称代名詞・“是” |
| 第六課 | 指示代名詞・数詞・量詞 |
| 第七課 | 形容詞と形容詞述語文 |
| 第八課 | 動詞述語文 |
| 第九課 | “有”・年月日 |
| 第十課 | 場所・時間・数量 |
| 第十一課 | 前置詞 (介詞)・“了” |
| 第十二課 | 能願動詞 |

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 B (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 1 B

大森信徳 曹志偉 中塚亮

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは〈中国語会話 1 A〉に準ずるが、中国語の基礎を固め理解をより深めるために週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが〈中国語会話 1 A〉と異なる教材を使用する。このことで、学習した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 今天星期几? 曜日と疑問詞利用の疑問文
3. 我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
4. 我学习中文专业。能願動詞“能”
5. 现在几点? 時間表現、語気助詞“了”
6. 我的家庭。介詞“在”
7. 谈天气。天気表現、選択疑問文、感嘆文、
8. 邀请。仮定文、反復疑問文、部分否定文
9. 我的大学。伝聞の表現
10. 找手机。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
11. 喜欢什么? 過去の経験表現「V+“过”」
結果や程度表現「V+“得”」
12. 帮我。能願動詞“会”
13. 假期做什么? 結果補語“好”
14. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 B (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 湯海鵬 張勤 嚴萍

【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級合格を目指し、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには〈HSK基礎コースA〉か、〈HSK基礎コースB〉と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには〈中国語会話2〉と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、読解能力のさらなる向上を目指す。より複雑な文章の学習を通じて、中国語の基本構造を理解し、読解能力を養成する。

【授業計画】

本文の状況設定や表現は、旅行記・家族のこと・趣味など、学習者が興味を持てるような身近な題材を取り上げた。

1. 就要放暑假了。語気助詞“了”、介詞“和”
2. 伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
3. 暑假回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
4. 使役の表現“让”
5. 鈴木一家。能願動詞“会”“能”
6. 過去の経験表現「V+“过”」
7. 我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
8. 介詞“离”、連動文
9. 终于习惯了。感嘆表現2
10. 自己の意見表示
11. 我做了一个夢。進行表現の「“在”+V」、程度補語と可能補語
12. 副詞用法の“地”
13. 我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
14. 春假の計画。未完了の表現、許諾の表現

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 A 2 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK基礎コース A *聴解中心

大森信徳 河井昭乃 王麗英 杜英起

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK(漢語水平考試)に向けて、受験に必要な基礎的な能力を集中的に養成するための授業である。試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力・聴解力を身につける。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎2級から3級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “了”や“过”の使い方など
2. “時点”の言い方や“时段”の言い方など
3. “小时”や“钟头”の使い方など
4. “方位词表”について
5. “多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6. “该”や“应该”の使い方など
7. 介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
8. 比較表現について
9. “是字句”について
10. “愿意”や“想”の使い方など
11. “趋向补语”について
12. “复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎A 改訂版 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 2

曹志偉 周素芬 杜英起 楊衛平 李昱

【授業の概要】

身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級合格を目指し、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は旅先での中国語による買い物や換金など、基本的な会話が可能になる。なおHSK試験対策のためには〈HSK基礎コースA〉か〈HSK基礎コースB〉と並行した履修が望ましく、基礎能力の定着をはかるためには〈中国語読解2〉と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ会話能力のさらなる向上を目指す。日常の様々なシーンであられる表現・会話の学習を通じて、中国語の運用能力を身につける。

【授業計画】

本文の状況設定や表現は、学習者が中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

- | | |
|------|-------------|
| 第一課 | 部屋を借りる |
| 第二課 | 換金する |
| 第三課 | 道を尋ねる |
| 第四課 | バスに乗る |
| 第五課 | 電話をかける |
| 第六課 | タクシーに乗る |
| 第七課 | 自由市場で買い物をする |
| 第八課 | デパートで買い物をする |
| 第九課 | レストランで注文する |
| 第十課 | 中国人宅に訪問する |
| 第十一課 | 診察を受ける |
| 第十二課 | スピーチの仕方 |

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 A 2 (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK基礎コース B *読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 嚴萍 中塚亮

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK(漢語水平考試)に向けて、受験に必要な基礎的な能力を集中的に養成するための授業である。設定する目標、講義内容とカリキュラム上の位置づけは〈HSK基礎コースA〉に準ずるが、HSKの資格取得に対して特に関心を持つ学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈HSK基礎コースA〉とは異なる教材を使用し、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものとする。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎2級から3級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “我”と“你”；“左右”と“前后”など
2. “是”；語気助詞の“吗”と“呢”など
3. “了”；形容詞述語文など
4. “動詞+过”と“形容詞+过”；“在”など
5. 数量補語；“头”と“面”など
6. “有字句”；構造助詞“地”など
7. 量詞の重ね型；“把”構文など
8. “从”と“离”；“一边～一边～”など
9. “都”と“一共”；程度補語など
10. “被”構文；“在・正・正在”など
11. 方向補語；“多么”など
12. 複合方向補語；“是～还是～”など
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎B 改訂版 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解3

河井昭乃 李 昱

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、さらなる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための授業である。さらに、HSK初等試験の4級合格を目指し、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。なおHSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーション能力を高めるためには<中国語会話3>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】

1. 应该感谢谁。
2. 接続詞の使い方、用途など。“虽然～但是”など。
3. 一件小事。
4. 連動文。動態助詞“着”。
5. 生日宴会。
6. 動詞の重ね型。結果補語。
7. 中国人的问候语。
8. 挨拶の言葉。“打招呼、问候语”などの基本と応用。
9. 在中国过中秋节。
10. 構造助詞の使い方。“的、地、得”の使い方、それぞれの違い。
11. 骑自行车的张师傅。
12. 数量補語。可能補語。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解3・4（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK初等コースA *聴解中心

大森信徳 河井昭乃 巖 萍

【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初等試験の4級に合格することをめざし、試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的な能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

テキストの各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時にはテキストに即して練習問題を解くこととその解説を中心に、実践能力の向上をめざす。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初等コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話3

大森信徳 曹 志偉 周 素芬

【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取り上げられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い、さらなる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための授業である。さらに、HSK初等試験の4級合格を目指し、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語ることができる。なおHSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語読解能力を高めるためには<中国語読解3>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話2を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 初めまして
 2. 私達の中国語の先生
 3. 朝食を食べる
 4. タクシーに乗る
 5. 宿舍のおばさん
 6. 言葉のパートナー
- 各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK初等コースB *読解中心

河井昭乃 曹 志偉 巖 萍 中塚 亮

【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、講義内容と位置づけは<HSK初等コースA>に準ずるが、HSKの資格取得に対して特に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的な能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

テキストの各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には教科書に即して練習問題を解くこととその解説を中心に、実践能力の向上をめざす。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初等コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 4

河井昭乃

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、さらなる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初中等試験の5級合格を目指し、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。なおHSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーション能力を高めるためには<中国語会話4>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】

1. 自行车上的宝坐儿。
2. 方向補語。程度補語。“把”構文(1)。
3. 雨披。
4. 反復疑問文。反語表現。
5. 服装与色彩。
6. 副詞のポイント。“又、再、也、都、一直、已经”。
7. 逛商场。
8. 形容詞と副詞の用例。“差点儿”の使い方。
9. 一个特别的“村”
10. 伝聞表現。複合方向補語“起来”。感嘆表現。
11. 学汉语趣事。
12. “差不多”の使い方。“把”構文(2)。特殊な動詞述語文。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解3・4(中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等上級コースA *聴解中心

河井昭乃 巖 萍

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した学生を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初中等試験の5級に受かることをめざし、ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと練習問題を解いて、練習問題について解説する。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等上級コースA(愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 4

曹 志偉 大森信徳

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級合格を目指し、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語ることができる。なおHSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語読解能力を高めるためには<中国語読解4>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話3を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 市場での買い物
 2. 旅行に行く
 3. 体を鍛える
 4. ついてない一日
 5. ダイエット
 6. 友情に乾杯
- 各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4(愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等上級コースB *読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹 志偉

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、講義内容と位置づけは<HSK中等上級コースA>に準ずる。HSKの資格取得に対して特に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等上級コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと練習問題を解いて、練習問題について解説する。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等上級コースB(愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文1

曹志偉 嚴萍

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることをねらいとする。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目指し、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけでなく、各文体に沿って練習を重ねることで社会のさまざまな場面で使用される実用な文体を身に付けることも目標とする。

【授業計画】

学習のベースとしては、教科書の構成に沿って学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

- 第一課 文章記号と文章形式
- 第二課 自己紹介
- 第三課 書き付けと招待状
- 第四課 日記
- 第五課 手紙
- 第六課 電子メール

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース1 A *聴解中心

大森信徳

【授業の概要】

中国語を二年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初中等試験の6級または7級に受かることを目指す。HSKで要求される総合的な中国語の能力を養成する。

【授業の目標】

練習問題を大量に解くことで、HSK6級合格に要求される2500～3500前後の語彙とそれに相応する文法・表現をマスターしていく。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のベースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

【評価方法】

期末試験、出席状況、小テスト、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース1 B *読解中心

曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2A>に準ずるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースBは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考）6級に合格するレベルの語彙、文法、読解力の養成を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のベースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門1

大森信徳 曹志偉

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な実務通訳ができる実力を養成する。高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることをねらいとする。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の6級または7級に合格する程度の2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目・表現をマスターしてゆく。

【授業計画】

教科書は通訳が必要とされるさまざまな状況を想定して、各課ごとに一つのシチュエーションを取り上げて構成されている。それぞれの状況でよく使われる語彙・表現を学習した上で、日本語と中国語のリビート、通訳の練習を行う。教科書に沿って一課を二回の授業で進め、この授業では第一課から第六課まで学習する予定である。

1. 出迎え
2. ホテルにて
3. 工場見学
4. 宴席にて
5. 交渉
6. 観光ショッピング

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文2

曹志偉 嚴萍

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることをねらいとする。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目指し、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけでなく、各文体に沿って練習を重ねることで社会のさまざまな場面で使用される実用な文体を身につけることも目標とする。

【授業計画】

学習のペースとしては、教科書の構成に沿って学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

- 第七課 契約書
- 第八課 就職書類
- 第九課 記述文
- 第十課 説明文
- 第十一課 感想文
- 第十二課 意見文

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

HSK中等高級コース2A *聴解中心

大森信徳

【授業の概要】

中国語を一年半以上学習した履修者を対象とするHSK受験対策の授業である。履修後、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目指す。HSKで要求される総合的な中国語の能力を養成する。

【授業の目標】

練習問題を大量に解くことで、HSK7級合格に要求される3500～4000前後の語彙とそれに相応する文法・表現をマスターしてゆく。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のペースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース2B *読解中心

曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2A>に準ずるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースBは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考）7級に合格するレベルの語彙、文法、読解力の養成を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のペースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースB（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門2

大森信徳 曹志偉

【授業の概要】

一年半以上中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることをねらいとする。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目指し、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等高級コース2A>か<HSK中等高級コース2B>と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには<中国語作文2>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の7級または8級に合格する程度の3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法事項・表現を身につける。

【授業計画】

教科書は通訳が必要とされるさまざまな状況を想定して、各課ごとに一つのシチュエーションを取り上げて構成されている。それぞれの状況でよく使われる語彙・表現を学習した上で、日本語と中国語のリピート、通訳の練習を行う。教科書に沿って一課を二回の授業で進め、この授業では第七課から第十二課まで学習する予定である。

1. 電話会談
2. 商品見本市
3. 納品・支払い
4. 梱包・輸送
5. 損害賠償
6. 仲裁

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

韓国・朝鮮語入門

金賢珍 キム ソヨン

【授業の概要】

韓国・朝鮮の文字であるハングルの読み書き、基礎文法の理解、よりらしい発音のトレーニングなど、入門段階において必要な学習内容を総合的に習得していくことにより、韓国・朝鮮語学習に対する興味と自信を覚えてもらう。

【授業の目標】

基礎的名詞および動詞や形容詞を中心にする500語程度の基本語彙、60項目ほどの基礎文法を身につけ、それを用いた短文の読み書き、聞きとり、意思表示、そして会話上の運用を可能にする。

【授業計画】

この段階における集中学習法の効果をねらい、週2回履修を義務づける。なお、韓国・朝鮮語は日本語と文法構造がほとんど同じで、効果的に学習すれば1年間で高校3年の英語力程度の力をつけることができるといわれる。

第1講～第4講	ハングルの読み書き1、まとめ 1) 基本母音字 (10個)、挨拶1 2) 基本子音字1・2 (平音9個・激音5個)、挨拶2 3) 合成子音字 (濃音5個)、名詞1
第5講～第8講	ハングルの読み書き2、まとめ 1) 合成母音字1・2 (11個)、名詞2 2) 終声子音字1・2 (7種)、名詞3
第9講～第10講	発音ルールとトレーニング、動詞1 外国語のハングル表記、まとめ
第11講～第12講	助詞1、上称形1、尊敬形1、まとめ
第13講～第14講	連結語尾1、助詞2、上称形2、尊敬形2、変則活用1
第15講	試験対策
第16講	中間試験
第17講～第18講	数詞と助数詞1、連結語尾2、否定形、現在時制1、敬語、変則活用2
第19講～第20講	未来時制・過去時制、変則活用3、慣用表現1、連結語尾3
第21講～第23講	数詞と助数詞2、連結語尾4、助詞3、変則活用4
第24講～第25講	用言の名詞形、現在時制2、不可能形、曖昧形、変則活用5、連結語尾5
第26講～第27講	助詞4、変則活用6、連結語尾6、回想の表現、慣用表現2
第28講～第29講	試験対策
第30講	単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

はじめての韓国・朝鮮語 (曹述燮 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

080323507_0030 掲載順 : 0030

MCode: 080104509_0030 ★

韓国・朝鮮語会話1

金賢珍 金美淑 李芝賢

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それを用いた会話の聞き取り、意思表示の運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

【授業計画】

第1講	授業概要の説明、こんにちは
第2講	韓国は初めてですか
第3講	ここが寮です
第4講	授業は3月2日からです
第5講	MTって何ですか
第6講	どこで売っていますか
第7講	韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第8講	スタンドランプを見せてください
第9講	一杯飲みましょう
第10講	大学生活はどうですか
第11講	よく聞けば勉強になります
第12講	誕生日パーティをしましょう
第13講	会話を楽しむ
第14講	試験対策
第15講	単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

始めよう韓国語会話 (曹述燮・李正子・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解1

金賢珍 キム ソヨン 金元榮

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞など1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それを用いた文章の読み書きの運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

【授業計画】

第1講	授業概要の説明、入門講座の復習
第2講	サッカーがお好きですか。過去の経験の敬語体、理由・原因の表現、単純否定表現と不可能表現
第3講	明日は何をされますか。意志・意図・計画の表現、願望の表現、勧誘の表現
第4講	郵便局に行く。用言の連体形
第5講	喫茶店で。変則1、仮定の表現、選択・許容の表現、命令・提案・要求の表現
第6講	韓国料理屋で。変則2、前置きの表現、逆接の表現、助数詞
第7講	道をたずねる。変則3、案内の表現、義務・必要性の表現、比較・対照の表現
第8講	総合復習および中間試験
第9講	地下鉄の駅で。変則4、可能・不可能、能力・無能力の表現、排除の表現、推量・可能性の表現
第10講	タクシーに乗る。前後関係の表現、意図・予定の表現、決定の意の表現、依頼・要求の表現
第11講	約束を交わす。感動・独白・感想の表現、同時進行の表現
第12講	天気、引用・伝聞の表現、確認あるいは同意の表現
第13講	電話をかける、紹介・案内の表現、曖昧さの表現
第14講	ショッピングをする、許諾・承認の表現
第15講	単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

韓国語中級 (李昌圭 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

080323507_0040 掲載順 : 0040

MCode: 080104509_0040 ★

韓国語能力試験対策1

キム ソヨン 金芝恵 白明学

【授業の概要】

韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に必ず合格する。

【授業計画】

発音と表記、文法、助詞、読解と表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をおとして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

第1講	授業ガイド、発音と表記
第2講	終結語尾 (叙述形・命令形)
第3講	数え方・否定形
第4講	各種助詞1
第5講	連体形
第6講	敬語の表現
第7講	変則用言
第8講	模擬試験
第9講	各種助詞2
第10講	挨拶・語句
第11講	活用表現1
第12講	活用表現2
第13講	読解
第14講	模擬試験
第15講	単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、模擬試験などの各種テスト、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

ハングル能力検定試験4級合格をめざして (李昌烈 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解 2

金元榮 姜信和

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、基本的な説明文・広告文などが理解できること、簡単な文章が正しく書けること、そして韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 会話文「初出勤」の読解および派生動詞（受動動詞・謙譲動詞）、引用形
- 第2講 会話文「順杯」の読解および並行動作と逆接の語尾、変則1、～以来
- 第3講 説明文「携帯電話時代」、「情報化時代」の読解
- 第4講 会話文「会食」の読解および補助動詞、引用文縮約形1
- 第5講 会話文「業務報告」の読解および推測や意向を問う文法、命令形
- 第6講 説明文「PCバン」、「コシアン」の読解
- 第7講 整理と発展：会話文「北韓山で」の読解および漢字音の理解、十分と禁止を示す文法、音変化1、大学入試センター試験から1
- 第8講 会話文「再会（1）」の読解および婉曲・感嘆・非難の語尾、進展の語尾
- 第9講 会話文「再会（2）」の読解および下称（疑問・命令・勧誘）、意思表明の語尾
- 第10講 説明文「韓国人が好きな動物“犬”」、「日韓の文化情報誌」の読解
- 第11講 会話文「日本の取材（1）」の読解および変則2、目的を示す活用形、義務の表現
- 第12講 会話文「日本の取材（2）」の読解および終結語尾、間接疑問形、説明文「日韓交流の増加」、「指紋捺捺撤廃訴訟」の読解
- 第13講 整理と発展：会話文「同僚紹介」の読解および漢字音の理解、指示詞の理解、文を受ける連体形、大学入試センター試験から2
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

総合韓国語3（油谷幸利・南相環 白帝社）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話 2

キム ソヨン 金美淑 李芝賢

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、ホテルでの客室予約、銀行での口座開設などの日常生活の簡単な会話を可能にし、基本的な説明文・広告文が理解できるようにする。そして、韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 会話1の復習、どこでもかまいません
- 第2講 週末には何をしましたか
- 第3講 今晚またお電話いたします
- 第4講 趣味は料理とか旅行です
- 第5講 資料を探しに一緒に行きませんか
- 第6講 韓国料理ができますか
- 第7講 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8講 何をしようと思っていますか
- 第9講 どこにいらっしゃいますか
- 第10講 バスカ地下鉄に乗っていきます
- 第11講 さる水曜日からです
- 第12講 このバックいくらだった
- 第13講 会話を楽しむ
- 第14講 試験対策
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

始めよう韓国語会話（曹述燮・李正子・金賢珍 プリンテック）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策 2

キム ソヨン 金芝恵 白明学

【授業の概要】

韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に必ず合格する。

【授業計画】

基礎表現、発音、読解と活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験とおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1講 授業ガイド、発音
- 第2講 各種縮約形
- 第3講 受け身・使役
- 第4講 する関係動詞・する動詞・する形容詞、する副詞
- 第5講 名詞作り、形容詞作り、数え方
- 第6講 各種助詞、不規則用言
- 第7講 終結語尾・接続助詞
- 第8講 模擬試験
- 第9講 語句・活用表現1
- 第10講 活用表現2
- 第11講 活用表現3
- 第12講 読解1
- 第13講 読解2
- 第14講 模擬試験
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、模擬試験、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

ハングル能力検定試験3級合格をめざして（李昌烈 白帝社）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解 3

金賢珍 姜信和

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、簡単な手紙を読んだり書いたりするなど平易な文章による意思伝達が可能であること、新聞、雑誌を読んである程度理解可能であること、そして韓国語能力試験の3級または4級、ハングル能力検定試験の準2級または3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 会話文「日本語案内放送」の読解および変則1、感嘆形、
- 第2講 会話文「日韓間の親近感」の読解および引用形、引用文連体形、回想連体形
- 第3講 説明文「日韓相互好感度増加」、「東アジアの若者たちの文化共有」の読解
- 第4講 会話文「板門店」の読解および理由、比況、譲歩を示す文法
- 第5講 会話文「韓国映画」の読解および変則2、推量を示す文法
- 第6講 説明文「サッカー・ワールドカップ日韓共催」、「韓国人の日本語学習者」の読解
- 第7講 整理と発展：会話文「海底トンネルへの期待」及び漢字音の理解
- 第8講 会話文「PCバン」の読解および変則3、前置き、接続の語尾、連用形につづく動詞
- 第9講 会話文「東大門市場」の読解および引用形につづく動詞、形式名詞例示・列挙・多量・程度を示す動詞
- 第10講 説明文「電車の女性専用車両」、「姓に関する問題」の読解
- 第11講 会話文「コリアンタウン」の読解および省略形、疑問詞の不定用法
- 第12講 会話文「あかすり」の読解および動詞の名詞形、連体形、変則4
- 第13講 説明文「外国人労働者のための韓国語教室」、「水不足」の読解
- 第14講 整理と発展：会話文「祝杯」の読解および漢字音の理解、音変化
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

総合韓国語3（油谷幸利・南相環 白帝社）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話 3

金賢珍 キム ソヨン 李芝賢

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、日常言語生活において語彙の不便がなくよく使われる言葉をゆっくり聞けば十分理解できてハンゲルの会話が楽しめるようにする。そして、韓国語能力試験の3級または4級、ハンゲル能力検定試験の準2級または2級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 専門科目を多めに履修しなければなりません
- 第2講 時間はいつがいいですか
- 第3講 自動引き落としのほうがいいと思います
- 第4講 曇りといっておりました
- 第5講 春と思ったらレンギョと山つつじですね
- 第6講 本当に美味しいですね
- 第7講 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8講 民俗博物館に行ってきました
- 第9講 庭園文化について知りたいです
- 第10講 どちらが速いですか
- 第11講 使えますとも!
- 第12講 矢のように早いですね
- 第13講 下宿先を変えようかと思っています
- 第14講 会話を楽しむ
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使おう韓国語会話 (曹述燮・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策 3

金賢珍 キム ソヨン

【授業の概要】

韓国語能力試験の3級または4級あるいはハンゲル能力検定試験の準2級または2級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の3級または4級あるいはハンゲル能力検定試験の準2級または2級に必ず合格する。

【授業計画】

発音、読解、注意すべき用言とその用例、活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1講 授業ガイド、発音
- 第2講 漢字音の比較
- 第3講 受け身、使役
- 第4講 する関係動詞・する動詞・する形容詞・する副詞
- 第5講 各種副詞、各種助詞
- 第6講 名詞作り、形容詞作り、動詞作り、名詞節作り
- 第7講 語句
- 第8講 模擬試験
- 第9講 活用表現1
- 第10講 活用表現2
- 第11講 活用表現3
- 第12講 読解1
- 第13講 読解2
- 第14講 模擬試験
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、模擬試験、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

ハンゲル能力検定試験準2級合格をめざして (李昌烈 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

初めての外国語1 (ドイツ語)

藤井たぎる

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ドイツの文化への関心を高める。ヨーロッパの中でも独特なものを持つドイツ・オーストリアの歴史・文化についても学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業の目標】

ドイツ語の文法についての知識を増やすことが目的ではない。使えるドイツ語、通じるドイツ語を習得することが目的である。

【授業計画】

授業は現在(および未来)のことがらに関する表現練習を行います。学習する主な項目は、以下のとおりです。

- (1) 自己紹介、他人の紹介の練習
- (2) 数字に関する練習(ビンゴ・ゲームつき)
- (3) 冠詞の用法と表現練習
- (4) 名詞・人称代名詞の用法と表現練習
- (5) 動詞・助動詞の用法と表現練習

その他、ビデオを使ってヒアリング、場面理解、会話理解などの練習をします。積極的に参加して下さい。ドイツ語の知識を増やすことがねらいではありません。使いものにならないドイツ語ならいくら知識があっても宝の持ち腐れなのです。使いものになるドイツ語をマスターしましょう。上手な発音である必要はさらさらありませんが、理解される発音でないと意味がありません。きちんと正確に発音できる言葉が増えていくにつれて、ヒアリング能力も確実に向上します。

また、ドイツ・オーストリアの歴史や文化についても、学生の関心があれば、いくつかのビデオを素材にして紹介します。

【評価方法】

試験の成績と受講生の授業中の積極性の両面から総合的に評価するが、基本的には期末試験の点数を重視する。

【テキスト】

プリント配布。

初めての外国語3 (ロシア語)

水野晶子

【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的なロシア語の運用能力を身に付けます。授業ではロシア語の仕組み(文法)の学習と並行して、ロシアの音楽、絵画、民芸品、映画、料理などロシア文化もたくさん紹介します。様々なロシアの姿に触れることで、ことばの学習と同時にヨーロッパとアジアに跨る隣国ロシアへの理解を深めていきます。

【授業の目標】

キリル文字をマスターしロシア語の基本的な仕組み(文法)を理解すること、簡単な会話が出来るようになること、そしてロシアについて自分なりの何か新しい見識を得ることを目標とします。

【授業計画】

毎回、プリントを配布し、プリントを中心に辞書を積極的に活用しながら授業を進めていきます。

一見少し風変わりなキリル文字、音楽のように美しい響きを持ったロシア語にぜひ一度、触れてみませんか。新しいことばを学ぶことは、新しい世界への扉の鍵を手に入れることです。他では中々学ぶチャンスのないロシア語にチャレンジして、新たな世界を覗いてみましょう。芸術の宝庫であるロシア、「知」だけでは理解できないとされるロシア、心に響く何かとずっと出会えること請け合いです！授業では各回次のようなテーマでロシア語の仕組みについて学んでいきます。

1. キリル文字に慣れ親しむ①
2. キリル文字に慣れ親しむ②
3. ロシア語のいろいろな挨拶表現
4. 辞書でいろいろ調べてみよう！
5. 自分をロシア語で紹介しよう
6. ロシア語で尋ねてみよう
7. いろいろな形容詞を使ってみよう
8. 天気表現
9. 曜日の表現
10. いろいろな行為をロシア語にしてみよう
11. ～がほしい/～がしたい
12. 映画鑑賞
13. 気持ちをロシア語で伝えよう
14. 総復習
15. 試験

【評価方法】

①プリントの課題、②授業への参加度、③期末試験の三つの総合点で評価します。

【テキスト】

安藤厚 他 著『ロシア語ミニ辞典』白水社

初めての外国語2 (フランス語)

清水ベアトリックス

【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの旅に行ってみませんか？実際の旅にも役に立つフランス語を覚えるような内容を盛り込んでいるプリント、ビデオドキュメンタリーなどを使って、会話とコミュニケーションを中心にフランス語を楽しく学びます。

【授業の目標】

半年のコースなので、分かりやすいパターンを使って、フランス語の特徴を理解し、フランス語に興味を持つようになります。毎回、文法と語彙のメインポイントをしっかり説明した後、楽しい会話の練習をします。様々なシチュエーションによる必要な単語や表現を覚えて、身に付くまでクラス全員と一緒に練習を繰り返して、喫茶店での注文の仕方、メトロの乗り方、道の尋ね方、電話のかけ方、デパートの使い方、お土産の買い方などを学びます。

【授業計画】

- 1)挨拶-自己紹介-20までの数
- 2)名前・国籍・住んでいるところをたずねる
- 3)職業についてたずねる -60までの数
- 4)何かを示す-持っているものについて話す-
- 5)好きなものを言う-100までの数-小テスト
- 6)年齢についてたずねる-疑問文と否定文の作り方
- 7)1000までの数-買い物と喫茶店での注文の仕方
- 8)趣味について話す-小テスト
- 9)時間の使い方-時間割について話す
- 10)一週間の過ごし方
- 11)ある場所について説明する-小テスト
- 12)家族について話す
- 13)まとめ-映画観察
- 14)まとめ-映画観察
- 15)試験

【評価方法】

定期試験を重視するが、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

プリント

初めての外国語4 (スペイン語)

木下まりあ

【授業の概要】

「初めての外国語4(スペイン語)」は、スペイン語を初めて学ぶ人のための入門的な講義であり、スペイン語の基礎知識の習得を目指します。

【授業の目標】

- ・スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、学習ゲームや練習問題を通して、スペイン語への関心を高める。
- ・多様性に富んだスペインの歴史と文化について学び、独特の風土についての理解を深める。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
3. 挨拶、自己紹介の仕方
4. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5. 形容詞(性数の一致)
6. 人称代名詞、ser動詞とestar動詞
7. 数詞と時刻の表現
8. スペイン語の手紙の書き方
9. 旅行に役立つスペイン語会話
10. まとめ

【評価方法】

レポート+授業への貢献度+出席(詳細は授業にて説明する)

【テキスト】

「未定」

初めての外国語5 (イタリア語)

柴田有香

【授業の概要】

芸術、ファッション、料理、観光など様々な分野において魅力で溢れるイタリア、そして人とのコミュニケーションを大切に創造力に富んだイタリア人には、興味と親しみが高まるばかり。その上イタリア語は、私達日本人にとって聞き取り又発音しやすい言語でもあり、実は私達は日頃から知らず知らずのうちにカタカナでのイタリア語単語に接しています。簡単に実用的な日常会話を題材にしてイタリア語の基礎を学びながら、イタリアへの扉を開きます。

【授業の目標】

簡単なイタリア語を聞き、読み、話せるようになることによって、イタリア語のおもしろさを実感し、更にはイタリアへの関心を深めていけることを目指します。

【授業計画】

挨拶、自己紹介、人の紹介、パルやレストランでの注文の仕方。「何語を話しますか?」「私はおなかですいています」「サッカーが好きです」などの表現方法。実際日常の様々な状況の中でよく使われる単語や会話表現を楽しく習得しながら、名詞、形容詞、冠詞、動詞(現在)などの基礎文法にも触れていきます。又映像や音楽を通して、イタリアへの小旅行や生きたイタリア語の響きも楽しみましょう。

【評価方法】

出席、授業中の積極性、試験成績から総合的に評価。

【テキスト】

Un piatto d'italiano イタリア語ひとさら(改訂版) 遠藤礼子著 (白水社)

初めての外国語6 (ポルトガル語)

瀧藤千恵美

【授業の概要】

「初めての外国語6(ポルトガル語)」は、ポルトガル語を始めて学ぶ人のための入門的な講義であり、ポルトガル語の基礎知識の習得を目指します。

【授業の目標】

ブラジル・ポルトガル語のコミュニケーションに最低限必要な基礎文法事項を学び、簡単な会話ができるようにしましょう。(詳細は授業にて説明します)

【授業計画】

- 第1回. プレゼンテーション
- 第2回. あいさつ
- 第3回. 男性名詞と女性名詞
- 第4回. 数字、複数
- 第5回. SER動詞
- 第6回. 「これは何ですか?」
- 第7回. 形容詞、所有詞、指示詞
- 第8回. TER動詞
- 第9回. IR動詞
- 第10回. 規則動詞 (ar動詞)
- 第11回. 規則動詞 (er動詞、ir動詞)
- 第12回. 時間表現
- 第13回. ESTAR動詞
- 第14回. 今までの復習
- 第15回. 定期試験

の予定。また授業中にブラジルの文化や社会に関するDVDなども鑑賞予定。

【評価方法】

定期試験と平常点(出席や宿題)の評価により総合判断します。

【テキスト】

プリントを配布

【参考文献・資料】

各自でブラジル・ポルトガル語の参考書を見ると良い。
おススメは「ニューエクスプレス ブラジルポルトガル語」香川正子著 白水社

コンピュータ入門 I (Word・PowerPoint)

西荒井学 小林久恵 外部講師

【授業の概要】

情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびにアプリケーションソフトウェアに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけではなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習を通して学習していく。このため、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。

【授業の目標】

Windows XPの環境を前提に、基本的なパッケージソフトウェアの操作方法について、基礎知識をコンピュータ実習を通じて習得する。

【授業計画】

1. Webメールの基本操作
 2. メールマナーとセキュリティ
 3. Windows：フォルダとファイルの管理
 4. Windows：記憶媒体、圧縮ファイルの利用
 5. Word：文字の入力と編集
 6. Word：文字の装飾と配置
 7. Word：印刷、図形の作成
 8. Word：表の作成
 9. Word：その他の機能
 10. PowerPoint：プレゼンテーションの概要、基本操作
 11. PowerPoint：図表の活用
 12. PowerPoint：プレゼンテーションと資料作成
 13. プレゼンテーション課題制作
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

後期の「ネットワークリテラシ入門」「コンピュータ入門III」「プログラミング入門」「ユーザ部門管理者コース」を履修予定の学生は必ず受講する。
なお、「サブメンタリレッスン(補習授業)」を別途設定する。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

コンピュータ入門I 2008年度版(愛知淑徳大学情報教育センター編共立出版)

080324509_0030 掲載順:0030

MCode:080105511_0030 ★

ネットワークリテラシ入門

三和義秀 小林久恵 原伸之 森友紀

【授業の概要】

ネットワークに関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。また、ネットワークの仕組みを理解すると同時に、ホームページの作成を通して、ネットワークの基本的な考え方、活用方法、有効性を体得する。さらに、情報社会の特質や問題点にも触れながら、ネットワークの利用やホームページを作成する際に配慮すべき情報倫理観を育てる。

【授業の目標】

ネットワーク技術を利用する上で必須となるネットワークの仕組みやホームページ作成の知識とスキルを習得する。

【授業計画】

1. ネットワークとインターネット
 2. OSI参照モデルとTCP/IPプロトコル
 3. LANの種類と仕組み
 4. サーバの種類と仕組み
 5. IPアドレスとサブネットマスクの仕組み
 6. ネットワークの実践、基本コマンド
 7. セキュリティと情報倫理
 8. ハイパーテキスト、HTMLの仕組み
 9. 画像の表示、ハイパーリンクの設定
 10. フレームとテーブルの作成
 11. XMLの仕組み
 12. XML文書とスタイルシートの作成
 13. ホームページ課題制作
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

この授業を履修する上で、「コンピュータ入門I」「コンピュータ入門II」を併せて履修することが望ましい。後期の「ユーザ部門管理者コース」「システム管理者コースI」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

ネットワークリテラシ入門 第2版(共立出版)

コンピュータ入門 II (Excelと統計処理)

西荒井学 三和義秀 小林久恵 外部講師

【授業の概要】

情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。また、ソフトウェアの技能の習得にとどまらず、加工したデータから特性や規則性を導き出す技法を学習していく。コンピュータ入門Iと同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。

【授業の目標】

コンピュータ技術の基礎として不可欠なコンピュータのしくみおよびデータ処理操作方法について、利用者が持つべき基本的な専門知識を習得する。

【授業計画】

1. コンピュータの歴史と原理
 2. ハードウェアのしくみとソフトウェアの役割
 3. 情報の表現(2進数、16進数)
 4. 情報ツールとマナー
 5. Excel：データ入力と編集
 6. Excel：数式と関数
 7. Excel：相対参照と絶対参照
 8. Excel：グラフの作成1
 9. Excel：グラフの作成2、印刷
 10. Excel統計：度数分布とヒストグラム
 11. Excel統計：代表値と散布度
 12. Excel統計：基準値と偏差値
 13. Excel統計：クロス集計の作成
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

後期の「ネットワークリテラシ入門」「コンピュータ入門III」「プログラミング入門」「ユーザ部門管理者コース」を履修予定の学生は必ず受講する。
なお、「サブメンタリレッスン(補習授業)」を別途設定する。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

コンピュータ入門II 2008年度版(愛知淑徳大学情報教育センター編共立出版)

080324509_0040 掲載順:0040

MCode:080105511_0040 ★

コンピュータ入門 III (Word/Excel応用・Access)

上原 衛 諸上茂光 小林久恵 宇佐美貴史 奥村文徳

【授業の概要】

コンピュータ入門I、コンピュータ入門IIの学習内容を踏まえ、Windowsの高度操作、Wordによる文書作成の高度操作、Excelによる表計算処理の高度操作を学習する。さらに、Accessによるデータベースの作成を通して、データベースの基本原理や仕組み、特徴についての基本的な知識と技法を習得する。

【授業の目標】

Wordによるレポート・論文・ビジネス文書の作成、及びExcelによる表の操作と関数を利用した編集についての高度なスキルと知識を習得する。また、Accessによるデータベース作成・検索・レポート作成についてのスキルと知識を習得する。

【授業計画】

1. 情報技術と情報倫理
 2. Windowsの応用操作(デスクトップ、ファイルの高度操作)
 3. Wordによるビジネス文書の作成1(長文レポートの作成)
 4. Wordによるビジネス文書の作成2(脚注、索引、目次の作成)
 5. Wordによるビジネス文書の作成3(グラフ、図表目次の作成)
 6. Excelによるビジネス情報処理
 7. Excelデータの加工・集計
 8. Excelデータベースの集計
 9. Excelデータの検索・抽出
 10. Accessの基本操作(データベースの設計)
 11. Accessの基本操作(テーブルの設計)
 12. Access総合演習(データベースの操作)
 13. Access総合演習(データ集計)
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

なお、この授業では「コンピュータ入門I」「コンピュータ入門II」で習得した知識、技術が必要になる。

【評価方法】

出席状況(割合:50%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:20%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

情報リテラシーの応用(伊東俊彦他著 近代科学社)

プログラミング入門

西荒井学 三和義秀 小林久恵 奥村文徳 原 伸之 末次新市

【授業の概要】

システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、プログラム言語を用いてその基礎知識を習得する。このため、プログラム言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。

【授業の目標】

データ処理におけるアルゴリズムからプログラミング作業に至るまでのシステム開発における基礎知識と技術をVisual Basic のプログラミング実習を通じて習得する。

【授業計画】

1. システム開発におけるプログラミング
 2. プログラミング言語の概要
 3. プログラミングの基礎、手順
 4. アルゴリズムとフローチャート
 5. 変数とデータ型
 6. 順次構造
 7. 関数の利用
 8. 選択構造 (If, Select Case文)
 9. 繰り返し構造 (For~Next文)
 10. 繰り返し構造 (Do While~Loop, Do Until~Loop文)
 11. 一次元配列
 12. 二次元配列
 13. 文字列処理
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

授業は、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で実施する。
なお、「システム管理者コースI」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況 (割合: 20%)、課題提出 (割合: 30%)、学期末試験 (割合: 50%) によって総合評価を行う。

【テキスト】

プログラミング入門 (西荒井学著 共立出版)

ユーザ部門管理者コース (初級システムアドミニストレータ試験対策)

末次新市 金澤小夜子 森 友紀 勝野祐子 戸谷英司

【授業の概要】

「初級システムアドミニストレータ試験」の合格を目標とする教育科目である。利用者の立場から、担当する業務の情報化を推進するための知識と能力を習得する。コンピュータの活用法、ヒューマンインターフェース設計やシステム運用の技能、パソコンとネットワークの基礎知識、表計算ソフトやデータベースソフトの活用能力について学ぶ。

【授業の目標】

情報分野における国家資格である初級システムアドミニストレータの資格取得を目指す。

【授業計画】

1. コンピュータの仕組み
 2. ハードウェアとその特徴
 3. ソフトウェア (OSと表計算)
 4. ソフトウェア (データベースとSQL)
 5. ネットワーク
 6. 情報セキュリティと稼働率
 7. 会社のしくみと仕事
 8. 商業簿記と業務知識
 9. データの分析手法と品質管理
 10. システム開発の手順と手法
 11. システムの運用と管理
 12. 計算問題対策
 13. 午後問題試験対策
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

この授業では、「コンピュータ入門I」「コンピュータ入門II」「ネットワークリテラシ入門」で習得した知識が必要になる。

【評価方法】

出席状況 (割合: 20%)、課題提出 (割合: 30%)、学期末試験 (割合: 50%) によって総合評価を行う。

【テキスト】

初級シスアド合格教本 (技術評論社)

コンピュータグラフィックス入門

石丸 緑 末次新市

【授業の概要】

コンピュータグラフィックス (CG) を含むデジタルコンテンツ制作に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CGを効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。このため、デジタルコンテンツを使ったコミュニケーションやプレゼンテーションの基本から具体的な表現・制作技術にいたるまで概説する。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門3級の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. Webデザインの基礎 (Webデザインとは、インターネットの基礎)
 2. Webデザインの基礎 (Webサイトの種類、制作フロー)
 3. 技術の基礎 (デジタルとは、ソフトウェア)
 4. 技術の基礎 (入出力装置、インターネットの基礎)
 5. 表現の基礎 (観察と表現、形と色、デジタル画像制作の基礎)
 6. 表現の基礎 (画像制作の基礎、グラフィックの基礎)
 7. 表現の基礎 (画像制作の基礎、文字、レイアウト、情報の視覚化)
 8. 画像制作
 9. Webデザイン (Webサイトのしくみ、コンセプト、Web制作における情報)
 10. Webデザイン (Webサイトの設計、素材の制作)
 11. Webデザイン (Webサイトの構築、Webサイト制作の基礎)
 12. Webデザイン (テストと修正、評価とメンテナンス、Webサイトの運用)
 13. Webサイト制作
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

「CGクリエイティングコースI」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況 (割合: 20%)、課題提出 (割合: 30%)、学期末試験 (割合: 50%) によって総合評価を行う。

【テキスト】

入門Webデザイン (CG-ARTS協会)

【参考文献・資料】

WWWからはじめる情報デザイン HYPER MEDIA DESIGN 2
Webデザイナー検定2級・3級 公式問題集

システム管理者コース I (基本情報技術者試験対策)

戸谷英司

【授業の概要】

「基本情報技術者試験」の合格を目標とする教育科目である。情報技術全般の基礎知識を活用し、将来高度な技術者を目指す者としての知識と能力を習得する。情報技術全般の基本的な知識、基礎的なプログラム設計書作成能力、プログラミングのための論理的思考能力、プログラムのテスト手法などについて学ぶ。

【授業の目標】

情報分野における国家資格である基本情報技術者の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. 情報の基礎理論 (データの表現・基数変換・負の整数)
2. 情報の基礎理論 (浮動小数点・精度と誤差・シフト・論理演算)
3. ハードウェア (動作原理・命令とアドレス指定・プロセッサ性能)
4. ハードウェア (高速化技術・記憶素子・補助記憶装置・インタフェース)
5. ソフトウェア (OS・ジョブ管理・タスク管理・マルチプログラミング)
6. ソフトウェア (実記憶管理・仮想記憶・プログラム言語)
7. ファイルとデータベース (ファイル編成・データベースの正規化)
8. ファイルとデータベース (DBMS・SQL)
9. 通信ネットワーク (通信サービス・誤り制御・伝送制御)
10. 通信ネットワーク (プロトコル・LAN・アクセス制御方式・インターネット)
11. システム開発 (開発手法・外部設計・内部設計・プログラム設計)
12. システム開発 (テスト技法・オブジェクト指向・信頼性設計)
13. セキュリティ、情報化と経営
14. データ構造とアルゴリズム (配列・木・リスト・状態遷移・擬似言語)
15. 試験

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。

【評価方法】

出席状況 (割合: 20%)、課題提出 (割合: 30%)、学期末試験 (割合: 50%) によって総合評価を行う。

【テキスト】

基本情報技術者合格教本 (技術評論社)

CGクリエイティングコース I (CGクリエイター検定Webデザイン部門2級試験対策)

末次新市

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門2級」の合格を目標とする教育科目である。2級問題は、「CGクリエイター検定3級」レベルのCGに関する総合的な知識の他に、コンセプトメイキングから運用に至る全工程の知識が必要とされるので、Webデザインや音の利用に関するWeb制作に必要な知識を体系的に学ぶ。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門3級合格者やそれに準ずる者を対象に、CGクリエイター検定Webデザイン部門2級の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. Webデザインへのアプローチ (Webサイト制作の流れ)
 2. コンセプトメイキング (Webサイトの種類とコンセプト)
 3. コンセプトメイキング (Web2.0、情報メディアについて)
 4. 情報の構造 (情報の収集・分類、組織化、Webサイト構造)
 5. ページデザイン (レイアウト、タイポグラフィ)
 6. ページデザイン (グラフィックス、カラーコーディネート)
 7. ナビゲーション (ユーザインターフェース、ナビゲーションデザインの手法)
 8. 動きと音の効果 (動きの技法と表現、音の演出)
 9. Webサイトを実現する技術 (技術の基礎、Webサイト上の機能)
 10. Webサイトを実現する技術 (Web制作の言語、バックエンドで活用する技術)
 11. Webサイトのテストと運用 (Webサイトのテスト、Web解析)
 12. Webサイトのテストと運用 (Webサイトの運用とリニューアル)
 13. 知的財産権、過去出題問題の検証と分析
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

この授業を履修する際には、カリキュラム表の履修条件を確認すること。特に「CGクリエイティングコースII」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況 (割合: 20%)、課題提出 (割合: 30%)、学期末試験 (割合: 50%) によって総合評価を行う。

【テキスト】

Webデザイン コンセプトメイキングから運用まで 改訂版 (CG-ARTS協会)

【参考文献・資料】

ハイパーメディアデザインWebページのための情報のデザイン
Webデザイナー検定2級・3級 公式問題集

080324509_0110 掲載順 : 0110

MCode:080105511_0110 ★

システム管理者コース II (ソフトウェア開発技術者試験対策)

中野雅晴

【授業の概要】

「ソフトウェア開発技術者試験」の合格を目標とする教育科目である。ソフトウェア開発技術者として、高品質なソフトウェアを開発するための知識を習得する。ネットワーク、データベースの全般的知識と実装技術、内部設計書やプログラム設計書の作成、テスト実施における指導能力について学ぶ。

【授業の目標】

ソフトウェア開発技術者の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. コンピュータ科学上級(情報の基礎理論)
2. コンピュータシステム上級
(ハードウェア、基本ソフトウェア、システム構成)
3. システム開発と運用
(プログラム言語、システム開発手法とプロセスモデル)
4. ネットワーク技術
5. セキュリティと標準化
6. ソフトウェア工学
7. データベース技術 (関係データベースの基礎)
8. データベース技術 (SQLとデータベース設計)
9. アルゴリズム
10. システム構成技術 (システム設計、テスト技法)
11. 過去出題問題の検証と分析
12. 確認試験

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。

【評価方法】

出席状況、課題提出によって総合評価を行う。

【テキスト】

授業前に掲示で指示する。

【参考文献・資料】

- ・ソフトウェア開発技術者パーフェクターニング過去問題集 (加藤昭他著 技術評論社)
- ・ソフトウェア開発技術者完全教本 (日高哲郎著 日本経済新聞出版社)
- ・「基本情報」かららくらく受かるソフトウェア開発技術者合格教本 (日高哲郎著 日本経済新聞出版社)

080324509_0120 掲載順 : 0120

MCode:080105511_0120 ★

CGクリエイティングコース II (CGクリエイター検定Webデザイン部門1級試験対策)

末次新市

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門1級」の合格を目標とする教育科目である。1級問題は、Web設計とWebデザインの高度な専門知識の他に、企画立案とWebデザインの実践に関する問題解決能力が必要とされるので、自ら発案するテーマに基づいたWeb制作の実習を行う。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門1級の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. 一次試験対策 過去出題問題 (記述式) の検証と分析
 2. 一次試験対策 過去出題問題 (記述式) の検証と分析
 3. 一次試験対策 過去出題問題 (論述式) の検証と分析
 4. 二次試験対策 過去出題問題の検証と分析
 5. 二次試験対策 Web制作 (企画書の作成)
 6. 二次試験対策 Web制作 (企画書の作成)
 7. 二次試験対策 Web制作 (Webサイト仕様書の作成)
 8. 二次試験対策 Web制作 (Webサイト仕様書の作成)
 9. 二次試験対策 Web制作 (Webサイトの作成)
 10. 二次試験対策 Web制作 (Webサイトの作成)
 11. まとめ
 12. 試験
- ※11回目のまとめと12回目の試験は入れ替わる場合があります。

この授業を履修する際には、カリキュラム表の履修条件を確認すること。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

Webデザイン (CG-ARTS協会)

【参考文献・資料】

ハイパーメディアデザインWebページのための情報のデザイン
Webデザイナー検定2級・3級 公式問題集

情報数学入門

親松和浩 福井 稔

【授業の概要】

情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、グラフィック処理で必要となる代数学の基礎を学ぶ。

【授業の目標】

全ての情報処理プログラミングに必要な論理演算、データ量や処理スピードに関する基礎知識を理解し、CGやゲームプログラミングで必要となる三角関数やベクトルの基礎的な計算法を習得する。

【授業計画】

1. 命題と制御処理
2. 集合と写像
3. データの表現法と2進法
4. 情報量/計算量の評価
5. 三角関数
6. 2次元ベクトル
7. 2次元図形の表現法
8. 行列
9. 2次元図形の変換
10. 3次元ベクトル
11. 3次元図形の表現法
12. 3次元図形の変換
13. まとめ
14. 試験

【評価方法】

出席状況、学期末試験、課題レポートの提出内容によって評価する。

【テキスト】

第1回目の授業にて指示する。

人工知能入門

高橋信明 吉川大弘

【授業の概要】

人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および情報処理について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、出来る限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。

【授業の目標】

人工知能の学問分野を概観し、人工知能プログラムや知識の表現、推論についての基礎知識を習得する。

【授業計画】

1. 人工知能の基本原則と考え方
2. 知識と知識表現
3. 述語論理と導出原理
4. 問題解決
5. 探索法とアルゴリズム
6. プロダクションシステム
7. 意味ネットワーク
8. 推論
9. 自然言語処理
10. 人工知能用言語
11. エキスパートシステム
12. ニューラルネットワーク
13. 人工知能の応用と展望
14. 試験

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

人工知能概論 第2版 (荒屋真二著 共立出版)

スポーツ科学

門間 博 境田雅章 寺田邦昭 土田 洋 松田秀子 丸山治美
村本名史

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	2限	村本	テニス・バスケットボール
	3限	村本	テニス・バスケットボール
火曜日	2限	村本	テニス・バスケットボール
	3限	松田	バドミントン・ニュースポーツ
	4限	松田	バドミントン・ニュースポーツ
水曜日	1限	門間	バドミントン・卓球
	1限	土田	卓球・バドミントン
	2限	門間	バドミントン・卓球
	2限	土田	卓球・バドミントン
	3限	門間	バドミントン・卓球
	3限	村本	卓球・バドミントン
	4限	門間	バドミントン・卓球
木曜日	1限	寺田	卓球・バドミントン
	2限	寺田	スキルトレーニング・バドミントン
	3限	境田	テニス・フットサル
	4限	境田	テニス・フットサル
金曜日	1限	門間	卓球・バドミントン
	2限	門間	テニス・フットサル
	2限	村本	バレーボール・バスケットボール
	3限	門間	バレーボール・バスケットボール
	3限	丸山	エアロビクス&フィットネス
	4限	門間	バレーボール・バスケットボール
	4限	丸山	エアロビクス&フィットネス

【評価方法】

- 出席=70点
- 実技・参加の態度・種目理解度等=30点

080325010_0030 掲載順:0030

MCode:080106012_0030 ▲

スポーツ科学

門間 博

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔バドミントン〕(水曜1限前半・水曜2限前半・水曜3限前半・水曜4限前半・金曜1限後半)
- 1～2. ラケットとシャトルをコントロールする
 3. ルールとマナーを身につける
 - 4～6. ミニゲーム
- 〔卓球〕(水曜1限後半・水曜2限後半・水曜3限後半・水曜4限後半・金曜1限前半)
1. ラケットのグリップと打法
 2. フォアハンド・バックハンド
 3. サービスとレシーブ
 - 4～6. ゲーム(審判とスコア)、テスト(スキル)
- 〔テニス〕(金曜2限前半)
- 1～2. ラケットとボールに慣れる
 3. ルールとマナーを身につける
 - 4～6. ミニゲーム
- 〔フットサル〕(金曜2限後半)
1. 個人技能の確認
 - 2～3. ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
 - 4～6. リーグ戦、まとめ(記録整理・レポート)
- 〔バレーボール〕(金曜3限前半・金曜4限前半)
1. パスワーク(オーバーハンド・アンダーハンド)
 2. サーブとレシーブ(サーブレシーブ・パスアタックレシーブ)
 3. トス・アタック・ブロック
 - 4～6. ゲームと審判(ルール)、テスト(スキル)
- 〔バスケットボール〕(金曜3限後半・金曜4限後半)
1. ボールに慣れる
 - 2～3. 個人・チームでの基本的な練習
 4. ルールとマナーを身につける
 - 5～6. ゲーム・スキルテスト

【評価方法】

出席=70点 実技・参加の態度・種目理解度等=30点

080325010_0040 掲載順:0040

MCode:080106012_0040 ▲

スポーツ科学

境田雅章

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔テニス〕(木曜3限・4限前半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ラケットとボールに慣れる ゲーム
 3. ボールをコントロールする ゲーム
 4. サービスを練習する ゲーム
 5. ルールとマナーを身につける ゲーム
 - 6～7. ゲーム・スキルテスト
- 〔フットサル〕(木曜3限・4限後半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ボールに慣れる ゲーム(スモール・ビッグ)
 3. 基本的な個人技能の確認 ゲーム(スモール・ビッグ)
 4. チームでの基本的な練習 ゲーム(スモール・ビッグ)
 5. ルールとマナーを身につける ゲーム(スモール・ビッグ)
 - 6～7. スキルテスト ゲーム(スモール・ビッグ)

【評価方法】

- 出席=70点
- 実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

寺田邦昭

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・天候によって種目を変更する場合がある。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔卓球〕(木曜1限前半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ラケットのグリップと打法
 3. フォアハンド・バックハンド(ロング・ショート・カット・スマッシュ)
 4. サービスとレシーブ
 - 5～7. シングルスゲーム・ダブルスゲーム(スコア記録)
- 〔スキルトレーニング〕(木曜2限前半)
- オールラウンドプレーヤーを目指し、下記のスポーツスキルを週毎に種目を変えながら実施し、その基本的な動きのコツの獲得を目指す。
1. ガイダンス
 - 2～4. 主にアウトドア種目(フライングディスク、ソフトボール、ゴルフ、サッカー)等を用いての動き作り
 - 5～8. 主にインドア種目(卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール)等を用いての動き作り
- 〔バドミントン〕(木曜1限後半・木曜2限後半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ラケットとシャトルに慣れる
 3. シャトルをコントロールする
 4. ルールとマナーを身につける
 - 5～8. シングルスゲーム・ダブルスゲーム(スコア記録)

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

土田 洋

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔卓球〕(水曜1限前半・水曜2限前半)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ルールとマナーを身につける
3. ラケットとボールに慣れる
4. ボールコントロール
- 5～7. ゲーム・スキルテスト

〔バドミントン〕(水曜1限後半・水曜2限後半)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ルールとマナーを身につける
3. ラケットとシャトルに慣れる
4. シャトルコントロール
- 5～7. ゲーム

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解等=30点

スポーツ科学

丸山治美

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・この授業では、1. エアロビクスの特性・効果を理解する 2. エアロビクスを通して運動する楽しさ・表現する楽しさを味わう 3. 自分の身体への感覚を敏感にし、自分の身体と対話し、自分の身体をよく知るの3点を目標に行う。

〔エアロビクス&フィットネス〕(金曜3限・金曜4限)

1. ガイダンス
2. エアロビクスとは何か その理論と特性
3. 目標心拍数の設定と主観的運動強度
4. 筋力トレーニング 筋肉と骨格
- 5～6. ボールを使って
7. 体脂肪
8. ウェイトコントロール
9. 骨を強くする
- 10～15. エアロビック ダンス パフォーマンス
動きづくり練習 発表・相互評価

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解等=30点

スポーツ科学

松田秀子

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕(火曜3限前半・火曜4限前半)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとシャトルに慣れる
3. シャトルをコントロールする
4. ルールとマナーを身につける
- 5～7. ミニゲーム

〔ニュースポーツ〕(火曜3限後半・火曜4限後半)

1. ガイダンス
 - 2～8. ユニホッケー
ベタソケット
ソフトバレーボール
ミニテニス
ファミリーバドミントン
- 上記のニュースポーツを実践する。

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

村本名史

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は、教室にてガイダンスを行う。
- ・第2週目の授業は、トレーニングガイダンスと体力測定を行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕(月曜2限前半・月曜3限前半・火曜2限前半)

1. ストローク・ボレー・スマッシュ・サービスの練習
2. ルール・マナー・審判法の学習、簡易ゲーム
3. シングルスゲーム、技能テスト
- 4～7. ダブルスゲーム

〔バスケットボール〕(月曜2限後半・月曜3限後半・火曜2限後半・金曜2限後半)

- 1～2. ドリブル・パス・シュートの練習、少人数での攻防
3. ルール・マナー・審判法の学習、簡易ゲーム
4. チームでの基本的な練習、学科テスト
- 5～7. ゲーム、技能テスト

〔卓球〕(水曜3限前半)

1. ストローク・サービス・レシーブの練習
2. ルール・マナー・審判法の学習、簡易ゲーム
3. シングルスゲーム、技能テスト
- 4～7. ダブルスゲーム

〔バドミントン〕(水曜3限後半)

1. ストローク・クリアー・サービスの練習
2. スマッシュ・ドロップ・ドライブの練習
3. ルール・マナー・審判法の学習、簡易ゲーム

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

門間 博 境田雅章 土田 洋 寺田邦昭 松田秀子 村本名史

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	1限	門間	テニス
	2限	門間	テニス
	3限	村本	バスケットボール
	4限	村本	バスケットボール
火曜日	2限	村本	バレーボール
	3限	松田	バドミントン
水曜日	4限	松田	バドミントン
	1限	土田	フットサル
	2限	門間	バドミントン
	2限	土田	フットサル
木曜日	3限	門間	バドミントン
	3限	村本	テニス
	4限	門間	バドミントン
	1限	寺田	バドミントン
金曜日	2限	寺田	ニュースポーツ
	3限	境田	サッカー
	3限	境田	サッカー
	1限	門間	バドミントン
	2限	門間	バドミントン
	2限	村本	卓球
	3限	門間	テニス
	4限	村本	卓球
4限	門間	テニス	

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

080325010_0110 掲載順:0110

MCode:080106012_0110 ▲

健康と運動

門間 博

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

- [テニス] (月曜1限、月曜2限、金曜3限、金曜4限)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ラケットとボールに慣れる (グリップ、スタンス)
 3. グランドストローク (フォアハンドを中心に)
 4. グランドストローク (バックハンドを中心に)
 5. サービス、レシーブ
 6. ボレー、スマッシュ
 7. ゲームの進め方、ルールとマナー
 8. ダブルスゲーム (フォーメーションを中心に)
- 9~15. ダブルスゲーム、スキルテスト
- [バドミントン] (水曜2限・水曜3限・水曜4限・金曜1限・金曜2限)
1. ガイダンス
 2. 歴史的ゲームの追体験 (シングルゲーム)
 3. ラケットワーク
 4. ストローク練習 (アンダーハンドを中心に)
 5. ストローク練習 (サイドハンドを中心に)
 6. ストローク練習 (オーバーヘッドを中心に)
 7. ゲームの進め方、ルール説明
 8. ダブルスゲーム (フォーメーションを中心に)

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

080325010_0120 掲載順:0120

MCode:080106012_0120 ★

健康と運動

境田雅章

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- [サッカー] (木曜3限・4限)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. パス&トラップ ゲーム (スモール・ビッグ)
 3. ヘディング ゲーム (スモール・ビッグ)
 4. ドリブル&シュート ゲーム (スモール・ビッグ)
 5. ボールを奪われない技術 ゲーム (スモール・ビッグ)
 6. 競り合いの技術 ゲーム (スモール・ビッグ)
 7. パス&サポート ゲーム (スモール・ビッグ)
 8. 実技テスト ゲーム (スモール・ビッグ)
 9. 切り替え (ボールを奪われたら奪い返す) ゲーム (スモール・ビッグ)
 10. ゴールを奪う(シュートの意識) ゲーム (スモール・ビッグ)
 11. シュートのためのコントロール ゲーム (スモール・ビッグ)
 12. 突破からのシュート ゲーム (スモール・ビッグ)
 13. チーム戦術 (システム) ゲーム (スモール・ビッグ)
 14. チーム戦術 (カウンター) ゲーム (スモール・ビッグ)
 15. ゲーム&ゲーム

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解等=30点

健康と運動

土田 洋

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- [フットサル]
1. ガイダンス
 2. フットサル用のボールに慣れる 試しのゲーム
 3. 基礎技術①の練習 (パス、トラップ)
 4. 基礎技術②の練習 (ドリブル、シュート)
 5. チーム編成Ⅰ フォーメーションの決定
 6. パスワークから戦術の考案
 7. プレリーグ戦①
 8. プレリーグ戦②
 9. チーム編成Ⅱ フォーメーション 戦術の確認
 10. リーグ戦① 戦術の考案
 11. リーグ戦② 各チームの評価
 12. リーグ戦③ チーム課題の認識
 13. リーグ戦④ チーム課題克服への取り組み
 14. リーグ戦⑤ チーム課題克服の評価
 15. リーグ戦⑥ 総合評価

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解等=30点

健康と運動

寺田邦昭

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・ニュースポーツについて、2～6週までのうち雨天の場合には7～14週に予定しているインドア種目に変更して実施する。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔バドミントン〕(木曜1限)
1. ガイダンス
 2. 歴史的ゲームの追体験(シングルゲーム)
 3. ラケットワーク
 4. ストローク練習(アンダーハンドを中心に)
 5. ストローク練習(サイドハンドを中心に)
 6. ストローク練習(オーバーヘッドを中心に)
 7. ゲームの進め方、ルール説明
 8. ダブルスゲーム(フォーメーションを中心に)
 - 9～15. ダブルスゲーム
- 〔ニュースポーツ〕(木曜2限)
1. ガイダンス
 - 2～3. フライングディスク
 - 4～6. ベタンク、ターゲット・バード・ゴルフ
 - 7～10. インディアカ、ミニテニス
 - 11～14. ダーツ、ソフトテニス、ソフトバレー
 15. グループによるニュー・スポーツの創作と発表

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

村本名史

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は、教室にてガイダンスを行う。
 - ・第2週目の授業は、トレーニングガイダンスと体力測定を行う。
 - ・天候によって種目を変更する場合がある。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔バスケットボール〕(月曜3限、月曜4限)
- 1～3. ドリブル・パス・シュートの練習、少人数での攻防
 4. ルール・マナー・審判法の学習、技能テスト、簡易ゲーム
 6. チームでの基本的な練習、学科テスト
 - 7～13. ゲーム、技能テスト
- 〔バレーボール〕(火曜2限)
- 1～3. パス・スパイク・ブロック・サービスの練習
 4. ルール・マナー・審判法の学習、技能テスト、簡易ゲーム
 5. トス・コンビネーションの練習、学科テスト
 - 6～13. ゲーム、技能テスト
- 〔テニス〕(水曜3限)
- 1～3. ストローク・ボレー・スマッシュ・サービスの練習
 4. ルール・マナー・審判法の学習、技能テスト、簡易ゲーム
 5. シングルゲーム、学科テスト
 - 6～13. ダブルスゲーム、技能テスト
- 〔卓球〕(金曜2限、金曜3限)
- 1～3. ストローク・サービス・レシーブの練習
 4. ルール・マナー・審判法の学習、技能テスト、簡易ゲーム
 5. シングルゲーム、学科テスト
 - 6～13. ダブルスゲーム、技能テスト

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

松田秀子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔バドミントン〕(火曜3限・火曜4限)
1. ガイダンス
 2. 記録への挑戦(打ち続けよう)
 3. 歴史的ゲームの追体験
 4. 用具の特徴(貴重な水鳥の羽根)
 5. フォーム作り(格好良いフォームで打とう)
 6. 攻撃的なショット(初速はどれくらい?)
 7. 守備的なショット
 8. 基本の戦術
 9. ダブルスのフォーメーション
 10. 世界のバドミントンプレーヤーを観よう(VTR)
 11. ゲームの特徴(心拍数、運動強度はどれくらい?)
 12. ゲームのルールとマナーを身につけよう
 13. ハーフコート・ミニゲーム
 14. ダブルスゲーム
 15. スキルテスト

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ特殊講座(ボウリング)

松田秀子

【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】

ボウリングの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

- 〔ボウリング〕
1. 実習日時 平成20年9月3日(水)・4日(木)・5日(金)
8日(月)・9日(火)・10日(水)
計6日間 9:30～12:40
 2. 説明会 日時 平成20年7月2日(水)12:30～13:15
場所 長久手キャンパス体育館3階 体育講義室
実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
参加できない場合は事前に長久手キャンパス
健康スポーツ教育センターに問い合わせること。
説明会の欠席者は受講を認めません。
 3. 場所 星ヶ丘ボウル
 4. 実習費 6,000円
(平成19年度のものでありますので変更する場合があります)
 5. 定員 60名
 6. 内容
 - 1日目 開講式、ボウリング学習の意義と特質、用具説明
 - 2日目 ボウリングの歴史、基本動作
 - 3日目 ボールのコントロール、軌道調整
 - 4日目 アジャスティングの基本と実践、3-2-1理論
 - 5日目 レーンコンディションとボールの曲がり
ストライクアングルの実践練習
 - 6日目 競技会説明、競技会(アメリカン方式3ゲーム)、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

【参考文献・資料】

山本幸治「スポーツボウリングの世界」日本放送出版協会、2004。

スポーツ特殊講座（スケート）

鶴原香代子

【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】

スケートを行うためのマナーを理解し、安全に楽しく実施するための基礎技能の習得を図り、生涯スポーツの一つとして位置づけられるようにする。

【授業計画】

1. 実習日時 平成20年9月3日（水）・4日（木）・5日（金）
8日（月）・9日（火）・10日（水）計6日間
時間：9：30～12：40
2. 説明会 日時：平成20年7月8日（火）16：45～17：35
場所：長久手キャンパス体育館3階 体育講義室
・実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
・説明会の欠席者は受講を認めません。
※出席できない場合は事前に長久手キャンパス健康スポーツ教育センターに問い合わせること。
3. 実習場所 名古屋スポーツセンター（大須）
4. 実習費 7,200円 ※前年度の費用ですので変更する場合があります。
5. 定員 40名
6. 内容 1日目 開講式、床で歩行練習、基本姿勢、氷上歩行・両足滑走
2日目 自然滑走、正しい押し出し
3日目 フォアスケータイング・カーブ滑走
4日目 ストップ、バックスケータイングの基本
5日目 クロスステップ、フォアからバックへのターン
6日目 総合練習、実技テスト、閉講式

【評価方法】

出席状況（70%）と実習中の技術の上達度・参加態度・種目理解度（30%）により総合評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

大学スケート研究会「アイススケータイングの基礎」アイオーエム,1995.

教職入門

後口伊志樹

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審などの答申から学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業の目標】

「学制」公布に始まる学校教育制度の歴史的推移を概観し、今日の学校教育が抱える諸課題について理解を深めるとともに、教育の重要性と教師の役割の重大さを知ることによって学生自らが「教師としての適性」を見極める機会を提供する。

【授業計画】

- 1 教育とは何か
- 2 日本における近代学校教育制度の変遷
 - (1) 第一の教育改革
 - (2) 第二の教育改革
 - (3) 第三の教育改革
- 3 教師に求められる資質能力とは何か
 - (1) いつの時代にも求められる資質能力
 - (2) 今後特に求められる資質能力
- 4 教師の資質能力にかかる形成諸段階
 - (1) 養成段階（戦前・戦後の教員養成）
 - (2) 採用段階
 - (3) 現職研修段階
 - ・ 法的根拠
 - ・ 研修の種類
- 5 教職員の職種・職務
- 6 教員の日・一学期・一年の仕事
- 7 教育問題をテーマにディベート又はグループ討論

【評価方法】

期末試験、コメント・カード、出席率を総合して評価する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

教育原理

佐藤実芳

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえは学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

- ・教育を受けるという立場だけではなく、教職課程を履修し教職をめざすという立場で教育をするという視点から学校とは何か、教育とは何かを考え理解すること。
- ・教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 人間と教育
 - 動物学からみた人間の特殊性
 - 人間の成長と環境
 - 教育の重要性
 - 人間形成の場
3. 教育の本質
 - 注入主義（ソフィスト～本質主義）
 - 開発主義（ソクラテス～進歩主義）
4. 教育の目的
 - 教育目的とは
 - 教育目的の歴史的変遷（古代ギリシャ～現代）
5. 現代の教育

【評価方法】

出席状況 10% 課題の提出 40% 定期試験 50%

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教師論

大久保義男

【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業の目標】

学校教育における教師の役割について考えるとともに、学校を取り巻く諸課題を整理しながら今後の学校教育の在り方や教師像について展望する。

【授業計画】

- 1 教職の意義と教師の役割
- 2 教育基本法の趣旨
- 3 中学校・高等学校の目的・目標
- 4 学校教育の歴史
- 5 答申類に見る我が国の教育施策
- 6 愛知県の教育施策
- 7 教育をめぐる現代的な諸課題
 - (1) 青少年の心理と生徒理解
 - (2) 問題行動・不登校・いじめ・児童虐待・薬物乱用
 - (3) 人権教育・同和問題
 - (4) 障害児教育
 - (5) 情報教育・国際理解教育・環境教育・消費者教育
 - (6) 生涯学習・社会教育
- 8 魅力ある学校づくり
 - (1) 学校評価と開かれた学校づくり
 - (2) 教員評価と学校組織の活性化
 - (3) 危機管理・説明責任

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育原理

渡辺かよ子

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえは学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

- ・教育を受けるという立場だけではなく、教職課程を履修し教職をめざすという立場で教育をするという視点から学校とは何か、教育とは何かを考え理解すること。
- ・教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 人間と教育
 - 動物学からみた人間の特殊性/人間の成長と環境/教育の重要性/人間形成の場
3. 教育の本質
 - 注入主義（ソフィスト～本質主義）/開発主義（ソクラテス～進歩主義）
4. 教育の目的
 - 教育目的とは/教育目的の歴史的変遷（古代ギリシャ～現代）
5. 現代の教育

【評価方法】

レポートにより評価する。

【テキスト】

新しい時代の教職入門（秋田喜代美・佐藤学著 有斐閣）

【参考文献・資料】

国家（プラトン著 岩波書店）
世界図説（コメニウス著 平凡社）
エミール（ルソー著 岩波書店）
学校と社会（デューイ著 岩波書店）
被抑圧者の教育学（フレイレ著 亜紀書房）

教育思想史

梅村敏郎

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなく、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあろうが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業の目標】

17世紀以来の西洋の代表的な教育思想家が現代教育にどのような影響を及ぼしたかを調べることによって、現代教育の思想的基盤について一層の理解を得ることを目標とする。

【授業計画】

1. 教育思想史を勉強することの意義
2. 教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3. コメニウス
4. ルソー
5. ペスタロッチ
6. ヘルバルト
7. フレーベル
8. デューイ
9. 教育思想と教育実践

【評価方法】

評価は資料持ち込み自由の筆答試験による。

【テキスト】

事前に授業内容を要約したプリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

教育心理学 I

小池理穂

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的とした。

【授業の目標】

教育に対して、教育心理学が求められている点、教育心理学が担っている役割、提供できる知識・技術を理解する。その上で、自己を見つめ、自分の教育観を考える。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
 - ・障害の意味と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
 - ・学習の成立過程
 - ・学習における知識の役割
 - ・学習意欲を育てる
 - 外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐる/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学 I

中野靖彦

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害のある幼児、児童、生徒への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的とした。

【授業の目標】

発達についての理解や行動形成への関わり方について、教育する立場に立って考えていくこと。

【授業計画】

1. 教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 生涯発達の視点
3. 障害のある幼児、児童、生徒の理解と発達可能性
4. 発達段階と発達課題
5. 認知の発達を通しての人間理解
6. 学習の成立過程
7. 学習における知識の役割
8. 学習意欲を育てる
9. 学級集団の理解と指導
10. 教育の評価
11. 教師と生徒

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学 II

富安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にした。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日の問題への理解を深めていきたい。

【授業の目標】

自己形成のプロセスへの関心を深め、生徒及び自分自身の理解を促進すること。

【授業計画】

1. 発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2. 青年期の意味
3. 発達と教育
4. 「自分」の諸相
5. 「自分でない」世界の認識から
6. 第一「反抗」期の意味
7. 自我と他我
8. 他律的規範への順応
9. 第二の誕生
10. アイデンティティの確立
11. 生涯発達の視点と生き方
12. 自分探しの旅と人間関係

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

鈴木郁子

【授業の概要】

特殊教育から特別支援教育へと移行し、障害をもつ生徒への指導が、従来の特殊教育諸学校から、一般学級に在籍する障害児に対しても指導の場が拡大されてきた。このことから障害児の教育に対しても広く学ぶ必要性が生じ、今後教職に就く者にとって障害児の理解を深めていくことが大切である。

【授業の目標】

それぞれの障害の発生原因、障害の特殊性を理解し、個に応じた発達促進を計る為に学校教育では、どのように配慮する必要があるか理解する。

【授業計画】

- 1 現在の障害児教育の実際を概略理解する。
- 2 心身障害児の種類と障害の程度について理解
特別支援学校に在籍する障害児について
一般学級に在籍する障害児について
- 3 心身障害児の早期発見・早期教育の必要性について理解
- 4 社会自立に向けた後期中等教育の必要性とその実状について理解
- 5 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業中の学習態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育制度

渡辺かよ子

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】

- ・教育制度の基本的な事項について理解すること。
- ・日本の学校教育制度の歴史の変遷について理解すること。
- ・現在の日本の教育制度について、教育法規に基づいて理解すること。

【授業計画】

- 1 教育制度の意義
- 2 現代学校教育制度の起源
- 3 学校教育制度の類型
- 4 日本の学校教育の変遷
- 5 現在の日本の学校教育制度と教育行政制度
- 6 外国の学校教育制度

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

教育行政学（河野和清 ミネルヴァ書房）

【参考文献・資料】

解説教育六法（解説教育六法編集委員会編 三省堂）

学級経営

前田勝洋

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きとした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業の目標】

教師の資質の一つである「学級経営」の進め方の方法を、具体的な事例研究によって、実証的に学ぶことをめざす。

【授業計画】

小学校、中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探していきたい。

- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
- (2) 生徒理解と学級担任の役割
- (3) 共感的学級経営の実践
- (4) 成就型教育観と参加型教育観
- (5) 学級担任と言葉の問題
- (6) カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営

以上のような視点を軸にしなが、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

教育課程

後口伊志樹

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業の目標】

教育課程の変遷を学ぶことによって、「生きる力」と「確かな学力」の育成を目指す現行学習指導要領が生み出されてきた時代背景と今後の進展について理解するとともに、教育課程編成の理論と実際についても検討する。

【授業計画】

- 1 教育課程とは
 - (1) 教育課程研究の重要性
 - (2) 教育課程の編成原理
- 2 教育課程の歴史の変遷
 - (1) 戦前の教育課程
 - (2) 戦後の教育課程
 - ア 学習指導要領第一次改訂
 - イ 学習指導要領第二次改訂
 - ウ 学習指導要領第三次改訂
 - エ 学習指導要領第四次改訂
 - オ 学習指導要領第五次改訂
 - カ 学習指導要領第六次改訂
- 3 改訂学習指導要領の普及化
 - (1) 伝達講習（ブロック、県、各学校）
 - (2) 実践研究指定校制度
- 4 現行学習指導要領総則編（小・中・高）
- 5 現行教育課程の事例検討（小・中・高）
- 6 教育課程編成の構成要件と生徒・学校の実態
- 7 教育課程にかかる今日の諸問題をテーマにグループ討論

【評価方法】

期末試験、コメント・カード、出席率を総合して評価する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

教育課程

小栗正彦

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

【授業計画】

第1時限	講義に関する諸注意
第2時限	「教育課程」とは何か
第3時限	世界の教育課程改革の歴史(20世紀以前)
第4・5時限	世界の教育課程改革の歴史(20世紀以降)
第6時限	わが国における教育課程改革の歴史(戦前)
第7時限	わが国における教育課程改革の歴史(戦後)
第8・9時限	現行の学習指導要領の成立と問題点
第10・11時限	教育課程(カリキュラム)を編成するにあたって ・カリキュラム編成の基本問題 ・カリキュラム編成の実際
第12時限	新しいカリキュラムの試み ・小学校における「英語」の授業について
第13時限	諸外国における学校制度と教育課程
※この間、小テストならびに教育をテーマにしたビデオを見る。	
※最終回・・・試験	

【評価方法】

課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

小栗『講義ノート』

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

英語科教育法 II

高橋美由紀

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って実践的コミュニケーション能力の基礎を育成するために、特に入門期でどのような指導をすればいいかを中心に教育方法を考える。授業は、入門期の英語教育の意義や効果的な指導法、授業計画、指導案の書き方、教材・教具研究などの講義と、入門期の学習者が楽しめる英語教育を行うためのワークショップから構成される。

【授業の目標】

中学校入門期の英語教育の指導者を養成することを目標としている。

【授業計画】

1. オリエンテーション：入門期の英語教員の資質について
2. 入門期の英語教育の現状と課題・レベルや経験年数が異なる学習者の指導について
3. 入門期の英語教育の目的と意義・入門期の学習者の効果的な教授法
4. 音声重視の英語教育・入門期の学習者と文字教育
5. 歌やゲームを利用した英語教育
6. 入門期の英語教育の視覚教材・聴覚教材研究
7. 入門期の英語教育のコンピュータ教材やビデオ教材の研究
8. ALTとのTT授業について・テキストと授業計画、指導案の書き方について
9. 中学校入門期の英語教育・アジア諸国の英語教育
10. 模擬授業の具体例と指導案
11. 模擬授業
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 模擬授業の反省と今後の課題

【評価方法】

テスト、出席状況、授業態度
課題レポート

【テキスト】

中学校学習指導要領 外国語(英語)(文部科学省)
小学校英語活動実践の手引き(文部科学省 開隆堂出版)
小学校英語と中学校英語を結ぶ(松川禮子編 高陵社書店)
Sunshine Kids Book 1(山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版)
Sunshine Kids Book 2(高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版)
その他、絵本、カセット、CD、文献等は授業内に紹介する。

【参考文献・資料】

教材、教具作成のために、画用紙、色紙、マジックなどが必要である。

英語科教育法 I

松本青也

【授業の概要】

英語教育法をテーマとして、目的論、技能論、方法論を中心に、日本における英語教育の歴史、諸外国の言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育、などの話題を含めて考察する。

【授業の目標】

日本の英語教育が直面する様々な課題と、その可能性について、主に理論的な側面から考察する。

【授業計画】

1. 目的論：問題提起。コミュニケーション能力
2. 学習指導要領。学校英語教育の目標
3. 異文化と国際理解
4. 技能論：Sound
5. Listening
6. Speaking
7. Reading & Writing
8. 方法論：教授法の歴史(日本)
9. 教授法の歴史(外国)
10. 外国語教授理論
11. 新しい教授法
12. マルチメディア利用の可能性と課題
13. 指導過程の構成と授業評価
14. まとめ：これからの英語教育
15. テスト

【評価方法】

テストの成績、学習態度、出席状況等による総合評価。

【テキスト】

英語は楽しく使うもの(松本青也 朝日出版社)

【参考文献・資料】

自作教材資料

英語科教育法 III

高橋美由紀

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力の基礎を育成するためには、日本の中学校ではどのような授業を行えばいいのか、模擬授業を行いながらその具体的な指導法を研究する。

【授業の目標】

中学校英語教育の指導者を養成することを目標としている。

【授業計画】

1. オリエンテーション：中学校英語教師の資質について、テキスト説明、小・中・高・大の英語教育について
2. 授業の組み立て：授業を盛り上げるための教材・教具について、教案作成ワークショップその1、ビデオによる模範授業参観その1
3. 授業の組み立て：歌やゲームを取り入れた授業展開、教案作成ワークショップその2、ビデオによる模範授業参観その2
4. 授業研究：テキスト内容に沿ったオリジナル教材・教具の作成、生徒を引きつける授業の様々なアイデア
- 5～14. 各グループによる模擬授業
15. 予備日

【評価方法】

テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

【テキスト】

Sunshine Kids Book 1(山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版)
Sunshine Kids Book 2(高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版)
Sunshine 1・2・3(松本青也他 開隆堂出版)
中学校学習指導要領 外国語(英語)(文部科学省)
その他、ゲーム集、歌、カセット、CD等はコピーを使用する。

【参考文献・資料】

教材・教具作成のために画用紙、マジックなどの文具類が必要である。

英語科教育法 IV

山森孝彦

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼をおいて、生徒の多様化した日本の高等学校における英語教育を効果的に行うにはどのようにするか、具体的、実践的に指導する方法を研究する。

【授業の目標】

高等学校で教育実習を行う際に必要な心構えと英語教授力の基礎を身につける。具体的目標は次の通りである。

- ・高校生が各学年でどれくらいの文法事項、語彙、英語力を身につけているかある程度予想することができる。
- ・与えられた教材を研究し、高校生に適した効果的な教授法を工夫し、授業案を作成することができる。
- ・考えた授業案にそって授業を行うことができる（発声、視線、発音、板書、生徒とのやりとり、落ち着きなど）。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと班分け（担当部分を決める）
 第2～5回 高校英語教師に求められる力、授業の組み立て方などについての講義
 第6～13回 模擬授業実習
 ・数人1組で模擬授業を行う。（教材研究・授業案作り・授業）
 ・発表者と記録・計時係以外の学生は生徒役となる。
 ・毎回授業に対するフィードバックとディスカッションを行う。
 第14～15回 教育実習生としての心得についての講義と課題レポート提出

【評価方法】

成績は、模擬授業（教案、模擬授業、集計と反省）、授業参加度（出席率、課題や授業中の取り組みなど）、期末レポートを総合して評価する。

【テキスト】

英語Iの教科書（出版社未定）

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 文部省

中国語科教育法 II

王麗英

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、国際理解、異文化理解と中国語コミュニケーション能力を育成するためには、中学校では、どのような授業を行えばよいかを講義し、こちらに用意した教材を元に、学習指導案を作成してもらい、また模擬授業を実施することによって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業の目標】

中国語の特徴、指導方法などを理解した上で、各自で指導案を作成し、模擬授業をして、中国語教育の在り方を模索する。

【授業計画】

- 1、外国語の教育理論
- 2、外国語教育の伝統的な教授法と新しい試み
- 3、中学生向けの中国語教育の特殊性と目標
- 4、高校生向けの中国語教育の特殊性と目標
- 5、指導案の構成
- 6、指導案の作成指導
- 7、各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、授業の在り方を考える。

【評価方法】

レポート、各自が作成した指導案と模擬授業の実施状況などで評価する。

【テキスト】

自作教材を使用する。

中国語科教育法 I

王麗英

【授業の概要】

中学校及び高等学校の学習指導要領の趣旨に沿って、中国語科教育法について目的論、技能論、方法論を中心に、中国語教育のあり方を考察する。中学生、または高校生を対象とする中国語教育は、こういった内容のものを教材として使ったほうがよいか、どういった指導法を取ればよいかなどについて、具体的に研究する。

【授業の目標】

中国語科教育の歴史、現状、課題などを総合的に学習することによって、中国語科教育について理解を深める。

【授業計画】

- 1、中国語科教育の原点と教育理念を議論する。
- 2、中国語科教育の目標を設定する。
- 3、中国語科教育の内容を議論する。
 - (1) 異文化理解
 - (2) 中国語によるコミュニケーション能力（聞くこと；話すこと；読むことと翻訳能力）
 - (3) 各学習期間区分の到達度
- 4、教育方法について
 - (1) 教授法の歴史（中国）
 - (2) 教授法の歴史（日本）
- 5、問題を提起する。
 - (1) 教育の内容について
 - (2) 教授方法について
 - (3) 異文化理解について
 - (4) 言語と文化の関係について
- 6、改善方法について考える。
 - (1) 教育の内容について考える
 - (2) 教授法について考える
 - (3) 異文化理解について考える

【評価方法】

レポートと出席率で評価する。

【テキスト】

自作教材を使用する。

中国語科教育法 III

馮富榮

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、高度な中国語コミュニケーション能力を育成するのに、こういった内容の教材を使えばよいか、またどういった指導法が学習意欲をより引き出すことができるのかを研究し、高校生向けの中国語の学習教材の作成、学習指導案の作成に取り組み、そして模擬授業を実施することによって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、日本の大学における中国語教育のあるべき姿について考える力を身に付けることが期待される。

【授業計画】

- 1、従来の中国語教育に残っている問題点を整理する。
- 2、会話能力を高めるための工夫
 - 1) 教材の工夫
 - 2) 授業の進め方の工夫
 - 3) 授業外の学習時間の確保についての工夫
- 3、学習意欲を燃やすための工夫
 - 1) 教材の工夫
 - 2) 授業の進め方の工夫
 - 3) 学生を認めるための工夫
- 4、上記した工夫を入れ込んだ教材と学習指導案の作成指導
- 5、グループわけをして、各自が作成した教材と学習指導案に基づいて、50分の模擬授業を実施する。
- 6、授業の実践の後、グループでディスカッション形式で、授業の批評をし合う。よってよりよい授業を工夫していく。

【評価方法】

作成した教材の出来具合や普段の努力で評価する。

【テキスト】

特になし。

中国語科教育法 IV

馮 富榮

【授業の概要】

情報化が速いスピードで進んでいる中、外国語教育でもインターネットなどによるマルチメディアが発達したために画期的な変化が起ころうとしている。インターネットなどのマルチメディアによる外国語教育法は、さまざまに試みられつつある。この授業では、そうした斬新的な中国語の教育方法を試み、メディアによる中国語教育の教材や学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。よって中国語教育への新しい可能性を提起する。

【授業の目標】

本講義を受講することによって、学生の視点に基づき、また学生のアイデアを生かすことのできる斬新的な中国語のメディア教材が誕生することが期待される。

【授業計画】

1. インターネットやCDROMの外国語教育のモデルを紹介する。
2. 中国語教育におけるインターネットなどのマルチメディアの利用現状を説明する。
3. 中学生、高校生向けの中国語の授業に貢献できるマルチメディア教材としては、どんなものが必要なのか、またどんなものがよいのかを考える。
4. 自分の考えを取り入れるような、比較的簡単に制作できるようなマルチメディア教材をグループ毎に制作する。
5. その教材に基づいて学習指導案をグループ毎に作成する。
6. グループ毎に、各自で作成した教材と学習指導案を元にした模擬授業を実施する。
7. グループ毎に、模擬授業を評価し、良い点と反省点をまとめ、今後の中国語教育への新しい可能性を提案する。

【評価方法】

教材の出来具合や普段の努力で評価する。

【テキスト】

特になし。

公民・社会科教育法 II

不破民由

【授業の概要】

「倫理」及び「政治・経済」の学習を通して、深い洞察力をそなえた民主的な行動と実践ができる人間の育成をめざす。「倫理」及び「政治・経済」の授業においては、特に今日的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書（倫理、政治・経済）を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業の目標】

1. 学習指導要領が目指す高等学校公民科の「倫理」及び「政治・経済」の目標と内容について概説する。
2. 生涯学習にも深いかわりをもつ自己指導能力の育成を目的とする「倫理」と、現代における政治、経済、国際関係等の諸課題について公正な判断力を養うことを目標とする「政治・経済」について具体例に基づいて考察する。
3. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、創造的な授業の在り方についても考察する。

【授業計画】

1. 各自のゼミ論・卒論等のテーマ設定の簡単なプレゼンを行い、高等学校の倫理や「政治・経済」での取り扱ひとの関連を考える。
2. ルソーやアダム・スミスなど18世紀の思想家たちやヴェーバーなどがもっていた「倫理」的課題と「政治・経済」的課題の関連について考察する。
3. 日本社会の特質を「世間」と「社会」の比較から考え、西欧の哲学や社会諸科学の概念導入における問題点を考慮できるようにする。
4. 生徒の関心のある身近な話題から出発し、より大きな問題へと目を開いていけるような指導法を工夫する。
5. ディベート・立場討論などの手法を用いた授業の手法を身につける。
6. グループによる模擬授業を計画・立案・実行することで、より実践的な公民科教育の能力。
7. 個人による指導案の作成によって、授業のまとめを行う。

【評価方法】

模擬授業・指導案・プレゼンを中心に評価します。出席や普段の授業参加状況も参考にします。

【テキスト】

政治・経済（高等学校教科書 教育出版 予価435円）
倫理（高等学校教科書 教育出版 予価435円）

【参考文献・資料】

思想としての近代経済学（森嶋通夫 岩波新書）
社会認識の歩み（内田義彦 岩波新書）
哲学入門1～4（フルキエ ちくま学芸文庫）

公民・社会科教育法 I

不破民由

【授業の概要】

中学校社会科の公民的分野を視野にいれて、高等学校学習指導要領（公民科）の構成とその目的を学習し、民主主義社会の担い手としてふさわしい資質の育成をめざす。「現代社会」の授業においては、中学校社会科の公民的分野を発展させて、現実的・具体的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書（現代社会）を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業の目標】

1. 公民科設定の趣旨と基本理念に基づいて、「公民の概念」と「公民として資質」を育む公民教育について学習する。
2. 「現代社会（公民科）」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
3. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践、考察する。

【授業計画】

1. 新聞記事の切抜きを作り、要約し、コメントを入れて発表する。
2. 日本における公民教育の変遷をたどり、その問題点と課題を考察する。
3. できるだけ、生徒の関心のある身近な話題から出発し、より大きな問題へと目を開いていけるような指導法を工夫する。
4. ディベート・立場討論などの手法を用いた授業の手法を身につける。
5. グループによる模擬授業を計画・立案・実行することで、より実践的な公民科教育の能力。
6. 個人による指導案の作成によって、授業のまとめを行う。

【評価方法】

模擬授業・指導案・新聞記事の切抜きを中心に評価します。出席や普段の授業参加状況も参考にします。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 公民編（文部省 実教出版予価230円）
現代社会（高等学校教科書 一橋出版 予価580円）

【参考文献・資料】

近代日本の公民教育（松野修 名古屋大学出版会）
人生の教科書「よのなか」（藤原和博 宮台真司 ちくま文庫）
21世紀「社会科」への招待（魚住忠久 山根英次共編 学術図書出版社）
続 手に取る公民・現代社会教材（全国民主主義教育研究会編 地歴社）

道徳指導法

伊藤昭道

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実践についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業の目標】

道徳教育の必要性を理解すると共に、将来教育現場で「道徳」の時間の指導や道徳教育を行う上で必要な知識や指導法を習得することをめざす。併せて教育実習で「道徳の時間」の指導が適切に行えるようにする。

【授業計画】

1. 道徳と道徳教育
 - ・道徳と倫理
 - ・道徳教育思想の展開
2. 生徒を生かす道徳教育
3. 道徳性の発達理論と学校道徳教育
4. 学校における道徳教育の実践
 - ・道徳教育の目標
 - ・道徳教育の内容
 - ・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
 - ・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
5. 道徳教育の歴史
 - ・学制公布前後から昭和20年終戦に至る修身教育の変遷
 - ・戦後の道徳教育の展開
6. まとめとテスト

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

講義資料を配布。

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領（文部省 平成10年）
史料 道徳教育を考える（浪本勝年他編 北樹出版 他）

特別活動指導法

不破民由

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。
そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業の目標】

特別活動を歴史的・国際的に比較し、相対的に考えることができるようにする。
「読書タイム」や話し合いなどを通じ実践的に特別活動を考察する。

【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性…学習活動や生徒指導とのかかわりとともに、特別活動の独自の価値を考える。
2. 特別活動の歴史的変遷…「どくとるマンボウ青春記」や森有礼を事例として近代日本の特別活動の変遷を具体的にイメージする。
3. 学級活動…閉鎖的な空間であることによる団結力の向上というプラス面と、逃げられない息苦しさというマイナス面を考察する。
4. 生徒会活動…特に、「校則」の見直しを考察し、日常生活における生徒会活動の活性化を重点化して考察する。
5. 学校行事…学校行事の精選化の流れの中で、必要な学校行事とその取り組み方、計画方法を工夫する

【評価方法】

2回のレポートを中心に評価する。普段の授業の参加状況を参考にします。

【テキスト】

どくとるマンボウ青春記（北杜夫 新潮文庫）

【参考文献・資料】

特別活動（高旗正人・倉田侃司編著 ミネルヴァ書房）
日本の近代12 学歴貴族の栄光と挫折（竹内洋 中央公論新書）
「勉強」時代の幕開け（江森一郎 平凡社）
<学級>の歴史学（柳治男 講談社選書メチエ）
運動会と日本近代（吉見俊哉他編 青弓社） 他

生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。
進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。
これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、非行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

【授業計画】

- | | |
|----------|--|
| 第1時限 | 講義の進め方と評価などについての注意 |
| 第2時限 | 「生徒指導」（進路指導を含む）では何を学ぶのか |
| 第3時限 | 生徒指導の意義と課題 |
| 第4時限 | 生徒指導（進路指導を含む）の歴史と発展 |
| 第5時限 | 発達心理（青年期の心理） |
| 第6時限 | 生徒理解の方法と技術 |
| 第7時限 | いまの中学・高校生が育ってきた時代背景 |
| 第8時限 | いま学校でおこっていることども |
| 第9時限 | 生徒指導における数々の事例（法令との関わりで）
・学校事故（授業・クラブ活動での事故） |
| 第10時限 | 進路指導について |
| 第11時限 | ゲーム機や携帯電話と子どもたち |
| 第12時限 | 懲戒と処分について（学校における「非行」対策との関わり） |
| 第13・14時限 | 学校に関する事柄を特集したビデオを見る。 |
| 最終回 | 試験 |

【評価方法】

課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

小栗『講義ノート』

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教育方法

前田勝洋

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供の理解を深め、子供の立場に立つて教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業の目標】

具体的な小中高等学校の授業を検討することを中心にしながら、教育方法の理解に努め、授業実践のワザの習得をめざして、教員としての資質を磨く。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
 - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

生徒指導（進路指導を含む）

内藤春彦

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。
進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。
これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

学校が抱えている今日的課題の認識とその対応策の学習・実践を行い、それをもって21世紀社会を担う青少年の健全育成に携わることが出来る人間観のある教員の養成を図りたい。

【授業計画】

- 1 学校が抱えている今日的課題とその対応策
 - (1) 学校教育の現状と望ましい学校づくり
 - (2) さまざまな不応対に対する生徒指導の在り方
- 2 生徒指導の在り方
 - (1) 生徒指導の考え方と指導体制
 - (2) 生徒指導の法律問題
 - (3) 生徒の問題行動
 - (4) 非行少年の補導と処遇
 - (5) 青少年の健全育成と生徒指導関係機関
 - (6) 進路指導－1・進路指導－2
- 3 人間観の追求
 - (1) サムエル・ウルマンの「青春とは」
 - (2) 宮沢賢治の「雨ニモマケズ」
- 4 カウンセリングマインドへの理解
- 5 発達障害への理解
- 6 生きる力を養うソーシャルスキルトレーニングの実践

【評価方法】

メッセージ交換カード期末考査及び出席状況等の総合的評価。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業時に、紹介または配布する。

生徒指導（進路指導を含む）

八谷芳樹

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。
進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。
これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

生徒指導や進路指導に関する基本的な理論を学び、現代の学校の生徒指導上の諸問題への具体的な、実践的対応を検討する。グループによる討論を試みる。

【授業計画】

第1時限	ガイダンス・アイスブレイキング・問題発生時の対応
第2時限	生徒指導とは（講義）
第3時限	生徒指導とは（グループ発表）
第4時限	校則と法令
第5時限	問題行動（反社会的行動）
第6時限	問題行動（非社会的行動）
第7時限	いじめ問題
第8時限	懲戒・体罰
第9時限	部活動を通じた生徒指導
第10時限	遺愛集（島 秋人）の世界
第11時限	子どもの発達のみちすじ
第12時限	学級経営を通じた生徒指導
第13時限	進路指導（進路指導とキャリア教育）
第14時限	進路指導（社会で求められる力）
最終回	試験

【評価方法】

授業への参加の度合い、課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

授業の初回に指示する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

富安玲子

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えるとともに、カウンセリングの基礎知識を学ぶ。

【授業の目標】

生徒の立場に立った生徒－教師関係のあり方を考えながら、面接の進め方の実際を学び、さまざまな視点からの柔軟な対応の必要性を体得すること。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師-生徒の相互影響過程
4. 生徒理解
5. 学校における教育相談
6. 教育相談の進め方
7. 相談とカウンセリング
8. 適応と不適応
9. 問題行動のとらえ方とその対応
10. 不登校を考える
11. いじめを考える
12. 非行を考える

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

小池理穂

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業の目標】

1. 学校場面で起こる問題の受け取り方や、意味、対応を考える。
2. 教育相談とは何かを考え、自己との対話を進めながら理解を深める。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 教師と生徒の人間関係
 - ・「自分」は他者との関係の中で育つ
 - ・教師-生徒の相互影響過程
 - ・生徒理解
3. 教育相談
 - ・学校における教育相談
 - ・教育相談の位置づけ、教育相談の特質
 - ・教育相談の進め方
 - ・カウンセリングの基礎
4. 学校という生活環境と適応
 - ・適応と不適応
 - ・問題行動のとらえ方とその対応
 - ・学校への不適応を考える
 - ・非行・いじめを考える

【評価方法】

レポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

中野靖彦

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えるとともに、カウンセリングの基礎知識を学ぶ。

【授業の目標】

生徒の立場に立った生徒－教師関係のあり方を考えながら、人との関わり、コミュニケーションの仕方の実際を学び、さまざまな視点からの柔軟な対応の必要性を体得すること。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師-生徒の相互影響過程
4. 生徒理解
5. 学校における教育相談
6. 教育相談の進め方
7. 相談とカウンセリング
8. 適応と不適応
9. 問題行動のとらえ方とその対応
10. 不登校を考える
11. いじめを考える
12. 非行を考える

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

参考書として、中野著「鏡は先に笑わない」風媒社 を考えている。

カウンセリング

富安玲子

【授業の概要】

カウンセリングについてその歴史や理論に触れながら、カウンセリングの人間観や基本的態度について学んだ上で、実習による体験を通して共感的理解や傾聴の意味を考えていく。カウンセリング技法の実践についても学び、実際の人間関係の中で活かしていくことを目指したい。

【授業の目標】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていくこと。

【授業計画】

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの人間観
4. カウンセリングの理論
5. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6. 共感的理解のエクササイズ
7. 正確に「聴く」とは
8. カウンセリングの実践例
9. 話しやすさの源は聞き上手：かかわり技法
10. 応答訓練
11. ロールプレイ
12. カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

期末試験、ロールプレイ・レポート、授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

伊藤昭道

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護等体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

教育実習の内容・方法の理解、基礎的な指導技術の習得を図る。併せて、福祉施設、特別支援学校教育への理解を深め、教育実習および介護等体験履修上の心構えを確立する。

【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習の様子
 - ・「先輩からの一言」
2. 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
3. 教育実習記録
 - ・実習記録の意義と方法
4. 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
 - ・模擬授業の実施
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導
 - ・障害者・高齢者の理解
 - ・社会福祉施設等の種類と役割
 - ・特別支援教育諸学校教育の理解
 - ・障害児（者）介護への心構え
7. 介護体験事後指導
8. まとめとテスト

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導 必要に応じて資料を配布。
介護体験事前指導 『フィリア』（全国特殊学校校長会編著 ジアース教育新社）

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

総合演習

小栗正彦 伊藤昭道 後口伊志樹 佐藤成哉 佐藤実芳
富安玲子 渡辺かよ子

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の8テーマに別れて演習を行なう。

- (1) ボランティア活動の在り方－福祉との関連について（伊藤昭道）
- (2) 学校におけるクライシス・マネジメントの問題（後口伊志樹）
- (3) みんなの学校問題（小栗正彦）
- (4) 人間と自然環境（佐藤成哉）
- (5) 社会と子育て（佐藤実芳）
- (6) ジェンダーと教育（富安玲子）
- (7) 生涯学習における学校（渡辺かよ子）

【授業の目標】

各課題に対して、自ら問題点を明らかにし、その解決に向けて調査・研究し、それを分かりやすく説明する（プレゼンテーション能力）スキルを学ぶ。

【授業計画】

- ※印は後期日程（於 星が丘）
1. 全体、各テーマ別 8月8日 ※1月28日
 - (1) 総合演習とは、これからのすすめ方
 - (2) 各テーマの概要説明、希望テーマ提出、テーマ別編成
 - (3) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
 2. 8月26日 ※2月17日

課題レポートの提出（必要部数の印刷）
 3. 各テーマ別 8月29日 ※2月20日
 - (1) 課題レポートについて報告、質疑応答
 4. 各テーマ別 9月5日 ※2月27日
 - (1) グループとして課題について整理、代表者の選出
 5. 全体 9月10日 ※3月4日
 - (1) グループ代表者の発表、担当教員の指導
 - (2) 感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文、出席状況によって総合的に評価する。

教育実習 I

伊藤昭道

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

- 実習校において、教師としての仕事を行う。
- (1) 学級担任として

朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたりとともに学級事務を担当する。
 - (2) 教科担任として

前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言を得て、授業をより充実させるよう努める。
 - (3) 特別活動として

学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

『教育実習記録』を活用する。

教育実習 II

小栗正彦

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

- (1) 学級担任として
 - 朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
 - また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。
- (2) 教科担任として
 - 前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
 - 後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
- (3) 特別活動として
 - 学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

『教育実習記録』を活用する。

国際理解教育論

植村広美

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業の目標】

明治以降のわが国の教育のあり方を踏まえ、国際理解教育を理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取
 - (1) 近代化への萌芽
 - (2) 海外視察と帰国後の動向
 - (3) 外国人教員の雇用とその教育への影響
 - (4) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化
 - (1) 学校教育における国際理解教育
 - (2) 在日外国人の子弟の受け入れ体制

【評価方法】

レポートにより評価を行う。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

生涯学習概論

角 紘昭

【授業の概要】

現代の社会では、一人ひとりが人として主体的に生きてゆくため、広く社会において学び続けてゆくことが求められている。そのための生涯学習の歴史、意義、実践について具体的な事例を基に考察をする。

【授業の目標】

実践上の課題など生涯学習全般について理解すると共に、人として生きる生涯学習社会への理解を深める。

【授業計画】

- 1 はじめに
 - 導入としての概観（単元の構成内容）
 - 受講上の注意
- 2 社会教育のはじまり
 - 通俗教育から社会教育
- 3・4 社会教育の展開
 - 戦後の社会教育
 - 施設とその展開
- 5 生涯学習の登場
 - 社会教育から生涯教育・生涯学習
- 6 欧米における生涯学習
- 7 生涯学習の構成
 - 行政などの組織
- 8・9・10 生涯学習の展開
 - ① 人権教育
 - ② 学社融合
 - ③ スポーツ振興
 - ④ 高齢者福祉
- 11 今後の課題
 - 規制緩和の進む中で
- 12 まとめ

【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合これを加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

学校経営と学校図書館

小栗正彦

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

【授業の目標】

司書教諭及び学校図書館司書教諭の資格取得のために必要な基礎的知識を習得する。

【授業計画】

第1時限	講義の進め方と評価の方法などについて
第2時限	あなたにとって「本を読む」とは、「図書館」を利用するということ。
第3時限	学校図書館の理念と教育的意義
第4時限	学校図書館法とは（学校図書館法の展開と改正）
第5・6時限	学校図書館の歴史と現状、制度、法規、基準（施設、設備など）
第7時限	教育行政と学校図書館
第8時限	学校図書館の「経営」とは（学校図書館に関わる人びと）
第9時限	学校図書館の経営要素（資料、施設・設備、予算、図書館サービス）
第10時限	学校図書館メディアの内容と構成
第11時限	司書教諭の役割とその問題点
第12時限	生徒たちに対する読書指導のあり方 ・君達が読ませたいと思う本、君達に読んでもらいたい本 レファレンスのあり方 何をどう調べるか
第13時限	学校図書館の国際的動向と先進事例
第14時限	いま「本の世界」で問題になっていること
最終回	試験

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

学習指導と学校図書館

枝元益祐

【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、(1) 学校の教育課程の展開に寄与するとともに、(2) 生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、(1) の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

【授業の目標】

学校において行われる教育活動全体の中での学習指導の位置付けと機能とを学校図書館が担う教育活動に関連付けることによって、その重要性を浮き彫りにする。

そこで、カリキュラム展開の中での学校図書館が学習指導に果たし得る効果を教育制度とストリートレベルとの双方の観点から捉えるとともに、メディア活用能力の重要性とその涵養、発展方法について論及、考察する。

【授業計画】

1. 学校教育における学習指導の位置付けとそこに果たす学校図書館の役割（総論）
2. 司書教諭の専門性と学習支援
3. 学習理論の観点から見る学習行動及びそこに果たす学校図書館の役割
4. 発達段階に応じた学校図書館メディアの活用
5. 情報メディア活用能力と学校図書館活動
6. 学校図書館における情報サービスと学習指導
7. 公教育と学校図書館及び学習指導の意義

【評価方法】

授業内での課題及び試験を総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。適宜教材資料等を配布する。

【参考文献・資料】

学校教育と図書館－司書教諭科目のねらい・内容とその解説（志保田務、北克一、山本順一 編著 第一法規）

学校図書館メディアの構成

枝元益祐

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業の目標】

1. 学校教育における学校図書館の果たす役割を理解し、そこに寄与する学校図書館メディア全体の諸相を理解する。
2. 学校図書館の各種メディアを特性を理解し収集選択する上での諸問題を考察する。
3. 学校図書館メディアの組織化（分類、目録、件名）とその機能を習熟する。
4. これからの理想とする学校図書館のあり方を考える。

【授業計画】

1. 学校教育における学校図書館メディアの効果（総論）
2. 学校教育に寄与するメディア群の特性の把握
 - (1) 現在の学校図書館メディアの実態分析
 - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
 - (3) 児童生徒が学校図書館に期待するものは何か
3. 教育の情報化に寄与する学校図書館活動
 - (1) 学校教育における情報メディアと学校図書館メディアとの関連
 - (2) 教育課程の展開に寄与する学校図書館メディア
 - (3) 教科教育および調べ学習・総合学習に有益な学校図書館メディア構成
4. 学校図書館メディアの組織化
 - (1) 分類の意義と分類作業の基本
 - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化
 - (3) 子ども（児童・生徒）への資料提供

【評価方法】

授業内での課題及び試験を総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。適宜教材資料を配布する。

【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成（小田光宏編 樹村房）
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務 新改訂第3版 第一法規）
学校教育と図書館－司書教諭科目のねらい・内容とその解説（志保田務、北克一、山本順一 編著 第一法規）

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業の目標】

人類の歴史の中で、図書館・本・読書はどのような役割を果たしてきたか。また個人の成長の過程で読書はどのような意味を持つか。人間精神と読書との関わりを、事例によって見ながら、学校図書館および学校図書館司書が「豊かな人間性」のために果たすべき役割を考える。

【授業計画】

1. 読書のよこび
 - (1) 読書との出会いとよこび——先人の読書経験から学ぶ
2. 人間形成と読書
 - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
 - (2) 少年期・青年期における読書との出会い
 - (3) 読書による、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
 - (1) 教師による本の紹介、読み聞かせ
 - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
 - (1) 家庭・友人間での読書、対話、読書会
 - (2) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
 - (1) 情報収集のための「読書」と思索のための読書
 - (2) 愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

プリントを配布する。

情報メディアの活用

枝元益祐

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業の目標】

教育の情報化にあつて、学校図書館にはその中枢機関としての機能が求められている。その前提となるのがメディアを活用する能力である。その根底となる考え方に焦点を当てる。

【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
 - (1) 学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
 - (2) 学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
 - (1) 図書検索とコンピュータ (OPAC)
 - (2) インターネットを使用しての資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
 - (1) 視覚メディアとしてのVTR等
 - (2) 聴覚メディアとしてのDVD、CD等
 - (3) 活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等
 - (4) 情報メディアの今後の動向とその対応
4. メディアの捉え方の諸相

【評価方法】

授業内での課題及び試験を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。適宜教材資料を配布する。

【参考文献・資料】

学校教育と図書館－司書教諭科目のねらい・内容とその解説（志保田務、北克一、山本順一 編著 第一法規）

博物館概論

柴垣勇夫

【授業の概要】

博物館とは何か、その発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観するとともに、博物館の新しい動きをとらえる。

【授業の目標】

学芸員として必要な基礎的知識を学習する。

【授業計画】

- 1) はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を知る。
- 2) 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
- 3) 博物館の始原…博物館の始原をたずねてみる。
- 4) 博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
- 5) 近代博物館の発端I…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
- 6) 近代博物館の発端II…市民への公開がなされていく過程を考える。
- 7) ヨーロッパの博物館…主要な博物館を例にとり、近世からの特徴をまとめる。
- 8) アメリカの博物館、アジアの博物館…合衆国独立から現代までと、アジアの博物館の特徴をみる。
- 9) 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の発端
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館
- 10) 博物館法の概要
- 11) 博物館の新しい動き
 - ・企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど
 - ・最近の博物館組織

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治原著、柴垣勇夫補訂）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館学各論 I

柴垣勇夫

【授業の概要】

博物館の現状を分析し、その将来を考えるとともに、文化財の保護についても学習する。

【授業の目標】

学芸員資格にかかる基礎的事項を学習する。

【授業計画】

- 1) 博物館の機能…生涯学習施設と定義されていることを考える。
- 2) 博物館の分類…分類を通して、博物館の役割やあり方を考えていく。
- 3) 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
- 4) 博物館の運営…公立博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- 5) 学芸員の倫理…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
- 6) 予算など…博物館のマネジメントについて考える。
- 7) 博物館の施設・設備…市民参加の視点から、あるべき施設・設備について考えてみる。
- 8) 博物館と情報その1…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探っていく。
- 9) 博物館と情報その2…博物館での情報提供のあり方を探る。
- 10) 博物館と情報その3…博物館と大学・研究機関などとの連携についても考える。
- 11) 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察し、博物館との関係を考える。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治原著、柴垣勇夫補訂）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館概論

早川正一

【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省（現在の文科省）の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。充分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業の目標】

この科目は、後期におこなう「博物館学各論I」と共に、所定の必修科目の一つである。必修の理由は、卒業を条件として学芸員の資格が与えられる基幹の学科目のため、この講義内容を習得させることが目標となる。

【授業計画】

博物館や美術館の基本概念と必要性
 専門職員としての「学芸員」とは何か
 博物館と美術館の発達とその時代背景
 博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
 博物館の分類と現代性
 博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
 博物館の相互協力と情報の活用
 毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
 無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。
 長谷川銑治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

【テキスト】

テキストを購入させない。毎時間のノートの一学期分がテキストの代用となる。

【参考文献・資料】

本学図書館が所蔵する060～069.9までの基礎図書に目を通しておくことをすすめる。

博物館学各論 I

早川正一

【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業の目標】

この科目は、前期に実施する「博物館概論」と共に、所定の必修科目の一つであって、必修とした最大の理由は、卒業を条件に学芸員の資格が与えられる。したがって、授業計画による講義内容を受講生に修得させることが目標となる。

【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。
 博物館や美術館の展示と陳列構造
 博物館がとり扱う資料の収集と保存
 博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
 博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
 文化財の種類と保護にかかわる諸問題
 生涯学習の必要性と博物館の関連事業
 毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
 無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。
 博物館学論考（長谷川銑治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】

毎時間のノートの一学期分がテキストの代用となるので、テキストを購入させない。

【参考文献・資料】

本学図書館が所蔵する060～069.9までの基礎図書に目を通しておくことをすすめる。

博物館学各論 II

柴垣勇夫

【授業の概要】

博物館資料とは何か、資料の取扱い方を学習する。また、博物館における調査・研究についても考える。

【授業の目標】

学芸員として必要な基本的事項を実践をとおして学習する。

【授業計画】

- 1) 「物」が博物館資料として位置づけられることを考える。
- 2) 博物館資料の実際について具体的に学ぶ。
 - a 資料の収集
 - b 資料の取扱い
 - ・ 保存箱の種類と取扱い
 - ・ 掛軸の扱いと掛け方
 - ・ 古文書 ・ 和装本の取扱い
 - ・ やきもの ・ 茶碗の取扱い
 - ・ 瓦のみかたと取扱い、拓本の取り方
 - ・ 刀、太刀のみかたと取扱い
 - c 資料の整理・保存
 - d 資料の保全
- 3) 資料情報の管理について、その実際を探る。
- 4) 博物館における調査と研究、成果の公表について考える。

【評価方法】

- ・ 数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・ 出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治原著 柴垣勇夫補訂）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館学各論 II

武藤 真

【授業の概要】

博物館は「もの（物）」「ひと（人）」「ば（場）」の3つの要素で構成される。この授業では、そのうちの「もの」=博物館資料に焦点をあて、博物館活動の中での役割を考える。

【授業の目標】

博物館資料の定義、収集、整理分類、保管保存、調査研究そして実際の取扱い方について、基礎的な知識を学び、技術を習得することを目標とする。

【授業計画】

履修学生が、手を動かし、自分で考える「実技」の時間をできるだけ多くとる。

- (a) 博物館と博物館資料
- (b) 資料を記録する技術
拓本・実測・写真など。
- (c) 資料を扱う技術
掛け軸・卷子・和本・陶磁器・考古資料など。
- (d) 資料を保管・保存する技術
ドキュメンテーション・保存科学など。
- (e) 博物館と調査・研究

【評価方法】

実技を行うため、出席および授業に臨む姿勢を重視する。あわせて、レポートなどの課題、(時間内の)小テストの結果も勘案する。

【テキスト】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

【参考文献・資料】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

博物館学各論 II

赤羽一郎

【授業の概要】

博物館の活動の基軸は「資料」にあり、それを収集し、正しく保存し、かつ有効に活用することが博物館には求められる。本講座では、資料の収集・取扱い・整理・保存・活用について、具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業の目標】

博物館における「資料」の存在意味を学び、その基礎的な取扱いと活用について実習を通して修得することを目標とする。

【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的な種類を知る。
2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
3. 資料の取扱い……基本資料の取扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。
陶磁器、考古資料、軸装、額装、刀剣その他で実習する。
4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

【評価方法】

受講態度及びレポートで評価する。

【テキスト】

【新訂博物館学概説】（長谷川銑治・著 戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

博物館実習

柴垣勇夫

【授業の概要】

展示演習、内外の博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

【授業の目標】

学芸員の基本的な役割について、種々の実践をとおして考察するとともに学芸員資格取得のためのまとめをする。

【授業計画】

- 1 展示についての学問的側面、実際の運用などをみていく。
 - 1) 展示とは
 - 2) 展示のポイント
・ 動線 ・ 視線 ・ 照明 ・ 温度 ・ 湿度
 - 3) 展示の施設、設備
 - 4) 展示のプロセス
 - 5) 展示方法の実践例
 - 6) 展示と保全
- 2 生涯学習が重要な課題である現代社会にあって、博物館が果たす役割を考える。
- 3 学外に出て現場の実務に接し理解を深める。
 - 1) 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける（全員）。
 - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
 - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
 - 4) 県外実習……2)、3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

【評価方法】

- ・ 演習はもちろん、学外での研修、実習にはかならず参加し、それぞれレポートを提出。評価の対象とする。
- ・ その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治原著 柴垣勇夫補訂）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館実習

赤羽一郎

【授業の概要】

展示についての理論・方法論を提示し、また博物館・美術館見学、博物館実習を通して、学芸員に求められる業務を多様な面から学習する。

【授業の目標】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習・博物館見学・博物館実習を通して、展示についての基礎的な理論と方法を修得することを目標とする。

【授業計画】

1. 展示の意義……博物館等における展示の意義、役割について学ぶ。
2. 展示の条件……展示空間の諸条件について、資料保全と展示効果の両面から学ぶ。
3. 展示のプロセス……展示立案から終了までの流れを実践的に学ぶ。
4. 学外に出て現場の実務に接し、学芸員業務を具体的に学ぶ。
 - 1) 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
 - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
 - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
 - 4) 県外実習……2)、3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

【評価方法】

授業および学外での研修等の出席状況、受講態度及びレポート成績によって評価する。

【テキスト】

『新訂博物館学概論』（長谷川銚治・著 戸谷印刷）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

生涯学習概論

角 紘昭

【授業の概要】

現代の社会では、一人ひとりが人として主体的に生きてゆくため、広く社会において学び続けてゆくことが求められている。そのための生涯学習の歴史、意義、実践について具体的な事例を基に考察をする。

【授業の目標】

実践上の課題など生涯学習全般について理解すると共に、人として生きる生涯学習社会への理解を深める。

【授業計画】

- 1 はじめに
 - 導入としての概観（単元の構成内容）
 - 受講上の注意
- 2 社会教育のはじまり
 - 通俗教育から社会教育
- 3・4 社会教育の展開
 - 戦後の社会教育
 - 施設とその展開
- 5 生涯学習の登場
 - 社会教育から生涯教育・生涯学習
- 6 欧米における生涯学習
- 7 生涯学習の構成
 - 行政などの組織
- 8・9・10 生涯学習の展開
 - ① 人権教育
 - ② 学社融合
 - ③ スポーツ振興
 - ④ 高齢者福祉
- 11 今後の課題
 - 規制緩和の進む中で
- 12 まとめ

【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合これを加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

博物館実習

瀬川貴文

【授業の概要】

「展示」は、博物館と利用者とは結ぶインターフェイスであり、博物館の「顔」といえる。この授業では、「展示」に関わる知識・技術を学び、各種博物館の見学を通じて、その実践例を見る。

【授業の目標】

実技を行うことによって、「展示」に関わる知識・技術、とくに展示デザインの基礎を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- I 「展示」を実施する際の各場面を疑似体験できるよう、「実技」の時間を多くとる。また、ビデオなど視聴覚教材を用いて、具体的なイメージでとらえられるようにする。
 - (a) 展示とは
 - (b) 展示のプロセス
 - (c) 展示の構成要素
 - (d) 展示と資料保全
 - (e) 着想から実施まで
 - (f) 解説の方法と印刷物
 - (g) 展示とその周辺
 - (h) まとめ
- II 学外に出て現場の実務に接し理解を深める。
 - 1) 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
 - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
 - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
 - 4) 県外実習……2) 3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

【評価方法】

実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出などにより評価する。

【テキスト】

授業中に適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の進行状況に応じ、文献・論文などを指示する。

視聴覚教育メディア論

藤井 信

【授業の概要】

情報・視聴覚機器の持つ機能、宗教と視聴覚との関連、メディアリテラシーの観点から、情報教育のあり方、更には、学芸員としての博物館・美術館等における視聴覚的展示や補助資料に関することを論じていきたい。

【授業の目標】

視聴覚教育の意義・役割と、情報の送り手と受け手の立場からメディアリテラシーを理解する。展示・解説等における視聴覚・情報メディアの活用を追求する。

【授業計画】

- 1 視聴覚教育の目標
 - 1-1 視聴覚教育の意義
 - 1-2 視聴覚教育の機能
 - 1-3 視聴覚教育の役割と特性
- 2 宗教における視聴覚の役割
 - 2-1 宗教における荘厳
 - 2-2 宗教における音声
 - 2-3 宗教における絵画・彫刻
- 3 情報の活用とリテラシー
 - 3-1 情報とメディア
 - 3-2 情報の記録と保存
 - 3-3 情報活用能力の育成
 - 3-4 プレゼンテーションの意義と機能
 - 3-5 情報モラルとセキュリティ
- 4 博物館・美術館におけるプレゼンテーション
 - 4-1 展示の機能と効果
 - 4-2 学芸員の職務・役割
 - 4-3 視聴覚資料の鑑賞

【評価方法】

毎時の小レポート、指示するレポートおよび期末テストで評価する

【テキスト】

メディア・リテラシー（佐藤卓己著、岩波新書）、その他 プリントを配布

【参考文献・資料】

授業時に指示する

教育学概論

植村広美

【授業の概要】

教育学の基本的な知識や概念の習得とそれに基づく具体的な諸問題について考察を進めていくことにする。とりわけ、人間の社会生活と教育との関連に力点をおいて、本来の教育の意義や望ましい教育の作用を明らかにするように努めていく。その際、より理解が深まるよう具体的な事例を題材として取り上げていく。

【授業の目標】

学問としての教育学の性格、歴史、現代的な課題についていろいろな視点から理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. 序
2. 教育学の概念
3. 教育学の歴史
 - (1) 外国
 - (2) 日本
4. 教育学の課題
5. 学校と教育
6. 社会と教育
7. 家庭と教育
8. 現代と教育
9. 総括

【評価方法】

主に期末試験により評価するが、講義中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

美術史

高橋秀治

【授業の概要】

美術の歴史をつくってきた美術家たちはその生きた時代の動きと無関係に作品を生み出したのではなく、常にその背景と共にあります。美術が社会を映す鏡という視点に立ち、19世紀末から今日に至る西洋近現代美術のありさまを社会的、文化的あるいは思想や、政治、人々の生活などの背景と結びつけながら理解していきます。

【授業の目標】

美術作品を鑑賞するときに、単に表現上の技法や構成などを分析的に理解するにとどまらず、作品の生れた時代的、社会的あるいは文化的背景まで含めた幅広い視野の必要性を理解できるようにすることを目標とする。

【授業計画】

- | | | | |
|------|--|-------|---|
| 1～4 | 印象派からシュルレアリスムへ
・産業革命と芸術
・写真と絵画
・時間表現
・心理学 | 5～8 | 激動の時代と美術
・第一次世界大戦
・反芸術
・第二次世界大戦
・工業社会 |
| 9～12 | アメリカ美術の時代
・巨大絵画
・アメリカン・ドリーム
・文明の廃棄物
・エコロジー | 13～15 | ニューメディアと美術
・ニューメディア
・身体表現 |

【評価方法】

出欠を確認し、評価に反映させる。ワークシートや感想・質問などを記すフィードバックシートなどを適宜配布、回収して出欠の確認に代えるとともに内容を評価する。また、授業で自分の考えを表明したり質問をする姿勢もあわせて評価する。

【テキスト】

とくになし

【参考文献・資料】

必要により授業内で紹介する。

民俗学

谷沢 明

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業の目標】

日本民俗学の基礎を幅広く学び、民俗学的な物の見方を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～目的・領域・方法論～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折り返しにあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による。

【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と生活文化

【参考文献・資料】

授業で必要に応じて紹介します。

考古学

赤羽一郎

【授業の概要】

学問としての考古学の主な対象は先人が遺した遺跡・遺物であり、それらを顕在化・資料化するための方法は発掘調査に拠っている。遺跡・遺物には、いつ造られ使われそして廃棄されたかという情報、つまり「時計」と、誰がどこでどのような材料で造ったかという情報、「戸籍」が内包されている。近年は自然科学分野と共に、この「時計」と「戸籍」を解明するための作業が活発に行われている。また、遺跡・遺物が先人の生活でどのような役割を担っていたかを知る上で、文化人類学、民俗学、さらには文献史学の知見も有効である。このように、考古学も他の学問領域との共同作業、つまり「学際」の途を歩んでいる。

しかし、遺跡・遺物に内包されている「時計」「戸籍」を解き明かすことだけが考古学の目的ではない。何故なら、考古学は歴史学の一分野として、単に先人の足跡を追跡するにとどまらず、それがどのような現代的意味、私たちが生きていく上での指針を持っているかを学ぶものだからでもある。特に、博物館などで資料として遺跡・遺物といった考古資料を活用する際に、欠くことのできない視点であると考えたい。

【授業の目標】

多くの博物館・資料館では考古資料が収蔵・展示されていることから、学芸員として必要な考古学及び考古資料に関する基礎的な知識の修得を目的とする。

【授業計画】

- 1 考古学の理念と方法論
 - 2 日本考古学の発展
 - 3 ア 原始
 - 4 イ 古代・中世
 - 5 ウ 近世以降
 - 5 文化財としての遺跡・遺物
- 随時、スライド、OHPを用いて視覚による理解を促す。

【評価方法】

出席状況、数回のミニ・レポートにより判定する。

【テキスト】

講義の都度、レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

特になし。

文化史

秋元悦子

【授業の概要】

本講座は、歴史・文化が地理的背景とどのように関係してきたか、中国を例にさまざまな角度から検討するものである。

授業では、古典文献・地形図・考古学などの情報を利用しながら文化的特質を考察してゆく。

教材としてプリントを配布し、視覚資料（DVD・OHC・地図ソフトなど）を多用し、地域と歴史の様相をより具体的に示していきたい。

【授業の目標】

ある地域の「文化」を知ろうとするときに、どのような手段・方法があるかを学ぶことが目標である。

本講座では、日本の文化に多大な影響を与えた「中国」の文化を例として、その地理的状況や歴史思想、考古学的な状況を知ることにより、様々な視点から物事を解読することができるようになることを目標としている。

【授業計画】

1. 履修に関するガイダンス・オリエンテーション
2. 中国と日本の自然地理を知る
標高・気温・降水量の分析から
3. 中国人の地域概念
『禹貢』の世界から現代の地理意識まで
4. 『禹貢』時代の考古学
夏殷周三代の歴史とその遺跡
5. ユーラシア大陸の歴史と中国
四大文明から近代まで
6. 気候変動と歴史
王朝交代と気候変動の関係
9. まとめ

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。

期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

なし。授業中に配布するプリントを使用。

【参考文献・資料】

世界の歴史と文化 中国（陳舜臣・尾崎秀樹監修 新潮社）

長安の都市計画（妹尾達彦著 講談社選書メチエ）

また、授業中に各種文献を紹介する。

生涯学習概論

角 紘昭

【授業の概要】

現代の社会では、一人ひとりが人として主体的に生きてゆくため、広く社会において学び続けてゆくことが求められている。そのための生涯学習の歴史、意義、実践について具体的な事例を基に考察をする。

【授業の目標】

実践上の課題など生涯学習全般について理解すると共に、人として生きる生涯学習社会への理解を深める。

【授業計画】

- 1 はじめに
導入としての概観（単元の構成内容）
受講上の注意
- 2 社会教育のはじまり
通俗教育から社会教育
- 3・4 社会教育の展開
戦後の社会教育
施設とその展開
- 5 生涯学習の登場
社会教育から生涯教育・生涯学習
- 6 欧米における生涯学習
- 7 生涯学習の構成
行政などの組織
- 8・9・10 生涯学習の展開
①人権教育
②学社融合
③スポーツ振興
④高齢者福祉
- 11 今後の課題
規制緩和の進む中で
- 12 まとめ

【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

080327014_0030 掲載順:0030

MCode:080108016_0050 ★

図書館情報学概論 I

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Iでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について説く。

【授業の目標】

まず、用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それが第一である。それに加えて、「情報」も、「図書館情報学」という学術分野それ自体も、簡単には理解できない難物であるということも体感してほしい。そして、情報伝達にはさまざまな因子が関与することを理解し、情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
図書館学/情報学/図書館情報学
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念
概念・考え方・観点・立場
定義の多様性と現象の多面性
情報概念の歴史/情報・知識・データ
定義の整理のための枠組み/構造的な理解
認識・認知・ころろ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注：「図書館情報学概論I」の単位を取得済でない学生については、「同II」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3,800円税別定価）および配布資料

080327014_0040 掲載順:0040

MCode:080108016_0070 ★

図書館情報学概論 II

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。IIでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業の目標】

「図書館情報学概論I」に引続き、まずは図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。また、図書館については、その多様な性格を包括的に理解するとともに、とくに情報サービスとしての側面に関する理解を深めること。

【授業計画】

1. 情報の流過程
情報の流れと情報メディア/学術情報の流過程
2. 図書館・情報サービスの世界
構成要素と機能/情報システムとしての図書館
3. 協力と競合
図書館ネットワーク/競合する情報サービス
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の未来

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注「図書館情報学概論I」の単位を取得済でない学生については、「同II」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3,800円税別定価）および配布資料

図書館経営論

雨森弘行

【授業の概要】

図書館の技術的な面－分類・目録等－資料組織とは別に図書館運営上の諸問題－司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業の目標】

図書館に対する社会の要請や期待に対して、図書館がどのように応えるべきか、また応え得るのかについて、図書館の存在意義についての基本的な考え方を身につけるとともに、図書館の組織機構・管理運営・計画策定等、経営の全般に亘って、実際例を参考にしながら理解を深める。

【授業計画】

1. 開講に当たって（受講の動機、目的、目標の確認）
2. 図書館経営の意義
3. 自治体行政と図書館
4. 図書館業務の理論と実際
5. 図書館の組織
6. 図書館の職員
7. 図書館の計画とマーケティング
8. 図書館の施設整備計画
9. 図書館ネットワークの形成
10. 図書館業務・サービスの評価
11. まとめ

【評価方法】

出席点、小レポート、最終レポートにより総合評価する。

【テキスト】

改訂「図書館経営論」（最新刊）（高山正也他編著 樹村房）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

情報サービス基礎論 I

廣田慈子

【授業の概要】

電子情報技術の急速な発展とグローバルな広がりを背景として、人と情報との関わりが変化してきた。社会はあらゆる面で急速な変化の様相を見ている。「情報サービス基礎論I」では、社会の多様化と情報の多様化と膨大化及び情報流通の変化に直面する「図書館」のサービスについて、主として公共図書館のサービスを念頭において諸問題を概観する。

【授業の目標】

情報サービス機関として図書館が直面する諸問題について理解し、現代の社会環境、特に情報化・電子化が進む社会環境の中で、図書館に求められ、図書館が提供すべき情報サービスの内容と多様性に対する知識と理解を深め、図書館および図書館員の可能性について考える。

【授業計画】

1. 現代の情報化社会と図書館の役割
2. ICT（情報通信）環境と図書館環境
3. 図書館における情報サービスの意義
4. 図書館種別の情報サービスの概要
5. 現代の図書館情報サービスの目標と先進事例
6. 現代社会と図書館情報サービスの諸問題

上記内容について、講義を中心にを行います。

適宜、小課題やレポート等を課します。

受講予定生は「インターネット講習会」を受講しておくことが望ましい。

【評価方法】

講義内での小課題等（30%）、および期末レポート（70%）の総合評価

【テキスト】

適宜、プリント配布資料を用いる。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

レファレンスサービス論

千代由利

【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習III（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

【授業の目標】

図書館サービスにおけるレファレンスサービスの意義および重要性について、これまでの展開および新しい情報環境下における展開について理解し、演習等をとおして実践する。

【授業計画】

1. 授業のガイダンス、レファレンスサービスの概況
2. 図書館における情報サービス
3. レファレンスサービスの歴史と展開
4. 図書館におけるレファレンスサービス
5. 情報源とレファレンスコレクション
6. レファレンス質問とレファレンスプロセス
7. 質問の受付と内容の確認
8. 探索戦略と質問の分析
9. 探索の手順と情報（源）の入手
10. 回答の提供と事後処理
11. レファレンスブックの探索

【評価方法】

出席状況、演習レポート、試験等により評価する。

【テキスト】

『新版 問題解決のためのレファレンスサービス』（長澤雅男 石黒祐子著 日本図書館協会 2007.4）

【参考文献・資料】

『情報源としてのレファレンスブックス（新版）』（長澤雅男、石黒祐子著 日本図書館協会）
『レファレンスサービス 図書館における情報サービス』（長澤雅男著 丸善）

情報サービス基礎論 II

廣田慈子

【授業の概要】

「情報サービス基礎論I」の履修を前提とする。
あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

今日の社会において図書館に求められる「情報サービス」の意義を理解した上で、伝統的な情報サービスの内容とその必要性、および新しい社会環境・技術環境に対応した情報サービスの内容とその必要性について自らの理解を深める。

【授業計画】

1. 図書館における「情報サービス」（基礎論Iの復習）
2. 情報サービスの歴史と展開
・図書館における伝統的な情報サービスの歴史と内容の変遷
3. 図書館情報サービスの種類：パブリックサービス
・貸出閲覧／レファレンスサービス／等
4. 図書館情報サービスの種類：テクニカルサービス
・資料組織化／蔵書構築／等
5. 図書館サービスの変化
・情報通信技術（ICT）環境の変化に対応した新・情報サービス
6. 社会環境の変化と図書館サービスの変化
・法的環境の変化（著作権等）に対応した情報サービスの展開
7. 求められる「図書館の情報サービス」

上記内容について、講義を中心にを行います。

適宜、小課題やレポート等を課します。

受講予定生は「インターネット講習会」を受講しておくこと。

【評価方法】

講義内での小課題等（30%）、および期末レポート（70%）の総合評価

【テキスト】

適宜、プリント配布資料を用いる。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

情報検索演習 II（学術情報の探索）

櫻木貴子

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。
さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索
学術論文の特徴
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス
5. 各種オンライン情報検索システム
JDream
DIALOG
CSA
6. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習 III (情報と文献の探索)

櫻木貴子

【授業の概要】

情報検索演習I(1年次必修)および情報検索演習II(2年次)を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技術を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業の目標】

情報検索演習I(1年次必修)および情報検索演習II(2年次)を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

【授業計画】

[演習予定の検索対象ファイル(データベースサービス)]

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
 - 2.1 雑誌記事(書誌情報)検索
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、LLIS (DIALOG)、CiNii (NII)、JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
 - 2.2 雑誌記事横断検索: DIALINDEX複数ファイル横断検索 (DIALOG)
 - 2.3 シソーラスを利用した検索
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE (DIALOG)
 - 2.4 引用関係を利用した検索: Social SciSearch (DIALOG)
 - 2.5 一次資料が入手可及システムの検索
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、PubMed (NLM/NCBI)
 - 2.6 ネットワーク情報資源検索・アクセス: LISA (CSA)
 - 2.7 図書(所蔵/目次情報)検索
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、WorldCat (OCLC FirstSearch)
 - 2.8 新聞記事(全文記事)検索: 各種新聞ファイル(日経テレコン21)
 - 2.9 人物情報検索: 人物情報横断検索 (G-Search)
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず(配付資料)。

情報メディア基礎論 I

櫻木貴子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず(配付資料)。

情報メディア基礎論 II

櫻木貴子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず(配付資料)。

情報メディア論 IV (人文社会情報メディア)

藤野寛之

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業の目標】

人文・社会科学分野で生産され利用されている各種情報メディアの特徴を理解する。

【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
 - (1) 美術・音楽
 - (2) 言語・文学
 - (3) 歴史
 - (4) ビジネス(経済、経営、企業情報等)
 - (5) 法律
 - (6) 図書館情報学
 - (7) その他
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験などを総合して評価する。

【テキスト】

専門資料論 [JLA図書館情報学テキストシリーズ8] (三浦逸雄、野末俊比古 共編著 日本図書館協会)。
その他、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

情報メディア論 V (科学技術情報メディア)

櫻木貴子

【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オナーシップからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリースystem
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア (データベース、一次雑誌) の現在

【授業の目標】

学術雑誌を中心に、執筆、審査、発表、製作、流通、利用の流れを理解し、より深く情報サービスを展開できる能力を育成する。

【授業計画】

講義を中心に行う。参考文献等はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

平常点、レポートで評価する

【テキスト】

使用せず (配付資料)。

【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌 (Lambert, J.著 日本図書館協会)
出版産業の起源と発達 (Thompson, J.W.著 出版同人)
歴史としての学問 (中山茂著 中央公論社)
生命科学論文投稿ガイド (山崎茂明著 中外医学社)
医学文献サーチガイド 第2版 (山崎茂明著 日本医書出版協会)
研究評価 (根岸正光・山崎茂明著 丸善)

資料組織演習

櫻木貴子

【授業の概要】

「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。

演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。

主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成ができること。

書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・記述目録法
 - ISBD
 - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
 - アクセス・ポイントの選定
 - 典拠コントロール
- ・主題目録法
 - 分類：日本十進分類法
 - 主題件名標目表：基本件名標目表

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A.2003年)

【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

資料組織論

櫻木貴子

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業の目標】

情報の組織化に関する概念を理解し、現在の目録サービスについて批判的に考察することができること。

目録やそれに関連する専門用語を理解すること。

【授業計画】

- 第1回 情報の組織化
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 目録規則
- 第6回 記述目録 (1) AACR 2r, NCR
- 第7回 記述目録 (2) アクセス・ポイントの選定：標目形；典拠コントロール
- 第8回 記述目録 (3) 各種記述フォーマット
- 第9回 メタデータ
- 第10回 主題目録 (1) 概要
- 第11回 主題目録 (2) 分類法
- 第12回 主題目録 (3) 主要分類法
- 第13回 主題目録 (4) 主要件名標目表
- 第14回 期末テスト

【評価方法】

平常点、レポート、試験

【テキスト】

初回時にテキスト配布。

【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題 (国立国会図書館編 日本図書館協会、2002)
文献世界の構造：書誌コントロール論序説 (根本彰著 勁草書房、1998)
図書館ネットワーク-書誌ユーティリティの世界- (宮澤彰 丸善、2002)

図書館学特殊 III (児童サービス論)

近藤洋子

【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広くとりあげる。

【授業の目標】

図書館における児童サービスの理論の基礎的理解を具体的資料にあたって学ぶ。

サービスがよりよく実践されるための実技を学ぶ。

図書館見学等を通して、現状のサービスについて理解を深めていく。

【授業計画】

- (1) 子どもの読書と児童図書館
- (2) 児童図書館の意義と歴史
- (3) 児童資料の類型、出版・流通
- (4) 児童資料の特性1 絵本・創作児童文学
- (5) 児童資料の特性2 昔話・ノンフィクション・その他
- (6) 児童資料の収集・整理 蔵書構成
- (7) 資料提供サービス、窓口業務
フロアワーク、レファレンス
- (8) 集会行事、展示・PR
- (9) 児童サービスの技術1 読み聞かせ ストーリーテリング
- (10) 児童サービスの技術2 ブックトーク 書評・ブックリスト
- (11) 児童図書館の企画・運営 施設・設備
- (12) 児童サービスの対象 ヤングアダルトサービス
- (13) 類縁機関との連携 学校図書館
- (14) 児童図書館の現在と今後 見学レポートの発表
- (15) ストーリーテリング実習

【評価方法】

出席状況 平常点 図書館見学等レポートを総合評価

【テキスト】

児童サービス論 新訂版 (堀川照代編著 日本図書館協会)

【参考文献・資料】

児童サービス論 (佐藤涼子編 教育史料出版会)
児童図書館のあゆみ(児童図書館研究会編 教育史料出版会)

情報学 III (図書館と情報検索の歴史)

藤野寛之

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、(人類の情報環境の発達過程を概観する)というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、(情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか)という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

IIIでは、古代から中世までを対象とし、IVに引き継ぐ。

【授業の目標】

図書館や情報メディアに関する歴史的な事実を学ぶ。そのことにより、現代の図書館や情報サービス機関が持つ思想や性格について理解を深めていくことを目標とする。

【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識活動
2. ギリシア・ローマにおける進展
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命

【評価方法】

出席状況および試験などを総合して評価する。

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション(B.C. ヴィッカーリー著 [村主朋英訳] 勁草書房)。
その他、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

図書館分類=書誌分類の歴史 第一巻(エヴゲーニー・シャムーリン著 [藤野幸雄訳] 金沢文圃閣)。
その他の文献は授業中に指示する。

情報メディア論 I (マルチメディア)

楓 森博

【授業の概要】

現代社会ではあらゆる組織においてコンピュータ等情報機器が不可欠のツールとなっている。これら情報機器を使いこなすことにより、情報のより効果的な利用が可能となる。

この授業では、情報メディア・情報機器に関する基礎的なことを解説する。また、情報技術について図書館・情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。

【授業の目標】

情報技術活用のための基礎知識を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 1) ガイダンス: 授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) コンピュータの基本的な仕組み
- 7) 図書館の機械化
- 8) データベースと情報検索
- 9) メディアの多様化と情報技術
- 10) インターネットについての基礎知識
- 11) インターネットによる情報発信
- 12) 電子情報と知的所有権

【評価方法】

(1) 出席状況 (2) 定期試験(またはレポート)
以上の結果により評価を行う。

【テキスト】

授業時に提示する。

情報学 IV (図書館と情報検索の歴史)

藤野寛之

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、(人類の情報環境の発達過程を概観する)というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、(情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか)という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

IVでは、IIIの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお、マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱うのみなので、それらの内容に期待する学生には、別の科目や参考書等を紹介する。

【授業の目標】

図書館や情報メディアに関する歴史的な事実を学ぶ。そのことにより、現代の図書館や情報サービス機関が持つ思想や性格について理解を深めていくことを目標とする。

【授業計画】

1. 近代の動向
2. 図書館の世紀
 - (1) アメリカ
 - (2) イギリス
 - (3) その他
3. 書誌とドキュメンテーション
4. 情報メディア技術の発達
5. 20世紀の情報流通システムと情報検索
6. わが国の図書館・情報流通のあゆみ
7. 各国の図書館・情報流通の比較
8. 各国の図書館・情報政策の変遷

【評価方法】

出席状況および試験などを総合して評価する。

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション(B.C. ヴィッカーリー著 [村主朋英訳] 勁草書房)。
その他、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

図書館を育てた人々 イギリス篇(藤野幸雄、藤野寛之著 日本図書館協会)。
図書館設立のための助言(ガブリエル・ノーテ著 [藤野寛之訳] 金沢文圃閣)。
その他の文献については授業中に指示する。

初級簿記（3級程度） *基礎総合

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定3級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。前期は2コマ（3時間）ずつ週2回のペースで、後期は2コマ（3時間）ずつ週1回のペースで講義を行う。この講義は初学者向けの講義であり、簿記の仕組みから精算表の作成まで簿記の基礎とされる内容を一通り学習した後、全国公開模擬試験などの問題を通して日商簿記検定3級の合格サポートを行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 簿記の目的・取引・仕訳・勘定口座の記入方法
- 第2回 試算表・商品売上の記帳方法、現金預金の記帳
- 第3回 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第4回 その他の勘定記帳方法、主要簿および補助簿
- 第5回 主要簿および補助簿、伝票
- 第6回 直前総まとめ問題集解説（補助簿、試算表、伝票対策）
- 第7回 決算整理（売上原価）、英米式決算法、精算表
- 第8回 決算整理（貸倒、減価償却、固定資産の売却、繰延・見越）
- 第9回 決算整理（消耗品、現金過不足、売買目的有価証券、引出金）
- 第10回 直前総まとめ問題集解説（仕訳、精算表対策）
- 第11回 直前答練第1回、解説
- 第12回 直前答練第2回、解説
- 第13回 直前答練第3回、解説
- 第14回 全国公開模擬試験、解説
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（2級程度）B *工業簿記

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「商業簿記」は中級簿記（2級程度）Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 工業簿記の基礎、個別原価計算の体系
- 第2回 材料費会計
- 第3回 労務費会計
- 第4回 経費会計、製造間接費会計
- 第5回 工企業の財務諸表
- 第6回 部門別会計、工場会計
- 第7回 工業簿記の基礎、総合原価計算の体系
- 第8回 単純総合原価計算
- 第9回 減損および仕損
- 第10回 組別・等級別原価計算
- 第11回 標準原価計算
- 第12回 損益分岐点分析、直接原価計算、固定費調整
- 第13回 総まとめ（1）
- 第14回 総まとめ（2）
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（2級程度）A *商業簿記

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「工業簿記」は中級簿記（2級程度）Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 簿記一巡、固定資産
- 第2回 減価償却、銀行勘定調整表、引当金
- 第3回 その他の引当金、商品の評価、税金
- 第4回 株式の発行、利益処分
- 第5回 会社の合併、社債の発行、決算整理
- 第6回 社債の償還、決算法、財務諸表
- 第7回 伝票会計
- 第8回 帳簿組織
- 第9回 特殊商品売買
- 第10回 仕入割引、売上割引、研究開発費、有価証券
- 第11回 債務保証、手形の不渡り、裏書譲渡
- 第12回 本支店会計
- 第13回 総まとめ（1）
- 第14回 総まとめ（2）
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価をする。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（2級程度）C *実践

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。この講義は中級簿記（2級程度）AまたはBの受講者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）A *商業簿記

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「会計学」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）B、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、企業会計原則、簿記一巡
- 第2回 一般販売、特殊商品売買I
- 第3回 特殊商品売買II
- 第4回 特殊商品売買III
- 第5回 棚卸資産
- 第6回 固定資産I
- 第7回 固定資産II
- 第8回 減損会計、繰延資産
- 第9回 研究開発費、引当金I
- 第10回 引当金II、退職給付会計I
- 第11回 退職給付会計II、社債I
- 第12回 社債II、資本I
- 第13回 資本II
- 第14回 合併会計、会社分割
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）C *原価計算

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「原価計算」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、B、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、原価・営業量・利益関係の分析I
- 第2回 原価・営業量・利益関係の分析II
- 第3回 予算編成
- 第4回 予算統制I
- 第5回 予算統制II、売上数量差異の分析
- 第6回 事業部制、セグメント別損益計算
- 第7回 業務的意思決定I
- 第8回 業務的意思決定II
- 第9回 業務的意思決定III、最適セールス・ミックス
- 第10回 構造的意思想定I、設備投資の意思決定
- 第11回 構造的意思想定II
- 第12回 構造的意思想定III
- 第13回 戦略的原価計算I、品質原価計算
- 第14回 戦略的原価計算II、原価企画、活動基準原価計算
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）B *会計学

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「会計学」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 現金および預金、債権、有価証券
- 第2回 金融資産および金融負債、デリバティブ取引
- 第3回 ヘッジ会計、為替換算会計
- 第4回 外貨建取引処理基準、為替予約
- 第5回 税効果会計、一時差異等の会計処理I
- 第6回 一時差異等の会計処理II
- 第7回 本支店会計
- 第8回 連結会計、取得日連結
- 第9回 連結会計、取得後連結I
- 第10回 連結会計、取得後連結II
- 第11回 連結会計、持分の段階取得、売却、増資
- 第12回 持分法、連結税効果会計、在外子会社連結
- 第13回 キャッシュ・フロー会計
- 第14回 連結キャッシュ・フロー会計
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）D *工業簿記

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「原価計算」は上級簿記（1級程度）A、B、Cで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、単純個別原価計算
- 第2回 部門別個別原価計算
- 第3回 部門別計算I
- 第4回 部門別計算II
- 第5回 実際総合原価計算I、総論
- 第6回 全部原価計算と直接原価計算、固定費調整
- 第7回 実際総合原価計算II、減損、仕損
- 第8回 実際総合原価計算III、異常減損・仕損
- 第9回 工程別総合原価計算
- 第10回 組別・等級別原価計算、練産品・副産物・作業層
- 第11回 標準原価計算I
- 第12回 標準原価計算II、歩減が発生する場合
- 第13回 標準原価計算III、配合差異・歩留差異
- 第14回 工程別標準原価計算、直接標準原価計算
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）E *実践

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。この講義は上級簿記（1級程度）A、B、C、Dのうちいずれか1つを受講した者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

初級簿記演習

浅野敬志

【授業の概要】

この授業は、初級簿記（3級程度）の単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。

【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

【授業計画】

1. 商品売買
2. 手形取引
3. 有価証券
4. 固定資産
5. 決算手続き
6. 精算表の作成
7. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献・資料】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記演習A *商業簿記

浅野敬志

【授業の概要】

この授業は、中級簿記（2級程度）AまたはBの単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。同じく2級の範囲である「工業簿記」は、中級簿記演習Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

1. 商品・特殊商品売買取引
2. 手形取引
3. 株式会社会計
4. 本店会計
5. 帳簿組織
6. 決算整理
7. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献・資料】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記演習B *工業簿記

三浦克人

【授業の概要】

この授業は、中級簿記（2級程度）AまたはBの単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。同じく2級の範囲である「商業簿記」は、中級簿記演習Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

1. 工業簿記の基礎、材料費・労務費・経費の計算
2. 製造間接費の計算、部門費の計算
3. 個別原価計算
4. 総合原価計算
5. 標準原価計算
6. 直接原価計算
7. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献・資料】

大原簿記学校のテキスト

英語海外セミナー I (米国)

太田浩司

【授業の概要】

語学学習と異文化体験を目的とする、アメリカ北東部のウエスト・バージニア大学における海外英語研修プログラム。全学を対象に実施される。参加者はホームステイし、約3週間の集中授業を受ける。週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流なども用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の単位が与えられる。

期間は8月中旬から9月中旬の約1ヶ月、定員は約20名。面接にて選考を行う。

2007年度実施研修プログラムにおける1日(9:00~15:20)の学習内容は、以下の通り:

午前 少人数制英会話クラスと総合英語の授業
午後 アメリカ文化の授業とプロジェクト(音楽/芸術・ニューズレター作成などのプロジェクトから、各自が興味のある分野を選択し、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、終了パーティーで発表する。)

【授業の目標】

- * 英語表現能力を高めること。
- * アメリカおよびウエスト・バージニア地方の文化・社会を理解すること。
- * ウェスト・バージニア大学のアメリカ学生および各国留学生との交流により国際性を涵養すること。
- * 海外生活を通して、自立性を養成すること。

【授業計画】

この研修は、ウエスト・バージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムである。(全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフが当たる。期間中、最初と最後の1週間を除き本学教職員は滞在しない。)

【評価方法】

ウエスト・バージニア大学授業担当者の評価および研修前後の課題から総合的に判断する。

【テキスト】

現地にて用意される。

【参考文献・資料】

オリエンテーションで指示する。

080328016_0030 掲載順 : 0030

MCode:080109018_0030 ▲

米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group (CSCG) との共同プログラムとして、毎年2月中旬から約1ヵ月間実施する。米国の民間非営利組織 (NPO) でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

(米国側協力団体) Civil Society Consulting Group (CSCG)

【授業の目標】

実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

【授業計画】

(事前研修)・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

(現地プログラム)・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

(事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し総合評価を行う。

【テキスト】

米国側提出の英文資料

【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

英語海外セミナー II (オーストラリア)

ARNOLD, Brent C.

【Course description】

Students will be in an English Immersion course at Canberra University. They will study and practise English language in class, and then have an opportunity to really use English during out-of-class activities and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

【Course objectives】

This course will allow students to improve their English skills, and increase their accuracy, fluency and confidence in expressing themselves in English. The English environment and conversation in and outside the classroom will also improve listening comprehension.

【Course schedule】

Daily schedules include morning classes and afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National Gallery and Questacon, an interactive science museum.

【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards, which evaluate a student's ability to use English, their willingness to try to use English, and improvement in English ability.

【Textbooks】

No text. Worksheets will be given as necessary.

080328016_0040 掲載順 : 0040

MCode:080109018_0040 ★

英国インターンシッププログラム

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

This summer internship programme is designed to allow the students to experience studying, living, and working in England.

The course will involve two weeks of English lessons, followed by two weeks work-experience. The English lessons will emphasize the specific language and communication skills needed in a British work environment. The internship placement will be decided after considering the preferences and language ability of each student.

【Course objectives】

This is a unique opportunity for ASU students...they will have English lessons, a home-stay, a multitude of extra-curricular activities, PLUS the chance to acquire knowledge and experience of British corporate culture. Consequently, the students should be better equipped to make informed career decisions.

In addition, potential employers will appreciate the internship experience has helped to broaden their perspective, increased their self confidence, and improved their ability to work and communicate in English.

【Course schedule】

The programme is scheduled to include:

Lessons: - English for work/General English/British Culture

Internship - At least 48 hours of work-experience

Trips / activities (often including other International Students)

- London, Canterbury, Cambridge, Bluewater, beach BBQ, ice-skating,

karaoke evening(with hostparents), luncheon(with Internship

Supervisors)

【Assessment】

Students will be required to attend all the orientation sessions prior to departure, in addition to fulfilling the lesson and work requirements deemed appropriate by the ASU Programme Co-ordinator.

中国語海外セミナー I (中国)

馮富榮

【授業の概要】

この講義では、言語実践を通して、言葉を知り、相手を理解し、さらに自ら発信して、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において4週間程度の中国語研修を行う。
- ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
- ◎ 午後は課外活動として南京市内見学(中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など)を通して、中国人の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
- ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
- ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
- ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い楊州への一日旅行。
2. 言語文化論Iの講義内容と呼应した5日間ほどの研修旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実地する。
5. 終了者に2単位を認定する。

【授業の目標】

研修を参加することによって、授業に使われている中国語を聞いて分かること、買い物に使う会話や中国人との普通の会話がマスターすること、並びに研修から帰って2ヵ月後に学内で実施するHSK基礎試験の3級を取ることを目標とする。

【授業計画】

後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは国際交流センターの掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

コミュニティ・サービスラーニング IA (社会貢献実習)

小島祥美

【授業の概要】

私たちが暮らす地域(コミュニティ)には、多様なニーズに対応した地域活動(サービス)が展開されています。本講義では、受講生全員が実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していきます。

具体的な実践活動としてIAでは、EXPOエコマネーを活用した環境活動の他、地域で活躍するボランティア団体等と協働したボランティア啓発活動などの企画を行い、後期のIBの運営へ繋げていきます。

【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション
(本講義の目的とスケジュール、ラーニングI～IIIの内容等の説明)
2. ラーニングI
 - 1) 地域活動とは?
 - 2) 地域活動の意義とその役割
 - 3) 地域活動参加にあたっての心構え
 - 4) 参加学習と各自の専攻との関連
3. ラーニングII
地域活動参加学習(活動期間は、内容により異なる)
4. ラーニングIII
活動を振り返りながら参加学習と各自の専攻との関連を考えます。

【評価方法】

出席状況、各課題(レポート、発表)により、「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIIへの参加(出席)、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

【参考文献・資料】

ボランティア・NPO用語事典(社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版)

韓国・朝鮮語海外セミナー I (韓国)

金賢珍

【授業の概要】

韓国語の学習と韓国文化の体験、そして韓国の大学生との交流を目的に設けられた研修です。韓国屈指の名門、ソウルの梨花女子大において実施されます。梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流する形で韓国語の授業、韓国の文化と社会を理解し体験できるための韓国文化の各講座、韓国の庶民生活がじかに体験できる2泊3日におよぶホームステイ、そしてこの国際時代の未来をともに生きる韓国の若者と一緒に語りあい、活動しあえる日韓学生共同プログラムなどが正規のメイン企画です。その他、ソウル随一の学生街、おしゃれな街として知られる新村での一夏の生活もこの研修の大きな魅力の一つです。

期間:夏期休暇の8月中の3～4週間

内容:

1. 韓国語研修
 - a. 梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流
 - b. 実生活での意思疎通のための集中的韓国語の学習
 - c. 入門の1段階から最上級の6段階に分けられたクラス編成
 - d. 専門教授陣による自分の能力に見合ったクラスでの研修
2. 韓国文化研修
 - a. 芝居鑑賞
 - b. 板門店の訪問
 - c. ホームステイ(2泊3日)
3. 日韓学生共同プログラム
 - a. 毎週1回程度の頻度
 - b. テーマごとに、韓日の大学生が協同参加で活動する大学生との交流行事
 - c. テーマ、「韓国と日本の大学生生活を語る」、「地域探訪(文化財調査)」、「韓国の民俗と礼節」など
4. その他の課外活動

【授業の目標】

韓国に滞在しながら実生活に必要な意思疎通のための韓国語(サバイバル韓国語)を身に付け、梨大言語教育院で韓国語の実力を向上させるとともに、韓国文化研修やホームステイ、韓国の大学生との交流行事等を通して、韓国の文化や諸事情に関する知識や理解を深める。

【授業計画】

- 4～5月:ガイダンス、参加者の募集および決定
- 6～7月:数回の事前研修
- 8月:現地研修
- 9～11月:事後研修および報告書のまとめ

【評価方法】

現地教員、プログラムの関連スタッフ、および引率教員の総合評価による。

【テキスト】

現地研修の韓国語教材「Pathfinder in Korean1,2,3,4,5」(梨花女子大学校出版部)中
その他は特になし

コミュニティ・サービスラーニング IB (社会貢献実習)

小島祥美

【授業の概要】

私たちが暮らす地域(コミュニティ)には、多様なニーズに対応した地域活動(サービス)が展開されています。本講義では、受講生全員が実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していきます。

コミュニティ・サービスラーニングIBでは、IAでの企画を受けて、EXPOエコマネーを活用した環境活動の他、地域で活躍するボランティア団体等と協働したボランティア啓発活動などの具体的な運営を行います。

【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション
(本講義の目的とスケジュール、ラーニングI～IIIの内容等の説明)
2. ラーニングI
 - 1) 地域活動とは?
 - 2) 地域活動の意義とその役割
 - 3) 地域活動参加にあたっての心構え
 - 4) 参加学習と各自の専攻との関連
3. ラーニングII
地域活動参加学習(活動期間等は内容により異なります)
4. ラーニングIII
活動を振り返りながら参加学習と各自の専攻との関連を考えます。

【評価方法】

出席状況、各課題により、「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIIへの参加(出席)、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考文献:ボランティア・NPO用語事典(社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版)

コミュニティ・サービスマーケティング IIA (企業のCSR活動)

小林三太郎

【授業の概要】

現代社会では積極的にCSR活動に取り組む企業が増加している。
また、企業の不祥事が相次ぐ中、CSR活動の重要性が高まっている。
本講義では、受講生が特定企業におけるCSR活動の企画立案に参加し、プレゼンテーションを行なう。学内の講義と学外での実践を通してCSR活動の重要性を習得する。

【授業の目標】

授業前半でCSR活動の基本的知識の習得を目指し、授業後半では、前半で養った知識を活かし学外場で発表をする。講義と学外活動を通してプロジェクトの企画・提案を創出するプロセスを把握し、必要な能力を養うことを目標とする。

【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 CSR活動とは
- 3 企業のCSR活動 (事例報告)
- 4 CSRに関する調査活動
- 5 CSR活動の企画立案
- 6 プレゼンテーション
- 7 総括

【評価方法】

出席状況と授業中の態度による。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介。

地域活動総合演習 IA

小林三太郎

【授業の概要】

現代社会において医療を取り巻く環境は激しく変化している。
本講では、医療制度や医療現場の問題を様々な視点から学ぶ。
また、病院施設の現場見学や老人保健施設でレクリエーションの企画・発表を行い、地域における医療機関のあるべき姿を考察する。

【授業の目標】

現在の医療に関する基本的な問題を学習する。
また、学外活動やグループワークを通して、学生の課題発見・探求能力の向上を目指す。

【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 医療を取り巻く環境について
- 3 現代の医療の問題
- 4 病院見学
- 5 レクリエーションの企画・発表
- 6 グループワーク

【評価方法】

出席と授業態度の評価による。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

コミュニティ・サービスマーケティング IIIA (地域メディア実習)

小川明子 小島祥美

【授業の概要】

・さまざまな産業の労働者として、日本にも多くの外国人が暮らすようになりました。しかし、私たちは、買い物や交通機関などで、彼らと日常的に顔を合わせながら、その生活がどのようなものなのか、よく理解できていません。そして残念ながら、こうした文化や思いへの無理解や行き違いが、ときに地域社会において問題化したりします。
・この演習では、地域において、その地域に暮らす住民たちと在住外国人が、よりよくお互いを理解するために、写真や文章、声などを用いてそれぞれの思いを伝えるお手伝いをしようと思います。具体的には、外国人(主に、ブラジル、フィリピン)の中高校生たちとみなさんとが、普段の暮らしのなかで伝えたいことを写真やこぼれを用いて映像作品にし、それをケーブルテレビやウェブサイトなどの地域のメディアで表現することにより多くの人びとに視聴してもらい現場実践型プログラムです。
・この演習では、自分たちがそれぞれの学部や専攻において、これまでの授業のなかで学んだことを積極的に生かしてほしいと思います。(たとえば、語学、映像編集、異文化コミュニケーション、資料アーカイビングなど)
・本年度はこの実習の一年目にあたります。失敗もあるかもしれませんが、すべては参加者の皆さんにやる気次第です。このプロジェクトを面白いと思い、夏休みの一週間をそれにあててみようとする積極的な学生さんぜひ集まってほしいと思っています。

【授業の目標】

- 1) 日本の地域における外国人をめぐる状況を把握する。
- 2) 地域におけるメディアやコミュニケーションの重要性、可能性について考える。
- 3) 大学での学習と、地域の現場との往復を通じて、実践型参加型の学習、研究のありかたについて考える。
- 4) 参加者間のコミュニケーションを通じて、自らプロジェクトを立案し、遂行する能力を身につける。

【授業計画】

- プレセミナー
プレ1日目 4月22日6限 (場所等、詳細はCCCにて掲示)
授業内容詳細の提示、サービスマーケティング準備
プレ2日目 7月9日6限 (場所等、詳細はCCCにて掲示)
事前調査発表
- 8月集中講義日程 (18日～22日)
1日目 アイスブレイキング グループ分け
メディア技術研修 (長久手キャンパス)
2日目 参加学生作品制作
3日目 現地ワークショップ1日目
4日目 現地ワークショップ2日目
5日目 地域メディア研修 振り返り
(6.7日目)有志にて地域住民とのワークショップ

【評価方法】

出席、授業態度/参加意欲、授業をめぐるレポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

- ・「在日外国人一法の壁、心の溝」岩波新書 田中 宏 (著)
- ・「日本の中の外国人学校」明石書店 月刊「イオ」編集部 (編集)
- ・「メディア・ワークショップ」東京大学出版会 (2008年出版予定)
- ・「メディア・プラクティス」せりか書房

【参考文献・資料】

適宜指定する

地域活動総合演習 IIA

小島祥美

【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会化が進んでいます。特に私たちが暮らす愛知県は、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身の外国人住民の占める比率が全国で最も高い地域です。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられます。
本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマに関する実践を通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていきます。

本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養います。

【授業計画】

本演習では、まず学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした課題探求型講義を行います。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会的に見る方法を学習します。
また実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していきます。
これらの学習を通じ、各受講生が事業企画を行い、IBの実践的な活動運営まで発展させていきます。
なお、具体的な活動運営内容は、公立学校における外国人児童生徒の学習支援、ブラジル政府認可校におけるブラジル人の子どもたちを対象とした日本語学習支援や日本文化紹介などを予定しています。

【評価方法】

出席状況、授業内のディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価します。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

- 新在日外国人 (田中宏著、岩波新書)
- 日本の中の外国人学校 (月刊「イオ」編集部編、明石書店)

地域活動総合演習 IIB

小島祥美

【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会化が進んでいます。特に私たちが暮らす愛知県は、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身の外国人住民の占める比率が全国で最も高い地域です。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられます。本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマに関する実践を通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていきます。

本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養います。

【授業計画】

本演習では、まず学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした課題探求型講義を行います。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会的に見る方法を学習します。また実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していきます。これらIAの学習を通じ、実践的な活動運営を行います。なお具体的な活動運営内容は、公立学校における外国人児童生徒の学習支援、ブラジル政府認可校におけるブラジル人の子どもたちを対象にした日本語学習支援や日本文化紹介などを予定しています。

【評価方法】

出席状況、授業内のディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価します。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

新在日外国人（田中宏著、岩波新書）、日本の中の外国人学校（月刊「イオ」編集部編、明石書店）

インターンシップ概論

上原 衛 小林三太郎

【授業の概要】

学生が在学中に自分のキャリアパスを考え、職業観や就業意識の向上を図ることを目的とする。個々の学生が最適の職業と人生を模索し、発見していく過程を理解させ、選択したキャリアと人生に必要な学業を修める過程で、インターンシップを通して人生における職業の意味を模索する方法を学ぶ。この講義は、インターンシップ研修を受講するための導入講義として位置づけられる。

【授業の目標】

講義を通して、自らのキャリアプランについて考え、目標を設定する。そして、その目標に向かってどのように努力していけばよいかについて理解し、その目標に向けた第一歩を踏み出すこと。

【授業計画】

1. ガイダンス（インターンシップについて、心構え等）
2. 職業と人生について
3. 各種業種について（学生各自の調査と発表も実施）
4. 日本の企業経営について
5. NPO/NGO/ボランティア活動について
6. ビジスマナー講座
7. キャリアプランの作成
7. インターンシップ研修後の報告レポートの作成と成果報告について

【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

障がい者支援ボランティア入門

谷口明広

【授業の概要】

大学で学ぶ学生の中には、視覚障害、聴覚障害、肢体障害などにより制限を受けているために、授業や学生生活においてノートテイク、手話通訳等の授業支援を必要とする人たちがいる。そこで、本授業では、これら障害のある人についての基本的な理解と初歩的な支援技術を学び、障害のある人への学生支援ボランティア活動の活性化と充実及び共に学ぶ場を作り出し、これをめざすことを目的とする。

【授業の目標】

- (1) 障害学生支援について関心をもち、障害のある人たちのニーズについて学ぶ。
- (2) 障害のある人たちへの支援技術を身につけ、共に学ぶ実践を実行できる。
- (3) 授業で学んだ内容を実際の支援ボランティア活動に結びつけ、共に学ぶ場を作っていく。

【授業計画】

1. 授業のガイダンス
2. 現代社会と障害のある人を取り巻く環境
3. 肢体に障害がある人の理解と支援方法
 - (1) 肢体障害者の理解
 - (2) 肢体障害者の支援方法（生活介護とノートテイク）
4. 視覚障害者の理解と支援方法
 - (1) 視覚障害者の理解
 - (2) 視覚障害者の支援方法（点字、移動問題、授業の解説）
5. 聴覚障害者の理解と支援方法
 - (1) 聴覚障害者の理解
 - (2) 聴覚障害者の支援方法（手話通訳・ノートテイク）
6. 障害学生支援ボランティア活動
 - (1) 愛知淑徳大学における支援のシステム
 - (2) ボランティア活動の実際
7. 共に生きる社会を目指して

【評価方法】

1. 出席を評価の中心とする。
2. 時々、小テストを実施して、理解度を確認していく
3. ボランティアの体験レポート
4. 最終レポートの提出

【テキスト】

毎回の講師が指定する資料やレジュメがテキストとなる

インターンシップ研修

上原 衛 小林三太郎

【授業の概要】

学生が在学中に企業や公共機関、NPOなどにおける就業経験を行うことにより、自分のキャリアパスを考え、職業観や就業意識の向上を図ることを目的とする。個々の学生が最適の職業と人生を模索し、発見していく過程を理解させ、選択したキャリアと人生に必要な学業を修める過程で、インターンシップを通して人生における職業の意味を模索する方法を学ぶ。この講義は、インターンシップ概論を修得済または同時履修中の学生のみ履修可とする。

【授業の目標】

研修を通して、自らのキャリアプランについて考え、目標を設定する。そして、その目標に向かってどのように努力していけばよいかについて理解し、その目標に向けた第一歩を踏み出すこと。

【授業計画】

- 夏期または春期に1～2週間程度の期間、企業や公共機関、NPOなどでインターンシップ研修を実施し、実社会を体験する。その後に、研修報告と成果発表を行い、研修の総括を行う。
1. ガイダンス
 2. 夏期または春期に企業や公共機関、NPOなどでインターンシップ研修を受ける
 3. インターンシップ研修後の成果報告会における発表
 4. 報告レポートの作成と提出

【評価方法】

企業での実地研修状況、成果報告書の作成と発表の3つにより総合的に評価する。成績は「合」「否」により評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。